

障害のある労働者の職業サイクルに関する 調査研究(第7期)

—第7回職業生活前期調査(令和2年度)・
第7回職業生活後期調査(令和3年度)—

2023年3月

独立行政法人高齡・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

障害のある労働者の職業サイクルに 関する調査研究（第7期）

—第7回職業生活前期調査（令和2年度）・
第7回職業生活後期調査（令和3年度）—

2023年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

まえがき

障害者職業総合センターは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、我が国における職業リハビリテーションの中核的機関として、職業リハビリテーションに関する調査・研究をはじめとして、様々な業務に取り組んでいます。

本調査研究報告書は、当センター研究部門が2020年度～2022年度に実施した「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第7期）」の結果をまとめたものです。

本調査研究は、障害のある労働者の職業生活の全体像を捉えることを目的として、2008年度から16年計画の長期縦断調査を行っているもので、本報告書においては、13年目・14年目の調査結果をとりまとめました。

本報告書がたくさんの方々に活用され、障害者の雇用の促進と安定のための一助になれば幸いです。

調査研究の実施に当たり、ご協力いただきました、研究委員会委員の皆様をはじめ、助言をいただいた専門家の皆様、第7期アンケート調査にご協力いただきました皆様、ヒアリング調査にご協力いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。

2023年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター
研究主幹 成田 裕紀

執筆担当者（執筆順）

大石 甲	障害者職業総合センター	研究員	概要、序文、第1章、第2章、 第3章、第5章
野口 洋平	障害者職業総合センター	主任研究員	第4章
田川 史朗	障害者職業総合センター	研究協力員	調査結果の集計

謝 辞

本調査研究を実施するにあたり、多くの方々から多大な協力を賜りました。

長年にわたり1,000名を超える障害のある皆様にアンケート調査やヒアリング調査に協力いただいています。皆様のおかげで貴重なデータを収集することができました。また、調査研究委員会委員や専門家の皆様から本調査研究について幅広い助言をいただきました。

ご協力いただいた皆様に御礼申し上げますとともに心より感謝申し上げます。

<研究担当者>

本調査研究は、障害者職業総合センター社会的支援部門で担当した。

研究担当者、研究担当時の職名、担当した年次は以下のとおりである。

春名 由一郎	障害者職業総合センター	副統括研究員	2020年度～2022年度
高瀬 健一	障害者職業総合センター	主任研究員	2020年度
野口 洋平	障害者職業総合センター	主任研究員	2022年度
大石 甲	障害者職業総合センター	研究員	2020年度～2022年度
田川 史朗	障害者職業総合センター	研究協力員	2020年度～2022年度
田中 あや	障害者職業総合センター	研究協力員	2020年度～2021年度

目 次

概要	1
第1章 障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究の背景・目的・方法	13
第1節 調査の全体像	13
第2節 第7期調査の実施方法	20
第3節 第1期から第7期までのデータを用いた通貫分析の試行的な実施	21
第2章 第7期の調査結果	23
第1節 集計表掲載に当たっての留意点	23
第2節 調査対象者数と回収率	24
第3節 調査回答者の基本的属性	28
第4節 調査回答者の就労状況等	35
第5節 調査回答者の生活状況	112
第6節 調査回答者の特徴と留意点について	127
第3章 第7期のヒアリング調査結果	129
第1節 背景と目的	129
第2節 方法	130
第3節 結果	133
第4節 考察	146
第4章 職業サイクル調査全体のとりまとめに向けた分析の視点	157
第1節 調査研究委員会と専門家ヒアリング	157
第2節 調査研究委員会の意見	158
第3節 専門家ヒアリングの結果	160
第4節 考察	163
第5章 第7期までのデータを用いた試行的分析の実施	169
第1節 背景と目的	169
第2節 方法	170
第3節 結果	172
第4節 考察	186

巻末資料	193
1 調査研究委員会の意見	193
2 「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究委員会（第7期）」設置要綱	195
3 第7回職業生活後期調査票	197
4 ニュースレター「サイクル便り」 No.17	211
5 ニュースレター「サイクル便り」 No.18	219

概要

障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究は第1期から第8期まで計画する調査研究である。本報告書では、特定の調査期について述べる場合は「第7期」のように調査期名のみを示し、第1期から第8期までの調査研究全体を述べる場合は「本調査研究」という。

本報告書では、第1期から第8期まで計画する本調査研究の第7期の研究活動の結果を報告する。本報告書は、以下の構成となっている。

「第1章」は、2008年度に開始した障害のある労働者に対する16年間の長期縦断調査である本調査研究の背景、目的、実施方法と実施経過を述べている。「第2章」は、第1期から第6期の結果とあわせて第7期の結果をまとめている。「第3章」は、第5期及び第6期で分析した結果について、分析結果の背景等の詳細な実態をヒアリング調査により把握して、数量的分析結果を補完した結果を報告する。「第4章」は、既に整備済の第1期から第7期までのデータを用いた通貫分析を試行的に実施するに当たり、「第1期から第8期までの調査全体のとりまとめ」に向けて、何を明らかにすることが必要か、その視点や分析の手法について検討した結果を報告する。「第5章」は、第4章に示す分析の視点に基づいて試行的に実施した第1期から第7期までのデータを用いた通貫分析について、その方法と結果及び考察を掲載する。「巻末資料」には、本調査研究の第7期に係る資料を掲載する。

第1章 障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究の背景・目的・方法

・本調査研究の背景

障害者の安定した円滑な就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、就業継続、離職）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。このため、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにする長期縦断調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることを目的として本調査研究を行うこととした。

・本調査研究の全体像

本調査研究は、2008年度から2023年度までの16年間の調査期間として計画した長期縦断調査（パネル調査）である。2年間の調査を1つの「調査期」として区切り、同一の調査票を用いて職業生活の開始から年月の浅い若年期の者を対象とする「職業生活前期調査」（以下「前期調査」という。）と、一定の就業経験を持つ壮年期の者を対象とする「職業生活後期調査」（以下「後期調査」という。）をそれぞれ隔年に実施している。

調査は、当事者団体、事業所、就労支援施設等を通じての紹介により、研究協力の同意を得た障害のある労働者1,026人を対象者として登録し、開始した。調査対象者は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害のいずれか、又はこれらの重複障害がある者とした。なお、それぞれの障害の詳細は把握していない。調査開始時点での年齢は、下限を義務教育終了後の15歳、上限を55歳とした。就労状況については、企業や自営業で週20時間以上就労している者を対象として調査を開始

し、その後、離職した場合であっても調査を継続して、その後のキャリア形成の状況を確認している。また、回収率低下のため第3期に際し調査対象者を242人補充した。なお、対象者の年齢や性別等の基本属性については偏りが生じないように留意しつつ、各障害について統計処理が可能な程度の数の障害のある労働者を登録した。結果として、性別や障害の程度については調査開始時の直近の平成20年度障害者雇用実態調査の結果と若干の違いがあり、加えて対象者は調査を開始した第1期（2008年、2009年）及び追加募集した第3期（2012年、2013年）時点の就労者であることを含めて、現在の障害のある労働者を代表するサンプルと捉えることは難しいと考えられる。これらの点は調査の限界であるが、16年間という他に類を見ない長期縦断調査の利点を活かし、横断調査や短期の縦断調査では捉えにくい、障害者の職業生活の特徴を捉え、仮説を提示することは十分に可能であると考えられる。

・調査研究委員会

調査の実施及び結果の分析と解釈に際し、関係する様々な立場からの専門的知見に基づく助言を得ることを目的として学識経験者、当事者団体関係者、事業主団体関係者により構成する調査研究委員会を設置した。第7期は2021年度に開催し、第7期調査（アンケート調査、ヒアリング調査）の実施方法等に関する議論を行ったほか、本調査研究全体（第1期から第8期）の将来的なとりまとめに向けて、何を明らかにすることが必要か、その視点について議論を行った。

・調査の内容

障害のある者の職業生活を幅広く捉える観点から、調査対象者の基本的な属性に関すること、職業に関すること、職業以外の生活に関することについての質問とし、出来事等の事実に関する質問と満足度等の意識に関する質問を含めた。調査内容は原則として第1期から第8期まで共通としたが、時勢の変化等を踏まえた質問の追加、制度変化に伴う行政サービス等の名称変更、質問の文意が伝わりにくかったと推測した項目等については、調査研究委員会での議論に基づき、質問や選択肢の追加、設問の表現の変更、ただし書きの付加を行った。

加えて、第6期より、アンケート調査結果の背景等の詳細な実態を把握して、数量的分析結果を補完することを目的として、ヒアリング調査を実施している。

・調査の実施方法

調査対象者本人に対する郵送調査とした。調査日は調査年度7月1日としている。調査票の形式は障害の特性に応じて選択できるよう5種類を用意している。調査対象者から継続的な協力を得るための取組として、調査対象者に対して毎年発行するニュースレターの送付と回答者に対して謝品の贈呈を行っている。なお、第7期のニュースレターは巻末資料として掲載した。

またあわせて、第7期においても、過去に実施した分析結果の背景等の詳細な実態を把握し数量的分析結果を補完するため、ヒアリング調査を実施した。

第2章 第7期の調査結果

第7期は、視覚障害103人、聴覚障害208人、肢体不自由225人、内部障害107人、知的障害263人、精神障害103人、計1,009人を対象に調査を実施した。このうち前期調査対象者は506人、後期調査対象者は503人である。回収数と回収率は、前期調査は297人（59%）、後期調査は280人（56%）であっ

た。

回答者のうち正社員、パート等、派遣、自営、内職、就労継続支援A型事業所で働いている者の割合を就労率とした。障害種類により就労率の違いはあるが、就労率はどの障害種類でも70%以上となっている（図 概-1）。

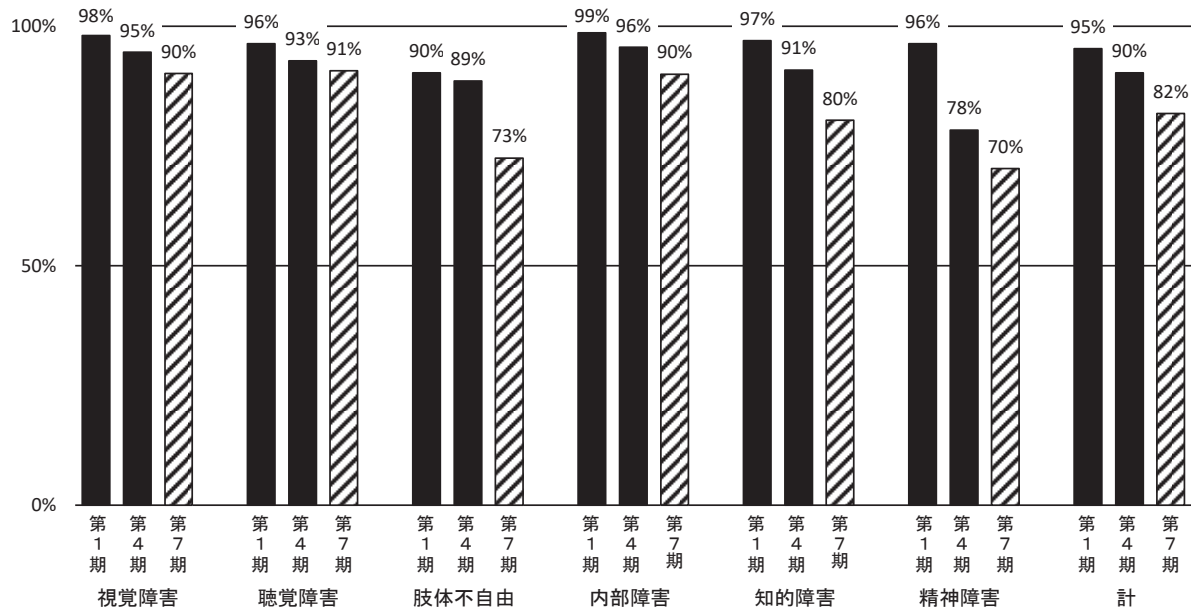


図 概-1 第1期、第4期及び第7期の障害種類別の就労率

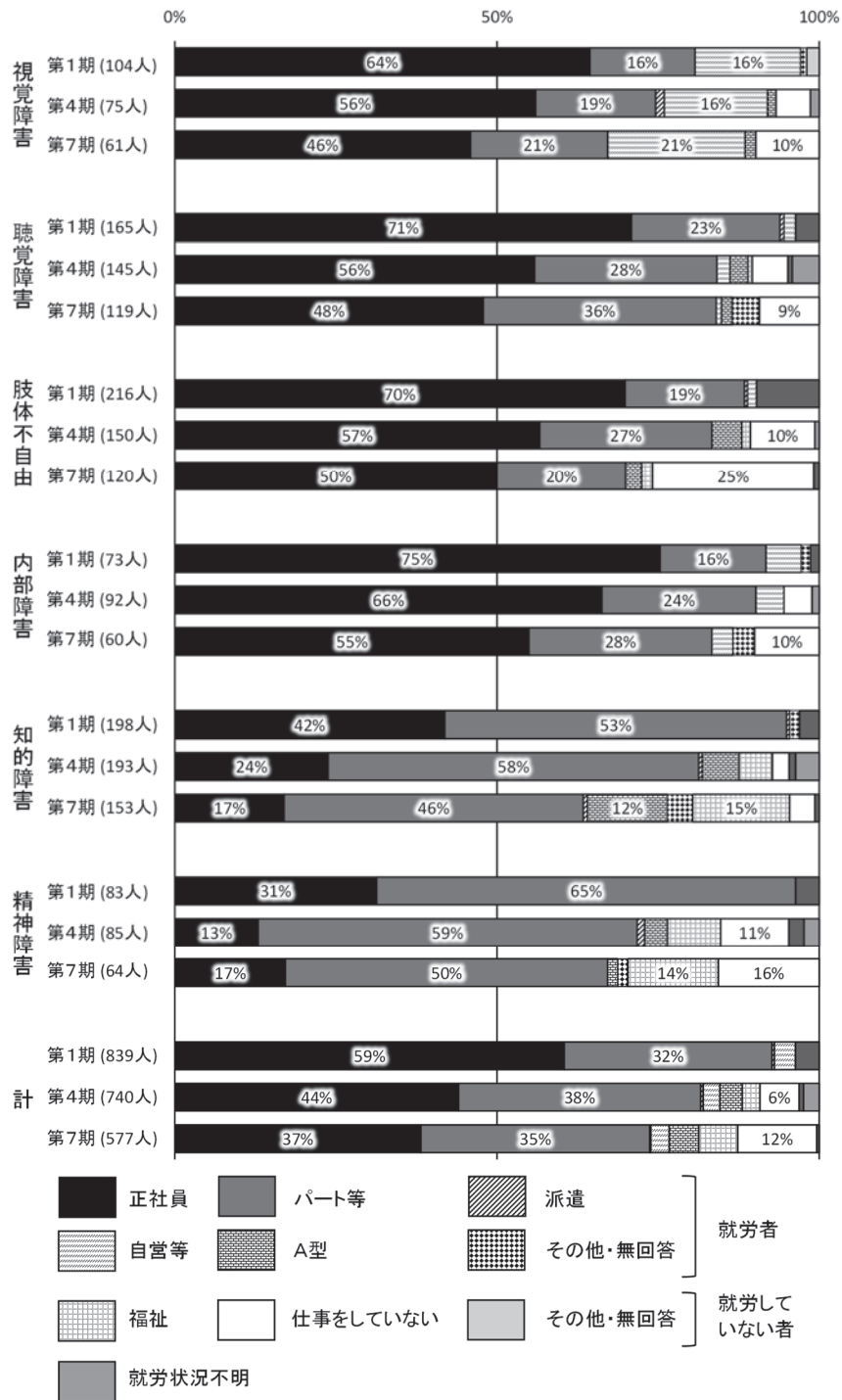


図 概一 2 第 1 期、第 4 期及び第 7 期における障害別の就労形態

就労形態等について、障害種類別にみると違いがある。正社員比率は、第 7 期において身体障害で 5 割前後であるのに対して、知的障害と精神障害では 17%であった。なお、第 1 期、第 4 期、第 7 期の正社員比率の推移を見ると、精神障害を除いてどの障害種類でも低下していた。精神障害では、第 7 期は第 4 期よりは上昇しているものの、第 1 期と比べると正社員比率は低下していた。就労継続支援 A 型は知的障害で最も多いが他の障害種類でも少数ではあるものの確認できた。自営については第 7 期では視覚障害で 21%と顕著であった。また、現在仕事をしていないと回答した者は、第 7 期では肢体不自由

25%、精神障害 16%で多かった（図 概-2）。

職場の人への障害の説明の状況は、障害種類によらず、「会社や職場の人ほとんどに説明している」と「会社や職場の人のごく一部の人だけに説明している」を合わせた、説明している割合は全般的に高かった（図 概-3）。

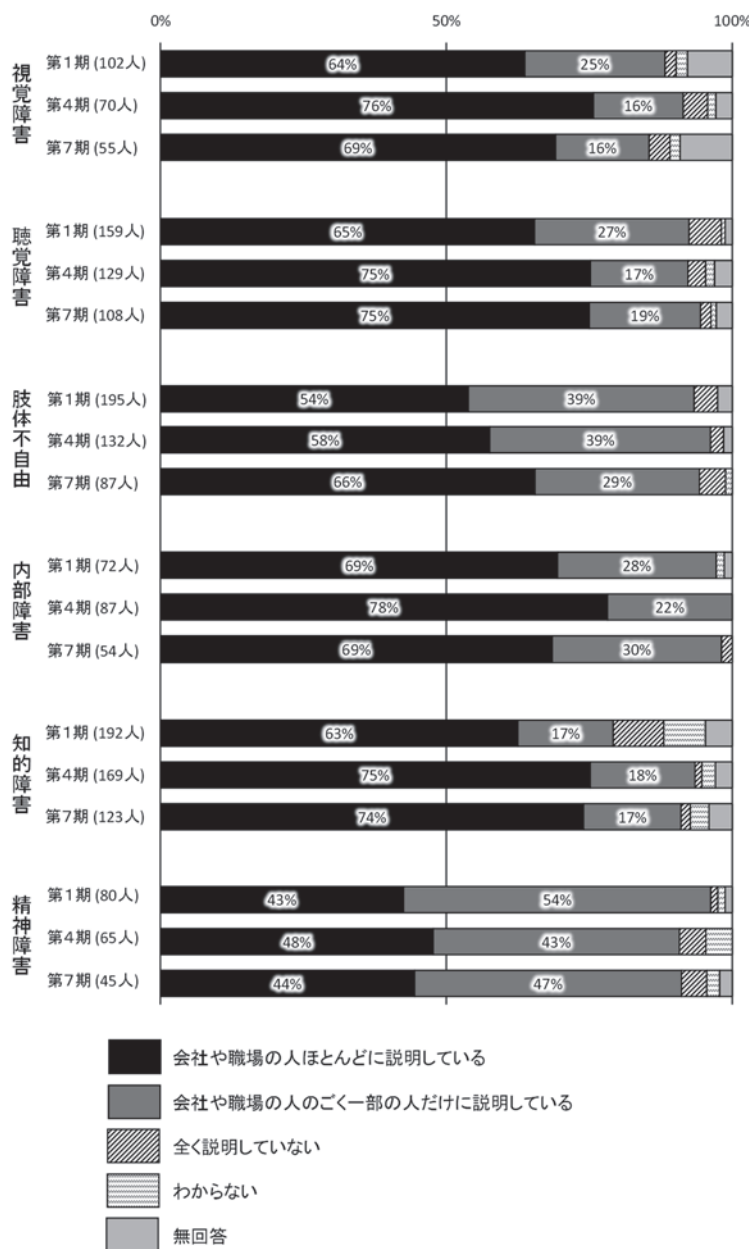


図 概-3 第1期、第4期及び第7期の職場の人への障害の説明

雇用分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供に当たり、最初の取組である「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」については、合理的配慮の提供が義務化された第5期から追加した項目である。合理的配慮の取組の第1歩である話合いの機会があった（「今までと同じように確認や話合いの機会があった」と「新たに確認や話合いの機会があった」）者の割合は、回答者全体でみ

ると、障害種類にかかわらず第5期から第7期まで増えており、第5期から第7期まですべて回答した者においても話合いの機会は増えていた（図 概-4）。

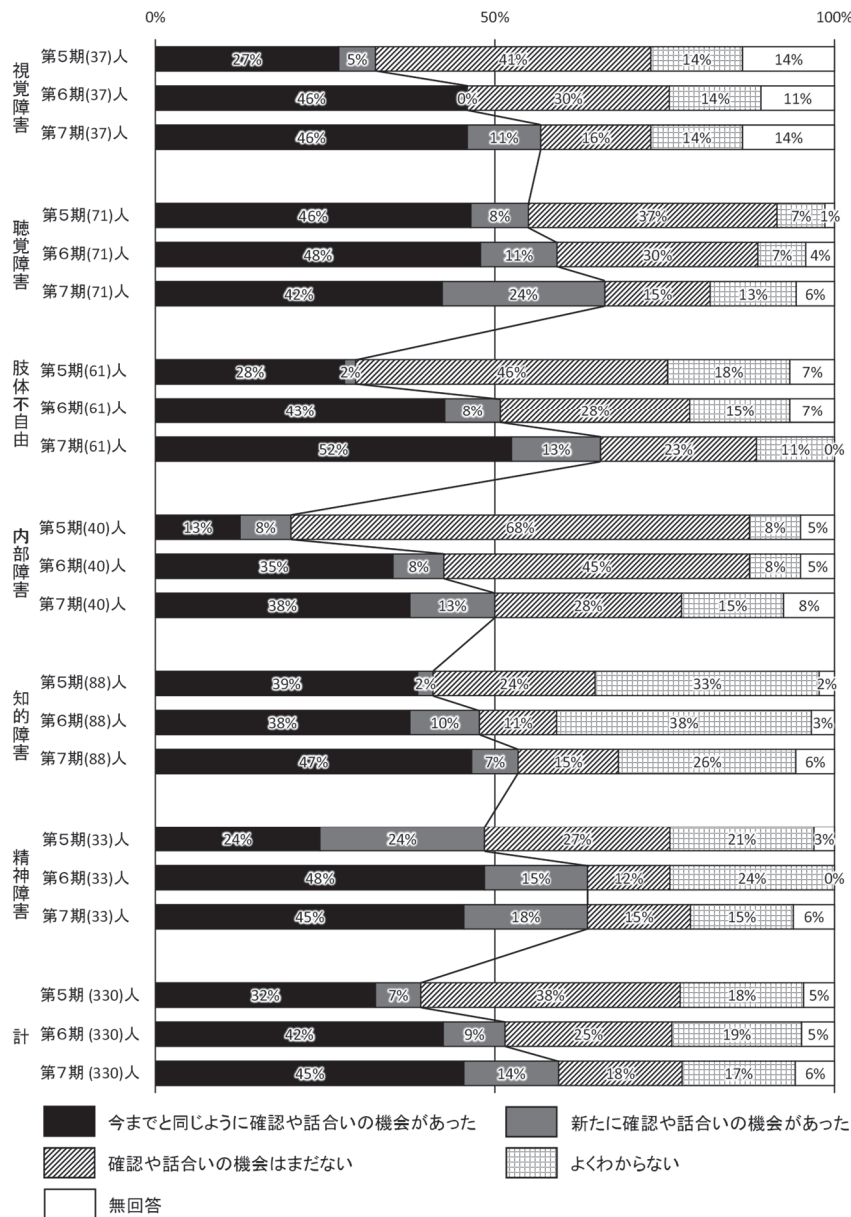


図 概-4 第5期から第7期まですべて回答した者の、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会

第3章 第7期のヒアリング調査結果

(1) 第7期のヒアリング調査の背景、目的、方法

第5期及び第6期において実施した分析結果のうち、障害者の仕事の満足度に対する職場の話合いや、仕事をする理由との関係性は、障害者のキャリア支援や仕事の質等の支援のために重要な知見と考えた。そこで今調査期では、障害者の仕事の満足に関連する要因を確認するため、ヒアリング調査を実施して個別の状況を詳細確認し、分析結果の背景等の詳細な実態を把握して数量的分析結果を補完することにした。ヒアリング調査は、①仕事の満足と職場の話合いの関係、②仕事をする理由と仕事の満足度の関

係をテーマに設定し、効率的にヒアリングできるよう複数のヒアリング事項に該当する対象者を選出した。

調査対象者へヒアリング調査の趣旨及び研究倫理について説明して、同意書を得て7名へヒアリングを実施した。ヒアリング調査は半構造化面接法により行い、ヒアリングテーマに関連して、①職場で必要な配慮の確認や話合いの機会について、②仕事をする理由とその理由が仕事によって実現しているか、を最初の質問としてヒアリング調査対象者に自由に思いつくことを話してもらい、必要に応じて質問することで内容を深めて聞き取った。ヒアリング調査は2021年10月から11月に実施した。

(2) ヒアリング調査の結果と考察

ア 職場の話合いと業務遂行上の支障の解消

仕事の満足度と職場の話合いの関係では、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」と回答した3名のうち2名は、話合いの結果、本人が働く職場で必要とする合理的な配慮が整えられていて、業務遂行上の支障が少なかった。「新たに確認や話合いの機会があった」と回答した2名のうち1名について、本人が働く職場で必要とする合理的な配慮が整えられ始めているが、業務遂行上の支障は残存していて、本人の満足度が低くなっていた。

「障害者の雇用の促進等に関する法律」の改正により、合理的配慮の提供が義務化される過程で、「新たに確認や話合いの機会」を設けている事業所も増えているが、ヒアリングの結果から、障害のある従業員の就業上の支障を十分に解消しきれていない事例があり、そのことが満足度を下げる要因となっていることも考えられる。

イ 仕事をする理由の実現状況

仕事の満足と仕事をする理由の関係では、「社会の中で役割を果たすため」を重視するケースの場合、回答者本人が「社会とつながっている」等の実感があれば、仕事への満足度が高くなるが、「社会の中で役割を果たすため」を重視しないケースの場合は、「社会とつながっている」等の実感があっても、待遇面など本人が重視するファクターが満足度に影響する事例があった。重視する事柄と現実のミスマッチが満足度と関連している可能性がある。

またあわせて、ヒアリング調査に関して、今期のヒアリング実施により得られた留意事項をまとめている。

第4章 職業サイクル調査全体のとりまとめに向けた分析の視点

本調査研究は、今般、第7期の調査が終了したことによって、7期分のパネルデータが得られている。そこで、第7期では、分析に当たっての方針を立てて、第1期から第7期までのデータを用いた試行的な通貫分析を実施し、今後、職業サイクル調査全体（第1期から第8期）のパネルデータを分析する際の参考に資することとした。試行的な通貫分析を行うに当たって、具体的な分析テーマを検討するため、

(1) 調査研究委員会における検討及び(2) 専門家ヒアリングによる論点整理を行った。調査研究委員会における「多様性・個別性の視点」と専門家ヒアリングによる「総合的視点」の2つの視点を整理・統合していくに当たって、WHO（世界保健機関）による国際生活機能分類（2001）に基づく「障害」

の枠組み分類の考え方を援用し、4つの視点を分析の視点として整理した（表 概-1）。

表 概-1 本調査研究における分析の視点

視点	内容
① 障害のある人の職業サイクルについて、調査対象の全体として共有できるものを分析する	障害種類別の特徴を踏まえたうえで、職業サイクルについて、まず調査対象者全体として共有できるものを障害種類にかかわらず分析する。障害種類別の影響が大きいものについては、必要に応じて障害種類別の特徴を踏まえた分析を行う。
② 環境要因が持つ意味を整理する	「当たり前の（一般的な）職業生活」を送る上で、個人の障害が何らかの影響を与える。その影響を軽減させるための環境要因を明らかにする。障害者の雇用の促進等に関する法律の改正後に事業主が提供する「合理的配慮」の影響について明らかにするほか、「合理的配慮」以外にも何が「障害者の就業継続を支える環境要因」となっているのかについて明らかにする。
③ 生活全体の中の職業生活という視点で整理する	職業サイクルの中で、「職業」と「生活」の相互のかかわりの状況、「職業」へのライフイベントの影響、家族支援の状況、障害の重度化による職業への影響等を明らかにする。
④ キャリア形成について考察する	キャリア形成について、いわゆる「狭義のキャリア形成」はもちろんのこと、当事者の充実感や満足感、発達の視点等を含めた「広義のキャリア形成」について考察する。また、正規雇用と非正規雇用、フルタイム就労とパートタイム就労など雇用形態の変化についても明らかにする。

第5章 第7期までのデータを用いた試行的分析の実施

第4章で定めた分析の視点に基づき第1期から第7期までのパネルデータを用いた試行的分析を実施した。分析に当たっては、4つの分析の視点に基づきその視点の内容を踏まえた分析テーマを計4つ設定して、パネルデータの特性を活かした集計及びグラフ化を実施した。例えば、視点①に基づく分析結果は以下のとおりである。

視点1は、障害者の職業生活におけるキャリアを扱うものであり、今回の試行分析では、職業サイクルのうち経年による就労状況の変化と職業生活からの引退の状況について取り上げた。

まず、単純集計としてこれまで第1期から第7期までの全回答者1,126人の延べ4,912件の回答結果から、調査時点の就労状況不明の者及び年齢が不明な者を除いた4,878件の就労状況を10歳ごとの年齢層別に計上して全体の集計としたが、この集計では対象者により同じ年齢層に含まれるデータの回答時期が違い、また同一対象者の結果が同一年齢層に複数回計上されていた。そこで、対象者を生年により10年ごとの出生コホートに分類して、その調査期ごとの就労状況をコホート別に集計した（図 概-5）。

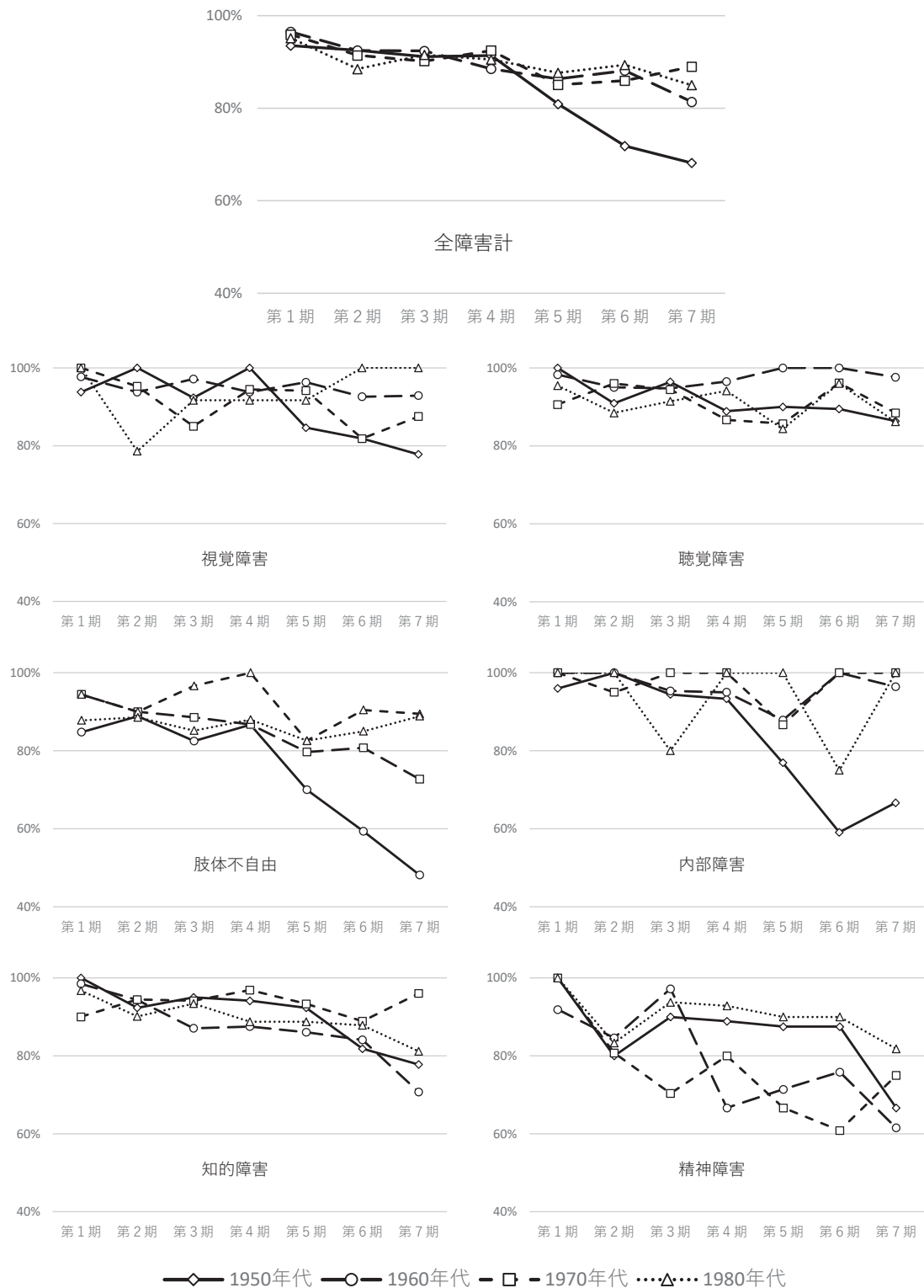


図 概-5 出生コホート別の就労状況

※就労状況不明又は年齢不明を除いたすべての回答のうち、回答の多い年齢層を1950年代生から1980年代生まで抜粋して掲載。集計対象者の各調査期の年齢の範囲は下記の通り。

出生年代	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
1950年代	49-59歳	51-61歳	53-63歳	55-65歳	57-67歳	59-69歳	61-71歳
1960年代	39-49歳	41-51歳	43-53歳	45-55歳	47-57歳	49-59歳	51-61歳
1970年代	29-39歳	31-41歳	33-43歳	35-45歳	37-47歳	39-49歳	41-51歳
1980年代	19-29歳	21-31歳	23-33歳	25-35歳	27-37歳	29-39歳	31-41歳

第4期以降に非就労者に対して調査している今後の仕事への考えについて「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」を選択した回答を職業生活からの引退の意向と捉え、障害種類別に初めて職業生活からの引退の意向を回答した年齢層と人数を集計した（表 概-2）。

表 概-2 職業生活からの引退を希望した者の年齢層

	30代	40代	50代	60代	計	回答者数に 占める割合	回答者数 (非就労者)	全回収数に 占める割合	全回収数
視覚障害			1	2	3	(27%)	11	(3%)	87
聴覚障害			1	2	3	(12%)	25	(2%)	166
肢体不自由	1	1	9	10	21	(40%)	52	(12%)	178
内部障害			1	8	9	(41%)	22	(9%)	101
知的障害	2		1	2	5	(9%)	53	(2%)	236
精神障害		1	3		4	(11%)	37	(4%)	94
計	3	2	16	24	45	(23%)	200	(5%)	862

※回答者数は第4期以降に1回以上非就労であった者の数（本調査項目の回答対象者）、全回収数は第4期以降に1回以上回答した者の全数。複数の調査期において職業生活からの引退の意向を示した者については、最初に回答した調査期の年齢層のみ集計に用いた。

出生コホート別の就労率については、全体としては1960年代生（第7期に51歳から61歳）及びそれより若いコホートでは高い就労率を維持していたが、1950年代生では第5期（57歳から67歳）以降に就労率が低下していた。障害種類別では、聴覚障害は全コホート・全調査期において就労率が高かった。視覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害では1950年代生で第5期（57歳から67歳）以降に全体と同様に就労率が低下していたが、視覚障害と知的障害では他の出生コホートでも1950年代生と同程度又はそれ以下の就労率を示す場合があった。精神障害では1960年代生や1970年代生で就労率が低水準を示す場合があり、1950年代生の就労率が大きく低下したのは第7期（61歳から71歳）になってからだった。

回答した者のうち非就労者は200人で、そのうち45人（23%）の者が職業生活からの引退の意向を持っていた。障害種類別にみると、肢体不自由と内部障害の非就労者に職業生活からの引退の意向を持つ割合が高く約4割だった。続いて視覚障害では約3割、聴覚障害、知的障害、精神障害では約1割だった。年齢層別にみると、肢体不自由では60歳未満が半数を超えており、約9割が60代の回答だった内部障害と対照的であった。また、精神障害ではすべて60歳未満の回答だった。就労中の者を含めた第4期以降に回答のあった全数でみると、本調査の回答者のうち5%の者が職業生活からの引退の意向を持っていた。

このように、多くの障害者が年齢層によらず就労を維持していたが、障害種類により出生コホート別の就労率や職業生活からの引退時期に違いがあることが示された。これにより、視点①について、本パネルデータの特徴を踏まえて集計方法を工夫することで、調査対象者の変化の状況を示すことができた。一方、4つの試行分析では、多数の調査期にすべて回答した同一対象者の変化を比較しようとしたり、多数の要因をひとつの集計表で取り上げようとすると、条件ごとの集計対象者数が減少して集計そ

のものが意味を成さない場合があることも確認された。対象者の変化に着目するのか、全体の傾向に着目するのか、その目的を踏まえて集計方法を検討し選択する必要があると考えられた。

また、今調査期では4つの分析の視点のうちから、蓄積されたデータにより可視化できるテーマを4つ選定することで、一定の集計結果を示すことができた。ただし、今調査期で扱った分析テーマは障害者の職業生活のごく一部に過ぎない。調査研究委員会における議論の中では、受障後の入職時期や退職時期などについて障害の特性を踏まえた分析が必要という意見や、これまで専門家が述べてきたことが、この調査で裏付けられるのか、実はそうではなかったのか、具体的に結果として示せるかどうかが大変である、という意見があった（調査研究委員会における意見の詳細については、巻末資料に掲載）。本調査研究により取得している調査項目は限られている中で、本調査研究のデータにより分析の視点をどのように実証していけるかを踏まえ、引き続き幅広く分析テーマを検討していく必要がある。

第1章

障害のある労働者の職業サイクルに関する 調査研究の背景・目的・方法

第1章 障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究の背景・目的・方法

第1節 調査の全体像

1 概要

障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（以下「本調査研究」という。）は、障害のある労働者の職業生活の全体像を捉えるという目的から、身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害）、知的障害、精神障害のある労働者を対象とした長期間の縦断調査で、調査対象者を固定して行うパネル調査として設計した。本調査研究の実施期間は、2008年度から2023年度までの16年間として計画した。また、2年間を1つの「期」として区切り、全8期の計画とした。

本報告書では、本調査研究（第7期）の調査の実施方法とその結果について、とりまとめることを主たる目的とするが、その一方で、16年間の長期縦断調査としての本調査研究が、今後、「第8期調査」を残すのみとなっていることを鑑み、「第1期から第8期までの調査全体のとりまとめ」に向けて、何を明らかにすることが必要か、その視点と、分析の手法についても試行的に検討・実施し、その結果を示すこととする。

本章では、本調査研究の全体像を紹介した後、本報告書における調査研究の目的及び方法についてその概要を述べる。

2 本調査研究の背景

障害者の安定した円滑な就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、就業継続、離職）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。このため、障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（以下「職業サイクル調査研究」という。）は、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにする長期縦断調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることを目的として実施している。

3 本調査研究の全体像

本調査研究は、登録した調査対象者（調査パネル）を年齢によって分け、2008年度の調査開始時点で40歳未満の対象者への調査を「職業生活前期調査（以下「前期調査」という。）」とし、2008年度の調査開始時点で40歳以上の対象者への調査を「職業生活後期調査（以下「後期調査」という。）」とした。前期調査及び後期調査のいずれの調査も、基本的に同一の調査票を用いて、それぞれ隔年に実施している。職業生活の開始から引退までを調査すると長期間を要することから、職業生活の開始から年月の浅い若年期の者を対象とする調査と、一定の就業経験を持つ壮年期の者への調査を並行して行うことで、職業生活の全体像の把握に近づくことを目指した。

2020年度から2021年度に第7期の調査を行い、計画した全8期分の調査のうち7期分までが実施済みとなった。これまでに実施した調査及び今後実施予定の調査、また、本調査研究に関して当機構が発

行した報告書類の一覧は以下のとおりである（表1-1）。

表1-1 調査の全体像

	職業生活前期調査	職業生活後期調査	調査結果に係る報告書(括弧内は発行年)
第1期	平成20年度(2008年度)	平成21年度(2009年度)	資料シリーズNo.50(2010)、No.54(2010)
第2期	平成22年度(2010年度)	平成23年度(2011年度)	調査研究報告書No.106(2012)
第3期	平成24年度(2012年度)	平成25年度(2013年度)	調査研究報告書No.118(2014)
第4期	平成26年度(2014年度)	平成27年度(2015年度)	調査研究報告書No.132(2016)
第5期	平成28年度(2016年度)	平成29年度(2017年度)	調査研究報告書No.148(2019)
第6期	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	調査研究報告書No.160(2021)
第7期	令和2年度(2020年度)	令和3年度(2021年度)	調査研究報告書No.170(2023)※本報告書
第8期	令和4年度(2022年度)	令和5年度(2023年度)	-

4 調査研究委員会

調査の実施及び結果の分析と解釈に際し、関係する様々な立場からの専門的知見に基づく助言を得ることを目的として、学識経験者、各障害の当事者団体や家族団体（以下「当事者団体等」という。）関係者、事業主団体関係者により構成する調査研究委員会を設置している。

第7期の調査研究委員会について、2021年度に設置要綱（巻末資料に掲載）を定め、2021年6月21日、11月2日に開催した。表1-2に調査研究委員会の委員一覧を示す。

第7期の調査研究委員会において、第7期調査（アンケート調査、ヒアリング調査）の実施方法等に関する議論を行ったほか、職業サイクル調査全体（第1期から第8期）の将来的なとりまとめに向けて、何を明らかにすることが必要か、その視点について議論を行った。また、補完調査研究の必要性についても協議した。

表 1-2 調査研究委員一覧（敬称略）（第 7 期）

第 7 期(2021 年度及び 2022 年度)	
学 識 経 験 者	吉光 清<座長> 元 九州看護福祉大学社会福祉学科 教授
	今田 幸子 元 独立行政法人労働政策研究・研修機構 統括研究員
	嶋崎 尚子 早稲田大学文学学術院 教授
当 事 者 団 体 等 ・ 事 業 主 団 体	小幡 恭弘 公益社団法人全国精神保健福祉会 事務局長
	金子 鮎子 特定非営利活動法人全国精神保健職親会 常務理事
	菊地 通雄 社会福祉法人日本身体障害者連合会 事務局長
	畠山 千蔭 東京経営者協会 障害者雇用アドバイザー
	松崎 伸一 全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会運営委員長
	吉泉 豊晴 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合 情報部 部長
	吉野 幸代 一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事

5 アンケート調査対象者

(1) アンケート調査対象者の属性

職業サイクル調査研究における「障害」及び「障害者」の範囲は、基本的には「障害者の雇用の促進等に関する法律」（以下「障害者雇用促進法」という。）に準ずるものとした。調査結果の集計及び分析を行う上では、調査対象者を「視覚障害」「聴覚障害」「肢体不自由」「内部障害」「知的障害」「精神障害」の 6 つに区分した。

労働者の年齢層を幅広く調査対象とすることとし、調査開始時点での年齢の下限は、義務教育終了後の 15 歳とし、上限は 16 年間継続する調査という点を考え、概ね 55 歳とした。

また、調査対象者は企業等で働いている労働者で、労働時間が週 20 時間以上（精神障害については 15 時間以上）の者とした。自営業も含めている。

(2) 募集方法

当事者団体等、障害者を多数雇用する事業所、職業リハビリテーション機関の協力を得て調査対象者の募集を行った。具体的な手続としては、当事者団体等の事務局や事業所担当者、職業リハビリテーション機関の担当者に依頼して募集要件に該当する会員や従業員又は利用者を紹介いただき、紹介された個人に対して調査の内容や今後の実施計画についての説明文書と同意書を送付した。同意が確認できた場合のみ、調査対象者として氏名や連絡先等の個人情報職業サイクル調査研究の事務局に登録し、個別の ID 番号を設定した上で調査票の発送を行った。このような手続を経て調査対象者を確保したが、調

査期間の途中で様々な事情によりやむを得ず調査を中止する事例が一定数生じた。調査対象者の減少と回収率低下により、後半の調査において十分な分析が行えないと考えたため、第3期の調査時に、調査対象者の補充を行った。

(3) サンプルの代表性

対象者の年齢や性別等の基本属性については偏りが生じないように留意しつつ、各障害について統計処理が可能な程度の数の障害のある労働者を登録した。結果として、性別や障害の程度については調査開始時の直近の平成20年度障害者雇用実態調査の結果と若干の違いがあり、加えて対象者は調査を開始した第1期(2008年、2009年)及び追加募集した第3期(2012年、2013年)時点の就労者であることを含めて、現在の障害のある労働者を代表するサンプルと捉えることは難しいと考えられる。これらの点は調査の限界であるが、16年間という他に類を見ない長期縦断調査の利点を活かし、横断調査や短期の縦断調査では捉えにくい、障害者の職業生活の特徴を捉え、仮説を提示することは十分に可能であると考えられる。

6 アンケート調査の内容

調査内容は、障害のある労働者の職業生活を幅広く捉える観点から、調査対象者の基本的な属性に関すること、職業に関すること、職業以外の生活に関することについての質問とし、出来事等の事実に関する質問と満足度等の意識に関する質問を含めた。

調査内容は原則として第1期から第8期まで共通で実施することとしたが、調査研究委員会での議論に基づき、時勢の変化を踏まえた質問や選択肢の追加、設問の表現の変更、ただし書きの付加を行っている。これらの変更の主な理由としては、制度変化に伴う行政サービス等の名称変更、無回答が多い等の状況から質問の文意が伝わりにくかったと推測されたことに伴う表現の変更等がある。選択肢の追加や設問の表現変更に際しては、継続調査の利点を維持するため、できるだけ過去の調査期の回答を新しい調査票の回答に対応させて読み換えるように努めた。

調査対象者本人の基本的属性に関する質問は第1期(一部の項目は第2期)で質問した。就業状況や生活状況、意識等の変化することがある事象についての質問は毎回の調査に設けるが、調査票の分量を抑える目的から、一部の項目については隔回の調査とした。

調査研究委員会の議論を踏まえて、第4期の後期調査から「仕事をする理由」について新たに7項目(「収入を得るため」「社会とのつながりを持つため」「社会の中で役割を果たすため」「自分自身が成長するため」「生きがいや楽しみのため」「生活のリズムを維持するため」「心身の健康のため」)の設問を追加した。それぞれについて、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5つの選択肢にて回答を得ている。

加えて、第3期までは「定年」に関する設問及び「働いていたい年齢」に関する設問を後期調査のみ設定していたが、調査対象者の加齢等を考慮して前期調査においても同様の設問を追加し、前期調査と後期調査で統一させた。

2016年4月より改正障害者雇用促進法が施行され、すべての事業主に雇用の分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供が義務付けられたことを踏まえて、第5期以降は、雇用分野における

障害者の差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況並びに雇用分野における障害者の差別禁止及び合理的配慮の提供義務の施行日（2016年4月）以降の職場において支障となっていることの確認や話合いの実施状況について、新たな設問を追加した。加えて、設問「最近2年間での生活上のできごと」の選択肢に「家族の介護が必要になった」を追加、設問「現在の仕事の継続意思」の選択肢として「別の仕事をしたい」と回答した場合にその詳細を確認する分岐設問を追加した。

2020年の年頭から新型コロナ・ウイルスの世界的な感染拡大が生じ、我が国においても雇用・労働への影響が少なからず現れたため（参考：「令和3年度版労働経済の分析—新型コロナウイルス感染症が雇用・労働に及ぼした影響」厚生労働省）、第7期後期調査から新型コロナ・ウイルス感染症の職業生活への影響を確認する調査項目を追加した。

調査内容の一覧について、表1-3から表1-5にまとめた。

表1-3 基本的な属性及び生活面に関する質問

	質問の内容	備考
第1期調査(一部は第2期調査)のみの質問	<ul style="list-style-type: none"> ・性別 ・生年月日 ・障害について診断を受けた年齢 ・学歴 ・結婚歴 ・子どもの有無、人数、年齢 ・持っている資格や免許 	自由記述
繰り返しの質問	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者手帳の有無と種類、等級 ・家族構成 ・住居種類 ・最近2年間で新しく取得した資格や免許 ・最近2年間での生活上のできごと ・普段の生活で一番楽しみにしていること ・近い将来(5年後くらいまで)に実現したいこと ・生活の満足度 	自由記述 自由記述 自由記述
奇数期調査のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害年金受給の有無 ・主な収入源(給与、年金、家族の収入等) ・経済的に困ったときに相談する相手 	
偶数期調査のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事や集まりへの参加状況 ・地域生活での困りごとに関する相談先 ・病院等への通院頻度 ・福祉サービスの利用状況 ・体調や健康に関しての相談先 ・体力や健康面で心配なこと 	自由記述 自由記述

表 1 - 4 職業面の質問

	質問の内容	備考
第1期調査のみの質問	<ul style="list-style-type: none"> 初めて就職した年齢 初めて就職する前の状況 	
繰り返しの質問	<ul style="list-style-type: none"> 就業形態 仕事をする上で重視すること 仕事をする上で必要な配慮 会社や会社の者に望むこと 雇用分野における障害者の差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況 仕事に関して困ったことがある時に相談する相手 	第5期調査追加 奇数期調査のみ
就労中の人への質問	<ul style="list-style-type: none"> 職務内容 1週間の労働時間と休日数 1ヶ月の給与と1年間の賞与 通勤方法、通勤の所要時間 勤務先の企業等の規模(従業員数) 前回調査と同じ勤務先かどうか 現在の職場で働き始めた年齢 職場への障害の説明の程度 現在の職場で得られている配慮 雇用分野における障害者の差別禁止及び合理的配慮の提供義務の施行日(平成28年4月)以降の、職場における確認や話し合いの実施状況 職業生活の満足度 定年制度の有無と定年年齢 働いていたい年齢 仕事をする理由 現在の仕事の継続意志 現在とは別の仕事を希望する場合、その内容 最近2年間の仕事上のできごと 	第5期調査追加 第2期より後期調査に追加し、第5期より前期調査、後期調査で質問項目を統一 第4期より前期調査、後期調査で質問項目を統一 第4期後期調査追加 第5期調査追加
就労中でない人への質問	<ul style="list-style-type: none"> 過去2年間の就業経験の有無 前職を離職した理由 今後の就職の意志、就職活動の状況 (就職意志がある場合)希望する働き方 (就職意志がある場合)仕事を探すときに相談する相手 (職業生活から引退した場合)引退理由 	

表 1 - 5 その他の質問

質問の内容	備考
<ul style="list-style-type: none"> 調査への意見、要望 新型コロナウイルス感染症の職業生活への影響 回答にあたっての支援者の有無 (回答にあたって支援者がいる場合)支援者の詳細 回答の日付 	自由記述 第7期後期調査追加 自由記述

7 各調査期のアンケート調査実施方法

(1) 調査の実施方法

調査対象者本人に対する郵送調査とした。調査年度7月1日を調査日とし、その前後に調査票を発送した。概ね1ヶ月から1ヶ月半の回答期間を設けて回答締切日を定めた。調査票の形式は巻末資料として掲載した基本形式のほか、障害の特性に応じて選択できるよう以下の5種類を用意し、本人の希望を確認の上で送付した。

- ①A3サイズに拡大印刷したもの（対象：視覚障害のある者）
- ②点字に翻訳したもの（対象：視覚障害のある者）
- ③音声読み上げソフト対応のテキストファイル（対象：視覚障害のある者）
- ④キーボード操作で回答できる形式の電子ファイル（対象：主に上肢に障害のある者）
- ⑤漢字に読み仮名をふり、平易な表現にしたもの（対象：知的障害のある者）

調査への回答は原則として本人に依頼したが、必要な場合は家族等の周囲の人の支援を受けて回答しても構わない旨を付記し、支援を受けた場合は、その旨を記載するように依頼した。

（２）回収データの取り扱い

回収した回答はID番号と関連づけたデータとして管理し、ID番号ごとに回答の継続的变化を追うことができるようにした。分析上では個人の識別にはすべてID番号を使用した。ID番号に紐づけた個人情報には専用パスワードを設定した電子ファイルに格納し、ファイル暗号化ツールにより暗号化して閉鎖ネットワーク上の保管領域に保管した。個人情報を含む紙媒体と電磁的記録媒体のすべては施錠できる場所で管理した。

また、第4期において、第1期から第3期の報告書等の作成後に回収した回答を含めた各調査期の回答内容を整理して回答データファイルを整備し、第4期報告書を作成した。第5期以降の調査期においては、回答データファイルに当該調査期の回答を加えて継続して整備している。

（３）継続的協力を得るための取組

長期縦断調査を効果的に実施するために回収率の維持は重要であることから、調査対象者から継続的な協力を得るための取組として、ニュースレターの送付と謝品の贈呈を第1期から行っている。

ニュースレターは「サイクル便り」と称し、調査対象者全員に対し、年1回程度発行した。内容は、調査結果を抜粋して報告することが中心であるが、障害のある人の職業生活に資する社会資源の紹介や関連するトピック等についても掲載し、関心を引く内容になるように努めた。ニュースレターについても調査票と同じく、調査対象者の障害に応じて、拡大印刷や点字、音声読み上げソフト対応のテキストファイル等、障害特性に応じた形式で作成した。第7期に作成・送付したニュースレターを巻末資料として掲載した。（巻末資料4及び巻末資料5）

調査回答者に対する謝品は、クオカード又は図書カードのどちらかを希望に応じて簡易書留により送付した。

8 ヒアリング調査

第6期の調査実施時に、調査結果から特徴的な回答が把握できるものの質問紙調査のみから詳細な実態の把握は困難である事柄として、長期就労継続の状況についてヒアリング調査を実施した。

第7期においても、過去に実施した分析結果の背景等の詳細な実態を把握し数量的分析結果を補完するため、ヒアリング調査を実施した。

第2節 第7期調査の実施方法

1 第7期調査の全体像

第7期ではアンケート調査を引き続き実施するとともに、アンケート調査を補完するヒアリング調査を実施した。

2 アンケート調査実施

調査対象者本人に対する郵送調査とした。調査年度7月1日を調査日としたが、前期調査については、2020年の年頭からの新型コロナ・ウイルスの感染拡大への対応により実施を1か月繰り下げ2020年8月27日に調査票を発送した。回答締切日は前期調査は9月末日、後期調査は8月末日としたが、調査年度内に回収された調査票は有効データとした。

調査への回答は原則として本人に依頼したが、必要な場合は家族等の周囲の人の支援を受けて回答しても構わない旨を付記し、支援を受けた場合は、その旨を記載するように依頼した。

なお、アンケート調査の実施方法及びデータ管理方法については、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「当機構」という。）の調査研究倫理審査委員会による倫理審査を受け、妥当と認められた。

また、本章に続く第2章で第7期調査を含む基礎データを示す。

3 ヒアリング調査の実施

(1) ヒアリング調査の内容

第5期及び第6期に実施した調査結果の分析結果を踏まえて、「ア 仕事の満足と職場の話合いの関係」、「イ 仕事をする理由と仕事の満足度の関係」について、分析結果だけでは明確でない具体的状況や背景等を詳しく聴取してアンケート調査内容を補完できる内容とした。

(2) ヒアリング調査対象者

ヒアリング対象者は、前述ア、イについて把握できる者を第5期及び第6期調査結果をもとに抽出し、ヒアリング調査についての説明を行い、同意を得た者をヒアリング対象者とした。第7期のヒアリング調査は7名に対して実施した。

(3) ヒアリング調査の方法

ヒアリング場所はヒアリング対象者との調整により自宅近くの貸会議室等とした。時間は1時間以内とし、聴覚障害があり手話通訳を要する場合は1時間30分以内とした。基本的にはヒアリング対象者1名とヒアリング担当研究員の面談としたが、対象者の希望により手話通訳者が同席する場合もあった。ヒアリングは半構造化面接法により行い、後日、ヒアリング内容をまとめた文書を作成してヒアリング対象者に送付し、内容の確認を得たものをヒアリング調査の結果とした。

なお、ヒアリング調査の実施方法及びデータ管理方法については、当機構の調査研究倫理審査委員会による倫理審査を受け、妥当と認められた。

第3章において、アンケート調査結果を補完するヒアリング調査結果を報告する。

第3節 第1期から第7期までのデータを用いた通貫分析の試行的な実施

第1節の概要で述べたとおり、本調査研究が「第8期調査」を残すのみとなっていることから、第7期調査研究では、既に整備済の第1期から第7期までのデータを用いた通貫分析を試行的に実施した。

また、この試行的な分析に先立ち、「第1期から第8期までの調査全体のとりまとめ」に向けて、何を明らかにすることが必要か、その視点や分析の手法について、調査研究委員会における協議、専門家へのヒアリングを通じて検討した。その検討の方法と結果について、第4章に示す。

そして、第4章に示す分析の視点に基づいて試行的に実施した第1期から第7期までのデータを用いた通貫分析について、その方法と結果及び考察を第5章に示す。

第2章

第7期の調査結果

第2章 第7期の調査結果

第1節 集計表掲載に当たっての留意点

第2節から第5節までは第1期から第6期の調査結果と併せて第7期の調査結果を掲載する。第6節は、職業サイクル調査研究の回答者の特徴と留意点について整理した。なお、調査対象者は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害の6つの障害グループのいずれかに属している。また、単一選択式の集計表において割合を計算する母数は「計」、複数選択式の集計表において割合を計算する母数は「集計数」と表記している。

第2節 調査対象者数と回収率

1 調査対象者数

調査対象者の人数は表2-1のように推移している。第3期で対象者数が増加しているのは、第1章第1節5(2)で記した調査対象者の補充を行ったためである。

表2-1 調査対象者数(単位:人)

		前期	後期	計
視覚障害	第1期	57	70	127
	第2期	55	68	123
	第3期	56	68	124
	うち継続者	54	66	120
	うち補充者	2	2	4
	第4期	56	65	121
	第5期	51	62	113
	第6期	46	59	105
	第7期	45	58	103
	聴覚障害	第1期	103	106
第2期		103	105	208
第3期		128	127	255
うち継続者		97	103	200
うち補充者		31	24	55
第4期		125	116	241
第5期		115	113	228
第6期		111	106	217
第7期		107	101	208
肢体不自由		第1期	111	163
	第2期	110	156	266
	第3期	113	153	266
	うち継続者	109	146	255
	うち補充者	4	7	11
	第4期	108	140	248
	第5期	100	134	234
	第6期	98	133	231
	第7期	97	128	225
	内部障害	第1期	35	48
第2期		35	47	82
第3期		36	92	128
うち継続者		34	45	79
うち補充者		2	47	49
第4期		36	90	126
第5期		33	86	119
第6期		30	80	110
第7期		29	78	107
知的障害		第1期	137	100
	第2期	136	94	230
	第3期	197	105	302
	うち継続者	130	85	215
	うち補充者	67	20	87
	第4期	191	101	292
	第5期	183	99	282
	第6期	178	92	270
	第7期	174	89	263
	精神障害	第1期	51	45
第2期		51	43	94
第3期		68	56	124
うち継続者		47	41	88
うち補充者		21	15	36
第4期		66	55	121
第5期		62	53	115
第6期		58	52	110
第7期		54	49	103
計		第1期	494	532
	第2期	490	513	1,003
	第3期	598	601	1,199
	うち継続者	471	486	957
	うち補充者	127	115	242
	第4期	582	567	1,149
	第5期	544	547	1,091
	第6期	521	522	1,043
第7期	506	503	1,009	

職業サイクル調査研究の全登録者（調査対象者総数）は、第1期の調査対象者1,026人に第3期において補充した調査対象者242人をあわせた1,268人である。第7期の調査対象者は全登録者から259人減少して1,009人であった。表2-2に第7期までに減少した調査対象者数を示す。調査対象者数減少の理由には、「調査対象者本人や家族から調査への協力中止の申し出があった場合」（協力中止）、「転居等により住所不明になった場合」（住所不明）、「調査対象者本人が死去した場合」（死去）などがある。

表2-2 第7期までに減少した調査対象者数（単位：人）

	協力中止			住所不明			死去			計		
	前期	後期	小計	前期	後期	小計	前期	後期	小計	前期	後期	計
視覚障害	2	4	6	12	9	21	0	1	1	14	14	28
聴覚障害	1	6	7	26	19	45	0	4	4	27	29	56
肢体不自由	5	11	16	11	23	34	2	8	10	18	42	60
内部障害	0	1	1	8	8	16	0	8	8	8	17	25
知的障害	11	14	25	18	15	33	1	2	3	30	31	61
精神障害	7	5	12	10	6	16	1	0	1	18	11	29
計	26	41	67	85	80	165	4	23	27	115	144	259

2 回収率

各調査期の調査票の回収数と回収率は表2-3のとおりである。なお第7期で初めて回答があった調査対象者は、視覚障害1人、聴覚障害2人、肢体不自由1人の計4人だった。

表2-3 回収数（単位：人）と回収率（括弧内）

		前期		後期		計	
		送付	回収	送付	回収	送付	回収
視覚障害	第1期	57	48 (84%)	70	56 (80%)	127	104 (82%)
	第2期	55	39 (71%)	68	39 (57%)	123	78 (63%)
	第3期	56	36 (64%)	68	44 (65%)	124	80 (65%)
	第4期	56	35 (63%)	65	40 (62%)	121	75 (62%)
	第5期	51	33 (65%)	62	36 (58%)	113	69 (61%)
	第6期	46	22 (48%)	59	35 (59%)	105	57 (54%)
	第7期	45	26 (58%)	58	35 (60%)	103	61 (59%)
聴覚障害	第1期	103	83 (81%)	106	82 (77%)	209	165 (79%)
	第2期	103	55 (53%)	105	58 (55%)	208	113 (54%)
	第3期	128	78 (61%)	127	81 (64%)	255	159 (62%)
	第4期	125	70 (56%)	116	75 (65%)	241	145 (60%)
	第5期	115	65 (57%)	113	55 (49%)	228	120 (53%)
	第6期	111	54 (49%)	106	54 (51%)	217	108 (50%)
	第7期	107	60 (56%)	101	59 (58%)	208	119 (57%)
肢体不自由	第1期	111	93 (84%)	163	123 (75%)	274	216 (79%)
	第2期	110	78 (71%)	156	96 (62%)	266	174 (65%)
	第3期	113	71 (63%)	153	100 (65%)	266	171 (64%)
	第4期	108	63 (58%)	140	87 (62%)	248	150 (60%)
	第5期	100	58 (58%)	134	86 (64%)	234	144 (62%)
	第6期	98	51 (52%)	133	75 (56%)	231	126 (55%)
	第7期	97	46 (47%)	128	74 (58%)	225	120 (53%)
内部障害	第1期	35	31 (89%)	48	42 (88%)	83	73 (88%)
	第2期	35	27 (77%)	47	34 (72%)	82	61 (74%)
	第3期	36	23 (64%)	92	78 (85%)	128	101 (79%)
	第4期	36	24 (67%)	90	68 (76%)	126	92 (73%)
	第5期	33	22 (67%)	86	58 (67%)	119	80 (67%)
	第6期	30	19 (63%)	80	49 (61%)	110	68 (62%)
	第7期	29	20 (69%)	78	40 (51%)	107	60 (56%)
知的障害	第1期	137	122 (89%)	100	76 (76%)	237	198 (84%)
	第2期	136	107 (79%)	94	61 (65%)	230	168 (73%)
	第3期	197	162 (82%)	105	75 (71%)	302	237 (78%)
	第4期	191	131 (69%)	101	62 (61%)	292	193 (66%)
	第5期	183	127 (69%)	99	50 (51%)	282	177 (63%)
	第6期	178	118 (66%)	92	49 (53%)	270	167 (62%)
	第7期	174	110 (63%)	89	43 (48%)	263	153 (58%)
精神障害	第1期	51	46 (90%)	45	37 (82%)	96	83 (86%)
	第2期	51	36 (71%)	43	27 (63%)	94	63 (67%)
	第3期	68	52 (76%)	56	42 (75%)	124	94 (76%)
	第4期	66	45 (68%)	55	40 (73%)	121	85 (70%)
	第5期	62	37 (60%)	53	33 (62%)	115	70 (61%)
	第6期	58	40 (69%)	52	31 (60%)	110	71 (65%)
	第7期	54	35 (65%)	49	29 (59%)	103	64 (62%)
計	第1期	494	423 (86%)	532	416 (78%)	1,026	839 (82%)
	第2期	490	342 (70%)	513	315 (61%)	1,003	657 (66%)
	第3期	598	422 (71%)	601	420 (70%)	1,199	842 (70%)
	第4期	582	368 (63%)	567	372 (66%)	1,149	740 (64%)
	第5期	544	342 (63%)	547	318 (58%)	1,091	660 (60%)
	第6期	521	304 (58%)	522	293 (56%)	1,043	597 (57%)
	第7期	506	297 (59%)	503	280 (56%)	1,009	577 (57%)

調査対象者は、重複障害を含め調査開始の段階で障害者手帳の等級などから判断した6つの障害グループのいずれかに属する。各調査期における回答者の障害グループ内訳は表2-4のとおりである。

表2-4 各調査期における回答者の障害グループ内訳（単位：人）

	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害	計
第1期 前期	48 (11%)	83 (20%)	93 (22%)	31 (7%)	122 (29%)	46 (11%)	423 (100%)
後期	56 (13%)	82 (20%)	123 (30%)	42 (10%)	76 (18%)	37 (9%)	416 (100%)
第2期 前期	39 (11%)	55 (16%)	78 (23%)	27 (8%)	107 (31%)	36 (11%)	342 (100%)
後期	39 (12%)	58 (18%)	96 (30%)	34 (11%)	61 (19%)	27 (9%)	315 (100%)
第3期 前期	36 (9%)	78 (18%)	71 (17%)	23 (5%)	162 (38%)	52 (12%)	422 (100%)
後期	44 (10%)	81 (19%)	100 (24%)	78 (19%)	75 (18%)	42 (10%)	420 (100%)
第4期 前期	35 (10%)	70 (19%)	63 (17%)	24 (7%)	131 (36%)	45 (12%)	368 (100%)
後期	40 (11%)	75 (20%)	87 (23%)	68 (18%)	62 (17%)	40 (11%)	372 (100%)
第5期 前期	33 (10%)	65 (19%)	58 (17%)	22 (6%)	127 (37%)	37 (11%)	342 (100%)
後期	36 (11%)	55 (17%)	86 (27%)	58 (18%)	50 (16%)	33 (10%)	318 (100%)
第6期 前期	22 (7%)	54 (18%)	51 (17%)	19 (6%)	118 (39%)	40 (13%)	304 (100%)
後期	35 (12%)	54 (18%)	75 (26%)	49 (17%)	49 (17%)	31 (11%)	293 (100%)
第7期 前期	26 (9%)	60 (20%)	46 (15%)	20 (7%)	110 (37%)	35 (12%)	297 (100%)
後期	35 (13%)	59 (21%)	74 (26%)	40 (14%)	43 (15%)	29 (10%)	280 (100%)

第1期から第7期まですべての調査へ回答した者は285人で、全登録者の22%だった。また、第3期に補充した調査対象者のうち第3期から第7期まで5回すべての調査へ回答した者は85人だった。これらをあわせると、370人（29%）が、実施したすべての調査に回答していた。

表2-5 これまでの7回の調査における回答回数（単位：人）

	7回	6回	5回（うち追加者）	4回	3回	2回	1回	0回	計
視覚障害	29 (22%)	17 (13%)	17 (13%)	1	14 (11%)	13 (10%)	11 (8%)	17 (13%)	131 (100%)
聴覚障害	51 (19%)	27 (10%)	30 (11%)	14	24 (9%)	23 (9%)	25 (9%)	45 (17%)	264 (100%)
肢体不自由	67 (24%)	38 (13%)	28 (10%)	4	18 (6%)	32 (11%)	31 (11%)	34 (12%)	285 (100%)
内部障害	26 (20%)	10 (8%)	30 (23%)	21	16 (12%)	13 (10%)	14 (11%)	12 (9%)	132 (100%)
知的障害	82 (25%)	24 (7%)	45 (14%)	26	33 (10%)	33 (10%)	40 (12%)	36 (11%)	324 (100%)
精神障害	30 (23%)	12 (9%)	25 (19%)	19	12 (9%)	12 (9%)	12 (9%)	18 (14%)	132 (100%)
計	285 (22%)	128 (10%)	175 (14%)	85	117 (9%)	126 (10%)	133 (10%)	162 (13%)	1,268 (100%)

※回答回数5回の（うち追加者）は、第3期において補充した調査対象者のうち第3期、第4期、第5期、第6期、第7期のすべてに回答があった人数

第3節 調査回答者の基本的属性

本節では調査回答者の基本的属性について述べる。前期調査と後期調査の全登録者1,268人のうち、第7期までの調査において1回以上回答のあった調査対象者1,126人を集計対象とした。

1 性別

1回以上回答のあった調査対象者の男女比は表2-6のとおり7:3となっている。聴覚障害では男性が60%なのに対し精神障害では79%と、男女の比率には障害種類によりある程度の開きがある。

表2-6 調査回答者の性別（単位：人）

	男性	女性	計
視覚障害	75 (64%)	43 (36%)	118 (100%)
聴覚障害	135 (60%)	90 (40%)	225 (100%)
肢体不自由	187 (75%)	61 (25%)	248 (100%)
内部障害	88 (73%)	33 (27%)	121 (100%)
知的障害	209 (71%)	84 (29%)	293 (100%)
精神障害	96 (79%)	25 (21%)	121 (100%)
計	790 (70%)	336 (30%)	1,126 (100%)

2 年齢

1回以上回答のあった調査対象者の調査期ごとの平均年齢と、前期調査と後期調査それぞれの年齢層は表2-7から2-9のとおりである。第7期前期調査において知的障害では平均年齢が37.6歳、内部障害では45.1歳であり、第7期後期調査において知的障害では57.1歳、肢体不自由では59.6歳であった。

表2-7 調査回答者の平均年齢（単位：歳）

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期		第6期		第7期	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
視覚障害	30.4	47.7	32.0	49.0	34.1	51.1	36.1	53.1	38.7	55.2	40.4	57.3	42.6	59.1
聴覚障害	29.6	47.5	31.0	49.4	33.1	51.4	35.1	53.4	37.1	55.5	39.1	57.4	41.2	59.5
肢体不自由	29.9	47.7	31.4	49.7	33.4	51.6	35.2	53.5	37.8	55.4	39.8	58.1	41.5	59.6
内部障害	34.1	49.0	35.6	50.9	37.5	51.6	39.5	53.6	40.6	55.8	43.1	57.6	45.1	59.1
知的障害	25.6	45.9	27.1	47.9	29.3	50.2	31.3	52.3	33.3	54.1	35.3	55.6	37.6	57.1
精神障害	32.8	45.6	34.4	47.7	34.7	50.1	36.7	52.1	38.7	53.9	41.8	56.0	42.8	58.2
計	29.2	47.1	30.7	49.3	32.2	51.2	34.7	52.8	36.4	55.1	38.4	57.1	40.5	58.9

表 2-8 前期調査回答者の年齢層 (単位: 人)

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	
視覚障害	第1期	0 (0%)	21 (44%)	24 (50%)	3 (6%)	0 (0%)	48 (100%)
	第2期	0 (0%)	12 (31%)	23 (59%)	4 (10%)	0 (0%)	39 (100%)
	第3期	0 (0%)	6 (17%)	20 (56%)	10 (28%)	0 (0%)	36 (100%)
	第4期	0 (0%)	4 (11%)	18 (51%)	13 (37%)	0 (0%)	35 (100%)
	第5期	0 (0%)	1 (3%)	18 (55%)	14 (42%)	0 (0%)	33 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	10 (45%)	12 (55%)	0 (0%)	22 (100%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	8 (31%)	16 (62%)	2 (8%)	26 (100%)
聴覚障害	第1期	0 (0%)	51 (61%)	29 (35%)	3 (4%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	0 (0%)	23 (42%)	27 (49%)	5 (9%)	0 (0%)	55 (100%)
	第3期	0 (0%)	21 (27%)	40 (51%)	17 (22%)	0 (0%)	78 (100%)
	第4期	0 (0%)	10 (14%)	41 (59%)	19 (27%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	0 (0%)	3 (5%)	38 (58%)	24 (37%)	0 (0%)	65 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	34 (63%)	20 (37%)	0 (0%)	54 (100%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	25 (42%)	29 (48%)	6 (10%)	60 (100%)
肢体不自由	第1期	3 (3%)	42 (45%)	40 (43%)	8 (9%)	0 (0%)	93 (100%)
	第2期	0 (0%)	35 (45%)	28 (36%)	15 (19%)	0 (0%)	78 (100%)
	第3期	0 (0%)	23 (32%)	28 (39%)	20 (28%)	0 (0%)	71 (100%)
	第4期	0 (0%)	15 (24%)	26 (41%)	22 (35%)	0 (0%)	63 (100%)
	第5期	0 (0%)	10 (17%)	24 (41%)	24 (41%)	0 (0%)	58 (100%)
	第6期	0 (0%)	2 (4%)	22 (43%)	25 (49%)	2 (4%)	51 (100%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	18 (39%)	19 (41%)	9 (20%)	46 (100%)
内部障害	第1期	0 (0%)	7 (23%)	22 (71%)	2 (6%)	0 (0%)	31 (100%)
	第2期	0 (0%)	2 (7%)	19 (70%)	6 (22%)	0 (0%)	27 (100%)
	第3期	0 (0%)	3 (13%)	10 (43%)	10 (43%)	0 (0%)	23 (100%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	10 (42%)	14 (58%)	0 (0%)	24 (100%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	8 (36%)	14 (64%)	0 (0%)	22 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	5 (26%)	14 (74%)	0 (0%)	19 (100%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	4 (20%)	13 (65%)	3 (15%)	20 (100%)
知的障害	第1期	10 (8%)	92 (75%)	15 (12%)	5 (4%)	0 (0%)	122 (100%)
	第2期	0 (0%)	80 (75%)	21 (20%)	6 (6%)	0 (0%)	107 (100%)
	第3期	4 (2%)	93 (57%)	52 (32%)	13 (8%)	0 (0%)	162 (100%)
	第4期	0 (0%)	56 (43%)	55 (42%)	20 (15%)	0 (0%)	131 (100%)
	第5期	0 (0%)	42 (33%)	65 (51%)	20 (16%)	0 (0%)	127 (100%)
	第6期	0 (0%)	17 (14%)	76 (64%)	24 (20%)	1 (1%)	118 (100%)
	第7期	0 (0%)	6 (5%)	69 (63%)	26 (24%)	9 (8%)	110 (100%)
精神障害	第1期	0 (0%)	11 (24%)	35 (76%)	0 (0%)	0 (0%)	46 (100%)
	第2期	0 (0%)	6 (17%)	25 (69%)	5 (14%)	0 (0%)	36 (100%)
	第3期	0 (0%)	9 (17%)	30 (58%)	13 (25%)	0 (0%)	52 (100%)
	第4期	0 (0%)	5 (11%)	21 (47%)	19 (42%)	0 (0%)	45 (100%)
	第5期	0 (0%)	4 (11%)	15 (41%)	18 (49%)	0 (0%)	37 (100%)
	第6期	0 (0%)	1 (3%)	14 (35%)	25 (63%)	0 (0%)	40 (100%)
	第7期	0 (0%)	1 (3%)	8 (23%)	23 (66%)	3 (9%)	35 (100%)
計	第1期	13 (3%)	224 (53%)	165 (39%)	21 (5%)	0 (0%)	423 (100%)
	第2期	0 (0%)	158 (46%)	143 (42%)	41 (12%)	0 (0%)	342 (100%)
	第3期	4 (1%)	155 (37%)	180 (43%)	83 (20%)	0 (0%)	422 (100%)
	第4期	0 (0%)	90 (24%)	171 (46%)	107 (29%)	0 (0%)	368 (100%)
	第5期	0 (0%)	60 (18%)	168 (49%)	114 (33%)	0 (0%)	342 (100%)
	第6期	0 (0%)	20 (7%)	161 (53%)	120 (39%)	3 (1%)	304 (100%)
	第7期	0 (0%)	7 (2%)	132 (44%)	126 (42%)	32 (11%)	297 (100%)

表 2-9 後期調査回答者の年齢層 (単位: 人)

	～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計	
視覚障害	第1期	42 (76%)	13 (24%)	0 (0%)	0 (0%)	55 (100%)
	第2期	21 (54%)	18 (46%)	0 (0%)	0 (0%)	39 (100%)
	第3期	16 (36%)	28 (64%)	0 (0%)	0 (0%)	44 (100%)
	第4期	7 (18%)	30 (75%)	3 (8%)	0 (0%)	40 (100%)
	第5期	3 (8%)	29 (81%)	4 (11%)	0 (0%)	36 (100%)
	第6期	0 (0%)	26 (74%)	9 (26%)	0 (0%)	35 (100%)
	第7期	0 (0%)	19 (54%)	16 (46%)	0 (0%)	35 (100%)
聴覚障害	第1期	54 (66%)	28 (34%)	0 (0%)	0 (0%)	82 (100%)
	第2期	31 (53%)	27 (47%)	0 (0%)	0 (0%)	58 (100%)
	第3期	32 (40%)	48 (59%)	1 (1%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	22 (29%)	48 (64%)	5 (7%)	0 (0%)	75 (100%)
	第5期	5 (9%)	37 (67%)	13 (24%)	0 (0%)	55 (100%)
	第6期	0 (0%)	37 (69%)	17 (31%)	0 (0%)	54 (100%)
	第7期	0 (0%)	32 (54%)	26 (44%)	1 (2%)	59 (100%)
肢体不自由	第1期	81 (66%)	41 (33%)	1 (1%)	0 (0%)	123 (100%)
	第2期	51 (53%)	41 (43%)	4 (4%)	0 (0%)	96 (100%)
	第3期	36 (36%)	57 (57%)	7 (7%)	0 (0%)	100 (100%)
	第4期	20 (23%)	58 (67%)	9 (10%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	6 (7%)	65 (76%)	15 (17%)	0 (0%)	86 (100%)
	第6期	0 (0%)	47 (63%)	28 (37%)	0 (0%)	75 (100%)
	第7期	0 (0%)	40 (54%)	34 (46%)	0 (0%)	74 (100%)
内部障害	第1期	17 (40%)	25 (60%)	0 (0%)	0 (0%)	42 (100%)
	第2期	10 (29%)	24 (71%)	0 (0%)	0 (0%)	34 (100%)
	第3期	22 (28%)	56 (72%)	0 (0%)	0 (0%)	78 (100%)
	第4期	15 (22%)	49 (72%)	4 (6%)	0 (0%)	68 (100%)
	第5期	6 (10%)	39 (67%)	13 (22%)	0 (0%)	58 (100%)
	第6期	0 (0%)	29 (59%)	20 (41%)	0 (0%)	49 (100%)
	第7期	0 (0%)	22 (55%)	18 (45%)	0 (0%)	40 (100%)
知的障害	第1期	61 (80%)	15 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	76 (100%)
	第2期	43 (70%)	18 (30%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	40 (53%)	35 (47%)	0 (0%)	0 (0%)	75 (100%)
	第4期	26 (40%)	33 (51%)	3 (5%)	3 (5%)	65 (100%)
	第5期	8 (16%)	35 (70%)	7 (14%)	0 (0%)	50 (100%)
	第6期	0 (0%)	39 (80%)	10 (20%)	0 (0%)	49 (100%)
	第7期	0 (0%)	32 (74%)	11 (26%)	0 (0%)	43 (100%)
精神障害	第1期	33 (89%)	4 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	37 (100%)
	第2期	19 (70%)	7 (26%)	1 (4%)	0 (0%)	27 (100%)
	第3期	21 (50%)	21 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	42 (100%)
	第4期	15 (38%)	23 (58%)	2 (5%)	0 (0%)	40 (100%)
	第5期	3 (9%)	27 (82%)	3 (9%)	0 (0%)	33 (100%)
	第6期	0 (0%)	25 (81%)	6 (19%)	0 (0%)	31 (100%)
	第7期	0 (0%)	18 (62%)	10 (34%)	1 (3%)	29 (100%)
計	第1期	288 (69%)	126 (30%)	1 (0%)	0 (0%)	415 (100%)
	第2期	175 (56%)	135 (43%)	5 (2%)	0 (0%)	315 (100%)
	第3期	167 (40%)	245 (58%)	8 (2%)	0 (0%)	420 (100%)
	第4期	105 (28%)	241 (64%)	26 (7%)	3 (1%)	375 (100%)
	第5期	31 (10%)	232 (73%)	55 (17%)	0 (0%)	318 (100%)
	第6期	0 (0%)	203 (69%)	90 (31%)	0 (0%)	293 (100%)
	第7期	0 (0%)	163 (58%)	115 (41%)	2 (1%)	280 (100%)

※年齢不明を除く。(第1期後期調査の視覚障害において1人年齢不明を確認)

3 障害者手帳の所持状況及び等級

1 回以上回答のあった調査対象者の各調査期の障害者手帳の所持状況を表 2-10 に示した。

なお、第 7 期においては、身体障害では約 8 割が重度（1～2 級）であり、特に聴覚障害は 9 割近くが重度だった。知的障害では重度以外が 9 割となっていた。精神障害では 2 級が約 5 割、3 級が約 4 割であり、8%は精神障害者保健福祉手帳を所持していなかった。

表 2-10 各障害種類の調査回答者の各種障害者手帳等級（単位：人）※次ページへ続く

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害の者の身体障害者手帳等級								
	1～2級	3～4級	5～6級	等級不明	手帳なし	無回答	計	
視覚障害	第1期	74 (71%)	12 (12%)	15 (14%)	3 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	104 (100%)
	第2期	55 (71%)	9 (12%)	11 (14%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	78 (100%)
	第3期	61 (76%)	9 (11%)	6 (8%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	58 (77%)	10 (13%)	6 (8%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	75 (100%)
	第5期	54 (78%)	7 (10%)	6 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	44 (77%)	6 (11%)	6 (11%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	48 (79%)	5 (8%)	6 (10%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	139 (84%)	18 (11%)	5 (3%)	2 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	94 (83%)	14 (12%)	4 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	113 (100%)
	第3期	133 (84%)	13 (8%)	4 (3%)	7 (4%)	2 (1%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	126 (87%)	12 (8%)	3 (2%)	3 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	108 (90%)	10 (8%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	120 (100%)
	第6期	97 (90%)	10 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
	第7期	104 (87%)	12 (10%)	3 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	155 (72%)	33 (15%)	24 (11%)	4 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	216 (100%)
	第2期	128 (74%)	26 (15%)	17 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	174 (100%)
	第3期	125 (73%)	23 (13%)	20 (12%)	2 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	117 (78%)	17 (11%)	13 (9%)	2 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	150 (100%)
	第5期	110 (76%)	16 (11%)	18 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	144 (100%)
	第6期	100 (79%)	14 (11%)	12 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	126 (100%)
	第7期	95 (79%)	14 (12%)	11 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	120 (100%)
内部障害	第1期	64 (88%)	9 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	54 (89%)	7 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	83 (82%)	16 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	101 (100%)
	第4期	76 (83%)	16 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期	63 (79%)	17 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第6期	53 (78%)	15 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	68 (100%)
	第7期	47 (78%)	13 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
計	第1期	432 (77%)	72 (13%)	44 (8%)	9 (2%)	1 (0%)	0 (0%)	558 (100%)
	第2期	331 (78%)	56 (13%)	32 (8%)	5 (1%)	0 (0%)	2 (0%)	426 (100%)
	第3期	402 (79%)	61 (12%)	30 (6%)	12 (2%)	3 (1%)	3 (1%)	511 (100%)
	第4期	377 (82%)	55 (12%)	22 (5%)	6 (1%)	0 (0%)	2 (0%)	462 (100%)
	第5期	335 (81%)	50 (12%)	26 (6%)	1 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	413 (100%)
	第6期	294 (82%)	45 (13%)	19 (5%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	359 (100%)
	第7期	294 (82%)	44 (12%)	20 (6%)	1 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	360 (100%)

表 2-10 各障害種類の調査回答者の各種障害者手帳等級（単位：人） ※前ページからの続き

知的障害の者の療育手帳等級

	重度	重度以外	等級不明	手帳なし	無回答	計
第1期	10 (5%)	180 (91%)	4 (2%)	3 (2%)	1 (1%)	198 (100%)
第2期	9 (5%)	152 (90%)	3 (2%)	3 (2%)	1 (1%)	168 (100%)
第3期	13 (5%)	210 (89%)	11 (5%)	2 (1%)	1 (0%)	237 (100%)
第4期	10 (5%)	175 (91%)	4 (2%)	2 (1%)	2 (1%)	193 (100%)
第5期	18 (10%)	152 (86%)	2 (1%)	5 (3%)	0 (0%)	177 (100%)
第6期	12 (7%)	152 (91%)	1 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	167 (100%)
第7期	13 (8%)	138 (90%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)	153 (100%)

精神障害の者の精神障害者保健福祉手帳の等級

	1級	2級	3級	等級不明	手帳なし	無回答	計
第1期	1 (1%)	34 (41%)	31 (37%)	0 (0%)	17 (20%)	0 (0%)	83 (100%)
第2期	0 (0%)	28 (44%)	23 (37%)	0 (0%)	12 (19%)	0 (0%)	63 (100%)
第3期	1 (1%)	38 (40%)	40 (43%)	1 (1%)	14 (15%)	0 (0%)	94 (100%)
第4期	1 (1%)	36 (42%)	35 (41%)	0 (0%)	13 (15%)	0 (0%)	85 (100%)
第5期	1 (1%)	33 (47%)	27 (39%)	0 (0%)	9 (13%)	0 (0%)	70 (100%)
第6期	1 (1%)	31 (44%)	30 (42%)	0 (0%)	8 (11%)	1 (1%)	71 (100%)
第7期	1 (2%)	31 (48%)	26 (41%)	0 (0%)	5 (8%)	1 (2%)	64 (100%)

4 障害の診断年齢

1 回以上回答のあった調査対象者の主たる障害について、診断を受けた年齢を5歳刻みのカテゴリに分類したものを表2-11に示す。なお、診断を受けた年齢については第1期で回答を得て、第3期に補充した者については第3期で回答を得ている。よって、第1期に回答がなく第2期以降に回答のあった者及び第3期に補充した調査対象者のうち第3期に回答がなく第4期以降に回答のあった者の診断年齢は無回答に区分している。

表2-11 障害の診断年齢（単位：人）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
視覚障害	47 (40%)	11 (9%)	10 (8%)	6 (5%)	6 (5%)	6 (5%)	4 (3%)	3 (3%)
聴覚障害	150 (67%)	15 (7%)	1 (0%)	2 (1%)	3 (1%)	1 (0%)	2 (1%)	1 (0%)
肢体不自由	65 (26%)	13 (5%)	8 (3%)	25 (10%)	29 (12%)	23 (9%)	9 (4%)	8 (3%)
内部障害	9 (7%)	4 (3%)	1 (1%)	15 (12%)	23 (19%)	13 (11%)	13 (11%)	12 (10%)
知的障害	77 (26%)	35 (12%)	15 (5%)	8 (3%)	1 (0%)	2 (1%)	2 (1%)	1 (0%)
精神障害	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	17 (14%)	24 (20%)	25 (21%)	13 (11%)	8 (7%)
計	350 (31%)	78 (7%)	37 (3%)	73 (6%)	86 (8%)	70 (6%)	43 (4%)	33 (3%)

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	不明	無回答	計
視覚障害	4 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (9%)	9 (8%)	118 (100%)
聴覚障害	1 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	31 (14%)	17 (8%)	225 (100%)
肢体不自由	8 (3%)	6 (2%)	2 (1%)	0 (0%)	31 (13%)	21 (8%)	248 (100%)
内部障害	11 (9%)	11 (9%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	4 (3%)	121 (100%)
知的障害	2 (1%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	56 (19%)	93 (32%)	293 (100%)
精神障害	6 (5%)	3 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	14 (12%)	6 (5%)	121 (100%)
計	32 (3%)	22 (2%)	6 (1%)	1 (0%)	145 (13%)	150 (13%)	1,126 (100%)

5 学歴

1 回以上回答のあった調査対象者の最終学歴を表 2-12 に示す。なお、最終学歴については第 1 期で回答を得て、第 3 期に補充した者については第 3 期で回答を得ている。よって、第 1 期に回答がなく第 2 期以降に回答のあった者及び第 3 期に補充した調査対象者のうち第 3 期に回答がなく第 4 期以降に回答のあった者の診断年齢は無回答に区分している。

表 2-12 最終学歴 (単位：人)

	中学校	高等学校	特別支援 中学部	特別支援 高等部	特別支援 専攻科	専修学校
視覚障害	0 (0%)	3 (3%)	1 (1%)	1 (1%)	48 (41%)	11 (9%)
聴覚障害	1 (0%)	17 (8%)	0 (0%)	44 (20%)	32 (14%)	21 (9%)
肢体不自由	0 (0%)	53 (21%)	1 (0%)	27 (11%)	0 (0%)	20 (8%)
内部障害	4 (3%)	38 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	14 (12%)
知的障害	39 (13%)	24 (8%)	10 (3%)	138 (47%)	4 (1%)	9 (3%)
精神障害	3 (2%)	37 (31%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	12 (10%)
計	47 (4%)	172 (15%)	12 (1%)	211 (19%)	86 (8%)	87 (8%)

	職業訓練校	短大、大学	大学院	その他	無回答	計
視覚障害	13 (11%)	22 (19%)	1 (1%)	4 (3%)	14 (12%)	118 (100%)
聴覚障害	26 (12%)	48 (21%)	1 (0%)	1 (0%)	34 (15%)	225 (100%)
肢体不自由	74 (30%)	38 (15%)	5 (2%)	1 (0%)	29 (12%)	248 (100%)
内部障害	13 (11%)	41 (34%)	3 (2%)	1 (1%)	5 (4%)	121 (100%)
知的障害	28 (10%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (1%)	35 (12%)	293 (100%)
精神障害	9 (7%)	39 (32%)	6 (5%)	6 (5%)	8 (7%)	121 (100%)
計	163 (14%)	190 (17%)	16 (1%)	17 (2%)	125 (11%)	1,126 (100%)

6 調査への紹介元

1 回以上回答のあった調査対象者について、調査対象者の募集手続きにおいて把握した紹介元を表 2-13 に示す。視覚障害、聴覚障害、内部障害、知的障害の 4 つの障害グループにおいて、調査対象者の過半数が当事者団体等からの紹介である。肢体不自由の対象者は 4 割が雇用事業所から、精神障害の対象者は 8 割が職業リハビリテーション機関からの紹介である。

表 2-13 調査対象者の紹介元 (単位：人)

	当事者団体等	事業所	職リハ機関	その他	計
視覚障害	76 (64%)	5 (4%)	10 (8%)	27 (23%)	118 (100%)
聴覚障害	176 (78%)	26 (12%)	10 (4%)	13 (6%)	225 (100%)
肢体不自由	64 (26%)	100 (40%)	49 (20%)	35 (14%)	248 (100%)
内部障害	84 (69%)	25 (21%)	4 (3%)	8 (7%)	121 (100%)
知的障害	179 (61%)	41 (14%)	25 (9%)	48 (16%)	293 (100%)
精神障害	7 (6%)	9 (7%)	97 (80%)	8 (7%)	121 (100%)
計	586 (52%)	206 (18%)	195 (17%)	139 (12%)	1,126 (100%)

第4節 調査回答者の就労状況等

本節では、就労状況及び非就労者の就労に関する回答状況について述べる。

職業サイクル調査研究では、すべての対象者へ、回答記入時に収入のある仕事に就いているかどうかを確認し、就労の有無を判別している。ここでの就労者は、正社員、パート等、派遣、自営、内職、就労継続支援A型で働いている者であり、就労継続支援B型あるいは就労移行支援、地域活動支援センター（福祉作業所）などでの雇用契約を結ばない形での福祉的就労の者は含めない。加えて、就労形態はその他と回答又は無回答であるが、就労していることを他の調査項目への回答により確認した者も就労者に含めている。

1 就労形態及び就労の有無

各調査期のすべての調査回答者の就労形態は表2-14のとおりである。なお、この項目では、複数の仕事をしている場合には主な仕事ひとつについて回答を求めている。また、就労形態の時勢による変化を可視化するため、既存の第1期から第7期の調査のうち最初（第1期）と最後（第7期）、その中間（第4期）の就労形態をグラフにした結果を図2-1に示す。

正社員は、第7期において身体障害で5割前後であるのに対して、知的障害と精神障害では17%であった。なお、第1期、第4期、第7期の正社員比率の推移を見ると、精神障害を除いてどの障害種類でも低下していた。精神障害では、第7期は第4期よりは上昇しているものの、第1期と比べると正社員比率は低下していた。就労継続支援A型は知的障害で最も多いが他の障害種類でも少数ではあるものの確認できた。自営等については第7期では視覚障害で21%と顕著であった。また、現在仕事をしていないと回答した者は、第7期では肢体不自由25%、精神障害16%で多かった。

表2-14 就労形態（単位：人）

	就労者								就労していない者				就労状況不明の者		計
	正社員	パート等	派遣	自営等	内職	A型	その他	無回答	福祉	仕事を していない	その他	無回答	その他	無回答	
視覚障害	第1期	67 (64%)	17 (16%)	0 (0%)	17 (16%)	0 (0%)	-	0 (0%)	1 (1%)	-	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	104 (100%)
	第2期	46 (59%)	12 (15%)	0 (0%)	14 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	78 (100%)
	第3期	51 (64%)	10 (13%)	0 (0%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第4期	42 (56%)	14 (19%)	1 (1%)	12 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	75 (100%)
	第5期	39 (57%)	11 (16%)	1 (1%)	11 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	27 (47%)	10 (18%)	1 (2%)	12 (21%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	5 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	28 (46%)	13 (21%)	0 (0%)	13 (21%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	117 (71%)	38 (23%)	1 (1%)	3 (2%)	0 (0%)	-	0 (0%)	0 (0%)	-	0 (0%)	6 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	72 (64%)	28 (25%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	8 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	113 (100%)
	第3期	96 (60%)	46 (29%)	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	6 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	81 (56%)	41 (28%)	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	8 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	6 (4%)	145 (100%)
	第5期	65 (54%)	37 (31%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	7 (6%)	0 (0%)	3 (3%)	0 (0%)	120 (100%)
	第6期	60 (56%)	36 (33%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
	第7期	57 (48%)	43 (36%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	5 (4%)	0 (0%)	11 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	119 (100%)
肢体 不自 由	第1期	151 (70%)	40 (19%)	1 (0%)	3 (1%)	0 (0%)	-	0 (0%)	0 (0%)	-	0 (0%)	21 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	216 (100%)
	第2期	108 (62%)	40 (23%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	13 (7%)	3 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	174 (100%)
	第3期	104 (61%)	37 (22%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	6 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	17 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	85 (57%)	40 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	15 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	150 (100%)
	第5期	74 (51%)	30 (21%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	25 (17%)	0 (0%)	4 (3%)	0 (0%)	144 (100%)
	第6期	59 (47%)	28 (22%)	2 (2%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	2 (2%)	25 (20%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	126 (100%)
	第7期	60 (50%)	24 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	30 (25%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	120 (100%)
内部障害	第1期	55 (75%)	12 (16%)	0 (0%)	4 (5%)	0 (0%)	-	0 (0%)	1 (1%)	-	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	46 (75%)	11 (18%)	0 (0%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	69 (68%)	20 (20%)	0 (0%)	6 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	61 (66%)	22 (24%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	45 (56%)	16 (20%)	1 (1%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	9 (11%)	1 (1%)	2 (3%)	0 (0%)	80 (100%)
	第6期	37 (54%)	17 (25%)	0 (0%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	68 (100%)
	第7期	33 (55%)	17 (28%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	6 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
知的障害	第1期	83 (42%)	105 (53%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	-	0 (0%)	3 (2%)	-	0 (0%)	6 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	198 (100%)
	第2期	53 (32%)	100 (60%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (2%)	8 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	168 (100%)
	第3期	73 (31%)	129 (54%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	14 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (5%)	4 (2%)	1 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	237 (100%)
	第4期	46 (24%)	111 (58%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (5%)	5 (3%)	2 (1%)	0 (0%)	7 (4%)	193 (100%)
	第5期	45 (25%)	92 (52%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (10%)	0 (0%)	1 (1%)	12 (7%)	4 (2%)	2 (1%)	3 (2%)	0 (0%)	177 (100%)
	第6期	33 (20%)	89 (53%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (8%)	1 (1%)	8 (5%)	17 (10%)	5 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	167 (100%)
	第7期	26 (17%)	71 (46%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	19 (12%)	0 (0%)	6 (4%)	23 (15%)	6 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	153 (100%)
精神障害	第1期	26 (31%)	54 (65%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	-	0 (0%)	0 (0%)	-	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	17 (27%)	33 (52%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	7 (11%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	18 (19%)	58 (62%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	7 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	11 (13%)	50 (59%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (8%)	9 (11%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	9 (13%)	42 (60%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (9%)	10 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	70 (100%)
	第6期	11 (15%)	38 (54%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	4 (6%)	14 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	71 (100%)
	第7期	11 (17%)	32 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	9 (14%)	10 (16%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	64 (100%)
計	第1期	499 (59%)	266 (32%)	3 (0%)	27 (3%)	0 (0%)	-	0 (0%)	5 (1%)	-	0 (0%)	39 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	839 (100%)
	第2期	342 (52%)	224 (34%)	2 (0%)	22 (3%)	0 (0%)	6 (1%)	0 (0%)	2 (0%)	12 (2%)	41 (6%)	6 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	657 (100%)
	第3期	411 (49%)	300 (36%)	2 (0%)	22 (3%)	0 (0%)	28 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	23 (3%)	45 (5%)	2 (0%)	0 (0%)	9 (1%)	842 (100%)
	第4期	326 (44%)	278 (38%)	3 (0%)	19 (3%)	0 (0%)	26 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (3%)	45 (6%)	5 (1%)	0 (0%)	18 (2%)	740 (100%)
	第5期	277 (42%)	228 (35%)	3 (0%)	18 (3%)	1 (0%)	25 (4%)	0 (0%)	4 (1%)	22 (3%)	59 (9%)	4 (1%)	13 (2%)	0 (0%)	660 (100%)
	第6期	227 (38%)	218 (37%)	3 (1%)	19 (3%)	0 (0%)	21 (4%)	2 (0%)	18 (3%)	24 (4%)	63 (11%)	0 (0%)	2 (0%)	0 (0%)	597 (100%)
	第7期	215 (37%)	200 (35%)	1 (0%)	16 (3%)	0 (0%)	26 (5%)	0 (0%)	14 (2%)	34 (6%)	69 (12%)	2 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	577 (100%)

※就労形態の選択肢は調査期により異なり、各回答に含まれる各調査回の回答は以下のとおり。

1. 「A型」及び「福祉」

- ・第1期及び第2期前期調査では、「A型」「福祉」に該当する選択肢を設けていない。
- ・第2期後期調査の選択肢「就労継続支援事業所A型や福祉工場で働いている」は「A型」、「就労継続支援事業所B型、福祉作業所や就労移行支援事業所で働いている」は「福祉」に含めている。
- ・第3期及び第4期の選択肢「就労継続支援事業所A型（福祉工場）で雇用契約を結んで働いている」は「A型」、「就労継続支援事業所B型あるいは就労移行支援事業所や地域活動支援センター（福祉作業所）などで雇用契約を結ばない形で働いている」は「福祉」に含めている。
- ・第5期から第7期の選択肢「就労継続支援A型で雇用契約を結んで働いている」は「A型」、「就労継続支援B型あるいは就労移行支援や地域活動支援センター（福祉作業所）などで雇用契約を結ばない形で働いている」は「福祉」に含めている。

2. 「その他」

- ・選択肢「その他」は他の調査項目の回答状況により「就労者」「就労していない者」「就労状況不明の者」のいずれかに該当する。
- ・第1期の選択肢「上記のいずれにも該当しない（福祉工場や作業所で働いている」「仕事をしていない」など）は、「就労していない者」の「その他」に含めている。
- ・第2期前期調査の選択肢「福祉工場や作業所で働いている」は、「就労していない者」の「その他」に含めている。

3. 「無回答」

- ・選択肢への回答の無かった「無回答」は他の調査項目の回答状況により「就労者」「就労していない者」「就労状況不明の者」のいずれかに該当する。

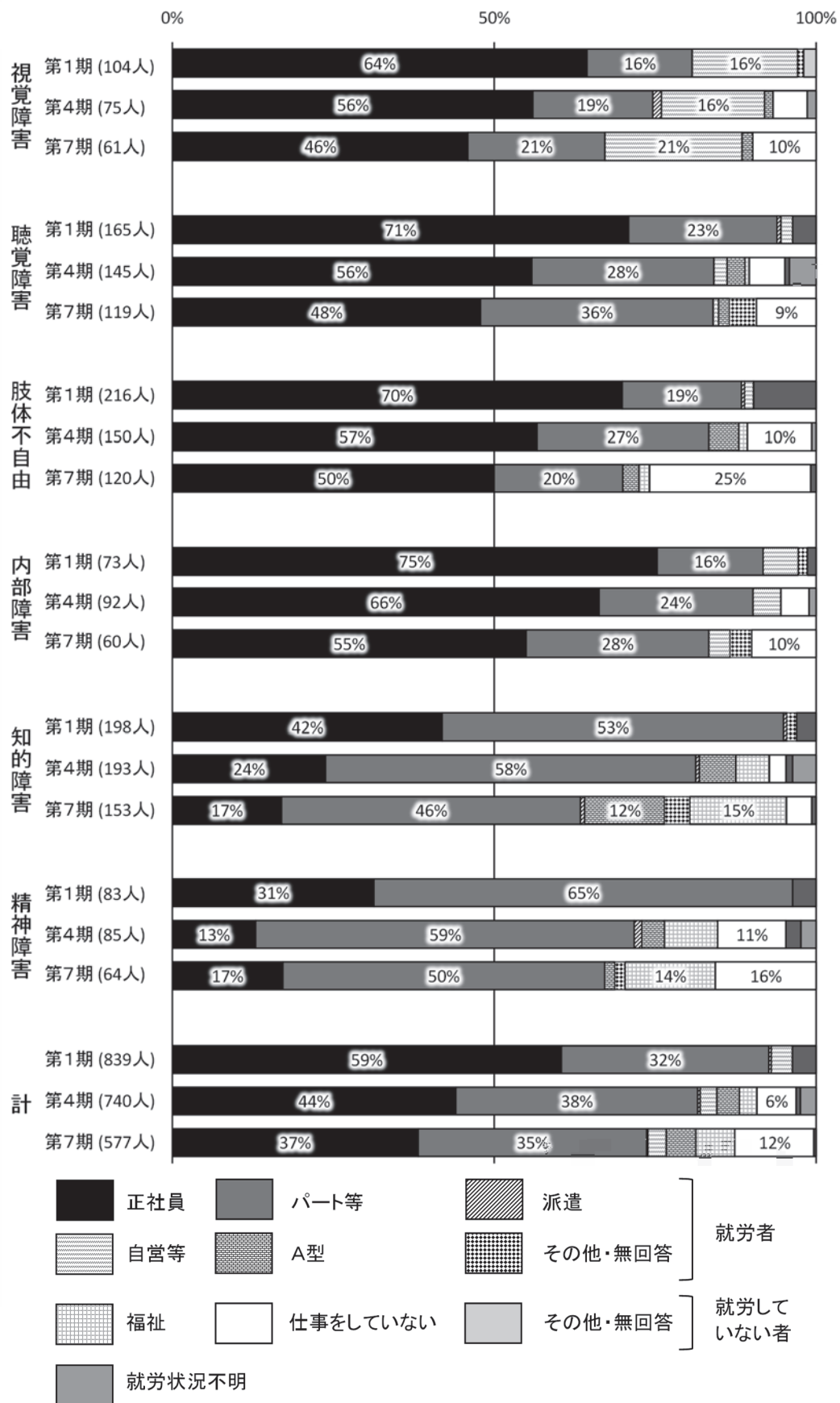


図 2 - 1 第 1 期、第 4 期及び第 7 期における障害種類別の就労形態

各調査期のすべての調査回答者の就労者数、就労状況不明の者を除いた就労率は表2-15に、就労率の時勢による変化を可視化するため、既存の第1期から第7期の調査のうち最初（第1期）と最後（第7期）、その中間（第4期）の就労率をグラフにした結果を図2-2に示す。

なお、職業サイクル調査研究の対象者募集に当たり、企業等で働いている者を対象にしたが、募集から調査実施までの対象者の就労状況の変化等により第1期の就労率は100%とならなかった。第1期、第4期及び第7期を比較すると、いずれの障害種類においても就労率は低下していた。

表2-15 就労者数（単位：人）と就労率（括弧内：就労者数／就労状況不明の者を除く調査回答者数）

	視覚障害		聴覚障害		肢体不自由		内部障害		知的障害		精神障害		就労者計	
	就労者	回答者	就労者	回答者	就労者	回答者	就労者	回答者	就労者	回答者	就労者	回答者	就労者	回答者
第1期	102 (98%)	104	159 (96%)	165	195 (90%)	216	72 (99%)	73	192 (97%)	198	80 (96%)	83	800 (95%)	839
第2期	72 (92%)	78	105 (93%)	113	154 (89%)	174	60 (98%)	61	155 (92%)	168	52 (83%)	63	598 (91%)	657
第3期	74 (93%)	80	147 (94%)	156	149 (88%)	170	95 (95%)	100	217 (92%)	235	81 (88%)	92	763 (92%)	833
第4期	70 (95%)	74	129 (93%)	139	132 (89%)	149	87 (96%)	91	169 (91%)	186	65 (78%)	83	652 (90%)	722
第5期	64 (93%)	69	108 (91%)	119	110 (77%)	142	67 (85%)	79	155 (88%)	176	52 (75%)	69	556 (85%)	654
第6期	51 (89%)	57	104 (96%)	108	98 (78%)	126	58 (85%)	68	144 (86%)	167	53 (75%)	71	508 (85%)	597
第7期	55 (90%)	61	108 (91%)	119	87 (73%)	120	54 (90%)	60	123 (80%)	153	45 (70%)	64	472 (82%)	577

※回答者の数には就労状況不明の者を除く

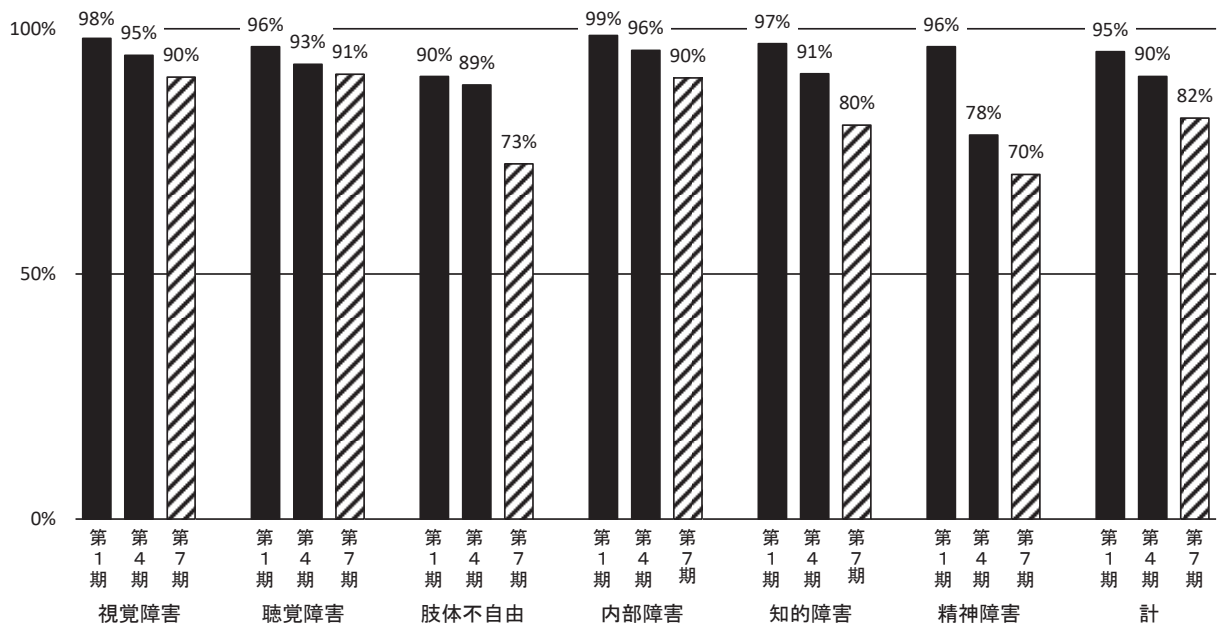


図2-2 第1期、第4期及び第7期の障害種類別の就労率

障害種類により就労率の推移に違いがあり、第7期において、肢体不自由、精神障害では8割以下であった。しかし、離職者が調査に回答しなくなる可能性もあり、この就労率の解釈には留意が必要である。

2 仕事数

調査回答者のうち就労者が行っている仕事数について、調査項目に追加された第5期以降の調査回答者の結果を表2-16に示す。仕事数は、例えばアルバイトを2つしている場合は「2つ」になる。なお、これ以降の仕事に関する項目では、複数の仕事をしている場合には主な仕事ひとつについて回答を求めている。

表2-16 仕事数（単位：人）

		1つ	2つ	3つ以上	無回答	計
視覚障害	第5期	58 (91%)	2 (3%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	49 (96%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	51 (100%)
	第7期	49 (89%)	2 (4%)	2 (4%)	2 (4%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	104 (96%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	99 (95%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	104 (100%)
	第7期	102 (94%)	1 (1%)	1 (1%)	4 (4%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	106 (96%)	2 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	93 (95%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (3%)	98 (100%)
	第7期	85 (98%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第5期	64 (96%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	55 (95%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	53 (98%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	54 (100%)
知的障害	第5期	149 (96%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	133 (92%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (7%)	144 (100%)
	第7期	115 (93%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (7%)	123 (100%)
精神障害	第5期	49 (94%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	52 (98%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	53 (100%)
	第7期	44 (98%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第5期	530 (95%)	10 (2%)	4 (1%)	12 (2%)	556 (100%)
	第6期	481 (95%)	7 (1%)	3 (1%)	17 (3%)	508 (100%)
	第7期	448 (95%)	5 (1%)	3 (1%)	16 (3%)	472 (100%)

3 職種

調査回答者のうち就労者の職種について、8つの選択肢により回答を得た結果を表2-17に、第7期の職種を図2-3に示す。各調査期に共通して、視覚障害は「医療や福祉に関わる仕事」、聴覚障害及び精神障害は「ものを作る仕事」及び「事務の仕事」、肢体不自由及び内部障害は「事務の仕事」、知的障害は「ものを作る仕事」及び「清掃やクリーニングなどのサービス業」に従事している者が多かった。

表2-17 職種（単位：人）

	ものを作る仕事	ものを売る仕事	事務の仕事	ものを教える仕事	医療や福祉に関わる仕事	人を相手にするサービス業	清掃やクリーニングなどのサービス業	その他	無回答	計	
視覚障害	第1期	2 (2%)	1 (1%)	17 (17%)	16 (16%)	60 (59%)	5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	1 (1%)	1 (1%)	12 (17%)	12 (17%)	40 (56%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	11 (15%)	16 (22%)	45 (61%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	11 (16%)	16 (23%)	35 (50%)	3 (4%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	70 (100%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	9 (14%)	13 (20%)	36 (56%)	4 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	1 (2%)	0 (0%)	7 (14%)	10 (20%)	29 (57%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	2 (4%)	0 (0%)	8 (15%)	8 (15%)	30 (55%)	2 (4%)	0 (0%)	3 (5%)	2 (4%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	75 (47%)	1 (1%)	57 (36%)	3 (2%)	7 (4%)	2 (1%)	12 (8%)	0 (0%)	159 (100%)	
	第2期	40 (38%)	2 (2%)	39 (37%)	2 (2%)	8 (8%)	1 (1%)	11 (10%)	1 (1%)	105 (100%)	
	第3期	55 (37%)	6 (4%)	55 (37%)	3 (2%)	9 (6%)	3 (2%)	2 (1%)	9 (6%)	5 (3%)	147 (100%)
	第4期	48 (37%)	3 (2%)	44 (34%)	5 (4%)	10 (8%)	5 (4%)	3 (2%)	7 (5%)	4 (3%)	129 (100%)
	第5期	32 (30%)	7 (6%)	42 (39%)	6 (6%)	8 (7%)	4 (4%)	4 (4%)	4 (4%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	35 (34%)	3 (3%)	35 (34%)	7 (7%)	9 (9%)	0 (0%)	5 (5%)	7 (7%)	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	37 (34%)	1 (1%)	44 (41%)	6 (6%)	9 (8%)	2 (2%)	5 (5%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	51 (26%)	6 (3%)	109 (56%)	1 (1%)	5 (3%)	9 (5%)	3 (2%)	8 (4%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	35 (23%)	1 (1%)	90 (58%)	1 (1%)	5 (3%)	7 (5%)	5 (3%)	6 (4%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	36 (24%)	2 (1%)	86 (58%)	2 (1%)	4 (3%)	3 (2%)	4 (3%)	10 (7%)	2 (1%)	149 (100%)
	第4期	29 (22%)	3 (2%)	76 (58%)	1 (1%)	5 (4%)	3 (2%)	5 (4%)	6 (5%)	4 (3%)	132 (100%)
	第5期	22 (20%)	2 (2%)	70 (64%)	1 (1%)	4 (4%)	4 (4%)	3 (3%)	4 (4%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	18 (18%)	5 (5%)	55 (56%)	2 (2%)	7 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	4 (4%)	3 (3%)	98 (100%)
	第7期	16 (18%)	3 (3%)	52 (60%)	3 (3%)	4 (5%)	2 (2%)	4 (5%)	2 (2%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第1期	10 (14%)	2 (3%)	36 (50%)	2 (3%)	6 (8%)	4 (6%)	5 (7%)	6 (8%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	9 (15%)	3 (5%)	28 (47%)	1 (2%)	5 (8%)	2 (3%)	5 (8%)	6 (10%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	9 (9%)	7 (7%)	58 (61%)	1 (1%)	6 (6%)	3 (3%)	5 (5%)	6 (6%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	8 (9%)	5 (6%)	53 (61%)	1 (1%)	6 (7%)	3 (3%)	5 (6%)	4 (5%)	2 (2%)	87 (100%)
	第5期	5 (7%)	1 (1%)	45 (67%)	0 (0%)	5 (7%)	4 (6%)	7 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	6 (10%)	2 (3%)	34 (59%)	1 (2%)	3 (5%)	5 (9%)	5 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	6 (11%)	1 (2%)	34 (63%)	0 (0%)	4 (7%)	2 (4%)	5 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第1期	57 (30%)	13 (7%)	7 (4%)	0 (0%)	4 (2%)	9 (5%)	82 (43%)	18 (9%)	2 (1%)	192 (100%)
	第2期	48 (31%)	12 (8%)	5 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	5 (3%)	54 (35%)	17 (11%)	10 (6%)	155 (100%)
	第3期	73 (34%)	23 (11%)	9 (4%)	0 (0%)	6 (3%)	11 (5%)	72 (33%)	18 (8%)	5 (2%)	217 (100%)
	第4期	40 (24%)	16 (9%)	6 (4%)	0 (0%)	5 (3%)	9 (5%)	60 (36%)	25 (15%)	8 (5%)	169 (100%)
	第5期	47 (30%)	14 (9%)	8 (5%)	0 (0%)	2 (1%)	5 (3%)	74 (48%)	3 (2%)	2 (1%)	155 (100%)
	第6期	36 (25%)	14 (10%)	9 (6%)	0 (0%)	5 (3%)	3 (2%)	64 (44%)	6 (4%)	7 (5%)	144 (100%)
	第7期	35 (28%)	8 (7%)	11 (9%)	0 (0%)	4 (3%)	2 (2%)	48 (39%)	13 (11%)	2 (2%)	123 (100%)
精神障害	第1期	22 (28%)	6 (8%)	21 (26%)	0 (0%)	2 (3%)	2 (3%)	12 (15%)	15 (19%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	13 (25%)	5 (10%)	12 (23%)	0 (0%)	2 (4%)	4 (8%)	5 (10%)	11 (21%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	16 (20%)	14 (17%)	19 (23%)	0 (0%)	2 (2%)	7 (9%)	9 (11%)	13 (16%)	1 (1%)	81 (100%)
	第4期	11 (17%)	10 (15%)	21 (32%)	0 (0%)	4 (6%)	2 (3%)	8 (12%)	8 (12%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	11 (21%)	6 (12%)	17 (33%)	0 (0%)	3 (6%)	3 (6%)	9 (17%)	2 (4%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	15 (28%)	8 (15%)	17 (32%)	0 (0%)	2 (4%)	2 (4%)	9 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	10 (22%)	3 (7%)	20 (44%)	0 (0%)	3 (7%)	3 (7%)	4 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第1期	217 (27%)	29 (4%)	247 (31%)	22 (3%)	84 (11%)	31 (4%)	104 (13%)	60 (8%)	6 (1%)	800 (100%)
	第2期	146 (24%)	24 (4%)	186 (31%)	16 (3%)	64 (11%)	23 (4%)	70 (12%)	52 (9%)	17 (3%)	598 (100%)
	第3期	189 (25%)	52 (7%)	238 (31%)	22 (3%)	72 (9%)	28 (4%)	92 (12%)	56 (7%)	14 (2%)	763 (100%)
	第4期	136 (21%)	37 (6%)	211 (32%)	23 (4%)	65 (10%)	25 (4%)	81 (12%)	52 (8%)	22 (3%)	652 (100%)
	第5期	117 (21%)	30 (5%)	191 (34%)	20 (4%)	58 (10%)	24 (4%)	98 (18%)	13 (2%)	5 (1%)	556 (100%)
	第6期	111 (22%)	32 (6%)	157 (31%)	20 (4%)	55 (11%)	14 (3%)	85 (17%)	19 (4%)	15 (3%)	508 (100%)
	第7期	106 (22%)	16 (3%)	169 (36%)	17 (4%)	54 (11%)	13 (3%)	66 (14%)	21 (4%)	10 (2%)	472 (100%)

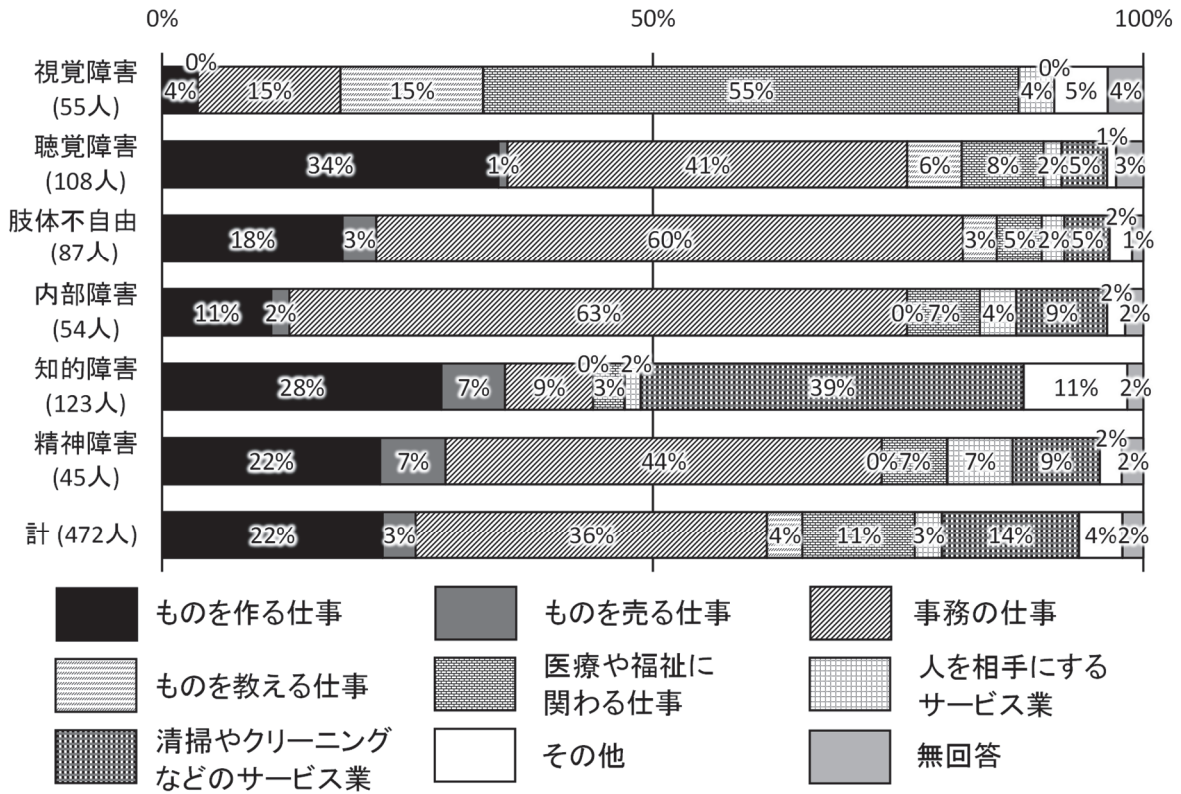


図 2 - 3 第 7 期の職種

4 1週間の勤務時間

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、6月の1週間当たりの主な仕事の勤務時間を表2-18に示す。第7期においては、前期：2020年、後期：2021年である。

正社員の割合が低かった知的障害、精神障害では、30時間以上（フルタイム）の割合が他の障害種類よりも低い結果であった。

表2-18 1週間の勤務時間（単位：人）

	20時間未満	20時間以上 30時間未満	30時間以上 (フルタイム)	無回答	計	
視覚障害	第1期	1 (1%)	3 (3%)	98 (96%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	2 (3%)	5 (7%)	65 (90%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期	3 (4%)	3 (4%)	67 (91%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	5 (7%)	6 (9%)	59 (84%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	7 (11%)	4 (6%)	51 (80%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	6 (12%)	7 (14%)	37 (73%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	6 (11%)	6 (11%)	42 (76%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	10 (6%)	17 (11%)	129 (81%)	3 (2%)	159 (100%)
	第2期	4 (4%)	13 (12%)	85 (81%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期	8 (5%)	22 (15%)	111 (76%)	6 (4%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	17 (13%)	97 (75%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	11 (10%)	16 (15%)	81 (75%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	10 (10%)	16 (15%)	75 (72%)	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	8 (7%)	19 (18%)	78 (72%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	4 (2%)	15 (8%)	170 (87%)	6 (3%)	195 (100%)
	第2期	4 (3%)	22 (14%)	123 (80%)	5 (3%)	154 (100%)
	第3期	7 (5%)	15 (10%)	124 (83%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	3 (2%)	19 (14%)	109 (83%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	5 (5%)	9 (8%)	96 (87%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	10 (10%)	9 (9%)	77 (79%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	8 (9%)	11 (13%)	67 (77%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第1期	3 (4%)	13 (18%)	55 (76%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	0 (0%)	11 (18%)	48 (80%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	5 (5%)	13 (14%)	76 (80%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	7 (8%)	17 (20%)	63 (72%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	2 (3%)	12 (18%)	53 (79%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	4 (7%)	10 (17%)	42 (72%)	2 (3%)	58 (100%)
	第7期	0 (0%)	13 (24%)	41 (76%)	0 (0%)	54 (100%)
知的障害	第1期	25 (13%)	50 (26%)	111 (58%)	6 (3%)	192 (100%)
	第2期	15 (10%)	44 (28%)	84 (54%)	12 (8%)	155 (100%)
	第3期	18 (8%)	76 (35%)	112 (52%)	11 (5%)	217 (100%)
	第4期	17 (10%)	46 (27%)	99 (59%)	7 (4%)	169 (100%)
	第5期	21 (14%)	48 (31%)	80 (52%)	6 (4%)	155 (100%)
	第6期	21 (15%)	38 (26%)	73 (51%)	12 (8%)	144 (100%)
	第7期	20 (16%)	35 (28%)	60 (49%)	8 (7%)	123 (100%)
精神障害	第1期	7 (9%)	34 (43%)	39 (49%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	4 (8%)	15 (29%)	30 (58%)	3 (6%)	52 (100%)
	第3期	9 (11%)	26 (32%)	42 (52%)	4 (5%)	81 (100%)
	第4期	7 (11%)	29 (45%)	28 (43%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	4 (8%)	18 (35%)	30 (58%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期	6 (11%)	16 (30%)	31 (58%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	6 (13%)	11 (24%)	27 (60%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第1期	50 (6%)	132 (17%)	602 (75%)	16 (2%)	800 (100%)
	第2期	29 (5%)	110 (18%)	435 (73%)	24 (4%)	598 (100%)
	第3期	50 (7%)	155 (20%)	532 (70%)	26 (3%)	763 (100%)
	第4期	52 (8%)	134 (21%)	455 (70%)	11 (2%)	652 (100%)
	第5期	50 (9%)	107 (19%)	391 (70%)	8 (1%)	556 (100%)
	第6期	57 (11%)	96 (19%)	335 (66%)	20 (4%)	508 (100%)
	第7期	48 (10%)	95 (20%)	315 (67%)	14 (3%)	472 (100%)

5 1週間の休日

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、6月の1週間当たりの主な仕事の休日数を表2-19に示す。第7期においては、前期：2020年、後期：2021年である。調査期及び障害種類に共通して週2日の休日が多かった。

表2-19 1週間の休日（単位：人）

	1日	2日	3日	4日以上	不定期	無回答	計	
視覚障害	第1期	21 (21%)	61 (60%)	2 (2%)	15 (15%)	3 (3%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	13 (18%)	45 (63%)	0 (0%)	8 (11%)	5 (7%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	15 (20%)	45 (61%)	3 (4%)	9 (12%)	1 (1%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	13 (19%)	44 (63%)	4 (6%)	6 (9%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	10 (16%)	39 (61%)	3 (5%)	9 (14%)	—	3 (5%)	64 (100%)
	第6期	9 (18%)	29 (57%)	2 (4%)	10 (20%)	—	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	10 (18%)	32 (58%)	3 (5%)	7 (13%)	—	3 (5%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	11 (7%)	116 (73%)	8 (5%)	21 (13%)	3 (2%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	6 (6%)	83 (79%)	4 (4%)	6 (6%)	4 (4%)	2 (2%)	105 (100%)
	第3期	10 (7%)	105 (71%)	4 (3%)	16 (11%)	8 (5%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	6 (5%)	94 (73%)	4 (3%)	19 (15%)	3 (2%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	11 (10%)	81 (75%)	5 (5%)	11 (10%)	—	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	6 (6%)	74 (71%)	6 (6%)	15 (14%)	—	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	8 (7%)	73 (68%)	6 (6%)	17 (16%)	—	4 (4%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	150 (77%)	10 (5%)	20 (10%)	5 (3%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	7 (5%)	109 (71%)	6 (4%)	21 (14%)	4 (3%)	7 (5%)	154 (100%)
	第3期	4 (3%)	124 (83%)	7 (5%)	8 (5%)	3 (2%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	1 (1%)	103 (78%)	9 (7%)	18 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	5 (5%)	82 (75%)	7 (6%)	16 (15%)	—	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	3 (3%)	75 (77%)	8 (8%)	10 (10%)	—	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	3 (3%)	54 (62%)	4 (5%)	25 (29%)	—	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第1期	3 (4%)	53 (74%)	2 (3%)	6 (8%)	5 (7%)	3 (4%)	72 (100%)
	第2期	4 (7%)	48 (80%)	3 (5%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	7 (7%)	66 (69%)	3 (3%)	13 (14%)	5 (5%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	9 (10%)	62 (71%)	1 (1%)	14 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	3 (4%)	53 (79%)	1 (1%)	10 (15%)	—	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	6 (10%)	39 (67%)	2 (3%)	10 (17%)	—	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	5 (9%)	35 (65%)	7 (13%)	7 (13%)	—	0 (0%)	54 (100%)
知的障害	第1期	20 (10%)	125 (65%)	15 (8%)	24 (13%)	3 (2%)	5 (3%)	192 (100%)
	第2期	9 (6%)	104 (67%)	9 (6%)	23 (15%)	1 (1%)	9 (6%)	155 (100%)
	第3期	20 (9%)	144 (66%)	14 (6%)	25 (12%)	3 (1%)	11 (5%)	217 (100%)
	第4期	12 (7%)	110 (65%)	11 (7%)	22 (13%)	9 (5%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	10 (6%)	108 (70%)	11 (7%)	21 (14%)	—	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	9 (6%)	84 (58%)	11 (8%)	31 (22%)	—	9 (6%)	144 (100%)
	第7期	7 (6%)	73 (59%)	10 (8%)	29 (24%)	—	4 (3%)	123 (100%)
精神障害	第1期	1 (1%)	59 (74%)	4 (5%)	11 (14%)	5 (6%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	1 (2%)	38 (73%)	7 (13%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	5 (6%)	53 (65%)	8 (10%)	10 (12%)	3 (4%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	3 (5%)	44 (68%)	8 (12%)	6 (9%)	2 (3%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	36 (69%)	7 (13%)	5 (10%)	—	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	2 (4%)	37 (70%)	6 (11%)	8 (15%)	—	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	0 (0%)	32 (71%)	4 (9%)	8 (18%)	—	1 (2%)	45 (100%)
計	第1期	63 (8%)	564 (71%)	41 (5%)	97 (12%)	24 (3%)	11 (1%)	800 (100%)
	第2期	40 (7%)	427 (71%)	29 (5%)	65 (11%)	18 (3%)	19 (3%)	598 (100%)
	第3期	61 (8%)	537 (70%)	39 (5%)	81 (11%)	23 (3%)	22 (3%)	763 (100%)
	第4期	44 (7%)	457 (70%)	37 (6%)	85 (13%)	15 (2%)	14 (2%)	652 (100%)
	第5期	42 (8%)	399 (72%)	34 (6%)	72 (13%)	—	9 (2%)	556 (100%)
	第6期	35 (7%)	338 (67%)	35 (7%)	84 (17%)	—	16 (3%)	508 (100%)
	第7期	33 (7%)	299 (63%)	34 (7%)	93 (20%)	—	13 (3%)	472 (100%)

※「不定期」の選択肢は第4期後期調査以降廃止しており、第4期の「不定期」は前期データのみを掲載した。第4期までの各割合は「不定期」を含めた数値を100%として計算している。

6 1ヶ月の給与

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、6月に受け取った主な仕事の給与（賞与は除く。）について、手取り額を表2-20に示す。第7期においては、前期：2020年、後期：2021年である。また、1ヶ月の給与の時勢による変化を可視化するため、既存の第1期から第7期の調査のうち最初（第1期）と最後（第7期）、その中間（第4期）の1ヶ月の給与をグラフにした結果を図2-4に示す。

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害では、13万円以上25万円未満の割合が最も高く、知的障害、精神障害では、7万円以上13万円未満の割合が最も高かった。

表2-20 1ヶ月の給与（手取り額）（単位：人）

	7万円未満	7万円以上 13万円未満	13万円以上 25万円未満	25万円以上 40万円未満	40万円以上	無回答	計
視覚障害	第1期	4 (4%)	15 (15%)	59 (58%)	18 (18%)	5 (5%)	102 (100%)
	第2期	4 (6%)	6 (8%)	43 (60%)	18 (25%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	6 (8%)	7 (9%)	38 (51%)	19 (26%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	6 (9%)	8 (11%)	34 (49%)	21 (30%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	7 (11%)	3 (5%)	31 (48%)	16 (25%)	4 (6%)	64 (100%)
	第6期	8 (16%)	5 (10%)	21 (41%)	14 (27%)	3 (6%)	51 (100%)
	第7期	10 (18%)	4 (7%)	21 (38%)	16 (29%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	9 (6%)	34 (21%)	82 (52%)	21 (13%)	7 (4%)	159 (100%)
	第2期	2 (2%)	28 (27%)	54 (51%)	18 (17%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	7 (5%)	27 (18%)	82 (56%)	24 (16%)	2 (1%)	147 (100%)
	第4期	7 (5%)	30 (23%)	63 (49%)	22 (17%)	4 (3%)	129 (100%)
	第5期	9 (8%)	24 (22%)	51 (47%)	22 (20%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	6 (6%)	28 (27%)	43 (41%)	19 (18%)	5 (5%)	104 (100%)
	第7期	8 (7%)	22 (20%)	50 (46%)	18 (17%)	7 (6%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	13 (7%)	43 (22%)	98 (50%)	30 (15%)	7 (4%)	195 (100%)
	第2期	10 (6%)	38 (25%)	83 (54%)	15 (10%)	2 (1%)	154 (100%)
	第3期	9 (6%)	28 (19%)	77 (52%)	27 (18%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	8 (6%)	29 (22%)	67 (51%)	23 (17%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	6 (5%)	23 (21%)	60 (55%)	16 (15%)	5 (5%)	110 (100%)
	第6期	10 (10%)	26 (27%)	35 (36%)	18 (18%)	5 (5%)	98 (100%)
	第7期	7 (8%)	17 (20%)	37 (43%)	18 (21%)	7 (8%)	87 (100%)
内部障害	第1期	1 (1%)	13 (18%)	37 (51%)	16 (22%)	4 (6%)	72 (100%)
	第2期	0 (0%)	10 (17%)	38 (63%)	9 (15%)	2 (3%)	60 (100%)
	第3期	5 (5%)	19 (20%)	43 (45%)	22 (23%)	5 (5%)	95 (100%)
	第4期	6 (7%)	23 (26%)	39 (45%)	18 (21%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	1 (1%)	18 (27%)	29 (43%)	15 (22%)	3 (4%)	67 (100%)
	第6期	4 (7%)	15 (26%)	21 (36%)	16 (28%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	3 (6%)	13 (24%)	27 (50%)	10 (19%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第1期	38 (20%)	130 (68%)	21 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	192 (100%)
	第2期	36 (23%)	98 (63%)	18 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	155 (100%)
	第3期	39 (18%)	136 (63%)	33 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	217 (100%)
	第4期	34 (20%)	108 (64%)	21 (12%)	2 (1%)	0 (0%)	169 (100%)
	第5期	31 (20%)	98 (63%)	22 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	155 (100%)
	第6期	18 (13%)	93 (65%)	22 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	144 (100%)
	第7期	17 (14%)	76 (62%)	26 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	123 (100%)
精神障害	第1期	21 (26%)	38 (48%)	13 (16%)	2 (3%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	29 (56%)	11 (21%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	9 (11%)	55 (68%)	12 (15%)	3 (4%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	13 (20%)	35 (54%)	14 (22%)	2 (3%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	8 (15%)	32 (62%)	9 (17%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期	9 (17%)	28 (53%)	16 (30%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	4 (9%)	24 (53%)	14 (31%)	2 (4%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第1期	86 (11%)	273 (34%)	310 (39%)	87 (11%)	26 (3%)	800 (100%)
	第2期	61 (10%)	209 (35%)	247 (41%)	63 (11%)	6 (1%)	598 (100%)
	第3期	75 (10%)	272 (36%)	285 (37%)	95 (12%)	12 (2%)	763 (100%)
	第4期	74 (11%)	233 (36%)	238 (37%)	88 (13%)	8 (1%)	652 (100%)
	第5期	62 (11%)	198 (36%)	202 (36%)	72 (13%)	13 (2%)	556 (100%)
	第6期	55 (11%)	195 (38%)	158 (31%)	68 (13%)	14 (3%)	508 (100%)
	第7期	49 (10%)	156 (33%)	175 (37%)	64 (14%)	16 (3%)	472 (100%)

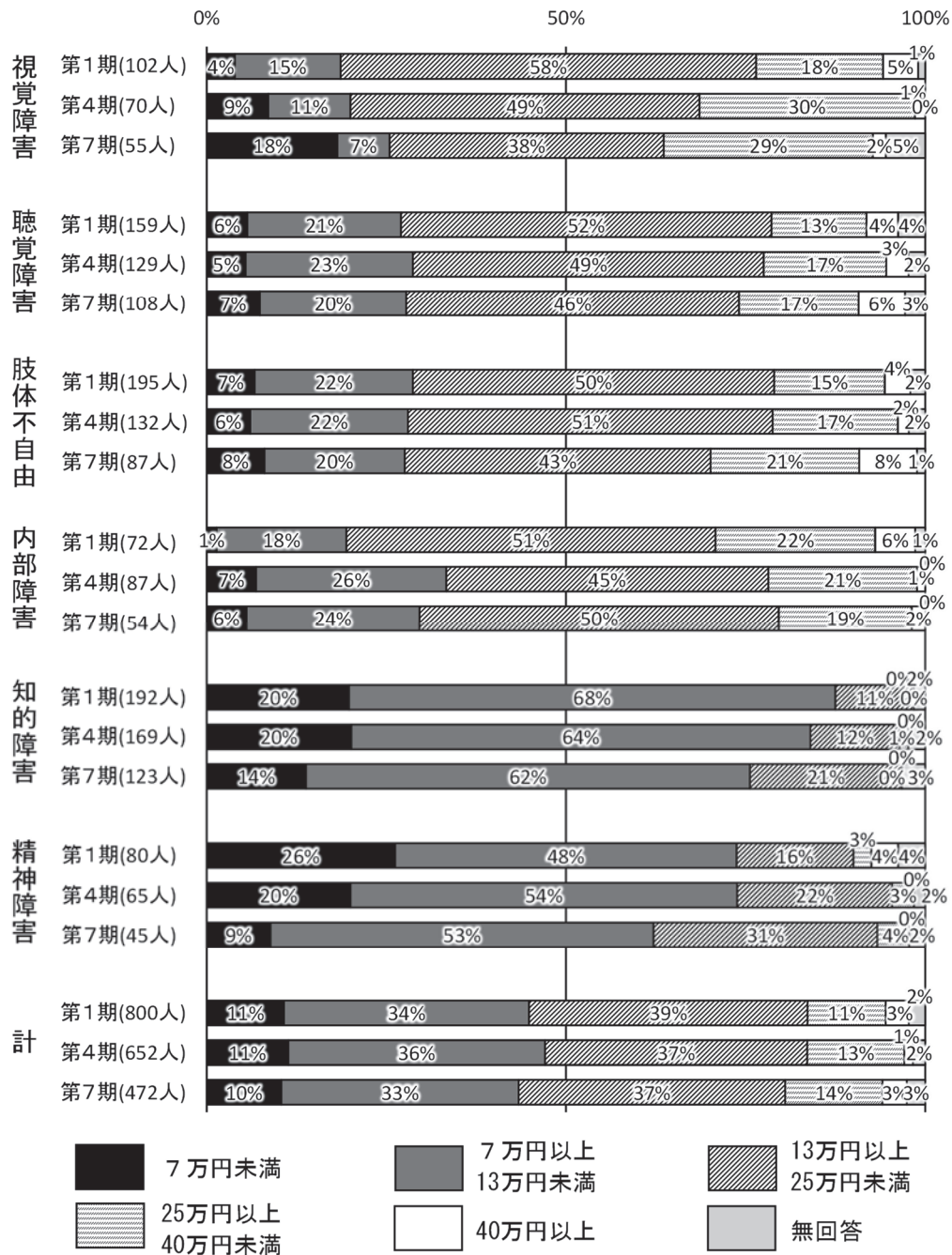


図2-4 第1期、第4期及び第7期の1ヶ月の給与（手取り額）

調査回答者のうち就労者の1ヶ月の給与について、条件を統一するため週30時間以上（フルタイム）で勤務している調査回答者に限って集計した結果を表2-21に示す。

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害では、調査期によりばらつきはあるものの13万円以上25万円未満の割合が最も高く、知的障害、精神障害では、調査期によりばらつきはあるものの7万円以上13万円未満の割合が最も高くなっていた（なお、第6期の精神障害では7万円以上13万円未満と13万円以上25万円未満が同率だった。）。勤務時間を限定しても1ヶ月の給与は、知的障害、精神障害の場合、身体障害と比して給与額は低くなっており時間単価の差がみられた。

表2-21 週30時間以上勤務する人の1ヶ月の給与（手取り額）（単位：人）

	7万円未満	7万円以上 13万円未満	13万円以上 25万円未満	25万円以上 40万円未満	40万円以上	無回答	計	
視覚障害	第1期	4 (4%)	12 (12%)	58 (59%)	18 (18%)	5 (5%)	1 (1%)	98 (100%)
	第2期	4 (6%)	3 (5%)	39 (60%)	18 (28%)	1 (2%)	0 (0%)	65 (100%)
	第3期	4 (6%)	5 (7%)	35 (52%)	19 (28%)	2 (3%)	2 (3%)	67 (100%)
	第4期	2 (3%)	5 (8%)	31 (53%)	20 (34%)	1 (2%)	0 (0%)	59 (100%)
	第5期	2 (4%)	1 (2%)	27 (53%)	16 (31%)	4 (8%)	1 (2%)	51 (100%)
	第6期	3 (8%)	1 (3%)	17 (46%)	13 (35%)	3 (8%)	0 (0%)	37 (100%)
	第7期	5 (12%)	1 (2%)	17 (40%)	16 (38%)	1 (2%)	2 (5%)	42 (100%)
聴覚障害	第1期	5 (4%)	22 (17%)	72 (56%)	21 (16%)	7 (5%)	2 (2%)	129 (100%)
	第2期	1 (1%)	15 (18%)	50 (59%)	18 (21%)	1 (1%)	0 (0%)	85 (100%)
	第3期	0 (0%)	13 (12%)	71 (64%)	23 (21%)	2 (2%)	2 (2%)	111 (100%)
	第4期	0 (0%)	18 (19%)	52 (54%)	22 (23%)	4 (4%)	1 (1%)	97 (100%)
	第5期	2 (2%)	14 (17%)	41 (51%)	22 (27%)	1 (1%)	1 (1%)	81 (100%)
	第6期	0 (0%)	14 (19%)	39 (52%)	17 (23%)	5 (7%)	0 (0%)	75 (100%)
	第7期	2 (3%)	8 (10%)	44 (56%)	17 (22%)	7 (9%)	0 (0%)	78 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	33 (19%)	95 (56%)	29 (17%)	6 (4%)	0 (0%)	170 (100%)
	第2期	2 (2%)	24 (20%)	79 (64%)	15 (12%)	2 (2%)	1 (1%)	123 (100%)
	第3期	0 (0%)	22 (18%)	73 (59%)	25 (20%)	3 (2%)	1 (1%)	124 (100%)
	第4期	1 (1%)	19 (17%)	63 (58%)	22 (20%)	2 (2%)	2 (2%)	109 (100%)
	第5期	1 (1%)	19 (20%)	57 (59%)	15 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	96 (100%)
	第6期	2 (3%)	17 (22%)	34 (44%)	18 (23%)	5 (6%)	1 (1%)	77 (100%)
	第7期	1 (1%)	11 (16%)	30 (45%)	18 (27%)	7 (10%)	0 (0%)	67 (100%)
内部障害	第1期	0 (0%)	5 (9%)	32 (58%)	15 (27%)	3 (5%)	0 (0%)	55 (100%)
	第2期	0 (0%)	6 (13%)	31 (65%)	8 (17%)	2 (4%)	1 (2%)	48 (100%)
	第3期	0 (0%)	10 (13%)	41 (54%)	21 (28%)	4 (5%)	0 (0%)	76 (100%)
	第4期	1 (2%)	10 (16%)	36 (57%)	15 (24%)	1 (2%)	0 (0%)	63 (100%)
	第5期	1 (2%)	7 (13%)	26 (49%)	15 (28%)	3 (6%)	1 (2%)	53 (100%)
	第6期	1 (2%)	5 (12%)	19 (45%)	16 (38%)	1 (2%)	0 (0%)	42 (100%)
	第7期	1 (2%)	7 (17%)	24 (59%)	8 (20%)	1 (2%)	0 (0%)	41 (100%)
知的障害	第1期	15 (14%)	78 (70%)	16 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	111 (100%)
	第2期	7 (8%)	63 (75%)	14 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	84 (100%)
	第3期	7 (6%)	79 (71%)	25 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	112 (100%)
	第4期	7 (7%)	73 (74%)	17 (17%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	99 (100%)
	第5期	3 (4%)	61 (76%)	16 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第6期	4 (5%)	55 (75%)	14 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第7期	3 (5%)	36 (60%)	21 (35%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
精神障害	第1期	2 (5%)	18 (46%)	12 (31%)	2 (5%)	3 (8%)	2 (5%)	39 (100%)
	第2期	2 (7%)	14 (47%)	11 (37%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
	第3期	0 (0%)	28 (67%)	11 (26%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	42 (100%)
	第4期	0 (0%)	13 (46%)	13 (46%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	28 (100%)
	第5期	2 (7%)	16 (53%)	9 (30%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
	第6期	1 (3%)	15 (48%)	15 (48%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	31 (100%)
	第7期	0 (0%)	13 (48%)	12 (44%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
計	第1期	33 (5%)	168 (28%)	285 (47%)	85 (14%)	24 (4%)	7 (1%)	602 (100%)
	第2期	16 (4%)	125 (29%)	224 (51%)	62 (14%)	6 (1%)	2 (0%)	435 (100%)
	第3期	11 (2%)	157 (30%)	256 (48%)	91 (17%)	11 (2%)	6 (1%)	532 (100%)
	第4期	11 (2%)	138 (30%)	212 (47%)	83 (18%)	8 (2%)	3 (1%)	455 (100%)
	第5期	11 (3%)	118 (30%)	176 (45%)	71 (18%)	12 (3%)	3 (1%)	391 (100%)
	第6期	11 (3%)	107 (32%)	138 (41%)	64 (19%)	14 (4%)	1 (0%)	335 (100%)
	第7期	12 (4%)	76 (24%)	148 (47%)	61 (19%)	16 (5%)	2 (1%)	315 (100%)

7 賞与

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、前年1年間に受け取った主な仕事の賞与（ボーナス）の額について表2-22に示す。第7期においては、前期調査は2019年分、後期調査は2020年分である。

賞与額はなしから100万円以上までばらつきが大きかったが、無回答を除いた中央値（回答者を順に並べた時の真ん中の者）をみると、身体障害では中央値は概ね30万円以上50万円未満（第6期の視覚障害のみ10万円以上30万円未満）だったのに対して、知的障害と精神障害では10万円未満が中央値だった。

表2-22 過去1年間の賞与（単位：人）

		なし	10万円未満	10万円以上 30万円未満	30万円以上 50万円未満	50万円以上 100万円未満	100万円以上	無回答	計
視覚 障害	第2期	18 (25%)	5 (7%)	6 (8%)	8 (11%)	20 (28%)	14 (19%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	21 (28%)	6 (8%)	9 (12%)	4 (5%)	22 (30%)	10 (14%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	23 (33%)	8 (11%)	4 (6%)	6 (9%)	14 (20%)	15 (21%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	19 (30%)	4 (6%)	7 (11%)	4 (6%)	12 (19%)	17 (27%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	19 (37%)	4 (8%)	4 (8%)	2 (4%)	9 (18%)	13 (25%)	0 (0%)	51 (100%)
	第7期	18 (33%)	4 (7%)	2 (4%)	5 (9%)	14 (25%)	10 (18%)	2 (4%)	55 (100%)
	聴覚 障害	第2期	14 (13%)	10 (10%)	22 (21%)	19 (18%)	30 (29%)	9 (9%)	1 (1%)
第3期		24 (16%)	10 (7%)	31 (21%)	29 (20%)	34 (23%)	15 (10%)	4 (3%)	147 (100%)
第4期		22 (17%)	11 (9%)	26 (20%)	17 (13%)	36 (28%)	16 (12%)	1 (1%)	129 (100%)
第5期		22 (20%)	9 (8%)	19 (18%)	19 (18%)	24 (22%)	14 (13%)	1 (1%)	108 (100%)
第6期		25 (24%)	13 (13%)	10 (10%)	20 (19%)	18 (17%)	16 (15%)	2 (2%)	104 (100%)
第7期		20 (19%)	12 (11%)	14 (13%)	14 (13%)	31 (29%)	14 (13%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体 不自由		第2期	19 (12%)	17 (11%)	32 (21%)	23 (15%)	42 (27%)	17 (11%)	4 (3%)
	第3期	23 (15%)	16 (11%)	27 (18%)	24 (16%)	40 (27%)	15 (10%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	28 (21%)	8 (6%)	29 (22%)	20 (15%)	30 (23%)	15 (11%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	14 (13%)	7 (6%)	24 (22%)	19 (17%)	28 (25%)	18 (16%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	20 (20%)	4 (4%)	17 (17%)	14 (14%)	24 (24%)	16 (16%)	3 (3%)	98 (100%)
	第7期	15 (17%)	8 (9%)	10 (11%)	15 (17%)	22 (25%)	13 (15%)	4 (5%)	87 (100%)
	内 部 障 害	第2期	12 (20%)	3 (5%)	3 (5%)	15 (25%)	21 (35%)	6 (10%)	0 (0%)
第3期		22 (23%)	6 (6%)	13 (14%)	12 (13%)	29 (31%)	13 (14%)	0 (0%)	95 (100%)
第4期		21 (24%)	5 (6%)	16 (18%)	9 (10%)	28 (32%)	8 (9%)	0 (0%)	87 (100%)
第5期		12 (18%)	3 (4%)	12 (18%)	9 (13%)	23 (34%)	8 (12%)	0 (0%)	67 (100%)
第6期		15 (26%)	2 (3%)	9 (16%)	9 (16%)	15 (26%)	7 (12%)	1 (2%)	58 (100%)
第7期		12 (22%)	5 (9%)	9 (17%)	7 (13%)	12 (22%)	9 (17%)	0 (0%)	54 (100%)
知 的 障 害		第2期	61 (39%)	55 (35%)	25 (16%)	8 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)
	第3期	87 (40%)	79 (36%)	33 (15%)	9 (4%)	2 (1%)	1 (0%)	6 (3%)	217 (100%)
	第4期	74 (44%)	54 (32%)	28 (17%)	5 (3%)	3 (2%)	0 (0%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	56 (36%)	62 (40%)	26 (17%)	6 (4%)	2 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	155 (100%)
	第6期	45 (31%)	57 (40%)	26 (18%)	5 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	10 (7%)	144 (100%)
	第7期	43 (35%)	43 (35%)	24 (20%)	5 (4%)	3 (2%)	0 (0%)	5 (4%)	123 (100%)
	精 神 障 害	第2期	18 (35%)	15 (29%)	6 (12%)	3 (6%)	7 (13%)	1 (2%)	2 (4%)
第3期		38 (47%)	19 (23%)	12 (15%)	4 (5%)	6 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	81 (100%)
第4期		30 (46%)	20 (31%)	5 (8%)	2 (3%)	6 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	65 (100%)
第5期		24 (46%)	17 (33%)	5 (10%)	0 (0%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	52 (100%)
第6期		25 (47%)	16 (30%)	6 (11%)	2 (4%)	2 (4%)	2 (4%)	0 (0%)	53 (100%)
第7期		19 (42%)	12 (27%)	4 (9%)	2 (4%)	6 (13%)	1 (2%)	1 (2%)	45 (100%)
計		第2期	142 (24%)	105 (18%)	94 (16%)	76 (13%)	122 (20%)	47 (8%)	12 (2%)
	第3期	215 (28%)	136 (18%)	125 (16%)	82 (11%)	133 (17%)	55 (7%)	17 (2%)	763 (100%)
	第4期	198 (30%)	106 (16%)	108 (17%)	59 (9%)	117 (18%)	55 (8%)	9 (1%)	652 (100%)
	第5期	147 (26%)	102 (18%)	93 (17%)	57 (10%)	93 (17%)	59 (11%)	5 (1%)	556 (100%)
	第6期	149 (29%)	96 (19%)	72 (14%)	52 (10%)	69 (14%)	54 (11%)	16 (3%)	508 (100%)
	第7期	127 (27%)	84 (18%)	63 (13%)	48 (10%)	88 (19%)	47 (10%)	15 (3%)	472 (100%)

8 通勤手段

調査回答者のうち就労者の通勤に利用している手段について該当するものすべてを複数選択により回答を得た結果を表2-23に示す。「その他」には、在宅勤務、電動車椅子等が含まれている（ただし、在宅勤務は第7期では独立した選択肢となっている）。視覚障害は「徒歩」、「公共交通機関」、聴覚障害、肢体不自由は「自動車（自分で運転）」、「公共交通機関」、内部障害は「徒歩」、「自動車（自分で運転）」、「公共交通機関」、知的障害は「公共交通機関」、精神障害は「徒歩」、「公共交通機関」の利用が多かった。

表2-23 通勤手段（複数回答）（単位：人）

	徒歩	自転車	原付や オートバイ	自動車 （自分で運転）	自動車 （自分以外が運転）	公共 交通機関	在宅勤務	その他	無回答	集計数	
視覚障害	第1期	65 (64%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (12%)	66 (65%)	—	9 (9%)	1 (1%)	102
	第2期	44 (61%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (7%)	44 (61%)	—	8 (11%)	2 (3%)	72
	第3期	51 (69%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (9%)	46 (62%)	—	7 (9%)	0 (0%)	74
	第4期	37 (53%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (14%)	46 (66%)	—	9 (13%)	0 (0%)	70
	第5期	41 (64%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (13%)	39 (61%)	—	8 (13%)	1 (2%)	64
	第6期	27 (53%)	4 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (14%)	29 (57%)	—	8 (16%)	1 (2%)	51
	第7期	38 (69%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (9%)	35 (64%)	11 (20%)	0 (0%)	8 (15%)	55
聴覚障害	第1期	36 (23%)	22 (14%)	9 (6%)	70 (44%)	6 (4%)	62 (39%)	—	0 (0%)	0 (0%)	159
	第2期	28 (27%)	20 (19%)	7 (7%)	42 (40%)	3 (3%)	46 (44%)	—	0 (0%)	0 (0%)	105
	第3期	35 (24%)	23 (16%)	11 (7%)	63 (43%)	2 (1%)	62 (42%)	—	2 (1%)	4 (3%)	147
	第4期	35 (27%)	20 (16%)	9 (7%)	61 (47%)	4 (3%)	52 (40%)	—	3 (2%)	0 (0%)	129
	第5期	23 (21%)	16 (15%)	6 (6%)	55 (51%)	2 (2%)	42 (39%)	—	2 (2%)	0 (0%)	108
	第6期	23 (22%)	12 (12%)	8 (8%)	46 (44%)	6 (6%)	42 (40%)	—	2 (2%)	2 (2%)	104
	第7期	28 (26%)	9 (8%)	9 (8%)	41 (38%)	11 (10%)	46 (43%)	8 (7%)	0 (0%)	5 (5%)	108
肢体不自由	第1期	23 (12%)	8 (4%)	1 (1%)	111 (57%)	12 (6%)	52 (27%)	—	9 (5%)	2 (1%)	195
	第2期	19 (12%)	7 (5%)	0 (0%)	87 (56%)	10 (6%)	45 (29%)	—	8 (5%)	3 (2%)	154
	第3期	21 (14%)	4 (3%)	0 (0%)	85 (57%)	15 (10%)	43 (29%)	—	7 (5%)	1 (1%)	149
	第4期	20 (15%)	9 (7%)	0 (0%)	73 (55%)	8 (6%)	41 (31%)	—	10 (8%)	1 (1%)	132
	第5期	16 (15%)	5 (5%)	0 (0%)	58 (53%)	6 (5%)	38 (35%)	—	9 (8%)	0 (0%)	110
	第6期	15 (15%)	4 (4%)	1 (1%)	48 (49%)	9 (9%)	31 (32%)	—	12 (12%)	1 (1%)	98
	第7期	21 (24%)	3 (3%)	1 (1%)	43 (49%)	11 (13%)	26 (30%)	7 (8%)	4 (5%)	1 (1%)	87
内部障害	第1期	16 (22%)	4 (6%)	2 (3%)	42 (58%)	0 (0%)	25 (35%)	—	1 (1%)	0 (0%)	72
	第2期	11 (18%)	5 (8%)	1 (2%)	35 (58%)	0 (0%)	21 (35%)	—	2 (3%)	0 (0%)	60
	第3期	17 (18%)	6 (6%)	2 (2%)	57 (60%)	0 (0%)	28 (29%)	—	3 (3%)	0 (0%)	95
	第4期	25 (29%)	4 (5%)	1 (1%)	47 (54%)	0 (0%)	30 (34%)	—	2 (2%)	0 (0%)	87
	第5期	17 (25%)	3 (4%)	0 (0%)	37 (55%)	1 (1%)	26 (39%)	—	0 (0%)	0 (0%)	67
	第6期	18 (31%)	1 (2%)	0 (0%)	33 (57%)	2 (3%)	18 (31%)	—	2 (3%)	0 (0%)	58
	第7期	16 (30%)	5 (9%)	0 (0%)	28 (52%)	4 (7%)	16 (30%)	6 (11%)	0 (0%)	1 (2%)	54
知的障害	第1期	57 (30%)	49 (26%)	0 (0%)	7 (4%)	18 (9%)	127 (66%)	—	5 (3%)	1 (1%)	192
	第2期	43 (28%)	45 (29%)	1 (1%)	10 (6%)	13 (8%)	99 (64%)	—	2 (1%)	1 (1%)	155
	第3期	64 (29%)	68 (31%)	0 (0%)	11 (5%)	18 (8%)	140 (65%)	—	2 (1%)	3 (1%)	217
	第4期	54 (32%)	42 (25%)	1 (1%)	7 (4%)	13 (8%)	115 (68%)	—	2 (1%)	2 (1%)	169
	第5期	62 (40%)	42 (27%)	1 (1%)	9 (6%)	16 (10%)	109 (70%)	—	1 (1%)	1 (1%)	155
	第6期	47 (33%)	34 (24%)	3 (2%)	9 (6%)	20 (14%)	97 (67%)	—	0 (0%)	6 (4%)	144
	第7期	48 (39%)	28 (23%)	1 (1%)	6 (5%)	17 (14%)	86 (70%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	123
精神障害	第1期	19 (24%)	12 (15%)	9 (11%)	25 (31%)	3 (4%)	39 (49%)	—	1 (1%)	0 (0%)	80
	第2期	11 (21%)	8 (15%)	3 (6%)	23 (44%)	0 (0%)	24 (46%)	—	0 (0%)	0 (0%)	52
	第3期	18 (22%)	21 (26%)	6 (7%)	25 (31%)	3 (4%)	36 (44%)	—	1 (1%)	0 (0%)	81
	第4期	22 (34%)	12 (18%)	6 (9%)	17 (26%)	3 (5%)	32 (49%)	—	0 (0%)	0 (0%)	65
	第5期	18 (35%)	7 (13%)	6 (12%)	17 (33%)	3 (6%)	24 (46%)	—	0 (0%)	0 (0%)	52
	第6期	21 (40%)	11 (21%)	4 (8%)	14 (26%)	4 (8%)	29 (55%)	—	0 (0%)	0 (0%)	53
	第7期	22 (49%)	5 (11%)	1 (2%)	14 (31%)	3 (7%)	25 (56%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	45
計	第1期	216 (27%)	100 (13%)	21 (3%)	255 (32%)	51 (6%)	371 (46%)	—	25 (3%)	4 (1%)	800
	第2期	156 (26%)	89 (15%)	12 (2%)	197 (33%)	31 (5%)	279 (47%)	—	20 (3%)	6 (1%)	598
	第3期	206 (27%)	125 (16%)	19 (2%)	241 (32%)	45 (6%)	355 (47%)	—	22 (3%)	8 (1%)	763
	第4期	193 (30%)	90 (14%)	17 (3%)	205 (31%)	38 (6%)	316 (48%)	—	26 (4%)	3 (0%)	652
	第5期	177 (32%)	75 (13%)	13 (2%)	176 (32%)	36 (6%)	278 (50%)	—	20 (4%)	2 (0%)	556
	第6期	151 (30%)	66 (13%)	16 (3%)	150 (30%)	48 (9%)	246 (48%)	—	24 (5%)	10 (2%)	508
	第7期	173 (37%)	54 (11%)	12 (3%)	132 (28%)	51 (11%)	234 (50%)	34 (7%)	4 (1%)	18 (4%)	472

9 通勤に要する時間

調査回答者のうち就労者の片道の通勤にかかる時間を表2-24に示す。身体障害は30分未満、知的障害は30分以上1時間未満が多かった。精神障害は調査時期により30分未満が多い調査期と30分以上1時間未満が多い調査期があった。

表2-24 通勤に要する時間（単位：人）

	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 1時間30分 未満	1時間30分 以上 2時間未満	2時間以上	無回答	計	
視覚障害	第1期	45 (44%)	29 (28%)	18 (18%)	8 (8%)	2 (2%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	28 (39%)	20 (28%)	13 (18%)	5 (7%)	3 (4%)	3 (4%)	72 (100%)
	第3期	29 (39%)	23 (31%)	10 (14%)	7 (9%)	0 (0%)	5 (7%)	74 (100%)
	第4期	31 (44%)	18 (26%)	14 (20%)	3 (4%)	2 (3%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	26 (41%)	16 (25%)	13 (20%)	4 (6%)	1 (2%)	4 (6%)	64 (100%)
	第6期	26 (51%)	12 (24%)	8 (16%)	1 (2%)	2 (4%)	2 (4%)	51 (100%)
	第7期	24 (44%)	12 (22%)	10 (18%)	3 (5%)	3 (5%)	3 (5%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	75 (47%)	54 (34%)	25 (16%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	55 (52%)	35 (33%)	13 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	63 (43%)	54 (37%)	23 (16%)	3 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	61 (47%)	42 (33%)	19 (15%)	5 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	52 (48%)	36 (33%)	17 (16%)	1 (1%)	2 (2%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	52 (50%)	28 (27%)	18 (17%)	2 (2%)	1 (1%)	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	50 (46%)	35 (32%)	13 (12%)	7 (6%)	0 (0%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体 不自由	第1期	89 (46%)	70 (36%)	28 (14%)	5 (3%)	0 (0%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	75 (49%)	52 (34%)	19 (12%)	4 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	66 (44%)	58 (39%)	21 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	51 (39%)	55 (42%)	22 (17%)	3 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	41 (37%)	43 (39%)	18 (16%)	6 (5%)	0 (0%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	47 (48%)	29 (30%)	18 (18%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	41 (47%)	28 (32%)	13 (15%)	4 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第1期	33 (46%)	28 (39%)	10 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	30 (50%)	19 (32%)	10 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	49 (52%)	32 (34%)	13 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	39 (45%)	34 (39%)	12 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	29 (43%)	20 (30%)	14 (21%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	26 (45%)	19 (33%)	10 (17%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	27 (50%)	17 (31%)	6 (11%)	3 (6%)	0 (0%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第1期	63 (33%)	92 (48%)	26 (14%)	6 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	192 (100%)
	第2期	51 (33%)	65 (42%)	19 (12%)	6 (4%)	3 (2%)	11 (7%)	155 (100%)
	第3期	68 (31%)	103 (47%)	37 (17%)	5 (2%)	0 (0%)	4 (2%)	217 (100%)
	第4期	46 (27%)	77 (46%)	35 (21%)	6 (4%)	1 (1%)	4 (2%)	169 (100%)
	第5期	44 (28%)	68 (44%)	37 (24%)	2 (1%)	2 (1%)	2 (1%)	155 (100%)
	第6期	41 (28%)	64 (44%)	26 (18%)	6 (4%)	2 (1%)	5 (3%)	144 (100%)
	第7期	38 (31%)	47 (38%)	30 (24%)	4 (3%)	1 (1%)	3 (2%)	123 (100%)
精神障害	第1期	35 (44%)	30 (38%)	13 (16%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	24 (46%)	18 (35%)	7 (13%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)
	第3期	30 (37%)	34 (42%)	14 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	27 (42%)	28 (43%)	8 (12%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	20 (38%)	23 (44%)	6 (12%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期	19 (36%)	21 (40%)	9 (17%)	3 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	16 (36%)	15 (33%)	11 (24%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第1期	340 (43%)	303 (38%)	120 (15%)	26 (3%)	4 (1%)	7 (1%)	800 (100%)
	第2期	263 (44%)	209 (35%)	81 (14%)	18 (3%)	6 (1%)	21 (4%)	598 (100%)
	第3期	305 (40%)	304 (40%)	118 (15%)	18 (2%)	0 (0%)	18 (2%)	763 (100%)
	第4期	255 (39%)	254 (39%)	110 (17%)	20 (3%)	4 (1%)	9 (1%)	652 (100%)
	第5期	212 (38%)	206 (37%)	105 (19%)	19 (3%)	6 (1%)	8 (1%)	556 (100%)
	第6期	211 (42%)	173 (34%)	89 (18%)	17 (3%)	6 (1%)	12 (2%)	508 (100%)
	第7期	196 (42%)	154 (33%)	83 (18%)	23 (5%)	4 (1%)	12 (3%)	472 (100%)

10 勤務先の企業等の規模（従業員数）

調査回答者のうち就労者の勤務先（自営、内職を含む。）の従業員数規模を表2-25に示す。第7期では、視覚障害は「1,000人以上」、聴覚障害は「1,000人以上」、肢体不自由は「300～999人」及び「1,000人以上」、内部障害は「1～9人」、知的障害は「10～49人」、精神障害は「10～49人」が最も多かった。

表2-25 勤務先企業等の規模（単位：人）

	1～9人	10～49人	50～299人	300～999人	1,000人以上	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	26 (25%)	19 (19%)	29 (28%)	9 (9%)	18 (18%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	21 (29%)	9 (13%)	18 (25%)	6 (8%)	17 (24%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期	18 (24%)	15 (20%)	15 (20%)	8 (11%)	16 (22%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	18 (26%)	9 (13%)	15 (21%)	5 (7%)	21 (30%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	15 (23%)	4 (6%)	22 (34%)	5 (8%)	16 (25%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	14 (27%)	7 (14%)	13 (25%)	7 (14%)	9 (18%)	0 (0%)	51 (100%)
	第7期	14 (25%)	6 (11%)	11 (20%)	6 (11%)	16 (29%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	10 (6%)	28 (18%)	41 (26%)	25 (16%)	51 (32%)	4 (3%)	159 (100%)
	第2期	5 (5%)	16 (15%)	32 (30%)	18 (17%)	30 (29%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期	9 (6%)	24 (16%)	40 (27%)	26 (18%)	42 (29%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	7 (5%)	23 (18%)	38 (29%)	25 (19%)	31 (24%)	4 (3%)	129 (100%)
	第5期	12 (11%)	19 (18%)	25 (23%)	21 (19%)	28 (26%)	3 (3%)	108 (100%)
	第6期	13 (13%)	15 (14%)	22 (21%)	21 (20%)	26 (25%)	5 (5%)	104 (100%)
	第7期	11 (10%)	16 (15%)	27 (25%)	15 (14%)	34 (31%)	2 (2%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	53 (27%)	66 (34%)	26 (13%)	35 (18%)	5 (3%)	195 (100%)
	第2期	4 (3%)	34 (22%)	55 (36%)	21 (14%)	29 (19%)	7 (5%)	154 (100%)
	第3期	2 (1%)	35 (23%)	54 (36%)	26 (17%)	24 (16%)	6 (4%)	149 (100%)
	第4期	2 (2%)	30 (23%)	45 (34%)	17 (13%)	30 (23%)	5 (4%)	132 (100%)
	第5期	4 (4%)	20 (18%)	33 (30%)	19 (17%)	26 (24%)	6 (5%)	110 (100%)
	第6期	2 (2%)	20 (20%)	27 (28%)	20 (20%)	22 (22%)	5 (5%)	98 (100%)
	第7期	3 (3%)	13 (15%)	22 (25%)	24 (28%)	24 (28%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第1期	12 (17%)	10 (14%)	21 (29%)	16 (22%)	13 (18%)	0 (0%)	72 (100%)
	第2期	10 (17%)	8 (13%)	18 (30%)	16 (27%)	7 (12%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	26 (27%)	14 (15%)	19 (20%)	16 (17%)	18 (19%)	2 (2%)	95 (100%)
	第4期	24 (28%)	11 (13%)	20 (23%)	15 (17%)	13 (15%)	3 (3%)	87 (100%)
	第5期	16 (24%)	9 (13%)	18 (27%)	7 (10%)	17 (25%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	15 (26%)	12 (21%)	11 (19%)	7 (12%)	12 (21%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	14 (26%)	8 (15%)	9 (17%)	8 (15%)	11 (20%)	3 (6%)	54 (100%)
知的障害	第1期	38 (20%)	86 (45%)	39 (20%)	10 (5%)	2 (1%)	15 (8%)	192 (100%)
	第2期	31 (20%)	70 (45%)	34 (22%)	4 (3%)	1 (1%)	9 (6%)	155 (100%)
	第3期	45 (21%)	97 (45%)	47 (22%)	5 (2%)	4 (2%)	15 (7%)	217 (100%)
	第4期	24 (14%)	71 (42%)	38 (22%)	10 (6%)	7 (4%)	13 (8%)	169 (100%)
	第5期	19 (12%)	56 (36%)	41 (26%)	8 (5%)	11 (7%)	14 (9%)	155 (100%)
	第6期	15 (10%)	44 (31%)	39 (27%)	12 (8%)	14 (10%)	15 (10%)	144 (100%)
	第7期	10 (8%)	46 (37%)	33 (27%)	9 (7%)	9 (7%)	14 (11%)	123 (100%)
精神障害	第1期	4 (5%)	22 (28%)	28 (35%)	3 (4%)	15 (19%)	8 (10%)	80 (100%)
	第2期	1 (2%)	17 (33%)	18 (35%)	4 (8%)	6 (12%)	6 (12%)	52 (100%)
	第3期	0 (0%)	27 (33%)	22 (27%)	4 (5%)	17 (21%)	11 (14%)	81 (100%)
	第4期	3 (5%)	19 (29%)	19 (29%)	5 (8%)	12 (18%)	7 (11%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	11 (21%)	18 (35%)	5 (10%)	8 (15%)	6 (12%)	52 (100%)
	第6期	1 (2%)	13 (25%)	16 (30%)	9 (17%)	11 (21%)	3 (6%)	53 (100%)
	第7期	1 (2%)	13 (29%)	9 (20%)	10 (22%)	6 (13%)	5 (11%)	45 (100%)
計	第1期	97 (12%)	218 (27%)	224 (28%)	89 (11%)	134 (17%)	32 (4%)	800 (100%)
	第2期	72 (12%)	154 (26%)	175 (29%)	69 (12%)	90 (15%)	26 (4%)	598 (100%)
	第3期	100 (13%)	212 (28%)	197 (26%)	85 (11%)	121 (16%)	38 (5%)	763 (100%)
	第4期	78 (12%)	163 (25%)	175 (27%)	77 (12%)	114 (17%)	32 (5%)	652 (100%)
	第5期	69 (12%)	119 (21%)	157 (28%)	65 (12%)	106 (19%)	30 (5%)	556 (100%)
	第6期	60 (12%)	111 (22%)	128 (25%)	76 (15%)	94 (19%)	28 (6%)	508 (100%)
	第7期	53 (11%)	102 (22%)	111 (24%)	72 (15%)	100 (21%)	26 (6%)	472 (100%)

11 勤務先の変化

調査回答者のうち就労者において、勤務先（自営を含む。）について、直前の調査期（2年前）と同じ会社かどうかを表2-26に示す。

各障害種類とも約8割から約9割の者が2年前と同じ会社に勤務していた。

表2-26 直前の調査期（2年前）と同じ勤務先か（単位：人）

		同じ会社 (自営、内職を含む)	同じ会社 でない	無回答	計
視覚障害	第4期	61 (87%)	9 (13%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	58 (91%)	5 (8%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	47 (92%)	4 (8%)	0 (0%)	51 (100%)
	第7期	51 (93%)	3 (5%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第4期	112 (87%)	14 (11%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	97 (90%)	10 (9%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	89 (86%)	12 (12%)	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	94 (87%)	11 (10%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第4期	121 (92%)	10 (8%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	101 (92%)	7 (6%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	87 (89%)	9 (9%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	78 (90%)	8 (9%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第4期	79 (91%)	8 (9%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	64 (96%)	3 (4%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	53 (91%)	5 (9%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	49 (91%)	5 (9%)	0 (0%)	54 (100%)
知的障害	第4期	153 (91%)	12 (7%)	4 (2%)	169 (100%)
	第5期	138 (89%)	12 (8%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	132 (92%)	7 (5%)	5 (3%)	144 (100%)
	第7期	109 (89%)	9 (7%)	5 (4%)	123 (100%)
精神障害	第4期	51 (78%)	14 (22%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	43 (83%)	8 (15%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	43 (81%)	10 (19%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	37 (82%)	7 (16%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第4期	577 (88%)	67 (10%)	8 (1%)	652 (100%)
	第5期	501 (90%)	45 (8%)	10 (2%)	556 (100%)
	第6期	451 (89%)	47 (9%)	10 (2%)	508 (100%)
	第7期	418 (89%)	43 (9%)	11 (2%)	472 (100%)

12 現在の勤務先への就業年齢

調査回答者のうち就労者の、現在の勤務先（自営を含む。）への就業時の年齢を集計した結果を表2-27に示す。

第7期においては、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害は「20～29歳」が最も多かったのに対して、精神障害では「30～39歳」が最も多かった。

表2-27 現在の勤務先への就業年齢（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	無回答	計
視覚障害	第1期	2 (2%)	51 (50%)	33 (32%)	12 (12%)	3 (3%)	—	102 (100%)
	第2期	0 (0%)	37 (51%)	21 (29%)	9 (13%)	3 (4%)	—	72 (100%)
	第3期	2 (3%)	30 (41%)	29 (39%)	8 (11%)	3 (4%)	—	74 (100%)
	第4期	2 (3%)	30 (43%)	21 (30%)	9 (13%)	6 (9%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	1 (2%)	33 (52%)	16 (25%)	9 (14%)	4 (6%)	0 (0%)	64 (100%)
	第6期	2 (4%)	20 (39%)	16 (31%)	7 (14%)	4 (8%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	1 (2%)	20 (36%)	17 (31%)	5 (9%)	7 (13%)	4 (7%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	30 (19%)	76 (48%)	26 (16%)	23 (14%)	3 (2%)	—	159 (100%)
	第2期	19 (18%)	52 (50%)	15 (14%)	13 (12%)	5 (5%)	—	105 (100%)
	第3期	20 (14%)	67 (46%)	24 (16%)	22 (15%)	7 (5%)	—	147 (100%)
	第4期	14 (11%)	58 (45%)	22 (17%)	20 (16%)	8 (6%)	0 (0%)	129 (100%)
	第5期	14 (13%)	44 (41%)	24 (22%)	16 (15%)	9 (8%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	11 (11%)	38 (37%)	23 (22%)	18 (17%)	7 (7%)	2 (2%)	104 (100%)
	第7期	14 (13%)	34 (31%)	24 (22%)	19 (18%)	10 (9%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	29 (15%)	80 (41%)	45 (23%)	31 (16%)	5 (3%)	—	195 (100%)
	第2期	23 (15%)	62 (40%)	33 (21%)	21 (14%)	9 (6%)	—	154 (100%)
	第3期	18 (12%)	60 (40%)	39 (26%)	20 (13%)	8 (5%)	—	149 (100%)
	第4期	16 (12%)	47 (36%)	35 (27%)	18 (14%)	8 (6%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	13 (12%)	44 (40%)	25 (23%)	17 (15%)	10 (9%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	13 (13%)	40 (41%)	15 (15%)	14 (14%)	9 (9%)	5 (5%)	98 (100%)
	第7期	12 (14%)	33 (38%)	17 (20%)	11 (13%)	10 (11%)	3 (3%)	87 (100%)
内部障害	第1期	5 (7%)	26 (36%)	22 (31%)	11 (15%)	7 (10%)	—	72 (100%)
	第2期	5 (8%)	20 (33%)	21 (35%)	7 (12%)	7 (12%)	—	60 (100%)
	第3期	9 (9%)	30 (32%)	28 (29%)	18 (19%)	8 (8%)	—	95 (100%)
	第4期	7 (8%)	27 (31%)	23 (26%)	16 (18%)	10 (11%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	7 (10%)	23 (34%)	17 (25%)	12 (18%)	7 (10%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	7 (12%)	14 (24%)	13 (22%)	12 (21%)	9 (16%)	2 (3%)	58 (100%)
	第7期	6 (11%)	15 (28%)	13 (24%)	9 (17%)	8 (15%)	3 (6%)	54 (100%)
知的障害	第1期	84 (44%)	48 (25%)	20 (10%)	26 (14%)	3 (2%)	—	192 (100%)
	第2期	59 (38%)	46 (30%)	14 (9%)	22 (14%)	1 (1%)	—	155 (100%)
	第3期	83 (38%)	66 (30%)	26 (12%)	18 (8%)	5 (2%)	—	217 (100%)
	第4期	55 (33%)	53 (31%)	22 (13%)	16 (9%)	12 (7%)	0 (0%)	169 (100%)
	第5期	47 (30%)	57 (37%)	19 (12%)	16 (10%)	11 (7%)	0 (0%)	155 (100%)
	第6期	46 (32%)	49 (34%)	21 (15%)	12 (8%)	8 (6%)	1 (1%)	144 (100%)
	第7期	36 (29%)	49 (40%)	17 (14%)	8 (7%)	6 (5%)	1 (1%)	123 (100%)
精神障害	第1期	4 (5%)	25 (31%)	31 (39%)	17 (21%)	2 (3%)	—	80 (100%)
	第2期	4 (8%)	11 (21%)	23 (44%)	12 (23%)	2 (4%)	—	52 (100%)
	第3期	4 (5%)	17 (21%)	32 (40%)	17 (21%)	9 (11%)	—	81 (100%)
	第4期	1 (2%)	14 (22%)	23 (35%)	16 (25%)	8 (12%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	0 (0%)	11 (21%)	19 (37%)	11 (21%)	9 (17%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	0 (0%)	8 (15%)	22 (42%)	10 (19%)	11 (21%)	1 (2%)	53 (100%)
	第7期	0 (0%)	7 (16%)	17 (38%)	11 (24%)	8 (18%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第1期	154 (19%)	306 (38%)	177 (22%)	120 (15%)	23 (3%)	—	800 (100%)
	第2期	110 (18%)	228 (38%)	127 (21%)	84 (14%)	27 (5%)	—	598 (100%)
	第3期	136 (18%)	270 (35%)	178 (23%)	103 (13%)	40 (5%)	—	763 (100%)
	第4期	95 (15%)	229 (35%)	146 (22%)	95 (15%)	52 (8%)	3 (0%)	652 (100%)
	第5期	82 (15%)	212 (38%)	120 (22%)	81 (15%)	50 (9%)	3 (1%)	556 (100%)
	第6期	79 (16%)	169 (33%)	110 (22%)	73 (14%)	48 (9%)	12 (2%)	508 (100%)
	第7期	69 (15%)	158 (33%)	105 (22%)	63 (13%)	49 (10%)	15 (3%)	472 (100%)

13 同一企業等への在職年数

調査回答者のうち就労者において、回答した時点で勤務していた職場（自営を含む。）の在職年数を、勤務先で仕事をし始めた年齢と調査対象者として登録した際に取得した生年月日を基に算出した調査回答時の年齢から集計した結果を表2-28に、同一企業等への在職年数の時勢による変化を可視化するため、既存の第1期から第7期の調査のうち最初（第1期）と最後（第7期）、その中間（第4期）の同一企業等への在職年数をグラフにした結果を図2-5に示す。同一企業内において異動した場合は、継続した在職年数としている。

回答全体をみると、精神障害において、他の障害と比べて在職年数が10年未満である割合が高かった。第1期、第4期及び第7期の結果の変化をみると、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由及び知的障害では経年に伴い在職年数が増加しているのに対して、内部障害では第4期から第7期にかけて10年以上の回答が増加しており、精神障害では20年未満（「10年未満」と「10年以上20年未満」の計）が微増していた。

表2-28 各調査期における同一企業への在職年数（単位：人）

	10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上	無回答・ 不明	計
視覚障害	第1期	65 (64%)	20 (20%)	12 (12%)	3 (3%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	41 (57%)	14 (19%)	11 (15%)	4 (6%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期	37 (50%)	17 (23%)	13 (18%)	5 (7%)	0 (0%)	74 (100%)
	第4期	32 (46%)	20 (29%)	8 (11%)	9 (13%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	17 (27%)	25 (39%)	11 (17%)	10 (16%)	0 (0%)	64 (100%)
	第6期	13 (25%)	17 (33%)	9 (18%)	9 (18%)	2 (4%)	51 (100%)
	第7期	14 (25%)	22 (40%)	8 (15%)	6 (11%)	3 (5%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	86 (54%)	38 (24%)	28 (18%)	6 (4%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	52 (50%)	21 (20%)	25 (24%)	6 (6%)	0 (0%)	105 (100%)
	第3期	68 (46%)	33 (22%)	29 (20%)	10 (7%)	0 (0%)	147 (100%)
	第4期	57 (44%)	33 (26%)	18 (14%)	12 (9%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	36 (33%)	40 (37%)	14 (13%)	15 (14%)	3 (3%)	108 (100%)
	第6期	31 (30%)	36 (35%)	15 (14%)	16 (15%)	1 (1%)	104 (100%)
	第7期	29 (27%)	34 (31%)	18 (17%)	20 (19%)	2 (2%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	110 (56%)	46 (24%)	32 (16%)	2 (1%)	0 (0%)	195 (100%)
	第2期	82 (53%)	38 (25%)	21 (14%)	7 (5%)	0 (0%)	154 (100%)
	第3期	67 (45%)	37 (25%)	27 (18%)	14 (9%)	0 (0%)	149 (100%)
	第4期	57 (43%)	30 (23%)	27 (20%)	11 (8%)	0 (0%)	132 (100%)
	第5期	42 (38%)	30 (27%)	18 (16%)	16 (15%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	24 (24%)	38 (39%)	14 (14%)	17 (17%)	3 (3%)	98 (100%)
	第7期	20 (23%)	32 (37%)	16 (18%)	13 (15%)	5 (6%)	87 (100%)
内部障害	第1期	38 (53%)	21 (29%)	8 (11%)	4 (6%)	0 (0%)	72 (100%)
	第2期	26 (43%)	20 (33%)	11 (18%)	3 (5%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	39 (41%)	22 (23%)	18 (19%)	14 (15%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	25 (29%)	29 (33%)	15 (17%)	13 (15%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	20 (30%)	18 (27%)	14 (21%)	14 (21%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	20 (34%)	14 (24%)	14 (24%)	6 (10%)	3 (5%)	58 (100%)
	第7期	19 (35%)	12 (22%)	15 (28%)	5 (9%)	3 (6%)	54 (100%)
知的障害	第1期	140 (73%)	23 (12%)	15 (8%)	2 (1%)	0 (0%)	192 (100%)
	第2期	100 (65%)	24 (15%)	13 (8%)	5 (3%)	0 (0%)	155 (100%)
	第3期	134 (62%)	35 (16%)	17 (8%)	10 (5%)	1 (0%)	217 (100%)
	第4期	91 (54%)	43 (25%)	13 (8%)	11 (7%)	0 (0%)	169 (100%)
	第5期	66 (43%)	60 (39%)	13 (8%)	9 (6%)	2 (1%)	155 (100%)
	第6期	45 (31%)	68 (47%)	10 (7%)	12 (8%)	2 (1%)	144 (100%)
	第7期	35 (28%)	53 (43%)	13 (11%)	12 (10%)	3 (2%)	123 (100%)
精神障害	第1期	67 (84%)	6 (8%)	4 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	43 (83%)	4 (8%)	4 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	68 (84%)	5 (6%)	6 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	56 (86%)	4 (6%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	38 (73%)	11 (21%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期	35 (66%)	14 (26%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	25 (56%)	17 (38%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第1期	506 (63%)	154 (19%)	99 (12%)	18 (2%)	0 (0%)	800 (100%)
	第2期	344 (58%)	121 (20%)	85 (14%)	26 (4%)	0 (0%)	598 (100%)
	第3期	413 (54%)	149 (20%)	110 (14%)	53 (7%)	1 (0%)	763 (100%)
	第4期	318 (49%)	159 (24%)	84 (13%)	56 (9%)	1 (0%)	652 (100%)
	第5期	219 (39%)	184 (33%)	70 (13%)	66 (12%)	8 (1%)	556 (100%)
	第6期	168 (33%)	187 (37%)	64 (13%)	61 (12%)	11 (2%)	508 (100%)
	第7期	142 (30%)	170 (36%)	71 (15%)	57 (12%)	16 (3%)	472 (100%)

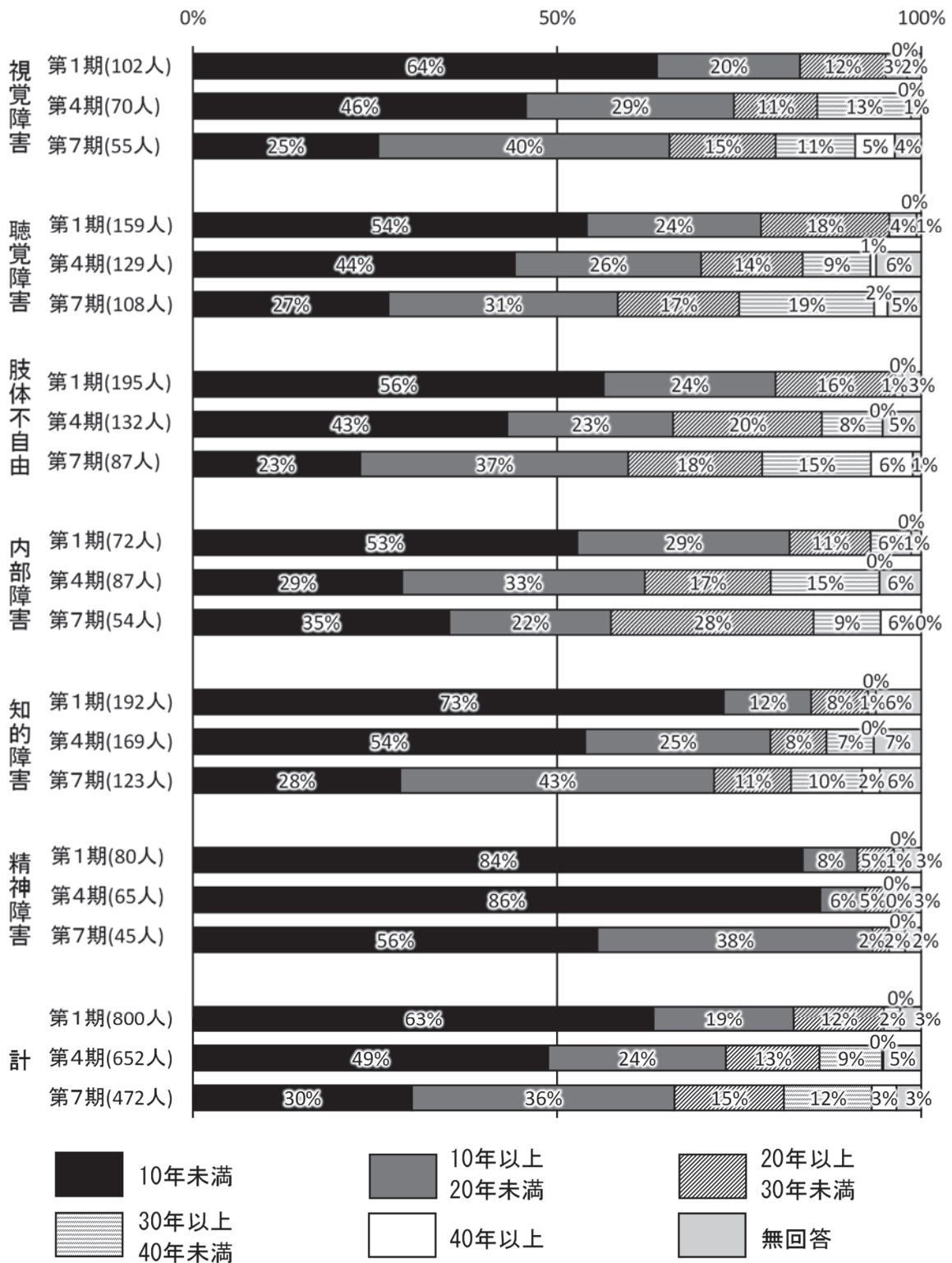


図2-5 第1期、第4期及び第7期の同一企業への在職年数

14 職場の人への障害の説明

調査回答者のうち就労者の障害の内容（症状や配慮してもらいたいことなど）を会社や職場の人に説明しているかどうかを表2-29に、職場の人への障害の説明の時勢による変化を可視化するため、既存の第1期から第7期の調査のうち最初（第1期）と最後（第7期）、その中間（第4期）の職場の人への障害の説明をグラフにした結果を図2-6に示す。

障害種類によらず、「会社や職場の人ほとんどに説明している」と「会社や職場の人のごく一部の人だけに説明している」を合わせた、説明している割合は全般的に高かった。「全く説明していない」の理由は、第7期では「説明しなくても右手が無いので見ただけで理解してもらえる」「必要ない 業務に影響ない」「一人しかいない為」「健常者として採用されているから」などが挙げられた。

表 2-29 職場の人への障害の説明（単位：人）

	会社や職場の 人ほとんどに 説明している	会社や職場の 人のごく一部の 人だけに 説明している	全く説明して いない	わからない	無回答	計	
視覚障害	第1期	65 (64%)	25 (25%)	2 (2%)	2 (2%)	8 (8%)	102 (100%)
	第2期	46 (64%)	17 (24%)	1 (1%)	1 (1%)	7 (10%)	72 (100%)
	第3期	45 (61%)	21 (28%)	4 (5%)	0 (0%)	4 (5%)	74 (100%)
	第4期	53 (76%)	11 (16%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	46 (72%)	11 (17%)	2 (3%)	2 (3%)	3 (5%)	64 (100%)
	第6期	38 (75%)	7 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (12%)	51 (100%)
	第7期	38 (69%)	9 (16%)	2 (4%)	1 (2%)	5 (9%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	104 (65%)	43 (27%)	9 (6%)	1 (1%)	2 (1%)	159 (100%)
	第2期	63 (60%)	34 (32%)	4 (4%)	1 (1%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期	94 (64%)	39 (27%)	5 (3%)	2 (1%)	7 (5%)	147 (100%)
	第4期	97 (75%)	22 (17%)	4 (3%)	2 (2%)	4 (3%)	129 (100%)
	第5期	82 (76%)	22 (20%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	66 (63%)	26 (25%)	4 (4%)	3 (3%)	5 (5%)	104 (100%)
	第7期	81 (75%)	21 (19%)	2 (2%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	105 (54%)	77 (39%)	8 (4%)	0 (0%)	5 (3%)	195 (100%)
	第2期	68 (44%)	72 (47%)	6 (4%)	2 (1%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期	82 (55%)	53 (36%)	4 (3%)	6 (4%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	76 (58%)	51 (39%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	70 (64%)	33 (30%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	110 (100%)
	第6期	59 (60%)	28 (29%)	5 (5%)	0 (0%)	6 (6%)	98 (100%)
	第7期	57 (66%)	25 (29%)	4 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	87 (100%)
内部障害	第1期	50 (69%)	20 (28%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	43 (72%)	17 (28%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	65 (68%)	29 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	68 (78%)	19 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	49 (73%)	18 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	42 (72%)	15 (26%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	37 (69%)	16 (30%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	54 (100%)
知的障害	第1期	120 (63%)	32 (17%)	17 (9%)	14 (7%)	9 (5%)	192 (100%)
	第2期	99 (64%)	30 (19%)	9 (6%)	10 (6%)	7 (5%)	155 (100%)
	第3期	142 (65%)	43 (20%)	16 (7%)	9 (4%)	7 (3%)	217 (100%)
	第4期	127 (75%)	31 (18%)	2 (1%)	4 (2%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	110 (71%)	27 (17%)	2 (1%)	11 (7%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	101 (70%)	23 (16%)	5 (3%)	9 (6%)	6 (4%)	144 (100%)
	第7期	91 (74%)	21 (17%)	2 (2%)	4 (3%)	5 (4%)	123 (100%)
精神障害	第1期	34 (43%)	43 (54%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	80 (100%)
	第2期	23 (44%)	26 (50%)	0 (0%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	37 (46%)	41 (51%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	31 (48%)	28 (43%)	3 (5%)	3 (5%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	25 (48%)	18 (35%)	4 (8%)	2 (4%)	3 (6%)	52 (100%)
	第6期	26 (49%)	21 (40%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	20 (44%)	21 (47%)	2 (4%)	1 (2%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第1期	478 (60%)	240 (30%)	37 (5%)	19 (2%)	26 (3%)	800 (100%)
	第2期	342 (57%)	196 (33%)	20 (3%)	17 (3%)	23 (4%)	598 (100%)
	第3期	465 (61%)	226 (30%)	31 (4%)	18 (2%)	23 (3%)	763 (100%)
	第4期	452 (69%)	162 (25%)	15 (2%)	10 (2%)	13 (2%)	652 (100%)
	第5期	382 (69%)	129 (23%)	12 (2%)	18 (3%)	15 (3%)	556 (100%)
	第6期	332 (65%)	120 (24%)	18 (4%)	14 (3%)	24 (5%)	508 (100%)
	第7期	324 (69%)	113 (24%)	13 (3%)	8 (2%)	14 (3%)	472 (100%)

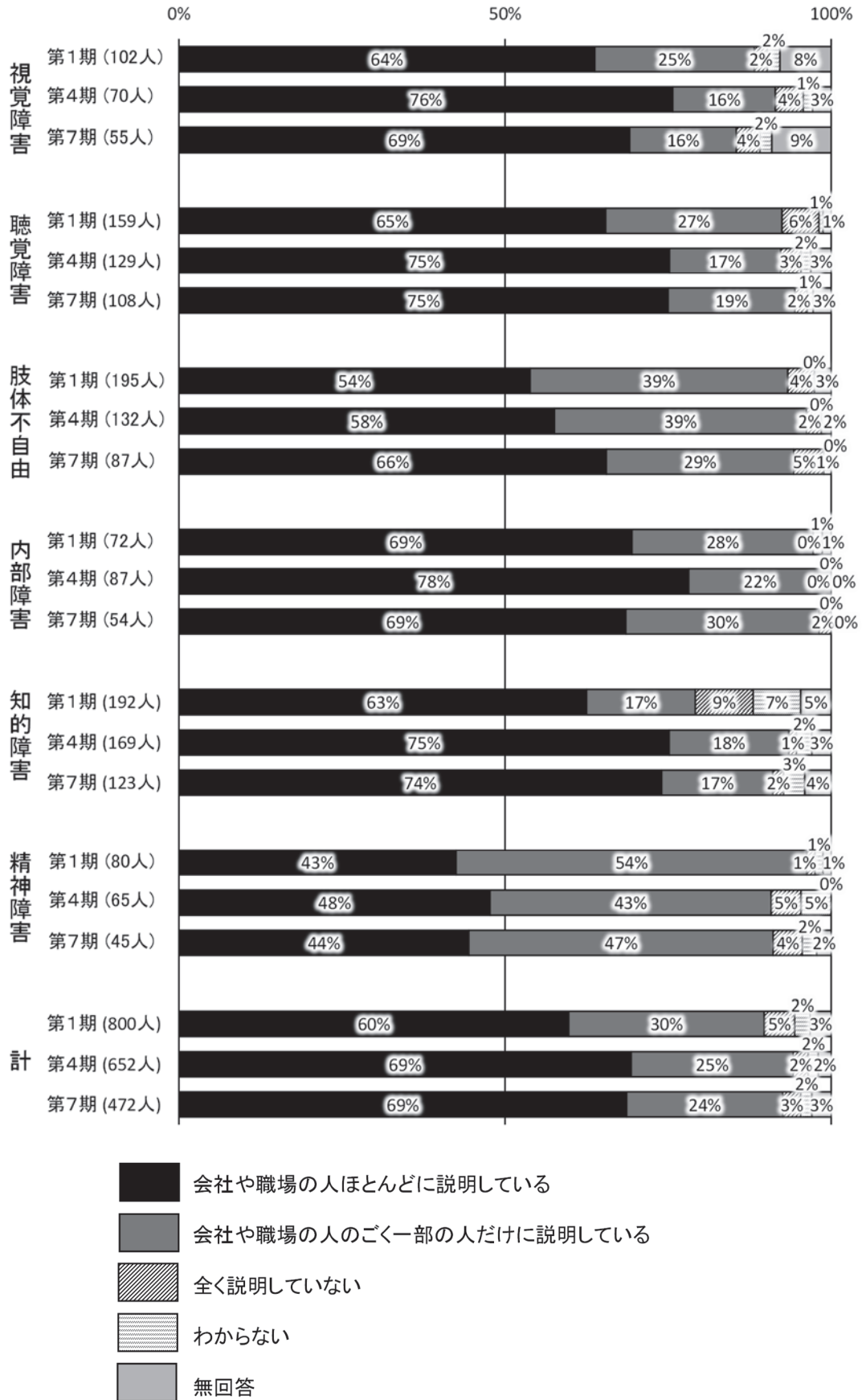


図2-6 第1期、第4期及び第7期の職場の人への障害の説明

15 仕事の満足度

表2-30 から表2-33 までは、調査回答者のうち就労者の仕事内容、給料や待遇（労働条件等）等の仕事の満足度に関する各項目について「満足」から「不満」までの5段階で評価してもらった結果である。

仕事の満足度のいずれにおいても、「満足」、「どちらかといえば満足」の方が、「不満」、「どちらかといえば不満」より多かった。

表2-30 仕事の内容の満足度（単位：人）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	33 (32%)	45 (44%)	16 (16%)	3 (3%)	4 (4%)	102 (100%)
	第2期	28 (39%)	23 (32%)	11 (15%)	4 (6%)	4 (6%)	72 (100%)
	第3期	28 (38%)	26 (35%)	14 (19%)	3 (4%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	27 (39%)	30 (43%)	7 (10%)	3 (4%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	23 (36%)	30 (47%)	7 (11%)	1 (2%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	20 (39%)	21 (41%)	7 (14%)	1 (2%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	22 (40%)	23 (42%)	7 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	32 (20%)	61 (38%)	53 (33%)	10 (6%)	3 (2%)	159 (100%)
	第2期	25 (24%)	38 (36%)	31 (30%)	9 (9%)	2 (2%)	105 (100%)
	第3期	24 (16%)	69 (47%)	39 (27%)	11 (7%)	1 (1%)	147 (100%)
	第4期	21 (16%)	53 (41%)	37 (29%)	14 (11%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	12 (11%)	57 (53%)	31 (29%)	6 (6%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	14 (13%)	45 (43%)	35 (34%)	7 (7%)	0 (0%)	104 (100%)
	第7期	22 (20%)	47 (44%)	32 (30%)	5 (5%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	72 (37%)	63 (32%)	39 (20%)	14 (7%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	47 (31%)	48 (31%)	38 (25%)	11 (7%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	54 (36%)	46 (31%)	33 (22%)	6 (4%)	8 (5%)	149 (100%)
	第4期	37 (28%)	52 (39%)	31 (23%)	6 (5%)	4 (3%)	132 (100%)
	第5期	35 (32%)	37 (34%)	26 (24%)	8 (7%)	3 (3%)	110 (100%)
	第6期	31 (32%)	37 (38%)	21 (21%)	5 (5%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	28 (32%)	37 (43%)	18 (21%)	2 (2%)	2 (2%)	87 (100%)
内部障害	第1期	23 (32%)	31 (43%)	13 (18%)	1 (1%)	3 (4%)	72 (100%)
	第2期	18 (30%)	30 (50%)	8 (13%)	4 (7%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	30 (32%)	43 (45%)	16 (17%)	4 (4%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	28 (32%)	41 (47%)	12 (14%)	4 (5%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	24 (36%)	30 (45%)	10 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	19 (33%)	28 (48%)	6 (10%)	4 (7%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	17 (31%)	21 (39%)	10 (19%)	3 (6%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第1期	100 (52%)	51 (27%)	22 (11%)	11 (6%)	2 (1%)	192 (100%)
	第2期	74 (48%)	52 (34%)	18 (12%)	3 (2%)	2 (1%)	155 (100%)
	第3期	106 (49%)	67 (31%)	25 (12%)	11 (5%)	2 (1%)	217 (100%)
	第4期	79 (47%)	52 (31%)	27 (16%)	4 (2%)	1 (1%)	169 (100%)
	第5期	72 (46%)	53 (34%)	21 (14%)	2 (1%)	4 (3%)	155 (100%)
	第6期	69 (48%)	48 (33%)	18 (13%)	4 (3%)	2 (1%)	144 (100%)
	第7期	63 (51%)	35 (28%)	17 (14%)	2 (2%)	1 (1%)	123 (100%)
精神障害	第1期	26 (33%)	36 (45%)	11 (14%)	5 (6%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	25 (48%)	16 (31%)	1 (2%)	1 (2%)	52 (100%)
	第3期	18 (22%)	41 (51%)	13 (16%)	6 (7%)	3 (4%)	81 (100%)
	第4期	17 (26%)	36 (55%)	6 (9%)	5 (8%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	16 (31%)	24 (46%)	8 (15%)	1 (2%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	11 (21%)	19 (36%)	17 (32%)	3 (6%)	2 (4%)	53 (100%)
	第7期	15 (33%)	18 (40%)	9 (20%)	2 (4%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第1期	286 (36%)	287 (36%)	154 (19%)	44 (6%)	15 (2%)	800 (100%)
	第2期	201 (34%)	216 (36%)	122 (20%)	32 (5%)	13 (2%)	598 (100%)
	第3期	260 (34%)	292 (38%)	140 (18%)	41 (5%)	16 (2%)	763 (100%)
	第4期	209 (32%)	264 (40%)	120 (18%)	36 (6%)	11 (2%)	652 (100%)
	第5期	182 (33%)	231 (42%)	103 (19%)	20 (4%)	13 (2%)	556 (100%)
	第6期	164 (32%)	198 (39%)	104 (20%)	24 (5%)	8 (2%)	508 (100%)
	第7期	167 (35%)	181 (38%)	93 (20%)	14 (3%)	5 (1%)	472 (100%)

表2-31 給料・待遇（労働条件等）の満足度（単位：人）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	18 (18%)	37 (36%)	20 (20%)	17 (17%)	9 (9%)	102 (100%)
	第2期	13 (18%)	23 (32%)	18 (25%)	10 (14%)	7 (10%)	72 (100%)
	第3期	16 (22%)	28 (38%)	14 (19%)	10 (14%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	13 (19%)	26 (37%)	12 (17%)	11 (16%)	7 (10%)	70 (100%)
	第5期	16 (25%)	18 (28%)	14 (22%)	9 (14%)	6 (9%)	64 (100%)
	第6期	16 (31%)	13 (25%)	7 (14%)	9 (18%)	5 (10%)	51 (100%)
	第7期	14 (25%)	21 (38%)	12 (22%)	4 (7%)	2 (4%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	18 (11%)	42 (26%)	47 (30%)	38 (24%)	13 (8%)	159 (100%)
	第2期	13 (12%)	22 (21%)	39 (37%)	23 (22%)	8 (8%)	105 (100%)
	第3期	13 (9%)	52 (35%)	35 (24%)	35 (24%)	9 (6%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	44 (34%)	33 (26%)	26 (20%)	11 (9%)	129 (100%)
	第5期	13 (12%)	36 (33%)	33 (31%)	19 (18%)	7 (6%)	108 (100%)
	第6期	12 (12%)	30 (29%)	36 (35%)	17 (16%)	6 (6%)	104 (100%)
	第7期	11 (10%)	40 (37%)	34 (31%)	17 (16%)	5 (5%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	54 (28%)	45 (23%)	45 (23%)	21 (11%)	20 (10%)	195 (100%)
	第2期	38 (25%)	32 (21%)	34 (22%)	32 (21%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	32 (21%)	37 (25%)	33 (22%)	27 (18%)	16 (11%)	149 (100%)
	第4期	30 (23%)	38 (29%)	26 (20%)	21 (16%)	15 (11%)	132 (100%)
	第5期	25 (23%)	32 (29%)	18 (16%)	21 (19%)	12 (11%)	110 (100%)
	第6期	26 (27%)	32 (33%)	18 (18%)	16 (16%)	4 (4%)	98 (100%)
	第7期	23 (26%)	32 (37%)	15 (17%)	10 (11%)	7 (8%)	87 (100%)
内部障害	第1期	14 (19%)	29 (40%)	11 (15%)	13 (18%)	4 (6%)	72 (100%)
	第2期	9 (15%)	17 (28%)	23 (38%)	8 (13%)	3 (5%)	60 (100%)
	第3期	18 (19%)	28 (29%)	25 (26%)	17 (18%)	6 (6%)	95 (100%)
	第4期	13 (15%)	29 (33%)	28 (32%)	14 (16%)	3 (3%)	87 (100%)
	第5期	10 (15%)	22 (33%)	19 (28%)	13 (19%)	3 (4%)	67 (100%)
	第6期	14 (24%)	16 (28%)	13 (22%)	11 (19%)	4 (7%)	58 (100%)
	第7期	12 (22%)	12 (22%)	20 (37%)	7 (13%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第1期	84 (44%)	52 (27%)	25 (13%)	15 (8%)	4 (2%)	192 (100%)
	第2期	57 (37%)	48 (31%)	23 (15%)	14 (9%)	6 (4%)	155 (100%)
	第3期	86 (40%)	56 (26%)	36 (17%)	21 (10%)	8 (4%)	217 (100%)
	第4期	67 (40%)	41 (24%)	29 (17%)	15 (9%)	8 (5%)	169 (100%)
	第5期	60 (39%)	43 (28%)	23 (15%)	14 (9%)	8 (5%)	155 (100%)
	第6期	51 (35%)	51 (35%)	20 (14%)	8 (6%)	5 (3%)	144 (100%)
	第7期	51 (41%)	38 (31%)	18 (15%)	5 (4%)	1 (1%)	123 (100%)
精神障害	第1期	19 (24%)	23 (29%)	16 (20%)	12 (15%)	7 (9%)	80 (100%)
	第2期	6 (12%)	12 (23%)	13 (25%)	12 (23%)	9 (17%)	52 (100%)
	第3期	13 (16%)	23 (28%)	24 (30%)	14 (17%)	7 (9%)	81 (100%)
	第4期	13 (20%)	21 (32%)	11 (17%)	15 (23%)	5 (8%)	65 (100%)
	第5期	6 (12%)	21 (40%)	12 (23%)	7 (13%)	5 (10%)	52 (100%)
	第6期	8 (15%)	16 (30%)	13 (25%)	9 (17%)	6 (11%)	53 (100%)
	第7期	9 (20%)	15 (33%)	10 (22%)	6 (13%)	5 (11%)	45 (100%)
計	第1期	207 (26%)	228 (29%)	164 (21%)	116 (15%)	57 (7%)	800 (100%)
	第2期	136 (23%)	154 (26%)	150 (25%)	99 (17%)	42 (7%)	598 (100%)
	第3期	178 (23%)	224 (29%)	167 (22%)	124 (16%)	48 (6%)	763 (100%)
	第4期	149 (23%)	199 (31%)	139 (21%)	102 (16%)	49 (8%)	652 (100%)
	第5期	130 (23%)	172 (31%)	119 (21%)	83 (15%)	41 (7%)	556 (100%)
	第6期	127 (25%)	158 (31%)	107 (21%)	70 (14%)	30 (6%)	508 (100%)
	第7期	120 (25%)	158 (33%)	109 (23%)	49 (10%)	21 (4%)	472 (100%)

表 2-32 職場の人間関係の満足度 (単位: 人)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計	
視覚障害	第1期	23 (23%)	43 (42%)	21 (21%)	6 (6%)	2 (2%)	7 (7%)	102 (100%)
	第2期	20 (28%)	29 (40%)	13 (18%)	2 (3%)	4 (6%)	4 (6%)	72 (100%)
	第3期	21 (28%)	30 (41%)	13 (18%)	2 (3%)	2 (3%)	6 (8%)	74 (100%)
	第4期	21 (30%)	34 (49%)	10 (14%)	1 (1%)	2 (3%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	23 (36%)	18 (28%)	13 (20%)	3 (5%)	3 (5%)	4 (6%)	64 (100%)
	第6期	18 (35%)	15 (29%)	11 (22%)	2 (4%)	1 (2%)	4 (8%)	51 (100%)
	第7期	21 (38%)	15 (27%)	13 (24%)	3 (5%)	0 (0%)	3 (5%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	18 (11%)	53 (33%)	56 (35%)	27 (17%)	4 (3%)	1 (1%)	159 (100%)
	第2期	15 (14%)	32 (30%)	35 (33%)	21 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	14 (10%)	60 (41%)	42 (29%)	22 (15%)	6 (4%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	11 (9%)	42 (33%)	51 (40%)	17 (13%)	6 (5%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	14 (13%)	27 (25%)	43 (40%)	18 (17%)	6 (6%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	8 (8%)	37 (36%)	37 (36%)	14 (13%)	5 (5%)	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	12 (11%)	41 (38%)	39 (36%)	14 (13%)	0 (0%)	2 (2%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	58 (30%)	60 (31%)	41 (21%)	19 (10%)	9 (5%)	8 (4%)	195 (100%)
	第2期	46 (30%)	39 (25%)	38 (25%)	17 (11%)	5 (3%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	35 (23%)	52 (35%)	30 (20%)	18 (12%)	9 (6%)	5 (3%)	149 (100%)
	第4期	30 (23%)	51 (39%)	29 (22%)	11 (8%)	9 (7%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	24 (22%)	39 (35%)	27 (25%)	11 (10%)	8 (7%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	28 (29%)	31 (32%)	28 (29%)	8 (8%)	1 (1%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	27 (31%)	32 (37%)	17 (20%)	5 (6%)	6 (7%)	0 (0%)	87 (100%)
内部障害	第1期	17 (24%)	33 (46%)	13 (18%)	6 (8%)	2 (3%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	12 (20%)	25 (42%)	16 (27%)	6 (10%)	1 (2%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	20 (21%)	29 (31%)	31 (33%)	13 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	21 (24%)	28 (32%)	25 (29%)	8 (9%)	4 (5%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	13 (19%)	27 (40%)	17 (25%)	9 (13%)	1 (1%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	12 (21%)	24 (41%)	17 (29%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	11 (20%)	18 (33%)	17 (31%)	5 (9%)	0 (0%)	3 (6%)	54 (100%)
知的障害	第1期	88 (46%)	55 (29%)	24 (13%)	12 (6%)	2 (1%)	11 (6%)	192 (100%)
	第2期	61 (39%)	50 (32%)	25 (16%)	9 (6%)	2 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
	第3期	93 (43%)	55 (25%)	38 (18%)	13 (6%)	6 (3%)	12 (6%)	217 (100%)
	第4期	68 (40%)	48 (28%)	24 (14%)	15 (9%)	5 (3%)	9 (5%)	169 (100%)
	第5期	58 (37%)	46 (30%)	30 (19%)	12 (8%)	3 (2%)	6 (4%)	155 (100%)
	第6期	48 (33%)	48 (33%)	26 (18%)	7 (5%)	4 (3%)	11 (8%)	144 (100%)
	第7期	47 (38%)	35 (28%)	19 (15%)	8 (7%)	4 (3%)	10 (8%)	123 (100%)
精神障害	第1期	24 (30%)	32 (40%)	13 (16%)	8 (10%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	6 (12%)	26 (50%)	12 (23%)	5 (10%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	20 (25%)	28 (35%)	18 (22%)	4 (5%)	11 (14%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	17 (26%)	20 (31%)	16 (25%)	9 (14%)	2 (3%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	8 (15%)	17 (33%)	15 (29%)	3 (6%)	8 (15%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	12 (23%)	16 (30%)	15 (28%)	5 (9%)	4 (8%)	1 (2%)	53 (100%)
	第7期	14 (31%)	18 (40%)	8 (18%)	3 (7%)	2 (4%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第1期	228 (29%)	276 (35%)	168 (21%)	78 (10%)	19 (2%)	31 (4%)	800 (100%)
	第2期	160 (27%)	201 (34%)	139 (23%)	60 (10%)	16 (3%)	22 (4%)	598 (100%)
	第3期	203 (27%)	254 (33%)	172 (23%)	72 (9%)	35 (5%)	27 (4%)	763 (100%)
	第4期	168 (26%)	223 (34%)	155 (24%)	61 (9%)	28 (4%)	17 (3%)	652 (100%)
	第5期	140 (25%)	174 (31%)	145 (26%)	56 (10%)	29 (5%)	12 (2%)	556 (100%)
	第6期	126 (25%)	171 (34%)	134 (26%)	39 (8%)	17 (3%)	21 (4%)	508 (100%)
	第7期	132 (28%)	159 (34%)	113 (24%)	38 (8%)	12 (3%)	18 (4%)	472 (100%)

表2-33 職場の環境（施設整備等）の満足度（単位：人）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	37 (36%)	35 (34%)	20 (20%)	7 (7%)	2 (2%)	102 (100%)
	第2期	23 (32%)	27 (38%)	15 (21%)	5 (7%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期	19 (26%)	33 (45%)	12 (16%)	5 (7%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	23 (33%)	24 (34%)	16 (23%)	4 (6%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	16 (25%)	23 (36%)	12 (19%)	9 (14%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	15 (29%)	19 (37%)	9 (18%)	5 (10%)	2 (4%)	51 (100%)
	第7期	16 (29%)	13 (24%)	20 (36%)	3 (5%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	15 (9%)	55 (35%)	63 (40%)	22 (14%)	4 (3%)	159 (100%)
	第2期	13 (12%)	33 (31%)	38 (36%)	18 (17%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期	14 (10%)	59 (40%)	47 (32%)	20 (14%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	9 (7%)	36 (28%)	53 (41%)	24 (19%)	6 (5%)	129 (100%)
	第5期	8 (7%)	33 (31%)	46 (43%)	16 (15%)	5 (5%)	108 (100%)
	第6期	7 (7%)	36 (35%)	36 (35%)	18 (17%)	4 (4%)	104 (100%)
	第7期	9 (8%)	45 (42%)	41 (38%)	8 (7%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	84 (43%)	56 (29%)	26 (13%)	15 (8%)	5 (3%)	195 (100%)
	第2期	58 (38%)	51 (33%)	24 (16%)	7 (5%)	5 (3%)	154 (100%)
	第3期	46 (31%)	57 (38%)	23 (15%)	15 (10%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	39 (30%)	57 (43%)	17 (13%)	14 (11%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	30 (27%)	44 (40%)	18 (16%)	12 (11%)	4 (4%)	110 (100%)
	第6期	36 (37%)	29 (30%)	17 (17%)	6 (6%)	7 (7%)	98 (100%)
	第7期	30 (34%)	30 (34%)	20 (23%)	6 (7%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第1期	23 (32%)	23 (32%)	16 (22%)	5 (7%)	3 (4%)	72 (100%)
	第2期	13 (22%)	22 (37%)	15 (25%)	8 (13%)	2 (3%)	60 (100%)
	第3期	23 (24%)	32 (34%)	25 (26%)	12 (13%)	2 (2%)	95 (100%)
	第4期	20 (23%)	36 (41%)	16 (18%)	12 (14%)	2 (2%)	87 (100%)
	第5期	16 (24%)	32 (48%)	14 (21%)	3 (4%)	2 (3%)	67 (100%)
	第6期	14 (24%)	23 (40%)	14 (24%)	6 (10%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	13 (24%)	23 (43%)	13 (24%)	2 (4%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第1期	85 (44%)	48 (25%)	28 (15%)	11 (6%)	5 (3%)	192 (100%)
	第2期	65 (42%)	50 (32%)	24 (15%)	5 (3%)	3 (2%)	155 (100%)
	第3期	88 (41%)	56 (26%)	35 (16%)	16 (7%)	8 (4%)	217 (100%)
	第4期	69 (41%)	48 (28%)	27 (16%)	10 (6%)	4 (2%)	169 (100%)
	第5期	59 (38%)	46 (30%)	34 (22%)	7 (5%)	1 (1%)	155 (100%)
	第6期	51 (35%)	46 (32%)	31 (22%)	3 (2%)	0 (0%)	144 (100%)
	第7期	47 (38%)	35 (28%)	30 (24%)	0 (0%)	1 (1%)	123 (100%)
精神障害	第1期	28 (35%)	29 (36%)	14 (18%)	5 (6%)	1 (1%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	21 (40%)	13 (25%)	9 (17%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	22 (27%)	27 (33%)	19 (23%)	8 (10%)	5 (6%)	81 (100%)
	第4期	15 (23%)	26 (40%)	11 (17%)	11 (17%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	10 (19%)	18 (35%)	14 (27%)	5 (10%)	4 (8%)	52 (100%)
	第6期	10 (19%)	23 (43%)	14 (26%)	4 (8%)	1 (2%)	53 (100%)
	第7期	14 (31%)	14 (31%)	14 (31%)	1 (2%)	2 (4%)	45 (100%)
計	第1期	272 (34%)	246 (31%)	167 (21%)	65 (8%)	20 (3%)	800 (100%)
	第2期	181 (30%)	204 (34%)	129 (22%)	52 (9%)	13 (2%)	598 (100%)
	第3期	212 (28%)	264 (35%)	161 (21%)	76 (10%)	24 (3%)	763 (100%)
	第4期	175 (27%)	227 (35%)	140 (21%)	75 (12%)	17 (3%)	652 (100%)
	第5期	139 (25%)	196 (35%)	138 (25%)	52 (9%)	18 (3%)	556 (100%)
	第6期	133 (26%)	176 (35%)	121 (24%)	42 (8%)	15 (3%)	508 (100%)
	第7期	129 (27%)	160 (34%)	138 (29%)	20 (4%)	9 (2%)	472 (100%)

16 就労中の勤務先において継続して働ける年齢

調査回答者のうち就労者の勤務先において、継続して働ける年齢（定年後の再雇用を含む）が決まっているかどうかについて表2-34に示す。継続して働ける年齢が決まっている場合の具体的な年齢について表2-35に示す。なお、この項目について前期調査・後期調査とも調査実施した第4期以降を掲載している。

第7期においては、働ける年齢が決まっている割合は約5割から約8割まで障害種類により違いがあり、知的障害が最も低く、肢体不自由が最も高かった。働ける年齢が決まっている場合は「65歳～69歳」が最も多かった。

表2-34 勤務先において継続して働ける年齢（単位：人）

		決まっている	決まっていない	無回答	計
視覚障害	第4期	40 (57%)	29 (41%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	38 (59%)	25 (39%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	29 (57%)	22 (43%)	0 (0%)	51 (100%)
	第7期	31 (56%)	22 (40%)	2 (4%)	55 (100%)
聴覚障害	第4期	88 (68%)	38 (29%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	76 (70%)	31 (29%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	69 (66%)	33 (32%)	2 (2%)	104 (100%)
	第7期	75 (69%)	30 (28%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第4期	99 (75%)	31 (23%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	92 (84%)	17 (15%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	78 (80%)	18 (18%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	67 (77%)	19 (22%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第4期	58 (67%)	29 (33%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	50 (75%)	17 (25%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	42 (72%)	16 (28%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	35 (65%)	18 (33%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第4期	70 (41%)	92 (54%)	7 (4%)	169 (100%)
	第5期	70 (45%)	82 (53%)	3 (2%)	155 (100%)
	第6期	79 (55%)	58 (40%)	7 (5%)	144 (100%)
	第7期	64 (52%)	55 (45%)	4 (3%)	123 (100%)
精神障害	第4期	34 (52%)	30 (46%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	28 (54%)	22 (42%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	24 (45%)	29 (55%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	30 (67%)	15 (33%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第4期	389 (60%)	249 (38%)	14 (2%)	652 (100%)
	第5期	354 (64%)	194 (35%)	8 (1%)	556 (100%)
	第6期	321 (63%)	176 (35%)	11 (2%)	508 (100%)
	第7期	302 (64%)	159 (34%)	11 (2%)	472 (100%)

表2-35 継続して働ける年齢が決まっている場合の具体的な年齢（単位：人）

		60歳未満	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	無回答	計
視覚障害	第4期	0 (0%)	13 (33%)	27 (68%)	0 (0%)	0 (0%)	40 (100%)
	第5期	0 (0%)	10 (26%)	26 (68%)	2 (5%)	0 (0%)	38 (100%)
	第6期	0 (0%)	2 (7%)	26 (90%)	1 (3%)	0 (0%)	29 (100%)
	第7期	0 (0%)	4 (13%)	25 (81%)	2 (6%)	0 (0%)	31 (100%)
聴覚障害	第4期	5 (6%)	36 (41%)	42 (48%)	5 (6%)	0 (0%)	88 (100%)
	第5期	4 (5%)	24 (32%)	43 (57%)	5 (7%)	0 (0%)	76 (100%)
	第6期	3 (4%)	20 (29%)	40 (58%)	6 (9%)	0 (0%)	69 (100%)
	第7期	0 (0%)	22 (29%)	41 (55%)	11 (15%)	1 (1%)	75 (100%)
肢体不自由	第4期	2 (2%)	36 (36%)	53 (54%)	5 (5%)	3 (3%)	99 (100%)
	第5期	3 (3%)	33 (36%)	50 (54%)	4 (4%)	2 (2%)	92 (100%)
	第6期	1 (1%)	16 (21%)	55 (71%)	6 (8%)	0 (0%)	78 (100%)
	第7期	0 (0%)	16 (24%)	41 (61%)	10 (15%)	0 (0%)	67 (100%)
内部障害	第4期	1 (2%)	14 (24%)	42 (72%)	1 (2%)	0 (0%)	58 (100%)
	第5期	0 (0%)	11 (22%)	37 (74%)	1 (2%)	1 (2%)	50 (100%)
	第6期	0 (0%)	10 (24%)	26 (62%)	4 (10%)	2 (5%)	42 (100%)
	第7期	0 (0%)	9 (26%)	22 (63%)	4 (11%)	0 (0%)	35 (100%)
知的障害	第4期	0 (0%)	39 (56%)	27 (39%)	4 (6%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	1 (1%)	27 (39%)	38 (54%)	4 (6%)	0 (0%)	70 (100%)
	第6期	0 (0%)	35 (44%)	34 (43%)	9 (11%)	1 (1%)	79 (100%)
	第7期	1 (2%)	22 (34%)	33 (52%)	8 (13%)	0 (0%)	64 (100%)
精神障害	第4期	0 (0%)	11 (32%)	20 (59%)	3 (9%)	0 (0%)	34 (100%)
	第5期	0 (0%)	4 (14%)	22 (79%)	2 (7%)	0 (0%)	28 (100%)
	第6期	0 (0%)	6 (25%)	17 (71%)	1 (4%)	0 (0%)	24 (100%)
	第7期	1 (3%)	6 (20%)	15 (50%)	6 (20%)	2 (7%)	30 (100%)
計	第4期	8 (2%)	149 (38%)	211 (54%)	18 (5%)	3 (1%)	389 (100%)
	第5期	8 (2%)	109 (31%)	216 (61%)	18 (5%)	3 (1%)	354 (100%)
	第6期	4 (1%)	89 (28%)	198 (62%)	27 (8%)	3 (1%)	321 (100%)
	第7期	2 (1%)	79 (26%)	177 (59%)	41 (14%)	3 (1%)	302 (100%)

17 働いていたい年齢

調査回答者のうち就労者において、現在の仕事に限らず、仕事を続けていきたいと思う年齢について表2-36に示す。

第7期では、無回答を除いた中央値（回答者を順に並べた時の真ん中の者）をみると、いずれの障害種類も「65歳～69歳」が中央値だった。

表2-36 働いていたい年齢（単位：人）

		60歳未満	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	無回答	計
視覚障害	第1期	7 (7%)	19 (19%)	21 (21%)	20 (20%)	35 (34%)	102 (100%)
	第2期	6 (8%)	10 (14%)	12 (17%)	17 (24%)	27 (38%)	72 (100%)
	第3期	2 (3%)	11 (15%)	15 (20%)	18 (24%)	28 (38%)	74 (100%)
	第4期	4 (6%)	14 (20%)	19 (27%)	28 (40%)	5 (7%)	70 (100%)
	第5期	1 (2%)	19 (30%)	12 (19%)	28 (44%)	4 (6%)	64 (100%)
	第6期	0 (0%)	13 (25%)	11 (22%)	26 (51%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	0 (0%)	14 (25%)	12 (22%)	25 (45%)	4 (7%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	23 (14%)	40 (25%)	27 (17%)	6 (4%)	63 (40%)	159 (100%)
	第2期	15 (14%)	29 (28%)	19 (18%)	4 (4%)	38 (36%)	105 (100%)
	第3期	17 (12%)	43 (29%)	21 (14%)	5 (3%)	61 (41%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	60 (47%)	38 (29%)	12 (9%)	6 (5%)	129 (100%)
	第5期	15 (14%)	35 (32%)	41 (38%)	17 (16%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	8 (8%)	37 (36%)	32 (31%)	21 (20%)	6 (6%)	104 (100%)
	第7期	3 (3%)	34 (31%)	41 (38%)	24 (22%)	6 (6%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	18 (9%)	48 (25%)	27 (14%)	9 (5%)	93 (48%)	195 (100%)
	第2期	20 (13%)	35 (23%)	18 (12%)	6 (4%)	75 (49%)	154 (100%)
	第3期	16 (11%)	34 (23%)	21 (14%)	8 (5%)	70 (47%)	149 (100%)
	第4期	20 (15%)	55 (42%)	38 (29%)	13 (10%)	6 (5%)	132 (100%)
	第5期	11 (10%)	41 (37%)	42 (38%)	11 (10%)	5 (5%)	110 (100%)
	第6期	9 (9%)	37 (38%)	34 (35%)	15 (15%)	3 (3%)	98 (100%)
	第7期	3 (3%)	35 (40%)	30 (34%)	16 (18%)	3 (3%)	87 (100%)
内部障害	第1期	10 (14%)	9 (13%)	13 (18%)	6 (8%)	34 (47%)	72 (100%)
	第2期	6 (10%)	16 (27%)	5 (8%)	5 (8%)	28 (47%)	60 (100%)
	第3期	4 (4%)	18 (19%)	11 (12%)	7 (7%)	55 (58%)	95 (100%)
	第4期	6 (7%)	32 (37%)	31 (36%)	15 (17%)	3 (3%)	87 (100%)
	第5期	4 (6%)	22 (33%)	28 (42%)	12 (18%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	3 (5%)	23 (40%)	16 (28%)	15 (26%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	3 (6%)	17 (31%)	15 (28%)	16 (30%)	3 (6%)	54 (100%)
知的障害	第1期	20 (10%)	76 (40%)	23 (12%)	15 (8%)	58 (30%)	192 (100%)
	第2期	22 (14%)	50 (32%)	23 (15%)	9 (6%)	51 (33%)	155 (100%)
	第3期	29 (13%)	88 (41%)	34 (16%)	13 (6%)	53 (24%)	217 (100%)
	第4期	18 (11%)	66 (39%)	40 (24%)	25 (15%)	20 (12%)	169 (100%)
	第5期	15 (10%)	56 (36%)	47 (30%)	29 (19%)	8 (5%)	155 (100%)
	第6期	13 (9%)	43 (30%)	36 (25%)	34 (24%)	18 (13%)	144 (100%)
	第7期	6 (5%)	42 (34%)	30 (24%)	31 (25%)	14 (11%)	123 (100%)
精神障害	第1期	7 (9%)	27 (34%)	26 (33%)	6 (8%)	14 (18%)	80 (100%)
	第2期	8 (15%)	13 (25%)	17 (33%)	4 (8%)	10 (19%)	52 (100%)
	第3期	4 (5%)	24 (30%)	28 (35%)	5 (6%)	20 (25%)	81 (100%)
	第4期	7 (11%)	15 (23%)	27 (42%)	14 (22%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	10 (19%)	25 (48%)	12 (23%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	4 (8%)	12 (23%)	19 (36%)	18 (34%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	3 (7%)	7 (16%)	15 (33%)	18 (40%)	2 (4%)	45 (100%)
計	第1期	85 (11%)	219 (27%)	137 (17%)	62 (8%)	297 (37%)	800 (100%)
	第2期	77 (13%)	153 (26%)	94 (16%)	45 (8%)	229 (38%)	598 (100%)
	第3期	72 (9%)	218 (29%)	130 (17%)	56 (7%)	287 (38%)	763 (100%)
	第4期	68 (10%)	242 (37%)	193 (30%)	107 (16%)	42 (6%)	652 (100%)
	第5期	49 (9%)	183 (33%)	195 (35%)	109 (20%)	20 (4%)	556 (100%)
	第6期	37 (7%)	165 (32%)	148 (29%)	129 (25%)	29 (6%)	508 (100%)
	第7期	18 (4%)	149 (32%)	143 (30%)	130 (28%)	32 (7%)	472 (100%)

※無回答の割合が第1期から第3期までと第4期から第7期までを比較すると大きく異なるのは、第1期から第3期までの後期調査において、当該集計にかかる調査項目は、定年年齢が決まっていない場合のみ「働いていたい年齢」を確認しており、定年年齢が決まっている者はすべて無回答として計上しているためである。第4期以降の後期調査では、定年年齢が決まっても「働いていたい年齢」を確認している。

18 働く理由

調査研究委員会の議論を踏まえて、第4期後期調査から調査回答者のうち就労者の質問項目に「仕事をする理由」として「収入を得るため」、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」、「自分自身が成長するため」、「生きがいや楽しみのため」、「生活のリズムを維持するため」、「心身の健康のため」の7項目を追加した。前期調査・後期調査とも調査実施した第5期から第7期までの調査回答者のうち就労者について、7つの項目について、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階で評価してもらった結果を表2-37から表2-43に示す。

仕事をする理由のいずれにおいても、「あてはまる」又は「どちらかといえばあてはまる」のほうが、「あてはまらない」又は「どちらかといえばあてはまらない」より多かった。

表2-37 働く理由（収入を得るため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	59 (92%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	46 (90%)	3 (6%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	51 (100%)
	第7期	49 (89%)	5 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	82 (76%)	19 (18%)	6 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	80 (77%)	16 (15%)	6 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	104 (100%)
	第7期	82 (76%)	15 (14%)	8 (7%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	100 (91%)	8 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	86 (88%)	7 (7%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	98 (100%)
	第7期	77 (89%)	8 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第5期	59 (88%)	7 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	56 (97%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	47 (87%)	5 (9%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第5期	123 (79%)	17 (11%)	5 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	112 (78%)	17 (12%)	4 (3%)	0 (0%)	2 (1%)	9 (6%)	144 (100%)
	第7期	87 (71%)	15 (12%)	10 (8%)	1 (1%)	0 (0%)	10 (8%)	123 (100%)
精神障害	第5期	42 (81%)	6 (12%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	47 (89%)	4 (8%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	38 (84%)	3 (7%)	3 (7%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第5期	465 (84%)	60 (11%)	16 (3%)	4 (1%)	4 (1%)	7 (1%)	556 (100%)
	第6期	427 (84%)	49 (10%)	17 (3%)	2 (0%)	2 (0%)	11 (2%)	508 (100%)
	第7期	380 (81%)	51 (11%)	23 (5%)	3 (1%)	0 (0%)	15 (3%)	472 (100%)

表2-38 働く理由（社会とのつながりを持つため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	31 (48%)	19 (30%)	8 (13%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	25 (49%)	16 (31%)	6 (12%)	0 (0%)	3 (6%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	29 (53%)	15 (27%)	4 (7%)	1 (2%)	5 (9%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	31 (29%)	38 (35%)	27 (25%)	8 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	33 (32%)	40 (38%)	22 (21%)	5 (5%)	3 (3%)	1 (1%)	104 (100%)
	第7期	39 (36%)	37 (34%)	24 (22%)	3 (3%)	2 (2%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	52 (47%)	34 (31%)	18 (16%)	1 (1%)	3 (3%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	43 (44%)	28 (29%)	15 (15%)	5 (5%)	5 (5%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	46 (53%)	23 (26%)	11 (13%)	2 (2%)	3 (3%)	2 (2%)	87 (100%)
内部障害	第5期	31 (46%)	23 (34%)	10 (15%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	26 (45%)	23 (40%)	4 (7%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	26 (48%)	18 (33%)	8 (15%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第5期	78 (50%)	39 (25%)	21 (14%)	2 (1%)	5 (3%)	10 (6%)	155 (100%)
	第6期	73 (51%)	36 (25%)	14 (10%)	2 (1%)	3 (2%)	16 (11%)	144 (100%)
	第7期	63 (51%)	26 (21%)	17 (14%)	2 (2%)	2 (2%)	13 (11%)	123 (100%)
精神障害	第5期	25 (48%)	17 (33%)	5 (10%)	1 (2%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	24 (45%)	21 (40%)	6 (11%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	28 (62%)	10 (22%)	5 (11%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第5期	248 (45%)	170 (31%)	89 (16%)	16 (3%)	14 (3%)	19 (3%)	556 (100%)
	第6期	224 (44%)	164 (32%)	67 (13%)	17 (3%)	16 (3%)	20 (4%)	508 (100%)
	第7期	231 (49%)	129 (27%)	69 (15%)	9 (2%)	14 (3%)	20 (4%)	472 (100%)

表2-39 働く理由（社会の中で役割を果たすため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	34 (53%)	18 (28%)	6 (9%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	24 (47%)	15 (29%)	6 (12%)	1 (2%)	3 (6%)	2 (4%)	51 (100%)
	第7期	26 (47%)	13 (24%)	11 (20%)	1 (2%)	3 (5%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	29 (27%)	39 (36%)	28 (26%)	9 (8%)	1 (1%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	34 (33%)	34 (33%)	28 (27%)	5 (5%)	2 (2%)	1 (1%)	104 (100%)
	第7期	39 (36%)	34 (31%)	28 (26%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	47 (43%)	28 (25%)	25 (23%)	2 (2%)	6 (5%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	39 (40%)	25 (26%)	24 (24%)	4 (4%)	4 (4%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	40 (46%)	26 (30%)	13 (15%)	5 (6%)	2 (2%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第5期	27 (40%)	19 (28%)	15 (22%)	4 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	28 (48%)	19 (33%)	5 (9%)	3 (5%)	3 (5%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	16 (30%)	18 (33%)	18 (33%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第5期	72 (46%)	38 (25%)	28 (18%)	2 (1%)	6 (4%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	67 (47%)	34 (24%)	23 (16%)	1 (1%)	1 (1%)	18 (13%)	144 (100%)
	第7期	57 (46%)	25 (20%)	25 (20%)	0 (0%)	2 (2%)	14 (11%)	123 (100%)
精神障害	第5期	21 (40%)	14 (27%)	10 (19%)	3 (6%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	15 (28%)	21 (40%)	12 (23%)	4 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	19 (42%)	13 (29%)	10 (22%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第5期	230 (41%)	156 (28%)	112 (20%)	23 (4%)	17 (3%)	18 (3%)	556 (100%)
	第6期	207 (41%)	148 (29%)	98 (19%)	18 (4%)	14 (3%)	23 (5%)	508 (100%)
	第7期	197 (42%)	129 (27%)	105 (22%)	12 (3%)	9 (2%)	20 (4%)	472 (100%)

表2-40 働く理由（自分自身が成長するため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	27 (42%)	16 (25%)	14 (22%)	3 (5%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	16 (31%)	19 (37%)	6 (12%)	4 (8%)	5 (10%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	17 (31%)	16 (29%)	15 (27%)	1 (2%)	4 (7%)	2 (4%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	42 (39%)	33 (31%)	21 (19%)	8 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	35 (34%)	33 (32%)	25 (24%)	6 (6%)	4 (4%)	1 (1%)	104 (100%)
	第7期	35 (32%)	44 (41%)	23 (21%)	1 (1%)	2 (2%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	43 (39%)	36 (33%)	22 (20%)	4 (4%)	4 (4%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	35 (36%)	24 (24%)	26 (27%)	3 (3%)	5 (5%)	5 (5%)	98 (100%)
	第7期	34 (39%)	23 (26%)	22 (25%)	4 (5%)	3 (3%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第5期	21 (31%)	23 (34%)	17 (25%)	4 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	18 (31%)	28 (48%)	9 (16%)	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	13 (24%)	18 (33%)	20 (37%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第5期	85 (55%)	36 (23%)	17 (11%)	3 (2%)	5 (3%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	74 (51%)	39 (27%)	14 (10%)	3 (2%)	1 (1%)	13 (9%)	144 (100%)
	第7期	62 (50%)	30 (24%)	15 (12%)	0 (0%)	2 (2%)	14 (11%)	123 (100%)
精神障害	第5期	21 (40%)	14 (27%)	8 (15%)	3 (6%)	4 (8%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	16 (30%)	18 (34%)	17 (32%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	22 (49%)	6 (13%)	15 (33%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第5期	239 (43%)	158 (28%)	99 (18%)	25 (4%)	18 (3%)	17 (3%)	556 (100%)
	第6期	194 (38%)	161 (32%)	97 (19%)	19 (4%)	17 (3%)	20 (4%)	508 (100%)
	第7期	183 (39%)	137 (29%)	110 (23%)	9 (2%)	12 (3%)	21 (4%)	472 (100%)

表2-41 働く理由（生きがいや楽しみのため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	18 (28%)	22 (34%)	14 (22%)	4 (6%)	4 (6%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	14 (27%)	17 (33%)	11 (22%)	3 (6%)	4 (8%)	2 (4%)	51 (100%)
	第7期	15 (27%)	16 (29%)	16 (29%)	3 (5%)	4 (7%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	34 (31%)	37 (34%)	22 (20%)	9 (8%)	5 (5%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	27 (26%)	36 (35%)	24 (23%)	10 (10%)	6 (6%)	1 (1%)	104 (100%)
	第7期	34 (31%)	27 (25%)	38 (35%)	4 (4%)	2 (2%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	39 (35%)	36 (33%)	23 (21%)	6 (5%)	5 (5%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	32 (33%)	32 (33%)	21 (21%)	6 (6%)	5 (5%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	28 (32%)	28 (32%)	20 (23%)	5 (6%)	4 (5%)	2 (2%)	87 (100%)
内部障害	第5期	14 (21%)	29 (43%)	18 (27%)	2 (3%)	3 (4%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	14 (24%)	22 (38%)	17 (29%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	12 (22%)	19 (35%)	20 (37%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第5期	90 (58%)	34 (22%)	18 (12%)	3 (2%)	1 (1%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	85 (59%)	25 (17%)	13 (9%)	4 (3%)	1 (1%)	16 (11%)	144 (100%)
	第7期	70 (57%)	21 (17%)	17 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	13 (11%)	123 (100%)
精神障害	第5期	18 (35%)	14 (27%)	12 (23%)	1 (2%)	5 (10%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	20 (38%)	13 (25%)	12 (23%)	6 (11%)	2 (4%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	20 (44%)	9 (20%)	14 (31%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第5期	213 (38%)	172 (31%)	107 (19%)	25 (4%)	23 (4%)	16 (3%)	556 (100%)
	第6期	192 (38%)	145 (29%)	98 (19%)	32 (6%)	20 (4%)	21 (4%)	508 (100%)
	第7期	179 (38%)	120 (25%)	125 (26%)	15 (3%)	13 (3%)	20 (4%)	472 (100%)

表2-42 働く理由（生活のリズムを維持するため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	18 (28%)	19 (30%)	13 (20%)	7 (11%)	4 (6%)	3 (5%)	64 (100%)
	第6期	15 (29%)	21 (41%)	5 (10%)	2 (4%)	6 (12%)	2 (4%)	51 (100%)
	第7期	21 (38%)	19 (35%)	8 (15%)	2 (4%)	4 (7%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	33 (31%)	38 (35%)	23 (21%)	8 (7%)	5 (5%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	32 (31%)	39 (38%)	18 (17%)	5 (5%)	6 (6%)	4 (4%)	104 (100%)
	第7期	39 (36%)	36 (33%)	24 (22%)	5 (5%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	45 (41%)	36 (33%)	21 (19%)	4 (4%)	3 (3%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	39 (40%)	36 (37%)	16 (16%)	3 (3%)	2 (2%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	38 (44%)	24 (28%)	17 (20%)	4 (5%)	2 (2%)	2 (2%)	87 (100%)
内部障害	第5期	20 (30%)	31 (46%)	12 (18%)	3 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	18 (31%)	30 (52%)	8 (14%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	15 (28%)	26 (48%)	12 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第5期	96 (62%)	30 (19%)	15 (10%)	4 (3%)	2 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
	第6期	83 (58%)	33 (23%)	10 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	16 (11%)	144 (100%)
	第7期	74 (60%)	24 (20%)	10 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	14 (11%)	123 (100%)
精神障害	第5期	28 (54%)	15 (29%)	5 (10%)	0 (0%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	27 (51%)	21 (40%)	3 (6%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	26 (58%)	16 (36%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第5期	240 (43%)	169 (30%)	89 (16%)	26 (5%)	16 (3%)	16 (3%)	556 (100%)
	第6期	214 (42%)	180 (35%)	60 (12%)	13 (3%)	17 (3%)	24 (5%)	508 (100%)
	第7期	213 (45%)	145 (31%)	74 (16%)	11 (2%)	8 (2%)	21 (4%)	472 (100%)

表2-43 働く理由（心身の健康のため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	14 (22%)	19 (30%)	17 (27%)	6 (9%)	3 (5%)	5 (8%)	64 (100%)
	第6期	15 (29%)	15 (29%)	9 (18%)	5 (10%)	6 (12%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	13 (24%)	24 (44%)	9 (16%)	3 (5%)	4 (7%)	2 (4%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	25 (23%)	40 (37%)	26 (24%)	10 (9%)	6 (6%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	26 (25%)	34 (33%)	23 (22%)	13 (13%)	5 (5%)	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	31 (29%)	32 (30%)	36 (33%)	4 (4%)	2 (2%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	39 (35%)	30 (27%)	27 (25%)	4 (4%)	8 (7%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	27 (28%)	34 (35%)	26 (27%)	3 (3%)	6 (6%)	2 (2%)	98 (100%)
	第7期	30 (34%)	29 (33%)	18 (21%)	5 (6%)	3 (3%)	2 (2%)	87 (100%)
内部障害	第5期	16 (24%)	22 (33%)	22 (33%)	4 (6%)	2 (3%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	11 (19%)	27 (47%)	14 (24%)	2 (3%)	4 (7%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	9 (17%)	27 (50%)	14 (26%)	3 (6%)	0 (0%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第5期	91 (59%)	34 (22%)	18 (12%)	1 (1%)	5 (3%)	6 (4%)	155 (100%)
	第6期	80 (56%)	36 (25%)	14 (10%)	1 (1%)	1 (1%)	12 (8%)	144 (100%)
	第7期	68 (55%)	25 (20%)	12 (10%)	3 (2%)	1 (1%)	14 (11%)	123 (100%)
精神障害	第5期	21 (40%)	20 (38%)	5 (10%)	2 (4%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	18 (34%)	22 (42%)	10 (19%)	3 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	24 (53%)	11 (24%)	7 (16%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第5期	206 (37%)	165 (30%)	115 (21%)	27 (5%)	26 (5%)	17 (3%)	556 (100%)
	第6期	177 (35%)	168 (33%)	96 (19%)	27 (5%)	22 (4%)	18 (4%)	508 (100%)
	第7期	175 (37%)	148 (31%)	96 (20%)	21 (4%)	10 (2%)	22 (5%)	472 (100%)

19 今後の仕事への意向

調査回答者のうち就労者において、調査回答時に就いていた仕事について、今後も続けたいかどうかを表2-44に示す。また、第5期から追加された項目である「別の仕事をしたい」と回答した者の別の仕事の詳細を表2-45に示す。

障害種類のいずれにおいても現在の仕事を続けたい者が最も多かったが、別の仕事をしたい者も一定数存在した。別の仕事をしたいと回答した者の内訳は、肢体不自由以外では「別の会社に転職」又は「別の部署で今と異なる仕事」を選ぶ場合が多かった。

表2-44 今後の仕事への意向（単位：人）

		現在の仕事を 続けたい	現在の仕事とは 別の仕事をしたい	もう仕事は したくない	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	72 (71%)	10 (10%)	—	16 (16%)	4 (4%)	102 (100%)
	第2期	44 (61%)	8 (11%)	—	14 (19%)	6 (8%)	72 (100%)
	第3期	49 (66%)	6 (8%)	—	13 (18%)	6 (8%)	74 (100%)
	第4期	51 (73%)	7 (10%)	2 (3%)	9 (13%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	49 (77%)	5 (8%)	0 (0%)	9 (14%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	35 (69%)	11 (22%)	1 (2%)	4 (8%)	0 (0%)	51 (100%)
	第7期	47 (85%)	4 (7%)	1 (2%)	2 (4%)	1 (2%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	86 (54%)	40 (25%)	—	27 (17%)	6 (4%)	159 (100%)
	第2期	57 (54%)	21 (20%)	—	17 (16%)	10 (10%)	105 (100%)
	第3期	84 (57%)	24 (16%)	—	26 (18%)	13 (9%)	147 (100%)
	第4期	76 (59%)	30 (23%)	4 (3%)	19 (15%)	0 (0%)	129 (100%)
	第5期	64 (59%)	30 (28%)	2 (2%)	9 (8%)	3 (3%)	108 (100%)
	第6期	64 (62%)	19 (18%)	5 (5%)	13 (13%)	3 (3%)	104 (100%)
	第7期	76 (70%)	15 (14%)	6 (6%)	8 (7%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	124 (64%)	26 (13%)	—	32 (16%)	13 (7%)	195 (100%)
	第2期	77 (50%)	20 (13%)	—	27 (18%)	30 (19%)	154 (100%)
	第3期	94 (63%)	17 (11%)	—	27 (18%)	11 (7%)	149 (100%)
	第4期	84 (64%)	24 (18%)	4 (3%)	17 (13%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	80 (73%)	13 (12%)	5 (5%)	11 (10%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	68 (69%)	19 (19%)	6 (6%)	5 (5%)	0 (0%)	98 (100%)
	第7期	69 (79%)	4 (5%)	6 (7%)	7 (8%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第1期	39 (54%)	10 (14%)	—	17 (24%)	6 (8%)	72 (100%)
	第2期	37 (62%)	5 (8%)	—	13 (22%)	5 (8%)	60 (100%)
	第3期	60 (63%)	11 (12%)	—	17 (18%)	7 (7%)	95 (100%)
	第4期	62 (71%)	14 (16%)	0 (0%)	11 (13%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	54 (81%)	10 (15%)	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	39 (67%)	10 (17%)	3 (5%)	5 (9%)	1 (2%)	58 (100%)
	第7期	36 (67%)	9 (17%)	0 (0%)	8 (15%)	1 (2%)	54 (100%)
知的障害	第1期	139 (72%)	14 (7%)	—	20 (10%)	19 (10%)	192 (100%)
	第2期	119 (77%)	13 (8%)	—	13 (8%)	10 (6%)	155 (100%)
	第3期	159 (73%)	29 (13%)	—	21 (10%)	8 (4%)	217 (100%)
	第4期	134 (79%)	12 (7%)	3 (2%)	15 (9%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	126 (81%)	19 (12%)	2 (1%)	7 (5%)	1 (1%)	155 (100%)
	第6期	120 (83%)	12 (8%)	1 (1%)	4 (3%)	7 (5%)	144 (100%)
	第7期	105 (85%)	10 (8%)	0 (0%)	3 (2%)	5 (4%)	123 (100%)
精神障害	第1期	50 (63%)	11 (14%)	—	17 (21%)	2 (3%)	80 (100%)
	第2期	27 (52%)	9 (17%)	—	14 (27%)	2 (4%)	52 (100%)
	第3期	46 (57%)	11 (14%)	—	18 (22%)	6 (7%)	81 (100%)
	第4期	41 (63%)	12 (18%)	0 (0%)	12 (18%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	34 (65%)	9 (17%)	1 (2%)	7 (13%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	35 (66%)	6 (11%)	1 (2%)	11 (21%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	28 (62%)	6 (13%)	1 (2%)	10 (22%)	0 (0%)	45 (100%)
計	第1期	510 (64%)	111 (14%)	—	129 (16%)	50 (6%)	800 (100%)
	第2期	361 (60%)	76 (13%)	—	98 (16%)	63 (11%)	598 (100%)
	第3期	492 (64%)	98 (13%)	—	122 (16%)	51 (7%)	763 (100%)
	第4期	448 (69%)	99 (15%)	13 (2%)	83 (13%)	9 (1%)	652 (100%)
	第5期	407 (73%)	86 (15%)	10 (2%)	46 (8%)	7 (1%)	556 (100%)
	第6期	361 (71%)	77 (15%)	17 (3%)	42 (8%)	11 (2%)	508 (100%)
	第7期	361 (76%)	48 (10%)	14 (3%)	38 (8%)	11 (2%)	472 (100%)

※第4期で選択肢に「もう仕事はしたくない」を質問項目に加えた。

表 2-45 今後の仕事への意向で「別の仕事をしたい」と回答した者の詳細（複数回答）（単位：人）

		別の会社に 転職	別の部署で 今と異なる仕事	今の職場で より責任のある仕事	今の職場で 責任を減らした仕事	無回答	集計数
視覚障害	第5期	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
	第6期	9 (82%)	0 (0%)	1 (9%)	1 (9%)	1 (9%)	11
	第7期	3 (75%)	1 (25%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	4
聴覚障害	第5期	21 (70%)	6 (20%)	4 (13%)	0 (0%)	1 (3%)	30
	第6期	11 (58%)	7 (37%)	2 (11%)	1 (5%)	0 (0%)	19
	第7期	6 (40%)	8 (53%)	2 (13%)	4 (27%)	0 (0%)	15
肢体不自由	第5期	4 (31%)	4 (31%)	3 (23%)	4 (31%)	0 (0%)	13
	第6期	11 (58%)	2 (11%)	2 (11%)	4 (21%)	1 (5%)	19
	第7期	0 (0%)	2 (50%)	1 (25%)	2 (50%)	0 (0%)	4
内部障害	第5期	7 (70%)	1 (10%)	0 (0%)	1 (10%)	1 (10%)	10
	第6期	9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	2 (20%)	0 (0%)	10
	第7期	8 (89%)	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	9
知的障害	第5期	12 (63%)	3 (16%)	2 (11%)	2 (11%)	0 (0%)	19
	第6期	10 (83%)	1 (8%)	0 (0%)	1 (8%)	0 (0%)	12
	第7期	4 (40%)	3 (30%)	2 (20%)	1 (10%)	0 (0%)	10
精神障害	第5期	7 (78%)	1 (11%)	0 (0%)	1 (11%)	0 (0%)	9
	第6期	4 (67%)	1 (17%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	6
	第7期	4 (67%)	1 (17%)	3 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	6
計	第5期	54 (63%)	17 (20%)	9 (10%)	8 (9%)	2 (2%)	86
	第6期	54 (70%)	12 (16%)	5 (6%)	10 (13%)	2 (3%)	77
	第7期	25 (52%)	16 (33%)	9 (19%)	7 (15%)	0 (0%)	48

※第5期から追加した調査項目。

20 過去2年間の仕事上の出来事

調査回答者のうち就労者の過去2年間に起きた仕事に関連する出来事について集計した結果を表2-46に示す。

配置転換、上司の異動、昇給などは他の項目より多く起こっていた。

表2-46 過去2年間の仕事上の出来事（複数回答）（単位：人） ※次ページへ続く

	配置転換 (部署の異動) があった	上司が 異動した	まわりで直接仕事な どを援助してくれる人 がいなくなった	昇進した	降格した	給料が 上がった	給料が 下がった	正社員に なった	
視覚 障害	第2期	7 (10%)	11 (15%)	2 (3%)	3 (4%)	—	23 (32%)	18 (25%)	2 (3%)
	第3期	2 (3%)	9 (12%)	2 (3%)	2 (3%)	—	14 (19%)	14 (19%)	1 (1%)
	第4期	7 (10%)	20 (29%)	4 (6%)	3 (4%)	—	22 (31%)	7 (10%)	1 (1%)
	第5期	2 (3%)	21 (33%)	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	19 (30%)	6 (9%)	—
	第6期	1 (2%)	16 (31%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	12 (24%)	8 (16%)	—
	第7期	4 (7%)	16 (29%)	0 (0%)	2 (4%)	2 (4%)	13 (24%)	9 (16%)	—
	聴覚 障害	第2期	23 (22%)	8 (8%)	3 (3%)	3 (3%)	—	32 (30%)	12 (11%)
第3期		11 (7%)	18 (12%)	2 (1%)	1 (1%)	—	35 (24%)	9 (6%)	2 (1%)
第4期		28 (22%)	34 (26%)	5 (4%)	5 (4%)	—	42 (33%)	7 (5%)	0 (0%)
第5期		20 (19%)	25 (23%)	5 (5%)	3 (3%)	0 (0%)	35 (32%)	11 (10%)	—
第6期		10 (10%)	32 (31%)	1 (1%)	8 (8%)	1 (1%)	35 (34%)	11 (11%)	—
第7期		17 (16%)	31 (29%)	2 (2%)	6 (6%)	2 (2%)	35 (32%)	9 (8%)	—
肢体不 自由		第2期	37 (24%)	29 (19%)	7 (5%)	9 (6%)	—	53 (34%)	15 (10%)
	第3期	7 (5%)	23 (15%)	5 (3%)	2 (1%)	—	35 (23%)	22 (15%)	0 (0%)
	第4期	27 (20%)	52 (39%)	10 (8%)	12 (9%)	—	40 (30%)	17 (13%)	1 (1%)
	第5期	24 (22%)	43 (39%)	4 (4%)	16 (15%)	4 (4%)	42 (38%)	14 (13%)	—
	第6期	18 (18%)	34 (35%)	5 (5%)	9 (9%)	1 (1%)	34 (35%)	8 (8%)	—
	第7期	23 (26%)	25 (29%)	2 (2%)	14 (16%)	2 (2%)	34 (39%)	9 (10%)	—
	内 部 障 害	第2期	23 (38%)	10 (17%)	4 (7%)	8 (13%)	—	17 (28%)	6 (10%)
第3期		6 (6%)	8 (8%)	4 (4%)	2 (2%)	—	19 (20%)	14 (15%)	3 (3%)
第4期		13 (15%)	26 (30%)	7 (8%)	6 (7%)	—	25 (29%)	13 (15%)	1 (1%)
第5期		10 (15%)	19 (28%)	9 (13%)	7 (10%)	1 (1%)	18 (27%)	10 (15%)	—
第6期		9 (16%)	14 (24%)	4 (7%)	8 (14%)	0 (0%)	20 (34%)	8 (14%)	—
第7期		7 (13%)	12 (22%)	1 (2%)	6 (11%)	2 (4%)	14 (26%)	7 (13%)	—
知 的 障 害		第2期	23 (15%)	7 (5%)	5 (3%)	2 (1%)	—	36 (23%)	11 (7%)
	第3期	11 (5%)	30 (14%)	13 (6%)	0 (0%)	—	53 (24%)	13 (6%)	1 (0%)
	第4期	16 (9%)	46 (27%)	10 (6%)	1 (1%)	—	41 (24%)	8 (5%)	3 (2%)
	第5期	13 (8%)	43 (28%)	8 (5%)	2 (1%)	1 (1%)	63 (41%)	10 (6%)	—
	第6期	9 (6%)	37 (26%)	4 (3%)	3 (2%)	0 (0%)	49 (34%)	4 (3%)	—
	第7期	11 (9%)	28 (23%)	7 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	52 (42%)	5 (4%)	—
	精 神 障 害	第2期	11 (21%)	12 (23%)	6 (12%)	3 (6%)	—	23 (44%)	4 (8%)
第3期		4 (5%)	15 (19%)	2 (2%)	1 (1%)	—	19 (23%)	2 (2%)	1 (1%)
第4期		5 (8%)	22 (34%)	4 (6%)	0 (0%)	—	21 (32%)	1 (2%)	0 (0%)
第5期		1 (2%)	17 (33%)	2 (4%)	2 (4%)	0 (0%)	17 (33%)	3 (6%)	—
第6期		5 (9%)	17 (32%)	5 (9%)	2 (4%)	0 (0%)	21 (40%)	0 (0%)	—
第7期		2 (4%)	14 (31%)	0 (0%)	3 (7%)	1 (2%)	12 (27%)	5 (11%)	—
計		第2期	124 (21%)	77 (13%)	27 (5%)	28 (5%)	—	184 (31%)	66 (11%)
	第3期	41 (5%)	103 (13%)	28 (4%)	8 (1%)	—	175 (23%)	74 (10%)	8 (1%)
	第4期	96 (15%)	200 (31%)	40 (6%)	27 (4%)	—	191 (29%)	53 (8%)	6 (1%)
	第5期	70 (13%)	168 (30%)	29 (5%)	32 (6%)	6 (1%)	194 (35%)	54 (10%)	—
	第6期	52 (10%)	150 (30%)	19 (4%)	31 (6%)	2 (0%)	171 (34%)	39 (8%)	—
	第7期	64 (14%)	126 (27%)	12 (3%)	32 (7%)	9 (2%)	160 (34%)	44 (9%)	—

表2-46 過去2年間の仕事上の出来事（複数回答）（単位：人）※前ページからの続き

	休職をした	出向した	転職をした	会社が倒産	該当する項目なし	無回答	集計数
視覚障害	第2期	2 (3%)	0 (0%)	3 (4%)	1 (1%)	6 (8%)	72
	第3期	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	26 (35%)	74
	第4期	2 (3%)	2 (3%)	4 (6%)	1 (1%)	24 (34%)	70
	第5期	1 (2%)	0 (0%)	6 (9%)	—	26 (41%)	64
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	—	25 (49%)	51
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	—	22 (40%)	55
	聴覚障害	第2期	3 (3%)	0 (0%)	4 (4%)	1 (1%)	25 (24%)
第3期		5 (3%)	0 (0%)	11 (7%)	1 (1%)	43 (29%)	147
第4期		3 (2%)	0 (0%)	12 (9%)	0 (0%)	41 (32%)	129
第5期		8 (7%)	0 (0%)	8 (7%)	—	33 (31%)	108
第6期		2 (2%)	1 (1%)	6 (6%)	—	31 (30%)	104
第7期		1 (1%)	1 (1%)	10 (9%)	—	30 (28%)	108
肢体不自由		第2期	9 (6%)	0 (0%)	3 (2%)	1 (1%)	28 (18%)
	第3期	7 (5%)	0 (0%)	5 (3%)	0 (0%)	36 (24%)	149
	第4期	9 (7%)	3 (2%)	3 (2%)	0 (0%)	28 (21%)	132
	第5期	8 (7%)	1 (1%)	6 (5%)	—	21 (19%)	110
	第6期	3 (3%)	0 (0%)	6 (6%)	—	24 (24%)	98
	第7期	4 (5%)	0 (0%)	4 (5%)	—	23 (26%)	87
	内部障害	第2期	4 (7%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	5 (8%)
第3期		8 (8%)	0 (0%)	3 (3%)	0 (0%)	24 (25%)	95
第4期		7 (8%)	2 (2%)	5 (6%)	0 (0%)	21 (24%)	87
第5期		1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	—	23 (34%)	67
第6期		3 (5%)	2 (3%)	4 (7%)	—	17 (29%)	58
第7期		0 (0%)	0 (0%)	3 (6%)	—	19 (35%)	54
知的障害		第2期	3 (2%)	0 (0%)	6 (4%)	1 (1%)	55 (35%)
	第3期	2 (1%)	0 (0%)	11 (5%)	1 (0%)	18 (8%)	217
	第4期	2 (1%)	0 (0%)	8 (5%)	0 (0%)	58 (34%)	169
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	9 (6%)	—	50 (32%)	155
	第6期	2 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	—	50 (35%)	144
	第7期	0 (0%)	1 (1%)	4 (3%)	—	34 (28%)	123
	精神障害	第2期	6 (12%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	7 (13%)
第3期		7 (9%)	0 (0%)	13 (16%)	0 (0%)	21 (26%)	81
第4期		13 (20%)	0 (0%)	8 (12%)	0 (0%)	16 (25%)	65
第5期		5 (10%)	1 (2%)	5 (10%)	—	15 (29%)	52
第6期		4 (8%)	0 (0%)	8 (15%)	—	10 (19%)	53
第7期		1 (2%)	0 (0%)	6 (13%)	—	9 (20%)	45
計		第2期	27 (5%)	0 (0%)	19 (3%)	4 (1%)	126 (21%)
	第3期	30 (4%)	0 (0%)	45 (6%)	2 (0%)	168 (22%)	763
	第4期	36 (6%)	7 (1%)	40 (6%)	1 (0%)	188 (29%)	652
	第5期	24 (4%)	3 (1%)	35 (6%)	—	168 (30%)	556
	第6期	14 (3%)	3 (1%)	29 (6%)	—	157 (31%)	508
	第7期	6 (1%)	2 (0%)	29 (6%)	—	137 (29%)	472

※第2期以降行っている調査項目。括弧内は就労者数に対する割合。選択肢「降格した」は第5期で追加した調査項目、選択肢「正社員になった」「勤めていた会社が倒産した」は第5期に削除した調査項目。

21 職場に配慮を希望すること

すべての調査回答者が働く上で、会社や会社の人からどんな配慮が必要であったか、又はあったらよいと考えているか確認した結果を表2-47に示す。回答時に就労していない者へは、自身の経験から回答を求めた。

障害種類別で最も割合の高かった配慮は、視覚障害は「作業を容易にする機器や設備を改善すること」、聴覚障害は「仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること」、肢体不自由は「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」、内部障害は「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」、知的障害は「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」、精神障害は「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」だった。

表2-47 職場に配慮を希望すること（複数回答）（単位：人） ※次ページへ続く

	作業手順をわかりやすくしたり、 仕事をやりやすくすること	作業のスピードや仕事の量を 障害にあわせること	作業を容易にする機器や 設備を改善すること	通勤の便宜を 図ること	仕事やコミュニケーションを援助して くれる人をまわりに配置すること	
視覚障害	第1期	49 (47%)	31 (30%)	42 (40%)	19 (18%)	31 (30%)
	第2期	29 (37%)	16 (21%)	24 (31%)	14 (18%)	18 (23%)
	第3期	25 (31%)	25 (31%)	30 (38%)	17 (21%)	25 (31%)
	第4期	28 (37%)	22 (29%)	39 (52%)	19 (25%)	19 (25%)
	第5期	33 (48%)	17 (25%)	35 (51%)	16 (23%)	29 (42%)
	第6期	20 (35%)	18 (32%)	30 (53%)	15 (26%)	25 (44%)
	第7期	30 (49%)	22 (36%)	34 (56%)	17 (28%)	23 (38%)
聴覚障害	第1期	72 (44%)	30 (18%)	44 (27%)	4 (2%)	114 (69%)
	第2期	50 (44%)	19 (17%)	24 (21%)	5 (4%)	72 (64%)
	第3期	75 (47%)	30 (19%)	32 (20%)	6 (4%)	107 (67%)
	第4期	70 (48%)	25 (17%)	24 (17%)	8 (6%)	93 (64%)
	第5期	73 (61%)	36 (30%)	29 (24%)	4 (3%)	87 (73%)
	第6期	54 (50%)	26 (24%)	22 (20%)	4 (4%)	66 (61%)
	第7期	56 (47%)	28 (24%)	26 (22%)	6 (5%)	73 (61%)
肢体不自由	第1期	92 (43%)	90 (42%)	58 (27%)	43 (20%)	54 (25%)
	第2期	60 (34%)	60 (34%)	44 (25%)	41 (24%)	32 (18%)
	第3期	70 (41%)	64 (37%)	44 (26%)	43 (25%)	32 (19%)
	第4期	66 (44%)	58 (39%)	36 (24%)	47 (31%)	27 (18%)
	第5期	62 (43%)	63 (44%)	55 (38%)	57 (40%)	33 (23%)
	第6期	50 (40%)	49 (39%)	36 (29%)	43 (34%)	25 (20%)
	第7期	52 (43%)	52 (43%)	39 (33%)	47 (39%)	31 (26%)
内部障害	第1期	18 (25%)	15 (21%)	8 (11%)	11 (15%)	14 (19%)
	第2期	15 (25%)	22 (36%)	6 (10%)	9 (15%)	11 (18%)
	第3期	21 (21%)	18 (18%)	8 (8%)	15 (15%)	10 (10%)
	第4期	19 (21%)	18 (20%)	8 (9%)	9 (10%)	11 (12%)
	第5期	21 (26%)	19 (24%)	9 (11%)	9 (11%)	9 (11%)
	第6期	14 (21%)	15 (22%)	6 (9%)	12 (18%)	6 (9%)
	第7期	11 (18%)	11 (18%)	2 (3%)	9 (15%)	7 (12%)
知的障害	第1期	134 (68%)	100 (51%)	28 (14%)	26 (13%)	113 (57%)
	第2期	107 (64%)	79 (47%)	23 (14%)	23 (14%)	83 (49%)
	第3期	137 (58%)	103 (43%)	22 (9%)	22 (9%)	102 (43%)
	第4期	118 (61%)	71 (37%)	29 (15%)	23 (12%)	78 (40%)
	第5期	121 (68%)	80 (45%)	49 (28%)	41 (23%)	97 (55%)
	第6期	110 (66%)	84 (50%)	31 (19%)	33 (20%)	86 (51%)
	第7期	102 (67%)	75 (49%)	42 (27%)	35 (23%)	80 (52%)
精神障害	第1期	43 (52%)	40 (48%)	13 (16%)	11 (13%)	37 (45%)
	第2期	28 (44%)	29 (46%)	12 (19%)	9 (14%)	29 (46%)
	第3期	51 (54%)	38 (40%)	12 (13%)	10 (11%)	36 (38%)
	第4期	49 (58%)	38 (45%)	12 (14%)	16 (19%)	41 (48%)
	第5期	40 (57%)	35 (50%)	14 (20%)	14 (20%)	30 (43%)
	第6期	35 (49%)	34 (48%)	6 (8%)	12 (17%)	25 (35%)
	第7期	39 (61%)	34 (53%)	12 (19%)	12 (19%)	30 (47%)
計	第1期	408 (49%)	306 (36%)	193 (23%)	114 (14%)	363 (43%)
	第2期	289 (44%)	225 (34%)	133 (20%)	101 (15%)	245 (37%)
	第3期	379 (45%)	278 (33%)	148 (18%)	113 (13%)	312 (37%)
	第4期	350 (47%)	232 (31%)	148 (20%)	122 (16%)	269 (36%)
	第5期	350 (53%)	250 (38%)	191 (29%)	141 (21%)	285 (43%)
	第6期	283 (47%)	226 (38%)	131 (22%)	119 (20%)	233 (39%)
	第7期	290 (50%)	222 (38%)	155 (27%)	126 (22%)	244 (42%)

表2-47 職場に配慮を希望すること（複数回答）（単位：人） ※前ページからの続き

		体力や体調に合わせて、勤務 時間や休みを調整すること	安全や健康管理に特別の 配慮をすること	その他	特にない	集計数
視 覚 障 害	第1期	28 (27%)	26 (25%)	15 (14%)	—	104
	第2期	17 (22%)	17 (22%)	9 (12%)	—	78
	第3期	20 (25%)	20 (25%)	4 (5%)	—	80
	第4期	17 (23%)	16 (21%)	4 (5%)	—	75
	第5期	22 (32%)	24 (35%)	4 (6%)	13 (19%)	69
	第6期	20 (35%)	15 (26%)	4 (7%)	9 (16%)	57
	第7期	18 (30%)	18 (30%)	2 (3%)	10 (16%)	61
聴 覚 障 害	第1期	31 (19%)	26 (16%)	15 (9%)	—	165
	第2期	20 (18%)	25 (22%)	18 (16%)	—	113
	第3期	38 (24%)	33 (21%)	11 (7%)	—	159
	第4期	27 (19%)	29 (20%)	10 (7%)	—	145
	第5期	27 (23%)	30 (25%)	3 (3%)	12 (10%)	120
	第6期	23 (21%)	21 (19%)	2 (2%)	14 (13%)	108
	第7期	26 (22%)	21 (18%)	6 (5%)	13 (11%)	119
肢 体 不 自 由	第1期	86 (40%)	61 (28%)	25 (12%)	—	216
	第2期	77 (44%)	35 (20%)	16 (9%)	—	174
	第3期	65 (38%)	39 (23%)	16 (9%)	—	171
	第4期	70 (47%)	53 (35%)	10 (7%)	—	150
	第5期	64 (44%)	43 (30%)	6 (4%)	20 (14%)	144
	第6期	51 (40%)	44 (35%)	3 (2%)	17 (13%)	126
	第7期	49 (41%)	40 (33%)	3 (3%)	21 (18%)	120
内 部 障 害	第1期	44 (60%)	17 (23%)	15 (21%)	—	73
	第2期	34 (56%)	18 (30%)	7 (11%)	—	61
	第3期	64 (63%)	35 (35%)	6 (6%)	—	101
	第4期	52 (57%)	23 (25%)	6 (7%)	—	92
	第5期	41 (51%)	23 (29%)	0 (0%)	15 (19%)	80
	第6期	35 (51%)	19 (28%)	0 (0%)	16 (24%)	68
	第7期	31 (52%)	19 (32%)	0 (0%)	13 (22%)	60
知 的 障 害	第1期	39 (20%)	44 (22%)	11 (6%)	—	198
	第2期	35 (21%)	33 (20%)	12 (7%)	—	168
	第3期	47 (20%)	53 (22%)	11 (5%)	—	237
	第4期	52 (27%)	54 (28%)	3 (2%)	—	193
	第5期	53 (30%)	58 (33%)	2 (1%)	16 (9%)	177
	第6期	45 (27%)	50 (30%)	1 (1%)	20 (12%)	167
	第7期	42 (27%)	62 (41%)	3 (2%)	13 (8%)	153
精 神 障 害	第1期	41 (49%)	23 (28%)	4 (5%)	—	83
	第2期	30 (48%)	13 (21%)	7 (11%)	—	63
	第3期	36 (38%)	20 (21%)	5 (5%)	—	94
	第4期	44 (52%)	19 (22%)	4 (5%)	—	85
	第5期	44 (63%)	21 (30%)	4 (6%)	6 (9%)	70
	第6期	42 (59%)	17 (24%)	3 (4%)	10 (14%)	71
	第7期	36 (56%)	26 (41%)	0 (0%)	7 (11%)	64
計	第1期	269 (32%)	197 (23%)	85 (10%)	—	839
	第2期	213 (32%)	141 (21%)	69 (11%)	—	657
	第3期	270 (32%)	200 (24%)	53 (6%)	—	842
	第4期	262 (35%)	194 (26%)	37 (5%)	—	740
	第5期	251 (38%)	199 (30%)	19 (3%)	82 (12%)	660
	第6期	216 (36%)	166 (28%)	13 (2%)	86 (14%)	597
	第7期	202 (35%)	186 (32%)	14 (2%)	77 (13%)	577

※「特にない」は第4期前期調査以前の選択肢には存在しないため、第4期の集計には計上していない。
またこれにより「特にない」と「無回答」を区別できないため「無回答」の掲載はしていない。

22 実際に得られている配慮

第4期から調査回答者のうち就労者の質問項目に職場で実際にある理解や配慮を追加した。調査回答者のうち就労者の現在の職場で実際に理解や配慮が得られている事柄への回答を集計した結果を表2-48及び図2-7から図2-14に示す。

障害種類別で最も割合の高かった配慮は、視覚障害は「作業を容易にする機器や設備を改善すること」、聴覚障害は「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」、肢体不自由は「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」、内部障害は「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」、知的障害は「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」、精神障害は「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」だった。

表2-48 実際に得られている配慮（複数回答）（単位：人）※次ページへ続く

		作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること	作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること	作業を容易にする機器や設備を改善すること	通勤の便宜を図ること	仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること	体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
視覚障害	第4期	13 (19%)	10 (14%)	21 (30%)	13 (19%)	10 (14%)	11 (16%)
	第5期	18 (28%)	12 (19%)	25 (39%)	6 (9%)	12 (19%)	17 (27%)
	第6期	12 (24%)	9 (18%)	23 (45%)	10 (20%)	12 (24%)	8 (16%)
	第7期	16 (29%)	8 (15%)	26 (47%)	6 (11%)	12 (22%)	8 (15%)
聴覚障害	第4期	46 (36%)	16 (12%)	13 (10%)	5 (4%)	49 (38%)	19 (15%)
	第5期	54 (50%)	24 (22%)	18 (17%)	4 (4%)	50 (46%)	23 (21%)
	第6期	47 (45%)	11 (11%)	14 (13%)	5 (5%)	47 (45%)	21 (20%)
	第7期	52 (48%)	13 (12%)	16 (15%)	4 (4%)	49 (45%)	16 (15%)
肢体不自由	第4期	40 (30%)	49 (37%)	27 (20%)	33 (25%)	26 (20%)	47 (36%)
	第5期	26 (24%)	36 (33%)	29 (26%)	33 (30%)	21 (19%)	45 (41%)
	第6期	29 (30%)	33 (34%)	19 (19%)	25 (26%)	15 (15%)	36 (37%)
	第7期	23 (26%)	27 (31%)	21 (24%)	27 (31%)	20 (23%)	27 (31%)
内部障害	第4期	10 (11%)	13 (15%)	2 (2%)	10 (11%)	8 (9%)	42 (48%)
	第5期	10 (15%)	12 (18%)	2 (3%)	9 (13%)	6 (9%)	32 (48%)
	第6期	8 (14%)	11 (19%)	2 (3%)	7 (12%)	3 (5%)	26 (45%)
	第7期	7 (13%)	9 (17%)	3 (6%)	7 (13%)	4 (7%)	26 (48%)
知的障害	第4期	88 (52%)	58 (34%)	29 (17%)	24 (14%)	57 (34%)	34 (20%)
	第5期	100 (65%)	71 (46%)	39 (25%)	35 (23%)	74 (48%)	47 (30%)
	第6期	92 (64%)	61 (42%)	20 (14%)	23 (16%)	62 (43%)	31 (22%)
	第7期	84 (68%)	55 (45%)	18 (15%)	19 (15%)	61 (50%)	26 (21%)
精神障害	第4期	28 (43%)	29 (45%)	6 (9%)	5 (8%)	17 (26%)	31 (48%)
	第5期	26 (50%)	22 (42%)	7 (13%)	7 (13%)	12 (23%)	21 (40%)
	第6期	17 (32%)	18 (34%)	4 (8%)	6 (11%)	12 (23%)	26 (49%)
	第7期	25 (56%)	19 (42%)	4 (9%)	3 (7%)	13 (29%)	19 (42%)
計	第4期	225 (35%)	175 (27%)	98 (15%)	90 (14%)	167 (26%)	184 (28%)
	第5期	234 (42%)	177 (32%)	120 (22%)	94 (17%)	175 (31%)	185 (33%)
	第6期	205 (40%)	143 (28%)	82 (16%)	76 (15%)	151 (30%)	148 (29%)
	第7期	207 (44%)	131 (28%)	88 (19%)	66 (14%)	159 (34%)	122 (26%)

表2-48 実際に得られている配慮（複数回答）（単位：人） ※前ページからの続き

		安全や健康管理に 特別の配慮を すること	その他	特にない	無回答	集計数
視覚障害	第4期	6 (9%)	5 (7%)	9 (13%)	15 (21%)	70
	第5期	11 (17%)	1 (2%)	18 (28%)	5 (8%)	64
	第6期	8 (16%)	3 (6%)	9 (18%)	4 (8%)	51
	第7期	6 (11%)	1 (2%)	17 (31%)	4 (7%)	55
聴覚障害	第4期	15 (12%)	8 (6%)	18 (14%)	14 (11%)	129
	第5期	20 (19%)	2 (2%)	20 (19%)	0 (0%)	108
	第6期	17 (16%)	3 (3%)	22 (21%)	1 (1%)	104
	第7期	18 (17%)	9 (8%)	21 (19%)	3 (3%)	108
肢体不自由	第4期	37 (28%)	7 (5%)	22 (17%)	8 (6%)	132
	第5期	30 (27%)	2 (2%)	29 (26%)	2 (2%)	110
	第6期	24 (24%)	2 (2%)	24 (24%)	2 (2%)	98
	第7期	30 (34%)	0 (0%)	19 (22%)	0 (0%)	87
内部障害	第4期	22 (25%)	6 (7%)	18 (21%)	9 (10%)	87
	第5期	21 (31%)	1 (1%)	22 (33%)	2 (3%)	67
	第6期	9 (16%)	0 (0%)	22 (38%)	1 (2%)	58
	第7期	11 (20%)	0 (0%)	21 (39%)	2 (4%)	54
知的障害	第4期	47 (28%)	0 (0%)	9 (5%)	33 (20%)	169
	第5期	48 (31%)	1 (1%)	21 (14%)	4 (3%)	155
	第6期	43 (30%)	1 (1%)	17 (12%)	6 (4%)	144
	第7期	40 (33%)	1 (1%)	10 (8%)	5 (4%)	123
精神障害	第4期	14 (22%)	6 (9%)	10 (15%)	5 (8%)	65
	第5期	13 (25%)	0 (0%)	11 (21%)	0 (0%)	52
	第6期	11 (21%)	4 (8%)	11 (21%)	0 (0%)	53
	第7期	9 (20%)	0 (0%)	11 (24%)	1 (2%)	45
計	第4期	141 (22%)	32 (5%)	86 (13%)	84 (13%)	652
	第5期	143 (26%)	7 (1%)	121 (22%)	13 (2%)	556
	第6期	112 (22%)	13 (3%)	105 (21%)	14 (3%)	508
	第7期	114 (24%)	11 (2%)	99 (21%)	15 (3%)	472

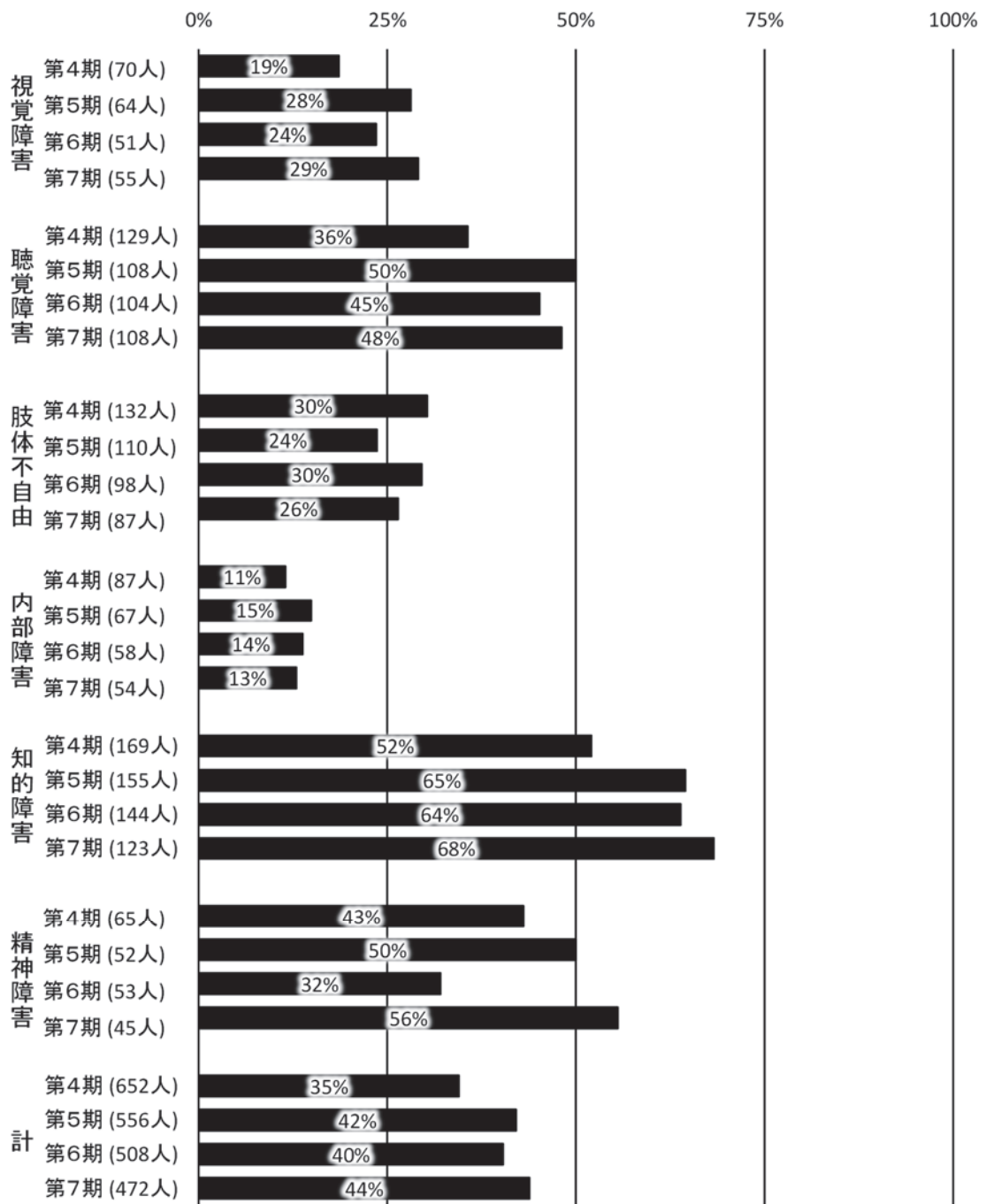


図2-7 実際に得られている配慮「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」(複数回答)

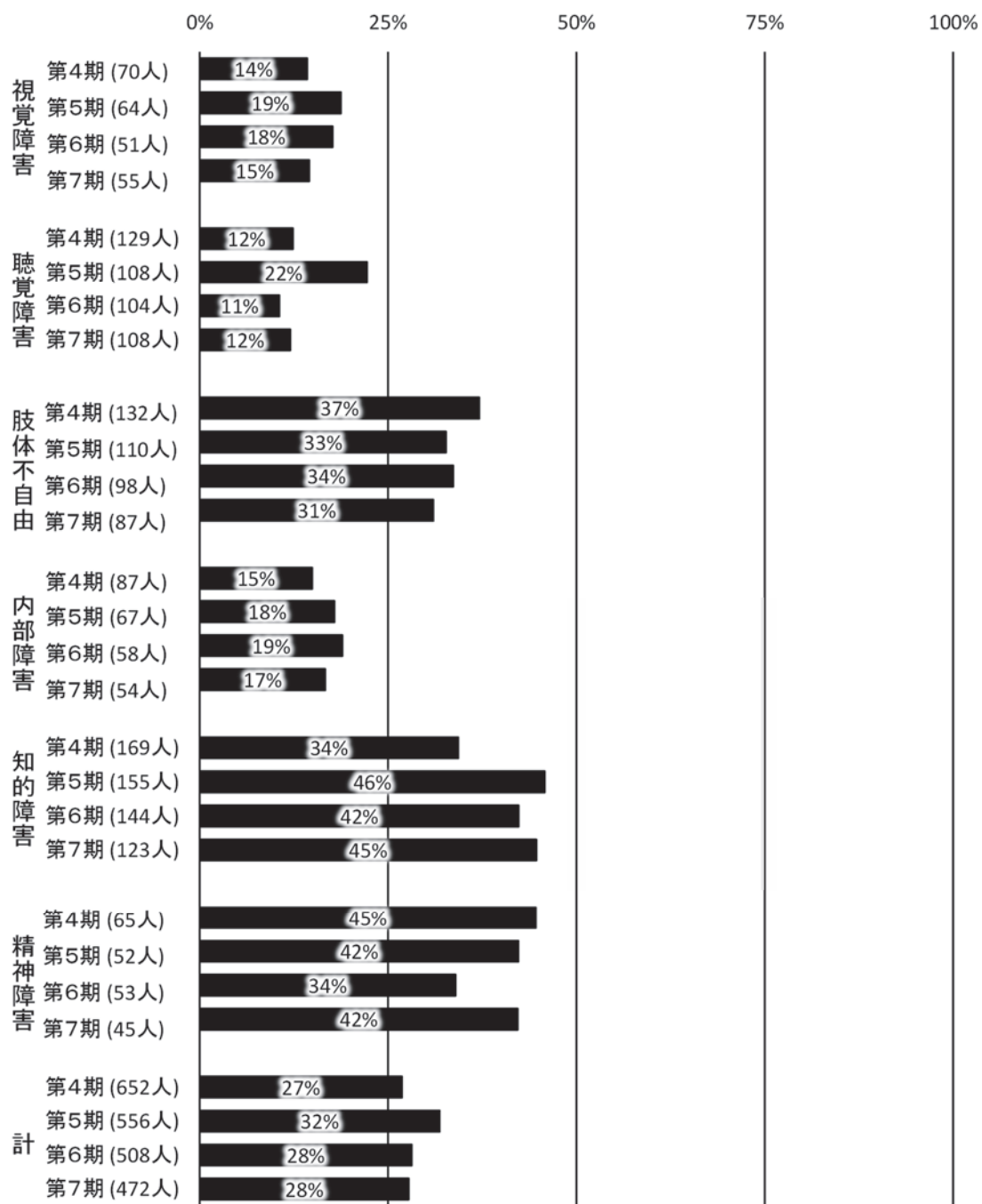


図2-8 実際に得られている配慮「作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること」(複数回答)

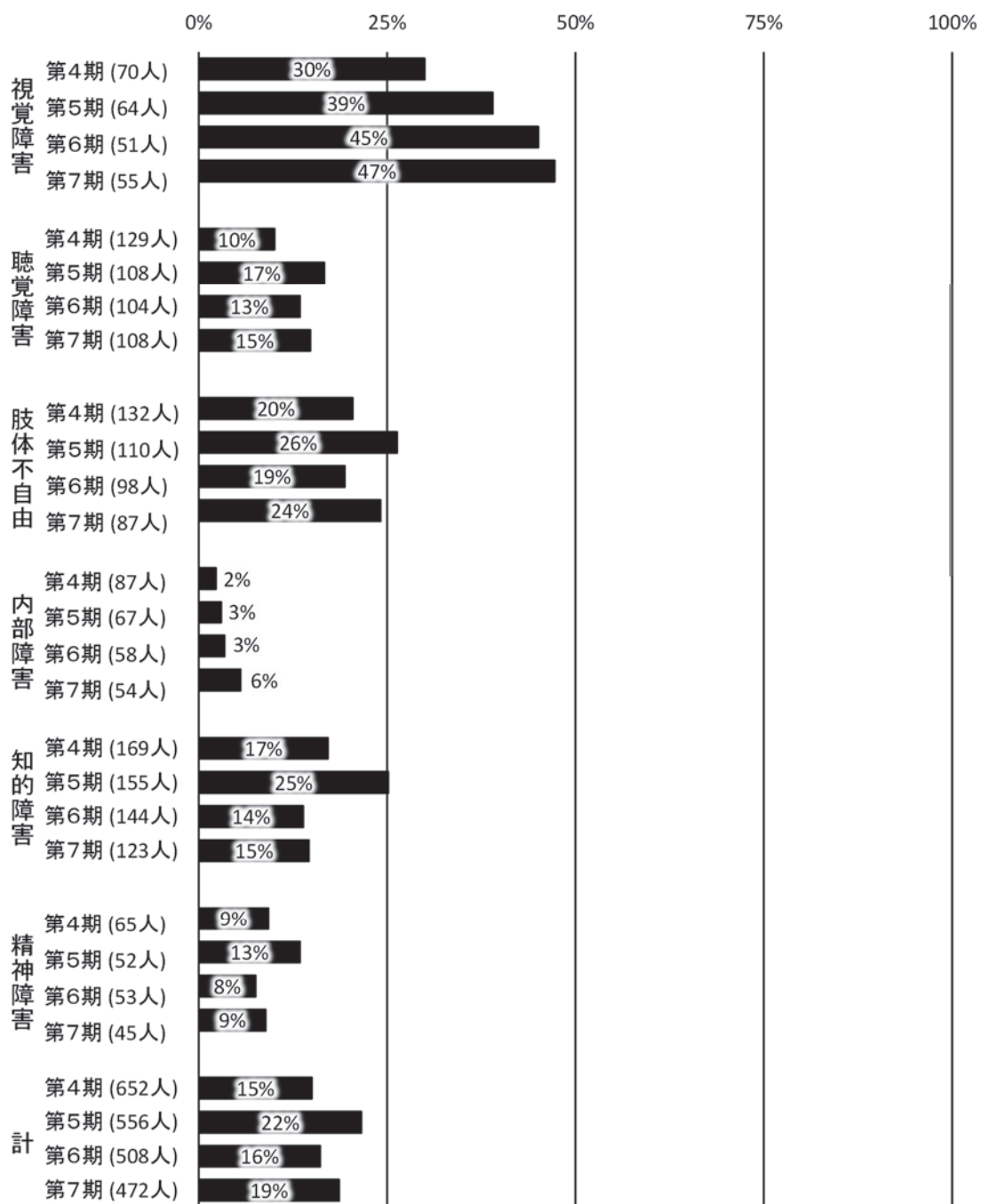


図2-9 実際に得られている配慮「作業を容易にする機器や設備を改善すること」(複数回答)

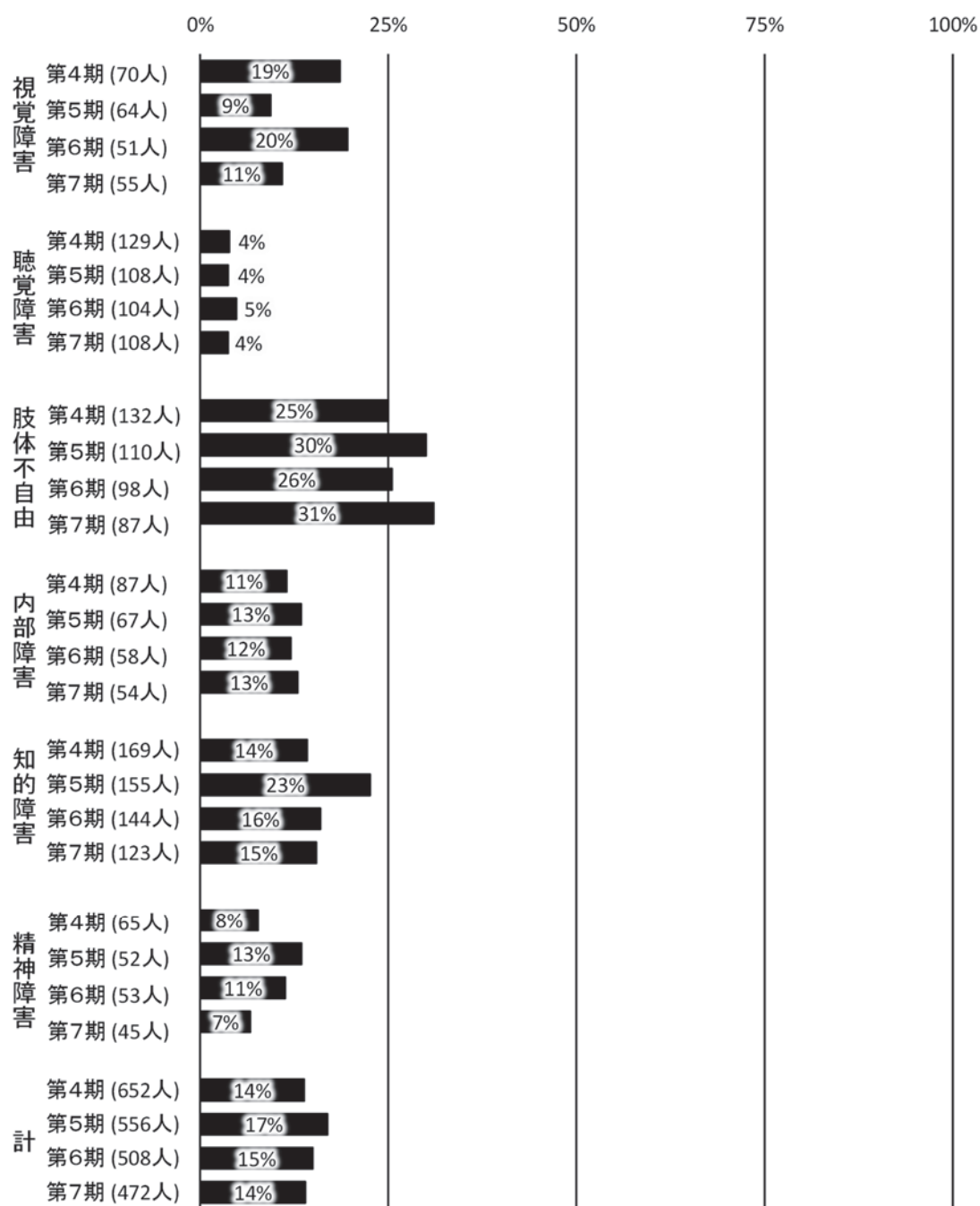


図2-10 実際に得られている配慮「通勤の便宜を図ること」(複数回答)

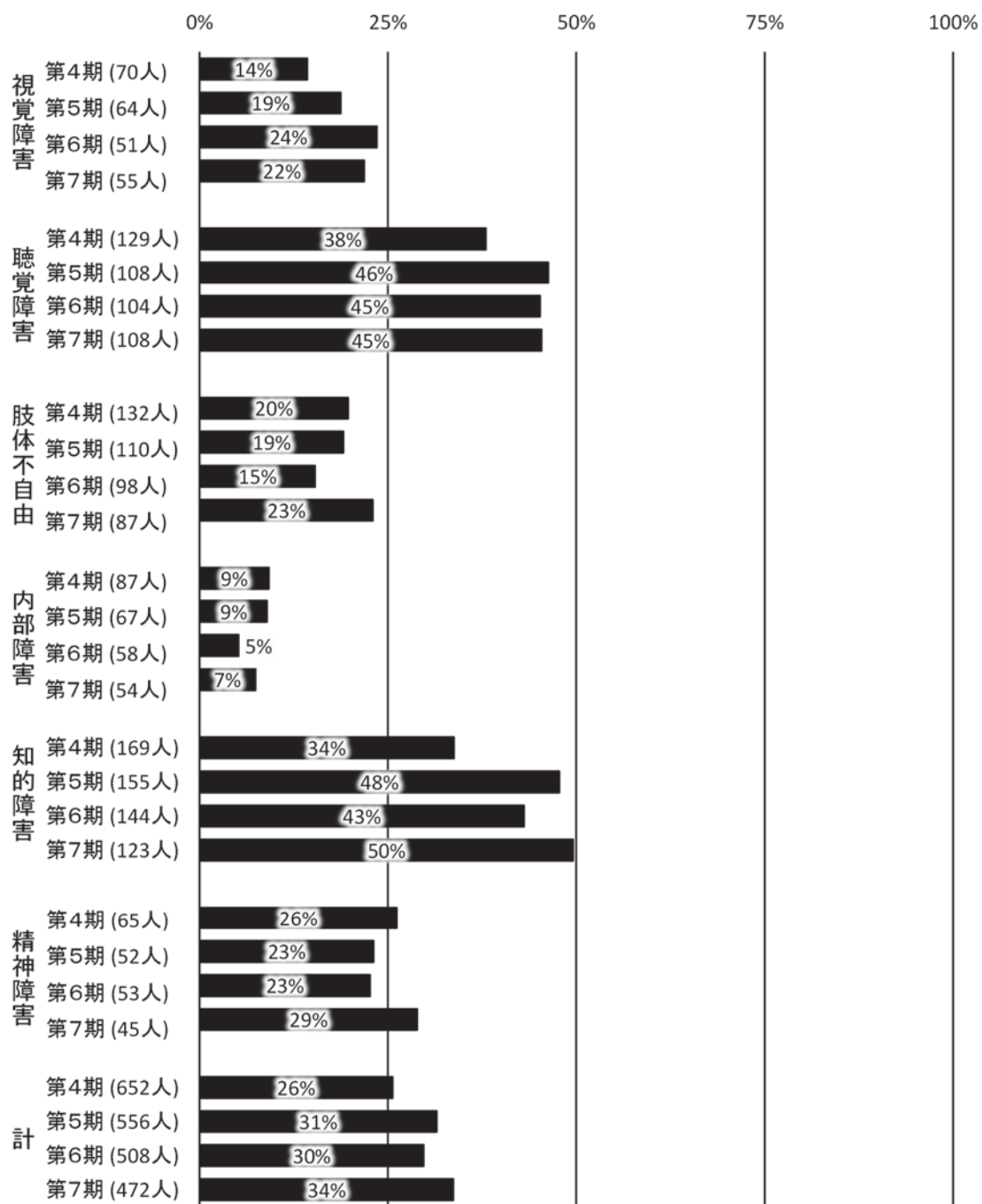


図 2-11 実際に得られている配慮「仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること」(複数回答)

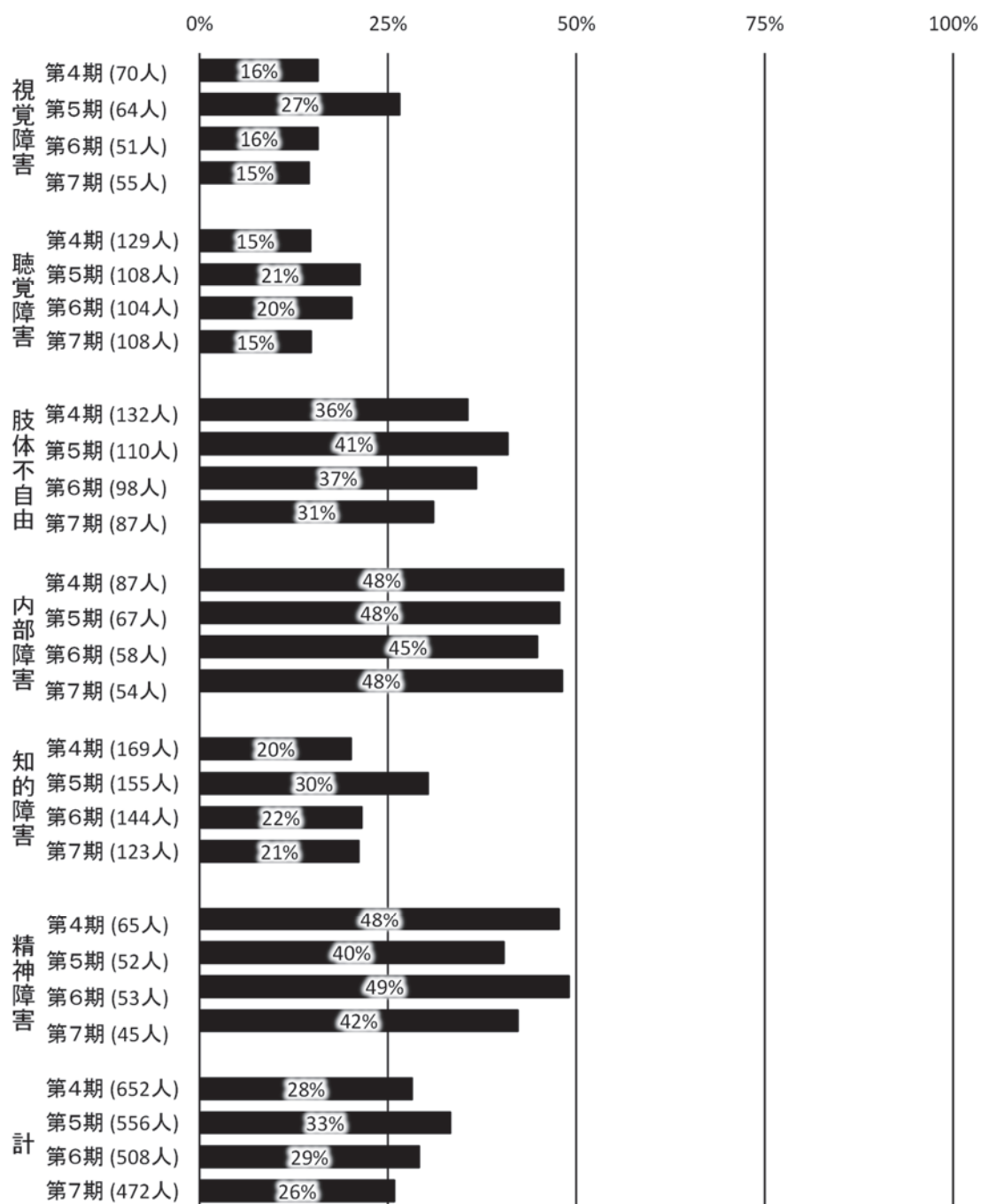


図2-12 実際に得られている配慮「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」(複数回答)

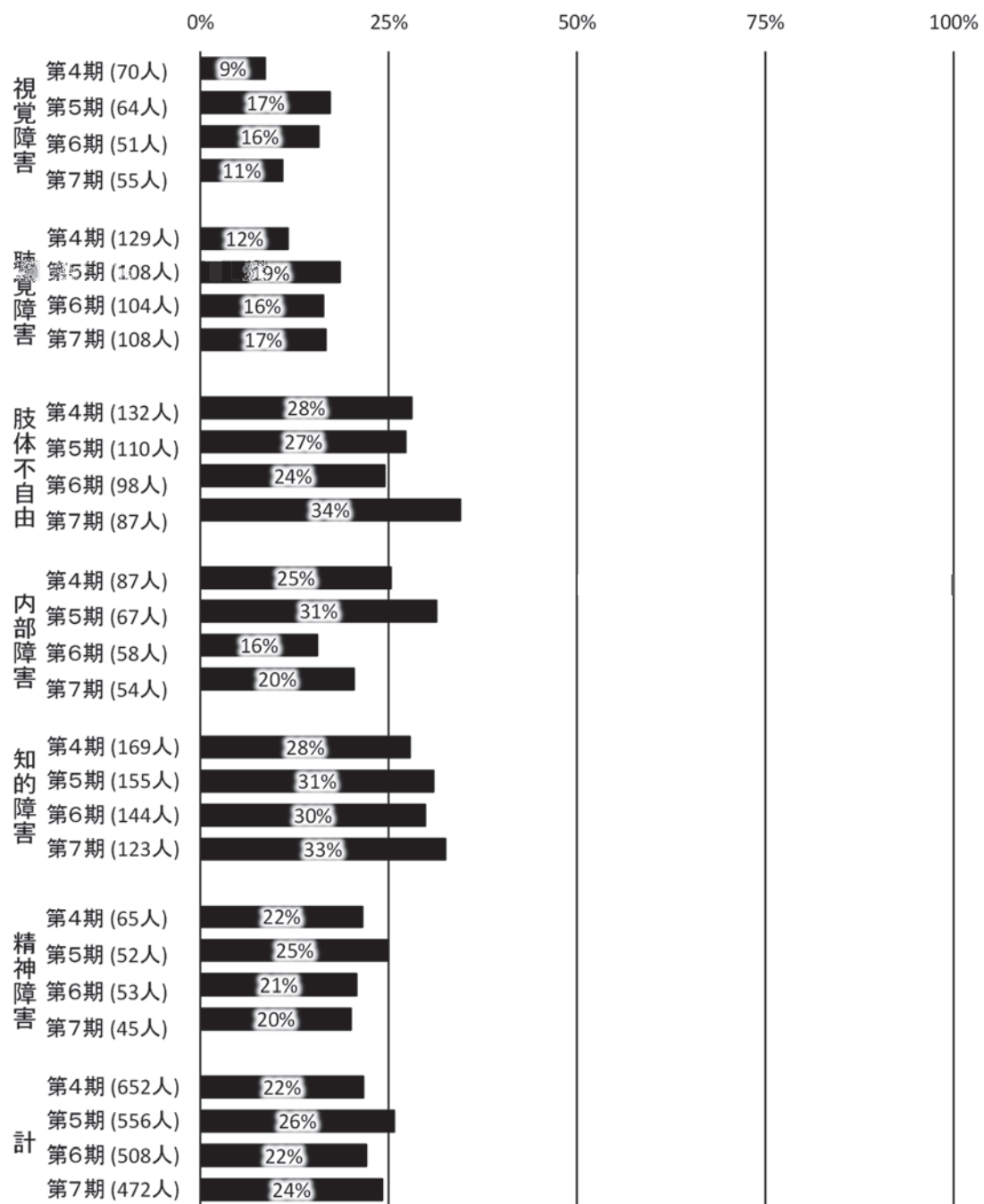


図2-13 実際に得られている配慮「安全や健康管理に特別の配慮をすること」(複数回答)

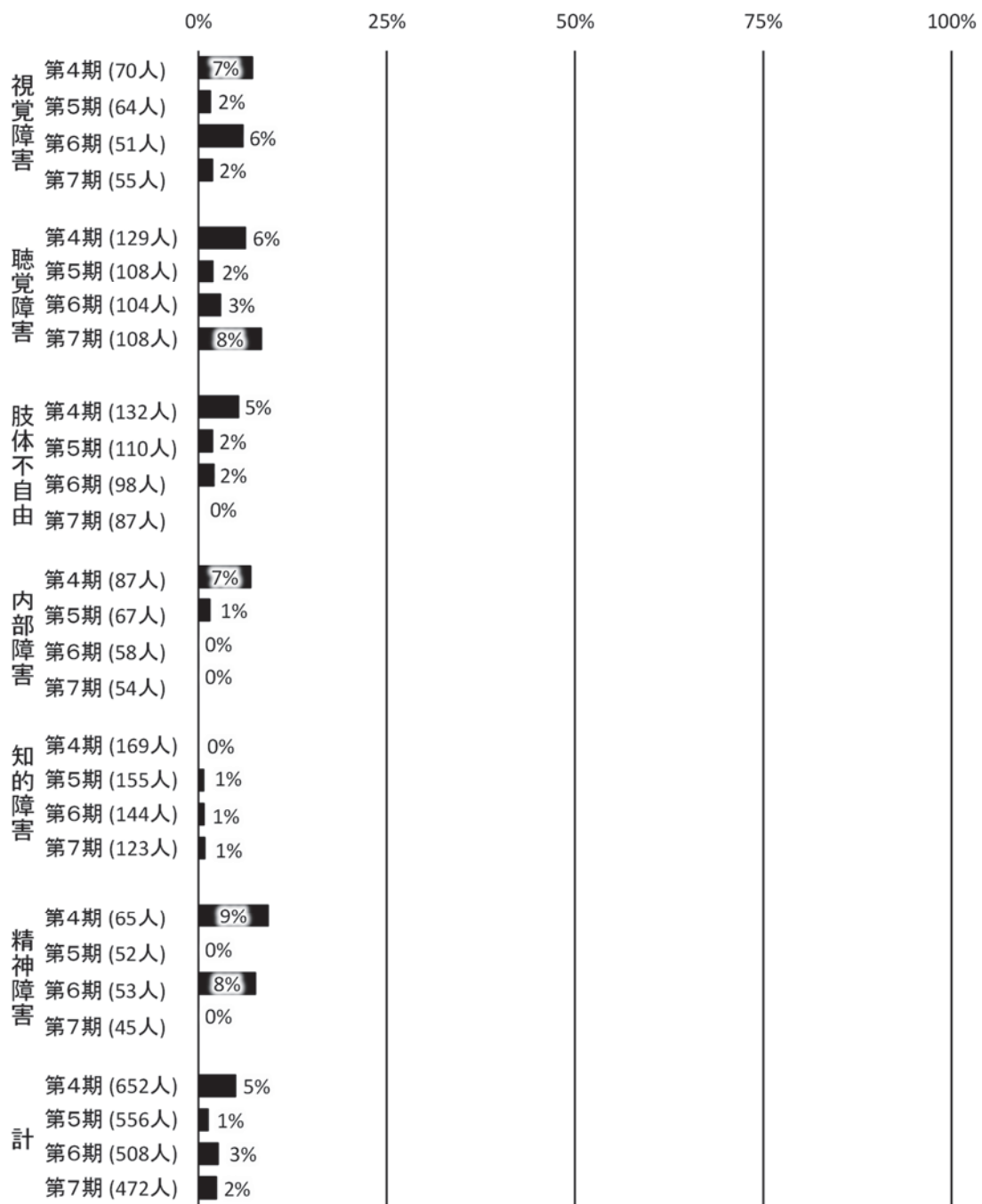


図 2-14 実際に得られている配慮（「その他」複数回答）

23 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会

調査研究委員会の議論を踏まえて、合理的配慮の提供が義務化された第5期から、雇用分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供に当たり、最初の取組である「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の有無」について調査項目に追加した。第5期から第7期の調査回答者のうち就労者に確認した結果を表2-49に、第5期から第7期まですべて回答した者の結果を図2-15に示す。

調査回答者のうち就労者の、合理的配慮の取組の第1歩である話合いの機会があった（「今までと同じように確認や話合いの機会があった」と「新たに確認や話合いの機会があった」）者の割合は、回答者全体でみると、障害種類にかかわらず第5期から第7期まで増えており、第5期から第7期まですべて回答した者においても増えていた。

表2-49 2016年4月以降の職場で支障となっていることの確認や話合いの機会（単位：人）

		今までと同じように 確認や話合いの 機会があった	新たに 確認や話合いの 機会があった	確認や話合いの 機会はまだない	よくわからない	無回答	計
視覚障害	第5期	16 (25%)	3 (5%)	27 (42%)	11 (17%)	7 (11%)	64 (100%)
	第6期	23 (45%)	1 (2%)	14 (27%)	6 (12%)	7 (14%)	51 (100%)
	第7期	22 (40%)	5 (9%)	11 (20%)	9 (16%)	8 (15%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	44 (41%)	16 (15%)	39 (36%)	6 (6%)	3 (3%)	108 (100%)
	第6期	52 (50%)	14 (13%)	26 (25%)	8 (8%)	4 (4%)	104 (100%)
	第7期	48 (44%)	28 (26%)	13 (12%)	13 (12%)	6 (6%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	30 (27%)	7 (6%)	50 (45%)	16 (15%)	7 (6%)	110 (100%)
	第6期	42 (43%)	11 (11%)	24 (24%)	17 (17%)	4 (4%)	98 (100%)
	第7期	45 (52%)	11 (13%)	19 (22%)	11 (13%)	1 (1%)	87 (100%)
内部障害	第5期	15 (22%)	5 (7%)	37 (55%)	7 (10%)	3 (4%)	67 (100%)
	第6期	18 (31%)	5 (9%)	22 (38%)	8 (14%)	5 (9%)	58 (100%)
	第7期	20 (37%)	6 (11%)	14 (26%)	11 (20%)	3 (6%)	54 (100%)
知的障害	第5期	53 (34%)	11 (7%)	35 (23%)	51 (33%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	56 (39%)	11 (8%)	19 (13%)	52 (36%)	6 (4%)	144 (100%)
	第7期	58 (47%)	10 (8%)	16 (13%)	32 (26%)	7 (6%)	123 (100%)
精神障害	第5期	12 (23%)	11 (21%)	20 (38%)	8 (15%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	21 (40%)	8 (15%)	15 (28%)	9 (17%)	0 (0%)	53 (100%)
	第7期	21 (47%)	6 (13%)	9 (20%)	8 (18%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第5期	170 (31%)	53 (10%)	208 (37%)	99 (18%)	26 (5%)	556 (100%)
	第6期	212 (42%)	50 (10%)	120 (24%)	100 (20%)	26 (5%)	508 (100%)
	第7期	214 (45%)	66 (14%)	82 (17%)	84 (18%)	26 (6%)	472 (100%)

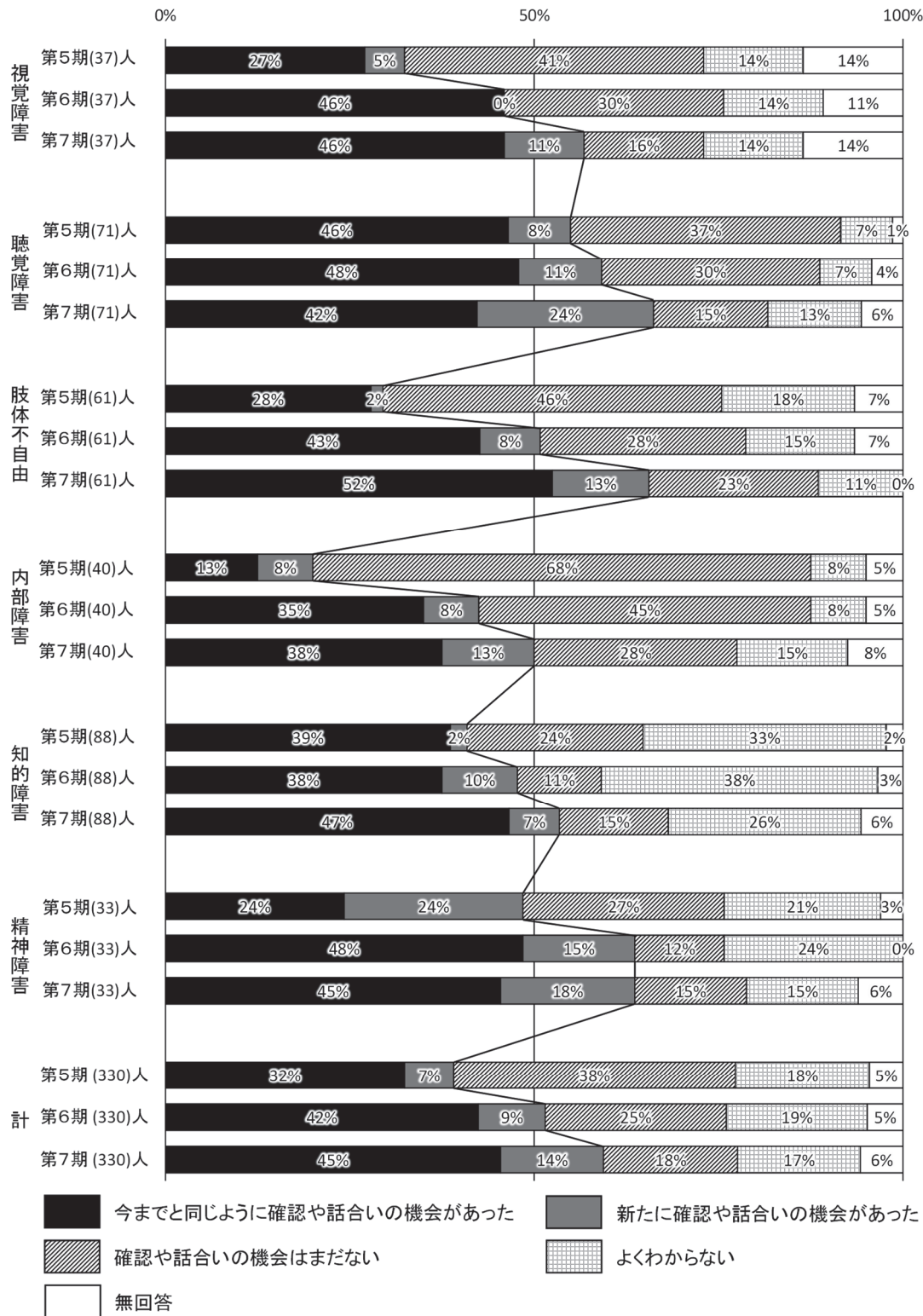


図2-15 第5期から第7期まですべて回答した者の、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会

24 就労していない者の過去2年間の就労経験

調査回答者のうち就労していない者で、1つ前の調査以降の2年間に仕事を辞めた経験のある者の結果を表2-50に示す。

表2-50 就労していない者の過去2年間の就労経験（単位：人）

		就労経験 あり	就労経験 なし	無回答	計
視覚 障害	第1期	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)
	第2期	4 (67%)	0 (0%)	2 (33%)	6 (100%)
	第3期	4 (67%)	2 (33%)	0 (0%)	6 (100%)
	第4期	2 (50%)	2 (50%)	0 (0%)	4 (100%)
	第5期	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	5 (100%)
	第6期	4 (67%)	2 (33%)	0 (0%)	6 (100%)
	第7期	4 (67%)	2 (33%)	0 (0%)	6 (100%)
聴覚 障害	第1期	2 (33%)	4 (67%)	0 (0%)	6 (100%)
	第2期	2 (25%)	3 (38%)	3 (38%)	8 (100%)
	第3期	6 (67%)	3 (33%)	0 (0%)	9 (100%)
	第4期	7 (70%)	3 (30%)	0 (0%)	10 (100%)
	第5期	5 (45%)	3 (27%)	3 (27%)	11 (100%)
	第6期	0 (0%)	4 (100%)	0 (0%)	4 (100%)
	第7期	4 (36%)	7 (64%)	0 (0%)	11 (100%)
肢体 不 自由	第1期	16 (76%)	4 (19%)	1 (5%)	21 (100%)
	第2期	7 (35%)	1 (5%)	12 (60%)	20 (100%)
	第3期	14 (67%)	7 (33%)	0 (0%)	21 (100%)
	第4期	6 (35%)	11 (65%)	0 (0%)	17 (100%)
	第5期	13 (41%)	16 (50%)	3 (9%)	32 (100%)
	第6期	8 (29%)	19 (68%)	1 (4%)	28 (100%)
	第7期	10 (30%)	23 (70%)	0 (0%)	33 (100%)
内部 障害	第1期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
	第2期	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
	第3期	4 (80%)	1 (20%)	0 (0%)	5 (100%)
	第4期	3 (75%)	0 (0%)	1 (25%)	4 (100%)
	第5期	8 (67%)	2 (17%)	2 (17%)	12 (100%)
	第6期	6 (60%)	4 (40%)	0 (0%)	10 (100%)
	第7期	1 (17%)	5 (83%)	0 (0%)	6 (100%)
知的 障害	第1期	6 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (100%)
	第2期	8 (62%)	0 (0%)	5 (38%)	13 (100%)
	第3期	12 (67%)	2 (11%)	4 (22%)	18 (100%)
	第4期	7 (41%)	8 (47%)	2 (12%)	17 (100%)
	第5期	7 (33%)	10 (48%)	4 (19%)	21 (100%)
	第6期	5 (22%)	13 (57%)	5 (22%)	23 (100%)
	第7期	15 (50%)	14 (47%)	1 (3%)	30 (100%)
精神 障害	第1期	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)
	第2期	5 (45%)	3 (27%)	3 (27%)	11 (100%)
	第3期	8 (73%)	3 (27%)	0 (0%)	11 (100%)
	第4期	11 (61%)	7 (39%)	0 (0%)	18 (100%)
	第5期	9 (53%)	6 (35%)	2 (12%)	17 (100%)
	第6期	7 (39%)	9 (50%)	2 (11%)	18 (100%)
	第7期	9 (47%)	10 (53%)	0 (0%)	19 (100%)
計	第1期	29 (74%)	9 (23%)	1 (3%)	39 (100%)
	第2期	27 (46%)	7 (12%)	25 (42%)	59 (100%)
	第3期	48 (69%)	18 (26%)	4 (6%)	70 (100%)
	第4期	36 (51%)	31 (44%)	3 (4%)	70 (100%)
	第5期	45 (46%)	39 (40%)	14 (14%)	98 (100%)
	第6期	30 (34%)	51 (57%)	8 (9%)	89 (100%)
	第7期	43 (41%)	61 (58%)	1 (1%)	105 (100%)

25 仕事を辞めた理由

調査回答者のうち就労していない者で、1つ前の調査以降の2年間に仕事を辞めた経験のある者にその理由を確認した。理由別の人数を集計した結果を表2-51に示す。

また、仕事を辞めた理由について、選択肢「自分の都合」を選んだ回答者にその詳細を複数回答により確認した。集計結果を表2-52に示す。

第7期において、離職理由は全体でみると自分の都合が約5割と最も多く、その詳細は障害種類により差はあるが、「仕事内容が合わなかった」「体調不良」「体力的にきつくなった」「職場の雰囲気・人間関係」が多く選択されていた。

表2-51 仕事を辞めた理由（単位：人）

	事業主の都合	定年退職	定年後の再雇用終了	契約期間満了	休職期間満了	自分の都合	その他	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (75%)	1 (25%)	0 (0%)	4 (100%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)
	第5期	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
	第7期	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
聴覚障害	第1期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)
	第3期	1 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (83%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (100%)
	第4期	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (86%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (100%)
	第5期	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (60%)	1 (20%)	0 (0%)	5 (100%)
	第6期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	2 (50%)	1 (25%)	0 (0%)	4 (100%)
肢体不自由	第1期	5 (31%)	0 (0%)	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)	9 (56%)	0 (0%)	0 (0%)	16 (100%)
	第2期	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (57%)	1 (14%)	0 (0%)	7 (100%)
	第3期	2 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (21%)	0 (0%)	9 (64%)	0 (0%)	0 (0%)	14 (100%)
	第4期	1 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	3 (50%)	0 (0%)	1 (17%)	6 (100%)
	第5期	1 (8%)	2 (15%)	0 (0%)	1 (8%)	0 (0%)	7 (54%)	2 (15%)	0 (0%)	13 (100%)
	第6期	1 (13%)	4 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (13%)	2 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (100%)
	第7期	1 (10%)	2 (20%)	0 (0%)	2 (20%)	0 (0%)	4 (40%)	1 (10%)	0 (0%)	10 (100%)
内部障害	第1期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	3 (75%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
	第4期	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)
	第5期	0 (0%)	1 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (75%)	1 (13%)	0 (0%)	8 (100%)
	第6期	0 (0%)	2 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (100%)
	第7期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
知的障害	第1期	1 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)	1 (17%)	0 (0%)	6 (100%)
	第2期	3 (38%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (13%)	0 (0%)	4 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (100%)
	第3期	2 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (25%)	0 (0%)	5 (42%)	2 (17%)	0 (0%)	12 (100%)
	第4期	5 (71%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (14%)	1 (14%)	0 (0%)	7 (100%)
	第5期	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (29%)	2 (29%)	1 (14%)	7 (100%)
	第6期	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (100%)
	第7期	5 (33%)	1 (7%)	1 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (53%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
精神障害	第1期	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	3 (100%)
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	3 (60%)	1 (20%)	0 (0%)	5 (100%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (13%)	7 (88%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (100%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (18%)	9 (82%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (100%)
	第5期	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (89%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (100%)
	第6期	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (86%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (100%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11%)	1 (11%)	6 (67%)	1 (11%)	0 (0%)	9 (100%)
計	第1期	8 (28%)	0 (0%)	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)	15 (52%)	2 (7%)	0 (0%)	29 (100%)
	第2期	5 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (7%)	0 (0%)	17 (63%)	3 (11%)	0 (0%)	27 (100%)
	第3期	5 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (15%)	1 (2%)	33 (69%)	2 (4%)	0 (0%)	48 (100%)
	第4期	9 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	2 (6%)	22 (61%)	1 (3%)	0 (0%)	36 (100%)
	第5期	4 (9%)	5 (11%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	28 (62%)	6 (13%)	1 (2%)	45 (100%)
	第6期	4 (13%)	6 (20%)	0 (0%)	3 (10%)	1 (3%)	16 (53%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
	第7期	6 (14%)	5 (12%)	1 (2%)	5 (12%)	1 (2%)	22 (51%)	3 (7%)	0 (0%)	43 (100%)

※「定年退職」は第1期前期調査では選択肢に設けていない。「定年後の再雇用終了」は第1期前期調査、第2期前期調査及び第3期前期調査では選択肢に設けていない。

表2-52 「自分の都合」の詳細（複数回答）（単位：人）※次ページへ続く

		仕事内容が 合わなかった	賃金、労働条件に 不満があった	職場の雰囲気・ 人間関係	体調不良	体力的に きつくなった	結婚
視覚障害	第1期	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)
	第2期	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)	1 (50%)	0 (0%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)
聴覚障害	第1期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第2期	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	1 (33%)	1 (33%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
肢体不自由	第1期	3 (33%)	1 (11%)	6 (67%)	4 (44%)	1 (11%)	0 (0%)
	第2期	2 (50%)	0 (0%)	3 (75%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	1 (11%)	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	3 (43%)	0 (0%)	3 (43%)	2 (29%)	3 (43%)	0 (0%)
	第6期	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	2 (50%)	1 (25%)	0 (0%)
内部障害	第1期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第2期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	2 (33%)	3 (50%)	2 (33%)	0 (0%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	4 (100%)	1 (25%)	0 (0%)
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
知的障害	第1期	0 (0%)	1 (33%)	2 (67%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	3 (75%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	2 (40%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)
	第6期	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)	1 (50%)	0 (0%)
	第7期	3 (38%)	1 (13%)	2 (25%)	3 (38%)	2 (25%)	0 (0%)
精神障害	第1期	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第2期	2 (67%)	1 (33%)	2 (67%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	2 (29%)	4 (57%)	0 (0%)	0 (0%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	4 (50%)	2 (25%)	3 (38%)	6 (75%)	2 (25%)	0 (0%)
	第6期	3 (50%)	1 (17%)	3 (50%)	4 (67%)	4 (67%)	0 (0%)
	第7期	1 (17%)	0 (0%)	1 (17%)	4 (67%)	1 (17%)	1 (17%)
計	第1期	4 (27%)	2 (13%)	10 (67%)	6 (40%)	2 (13%)	0 (0%)
	第2期	6 (35%)	3 (18%)	10 (59%)	8 (47%)	0 (0%)	0 (0%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	6 (18%)	8 (24%)	0 (0%)	0 (0%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	10 (36%)	4 (14%)	11 (39%)	15 (54%)	9 (32%)	0 (0%)
	第6期	4 (25%)	2 (13%)	7 (44%)	11 (69%)	8 (50%)	0 (0%)
	第7期	4 (18%)	1 (5%)	4 (18%)	9 (41%)	5 (23%)	1 (5%)

表2-52 「自分の都合」の詳細（複数回答）（単位：人） ※前ページからの続き

	出産	家庭等の事情 (介護など)	その他	わからない	無回答	集計数	
視覚障害	第1期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第3期	1 (25%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	4
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第5期	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第6期	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2
聴覚障害	第1期	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	1 (20%)	5
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
	第5期	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
	第7期	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2
肢体不自由	第1期	0 (0%)	2 (22%)	2 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	9
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	9
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第5期	0 (0%)	2 (29%)	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	7
	第6期	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第7期	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
内部障害	第1期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第5期	0 (0%)	3 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
知的障害	第1期	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	4
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	2 (25%)	1 (13%)	0 (0%)	8
精神障害	第1期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	7
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	9
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	1 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	8
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	2 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	6
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	6
計	第1期	0 (0%)	2 (13%)	4 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	15
	第2期	0 (0%)	0 (0%)	4 (24%)	0 (0%)	0 (0%)	17
	第3期	1 (3%)	0 (0%)	5 (15%)	0 (0%)	1 (3%)	33
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	22
	第5期	0 (0%)	7 (25%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	28
	第6期	0 (0%)	3 (19%)	5 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	16
	第7期	1 (5%)	1 (5%)	5 (23%)	1 (5%)	0 (0%)	22

26 今後の仕事についての考え

調査回答者のうち就労していない者の、今後の仕事への考えを表2-53に示す。なお、第7期と同じ調査項目で前期調査・後期調査とも調査実施した第5期以降の結果のみ掲載している。

「今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている」「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」の回答が多く、「現在、就職活動をしている」割合は比較的少なかった。

表2-53 今後の仕事についての考え（単位：人）

		現在、就職活動をしている	今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている	今後、仕事をするかどうか、今は決められない	職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない	無回答	計
視覚障害	第5期	1 (20%)	2 (40%)	1 (20%)	1 (20%)	0 (0%)	5 (100%)
	第6期	1 (17%)	3 (50%)	1 (17%)	1 (17%)	0 (0%)	6 (100%)
	第7期	0 (0%)	2 (33%)	1 (17%)	2 (33%)	1 (17%)	6 (100%)
聴覚障害	第5期	3 (27%)	3 (27%)	1 (9%)	1 (9%)	3 (27%)	11 (100%)
	第6期	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	4 (100%)
	第7期	2 (18%)	5 (45%)	1 (9%)	3 (27%)	0 (0%)	11 (100%)
肢体不自由	第5期	9 (28%)	6 (19%)	6 (19%)	8 (25%)	3 (9%)	32 (100%)
	第6期	3 (11%)	4 (14%)	5 (18%)	12 (43%)	4 (14%)	28 (100%)
	第7期	6 (18%)	6 (18%)	4 (12%)	15 (45%)	2 (6%)	33 (100%)
内部障害	第5期	4 (33%)	2 (17%)	2 (17%)	2 (17%)	2 (17%)	12 (100%)
	第6期	2 (20%)	0 (0%)	1 (10%)	7 (70%)	0 (0%)	10 (100%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	5 (83%)	0 (0%)	6 (100%)
知的障害	第5期	4 (19%)	4 (19%)	2 (10%)	3 (14%)	8 (38%)	21 (100%)
	第6期	7 (30%)	4 (17%)	3 (13%)	3 (13%)	6 (26%)	23 (100%)
	第7期	4 (13%)	8 (27%)	11 (37%)	3 (10%)	4 (13%)	30 (100%)
精神障害	第5期	6 (35%)	7 (41%)	1 (6%)	2 (12%)	1 (6%)	17 (100%)
	第6期	3 (17%)	9 (50%)	3 (17%)	1 (6%)	2 (11%)	18 (100%)
	第7期	3 (16%)	9 (47%)	5 (26%)	1 (5%)	1 (5%)	19 (100%)
計	第5期	27 (28%)	24 (24%)	13 (13%)	17 (17%)	17 (17%)	98 (100%)
	第6期	16 (18%)	22 (25%)	13 (15%)	25 (28%)	13 (15%)	89 (100%)
	第7期	15 (14%)	30 (29%)	23 (22%)	29 (28%)	8 (8%)	105 (100%)

27 今後の働き方の希望

調査回答者のうち就労していない者のなかで、「現在、就職活動をしている」と回答した者の、今後の働き方の希望を表2-54に示す。なお、第7期と同じ調査項目で前期調査・後期調査とも調査実施した第5期以降の結果のみ掲載している。

働き方の希望は、「正社員・正職員」、「パート・アルバイト・嘱託・契約社員」の希望が多かったが、知的障害と精神障害では「就労継続支援A型事業所」を希望する者が一定数存在した。

表2-54 今後の働き方の希望（複数回答）（単位：人）

		正社員・ 正職員	パート・アルバイト ・嘱託・契約社員	派遣社員	自営業または 家族従業者	自宅にて 内職	就労継続 支援A型	その他	無回答	集計数
視覚障害	第5期	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第6期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
聴覚障害	第5期	1 (33%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	3
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
	第7期	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
肢体不自由	第5期	5 (56%)	2 (22%)	0 (0%)	1 (11%)	1 (11%)	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	9
	第6期	2 (67%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第7期	3 (50%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	6
内部障害	第5期	1 (25%)	3 (75%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
	第6期	2 (100%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
知的障害	第5期	1 (25%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	0 (0%)	4
	第6期	5 (71%)	5 (71%)	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (71%)	0 (0%)	0 (0%)	7
	第7期	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (75%)	0 (0%)	0 (0%)	4
精神障害	第5期	3 (50%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	6
	第6期	3 (100%)	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第7期	1 (33%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
計	第5期	12 (44%)	13 (48%)	0 (0%)	1 (4%)	1 (4%)	2 (7%)	3 (11%)	0 (0%)	27
	第6期	12 (75%)	12 (75%)	2 (13%)	0 (0%)	1 (6%)	6 (38%)	0 (0%)	0 (0%)	16
	第7期	7 (47%)	6 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (27%)	1 (7%)	0 (0%)	15

※調査時点で就労していない者のうち就労希望者（表2-53で「現在、就職活動をしている」と回答）のみ回答。

28 仕事を探すときに相談する人・機関

調査回答者のうち就労していない者のなかで、「現在、就職活動をしている」と回答した者の、仕事を探すときに相談する人や機関を表2-55に示す。なお、第7期と同じ調査の形式で前期調査・後期調査とも調査実施した第5期以降の結果のみ掲載している。

仕事を探すときに相談する人・機関は、聴覚障害と肢体不自由では「家族や身近な人」、「行政機関」、知的障害では「家族や身近な人」、「就労支援機関」、精神障害では「福祉・相談機関」に相談する者が多かった。

表2-55 仕事を探すときに相談する人・機関（複数回答）（単位：人）

		家族や 身近な人	以前の職場	就労支援機関	居住している 場所	福祉・ 相談機関	医療機関	行政機関
視覚障害	第5期	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
聴覚障害	第5期	3 (100%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第7期	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)
肢体不自由	第5期	5 (56%)	1 (11%)	2 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (78%)
	第6期	2 (67%)	1 (33%)	2 (67%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	3 (100%)
	第7期	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	5 (83%)
内部障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (50%)
	第6期	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
知的障害	第5期	3 (75%)	0 (0%)	3 (75%)	2 (50%)	3 (75%)	0 (0%)	1 (25%)
	第6期	5 (71%)	1 (14%)	7 (100%)	0 (0%)	3 (43%)	1 (14%)	2 (29%)
	第7期	2 (50%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)
精神障害	第5期	3 (50%)	0 (0%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (33%)	6 (100%)
	第6期	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)
	第7期	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)	1 (33%)
計	第5期	15 (56%)	1 (4%)	12 (44%)	2 (7%)	3 (11%)	2 (7%)	19 (70%)
	第6期	10 (63%)	2 (13%)	10 (63%)	0 (0%)	6 (38%)	1 (6%)	8 (50%)
	第7期	8 (53%)	0 (0%)	3 (20%)	0 (0%)	4 (27%)	0 (0%)	7 (47%)

		訪問してくる 支援事業所	卒業した学校や現在 通っている学校の先生	同じ障害の ある人の団体	その他	相談したり利用 したことはない	無回答	人数
視覚障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
聴覚障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
肢体不自由	第5期	0 (0%)	0 (0%)	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	9
	第6期	1 (33%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
内部障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	4
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
知的障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	4
精神障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	6
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
計	第5期	0 (0%)	0 (0%)	2 (7%)	1 (4%)	1 (4%)	0 (0%)	27
	第6期	1 (6%)	1 (6%)	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	16
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (7%)	15

※調査時点で就労していない者のうち就労希望者（表2-53で「現在、就職活動をしている」と回答）のみ回答を求めた項目。

29 職業生活からの引退理由

調査回答者のうち就労していない者の中で、「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答した者の引退理由を表2-56に示す。なお、第4期後期で追加された項目のため、第5期以降の結果のみ掲載している。

表2-56 職業生活からの引退理由（複数回答）（単位：人）

		気力の面で 難しくなったから	体力の面で 難しくなったから	体調の面で 難しくなったから	後継者が 育ったから	これまで十分に 働き、自分の役割を 果たしたから
視覚障害	第5期	0 (0%)	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
	第7期	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)
聴覚障害	第5期	0 (0%)	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)
肢体不自由	第5期	4 (50%)	5 (63%)	6 (75%)	0 (0%)	2 (25%)
	第6期	2 (17%)	5 (42%)	3 (25%)	0 (0%)	4 (33%)
	第7期	6 (40%)	6 (40%)	5 (33%)	1 (7%)	6 (40%)
内部障害	第5期	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	1 (14%)	3 (43%)	5 (71%)	1 (14%)	0 (0%)
	第7期	1 (20%)	2 (40%)	3 (60%)	0 (0%)	1 (20%)
知的障害	第5期	0 (0%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
	第7期	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
精神障害	第5期	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
計	第5期	4 (24%)	10 (59%)	12 (71%)	0 (0%)	4 (24%)
	第6期	4 (16%)	8 (32%)	10 (40%)	1 (4%)	5 (20%)
	第7期	8 (28%)	9 (31%)	9 (31%)	2 (7%)	8 (28%)

		趣味や旅行など、 引退後の生活を 楽しむため	家事や家族の 世話に時間を 充てたいため	ボランティアや地域の 活動、当事者団体の 活動に時間を 充てたいため	もっと働きたかったが、 働く先が見つから なかったから	もっと働きたかったが、 働くための環境や条件 が整わなかったから
視覚障害	第5期	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第7期	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)
聴覚障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	1 (33%)
肢体不自由	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (25%)	1 (13%)
	第6期	1 (8%)	0 (0%)	1 (8%)	1 (8%)	1 (8%)
	第7期	3 (20%)	1 (7%)	2 (13%)	0 (0%)	0 (0%)
内部障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
知的障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
精神障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
計	第5期	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)	4 (24%)	1 (6%)
	第6期	3 (12%)	0 (0%)	1 (4%)	2 (8%)	2 (8%)
	第7期	4 (14%)	1 (3%)	3 (10%)	1 (3%)	1 (3%)

		老齢年金を 受給し始めたから	定年の年齢に なったから	定年後の再雇用の 期間が終了したから	その他	無回答	集計数
視覚障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第6期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第7期	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2
聴覚障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	3
肢体不自由	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8
	第6期	0 (0%)	4 (33%)	0 (0%)	1 (8%)	0 (0%)	12
	第7期	0 (0%)	5 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	15
内部障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	第6期	1 (14%)	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
	第7期	1 (20%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
知的障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	3
精神障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
計	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	17
	第6期	1 (4%)	7 (28%)	1 (4%)	1 (4%)	0 (0%)	25
	第7期	1 (3%)	7 (24%)	2 (7%)	3 (10%)	1 (3%)	29

※第4期後期で追加した調査項目。調査時点で就労していない者のうち職業生活からの引退希望者（表2-3-39で「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答）のみ回答。

30 定年後の再雇用（継続雇用）についての職場からの説明

調査回答者のうち就労していない者の中で、「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答した者のうち、「定年の年齢になったから」と回答した者の定年後の再雇用（継続雇用）についての職場からの説明の状況を表2-57に示す。なお、第4期後期で追加された項目のため、第5期以降の結果のみ掲載している。

表2-57 定年後の再雇用（継続雇用）についての職場からの説明（単位：人）

		説明はなかった・ 再雇用の制度 自体がなかった	説明はあったが、 再雇用を希望 しなかった	再雇用を希望 したが、雇用 されなかった	その他	無回答	計
視覚障害	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
	第7期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
聴覚障害	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
肢体不自由	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	1 (25%)	3 (75%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
	第7期	2 (40%)	2 (40%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	5 (100%)
内部障害	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2 (100%)
	第7期	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
知的障害	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
精神障害	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第7期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
計	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	1 (14%)	5 (71%)	0 (0%)	1 (14%)	0 (0%)	7 (100%)
	第7期	2 (29%)	4 (57%)	0 (0%)	1 (14%)	0 (0%)	7 (100%)

※第4期後期で追加した調査項目。調査時点で就労していない者のうち職業生活からの引退希望者（表2-53で「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答）のうち、定年により職業生活から引退した者（表2-56で「定年の年齢になったから」と回答）のみ回答。

31 働く上で重視すること

すべての調査回答者の、仕事に関連する6つの項目について、働く上でどの程度重視するかを「重要」から「重要でない」までの5段階で調査回答者に評価してもらった結果について、表2-58から表2-63に示す。

全体でみるといずれの項目も、「重要」、「どちらかといえば重要」の方が、「重要でない」、「どちらかといえば重要でない」よりも多かった。障害種類別でみた場合も「重要」、「どちらかといえば重要」の方が、「重要でない」、「どちらかといえば重要でない」のより多かった。「重要」と「どちらかといえば重要」を比べると、概ね「重要」の方が多かったが、一部の項目では調査期により「どちらかといえば重要」の方が多い場合もあった（「自分の能力・経験が発揮できること」の内部障害と精神障害、「仕事の内容」の聴覚障害、「職場の環境整備」の精神障害、「勤務時間や休日」の視覚障害と内部障害）。また、内部障害では、一部の項目で「どちらかといえば重要」の方が多かった（「自分の能力・経験が発揮できること」、「仕事の内容」、「職場の環境整備」）。

表2-58 働く上で重視すること（賃金や給料）（単位：人）

		重要	どちらかといえ ば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	75 (72%)	23 (22%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	53 (68%)	19 (24%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	55 (69%)	20 (25%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	54 (72%)	12 (16%)	3 (4%)	2 (3%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	55 (80%)	10 (14%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	44 (77%)	9 (16%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	44 (72%)	13 (21%)	1 (2%)	2 (3%)	1 (2%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	94 (57%)	50 (30%)	16 (10%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	61 (54%)	37 (33%)	9 (8%)	3 (3%)	1 (1%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	102 (64%)	42 (26%)	13 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	88 (61%)	40 (28%)	15 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	76 (63%)	34 (28%)	7 (6%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期	68 (63%)	28 (26%)	7 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
	第7期	72 (61%)	32 (27%)	12 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	146 (68%)	50 (23%)	12 (6%)	3 (1%)	1 (0%)	4 (2%)	216 (100%)
	第2期	101 (58%)	49 (28%)	12 (7%)	5 (3%)	4 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	110 (64%)	43 (25%)	12 (7%)	2 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	171 (100%)
	第4期	97 (65%)	40 (27%)	7 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	99 (69%)	35 (24%)	2 (1%)	3 (2%)	1 (1%)	4 (3%)	144 (100%)
	第6期	77 (61%)	38 (30%)	6 (5%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (2%)	126 (100%)
	第7期	81 (68%)	31 (26%)	5 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	120 (100%)
内部障害	第1期	43 (59%)	25 (34%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	36 (59%)	23 (38%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	55 (54%)	36 (36%)	6 (6%)	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	60 (65%)	29 (32%)	3 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期	46 (58%)	25 (31%)	5 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	35 (51%)	27 (40%)	3 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
	第7期	34 (57%)	23 (38%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (2%)	60 (100%)
知的障害	第1期	164 (83%)	21 (11%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	138 (82%)	23 (14%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	168 (100%)
	第3期	200 (84%)	21 (9%)	5 (2%)	2 (1%)	1 (0%)	8 (3%)	237 (100%)
	第4期	156 (81%)	22 (11%)	4 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (6%)	193 (100%)
	第5期	136 (77%)	25 (14%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	9 (5%)	177 (100%)
	第6期	116 (69%)	26 (16%)	9 (5%)	4 (2%)	0 (0%)	12 (7%)	167 (100%)
	第7期	102 (67%)	26 (17%)	9 (6%)	4 (3%)	1 (1%)	11 (7%)	153 (100%)
精神障害	第1期	54 (65%)	20 (24%)	4 (5%)	4 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	31 (49%)	25 (40%)	4 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	53 (56%)	30 (32%)	9 (10%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	47 (55%)	28 (33%)	6 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	40 (57%)	21 (30%)	6 (9%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	48 (68%)	16 (23%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	71 (100%)
	第7期	36 (56%)	20 (31%)	6 (9%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
計	第1期	576 (69%)	189 (23%)	44 (5%)	10 (1%)	3 (0%)	17 (2%)	839 (100%)
	第2期	420 (64%)	176 (27%)	33 (5%)	10 (2%)	5 (1%)	13 (2%)	657 (100%)
	第3期	575 (68%)	192 (23%)	46 (5%)	8 (1%)	4 (0%)	17 (2%)	842 (100%)
	第4期	502 (68%)	171 (23%)	38 (5%)	7 (1%)	0 (0%)	22 (3%)	740 (100%)
	第5期	452 (68%)	150 (23%)	25 (4%)	12 (2%)	2 (0%)	19 (3%)	660 (100%)
	第6期	388 (65%)	144 (24%)	34 (6%)	8 (1%)	1 (0%)	22 (4%)	597 (100%)
	第7期	369 (64%)	145 (25%)	33 (6%)	11 (2%)	2 (0%)	17 (3%)	577 (100%)

表2-59 働く上で重視すること（自分の能力・経験が発揮できること）（単位：人）

		重要	どちらかといえ ば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	79 (76%)	20 (19%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	104 (100%)
	第2期	52 (67%)	20 (26%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	57 (71%)	15 (19%)	4 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第4期	49 (65%)	16 (21%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	49 (71%)	17 (25%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	38 (67%)	16 (28%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	57 (100%)
	第7期	36 (59%)	23 (38%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	83 (50%)	57 (35%)	22 (13%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	55 (49%)	36 (32%)	19 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	81 (51%)	53 (33%)	24 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	70 (48%)	53 (37%)	19 (13%)	2 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	66 (55%)	38 (32%)	14 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期	61 (56%)	34 (31%)	9 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
	第7期	66 (55%)	34 (29%)	14 (12%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	115 (53%)	64 (30%)	31 (14%)	0 (0%)	3 (1%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	74 (43%)	73 (42%)	19 (11%)	2 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	92 (54%)	55 (32%)	19 (11%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (2%)	171 (100%)
	第4期	66 (44%)	63 (42%)	17 (11%)	2 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	150 (100%)
	第5期	78 (54%)	42 (29%)	17 (12%)	1 (1%)	1 (1%)	5 (3%)	144 (100%)
	第6期	58 (46%)	42 (33%)	21 (17%)	0 (0%)	3 (2%)	2 (2%)	126 (100%)
	第7期	62 (52%)	38 (32%)	14 (12%)	2 (2%)	3 (3%)	1 (1%)	120 (100%)
内部障害	第1期	29 (40%)	34 (47%)	8 (11%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	23 (38%)	29 (48%)	7 (11%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	41 (41%)	43 (43%)	12 (12%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	29 (32%)	44 (48%)	15 (16%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	31 (39%)	33 (41%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	29 (43%)	24 (35%)	12 (18%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	68 (100%)
	第7期	17 (28%)	25 (42%)	13 (22%)	3 (5%)	1 (2%)	1 (2%)	60 (100%)
知的障害	第1期	128 (65%)	43 (22%)	13 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	12 (6%)	198 (100%)
	第2期	105 (63%)	44 (26%)	15 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	153 (65%)	56 (24%)	15 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (5%)	237 (100%)
	第4期	98 (51%)	55 (28%)	21 (11%)	2 (1%)	0 (0%)	17 (9%)	193 (100%)
	第5期	84 (47%)	58 (33%)	24 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
	第6期	71 (43%)	56 (34%)	19 (11%)	3 (2%)	0 (0%)	18 (11%)	167 (100%)
	第7期	70 (46%)	45 (29%)	19 (12%)	1 (1%)	2 (1%)	16 (10%)	153 (100%)
精神障害	第1期	35 (42%)	33 (40%)	11 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	27 (43%)	22 (35%)	11 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	63 (100%)
	第3期	39 (41%)	36 (38%)	16 (17%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	29 (34%)	30 (35%)	20 (24%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	33 (47%)	23 (33%)	9 (13%)	3 (4%)	1 (1%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	30 (42%)	25 (35%)	11 (15%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)	71 (100%)
	第7期	32 (50%)	21 (33%)	9 (14%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
計	第1期	469 (56%)	251 (30%)	88 (10%)	5 (1%)	8 (1%)	18 (2%)	839 (100%)
	第2期	336 (51%)	224 (34%)	74 (11%)	4 (1%)	3 (0%)	16 (2%)	657 (100%)
	第3期	463 (55%)	258 (31%)	90 (11%)	6 (1%)	2 (0%)	23 (3%)	842 (100%)
	第4期	341 (46%)	261 (35%)	96 (13%)	12 (2%)	3 (0%)	27 (4%)	740 (100%)
	第5期	341 (52%)	211 (32%)	77 (12%)	6 (1%)	4 (1%)	21 (3%)	660 (100%)
	第6期	287 (48%)	197 (33%)	72 (12%)	8 (1%)	6 (1%)	27 (5%)	597 (100%)
	第7期	283 (49%)	186 (32%)	70 (12%)	10 (2%)	7 (1%)	21 (4%)	577 (100%)

表2-60 働く上で重視すること（仕事の内容）（単位：人）

	重要	どちらかといえ ば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	81 (78%)	17 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	104 (100%)
	第2期	49 (63%)	24 (31%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	78 (100%)
	第3期	52 (65%)	22 (28%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	80 (100%)
	第4期	48 (64%)	16 (21%)	6 (8%)	2 (3%)	0 (0%)	75 (100%)
	第5期	47 (68%)	18 (26%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	43 (75%)	10 (18%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	40 (66%)	17 (28%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	75 (45%)	63 (38%)	22 (13%)	3 (2%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	41 (36%)	53 (47%)	16 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	113 (100%)
	第3期	75 (47%)	64 (40%)	16 (10%)	3 (2%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	69 (48%)	53 (37%)	22 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	145 (100%)
	第5期	61 (51%)	42 (35%)	13 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	120 (100%)
	第6期	57 (53%)	32 (30%)	14 (13%)	1 (1%)	1 (1%)	108 (100%)
	第7期	58 (49%)	45 (38%)	14 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	114 (53%)	58 (27%)	36 (17%)	1 (0%)	4 (2%)	216 (100%)
	第2期	74 (43%)	62 (36%)	31 (18%)	1 (1%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	89 (52%)	51 (30%)	22 (13%)	2 (1%)	2 (1%)	171 (100%)
	第4期	76 (51%)	49 (33%)	16 (11%)	5 (3%)	0 (0%)	150 (100%)
	第5期	81 (56%)	44 (31%)	13 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	144 (100%)
	第6期	58 (46%)	45 (36%)	18 (14%)	0 (0%)	2 (2%)	126 (100%)
	第7期	57 (48%)	46 (38%)	11 (9%)	2 (2%)	2 (2%)	120 (100%)
内部障害	第1期	30 (41%)	34 (47%)	6 (8%)	2 (3%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	25 (41%)	27 (44%)	8 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	43 (43%)	42 (42%)	13 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	27 (29%)	55 (60%)	7 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	28 (35%)	36 (45%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	80 (100%)
	第6期	25 (37%)	28 (41%)	10 (15%)	2 (3%)	1 (1%)	68 (100%)
	第7期	17 (28%)	28 (47%)	11 (18%)	3 (5%)	0 (0%)	60 (100%)
知的障害	第1期	137 (69%)	34 (17%)	14 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	198 (100%)
	第2期	100 (60%)	51 (30%)	13 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	168 (100%)
	第3期	143 (60%)	64 (27%)	15 (6%)	2 (1%)	0 (0%)	237 (100%)
	第4期	129 (67%)	36 (19%)	13 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	193 (100%)
	第5期	100 (56%)	48 (27%)	15 (8%)	2 (1%)	1 (1%)	177 (100%)
	第6期	85 (51%)	56 (34%)	6 (4%)	2 (1%)	0 (0%)	167 (100%)
	第7期	85 (56%)	38 (25%)	16 (10%)	1 (1%)	1 (1%)	153 (100%)
精神障害	第1期	39 (47%)	33 (40%)	10 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	30 (48%)	20 (32%)	11 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	48 (51%)	25 (27%)	17 (18%)	2 (2%)	0 (0%)	94 (100%)
	第4期	45 (53%)	25 (29%)	12 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	37 (53%)	23 (33%)	9 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	70 (100%)
	第6期	35 (49%)	23 (32%)	9 (13%)	1 (1%)	1 (1%)	71 (100%)
	第7期	40 (63%)	16 (25%)	6 (9%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
計	第1期	476 (57%)	239 (28%)	92 (11%)	6 (1%)	6 (1%)	839 (100%)
	第2期	319 (49%)	237 (36%)	81 (12%)	1 (0%)	4 (1%)	657 (100%)
	第3期	450 (53%)	268 (32%)	84 (10%)	12 (1%)	3 (0%)	842 (100%)
	第4期	394 (53%)	234 (32%)	76 (10%)	8 (1%)	1 (0%)	740 (100%)
	第5期	354 (54%)	211 (32%)	64 (10%)	2 (0%)	3 (0%)	660 (100%)
	第6期	303 (51%)	194 (32%)	59 (10%)	7 (1%)	5 (1%)	597 (100%)
	第7期	297 (51%)	190 (33%)	59 (10%)	7 (1%)	5 (1%)	577 (100%)

表2-61 働く上で重視すること（職場の環境整備）（単位：人）

	重要	どちらかといえ ば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	50 (48%)	42 (40%)	8 (8%)	1 (1%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	36 (46%)	25 (32%)	9 (12%)	1 (1%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	37 (46%)	29 (36%)	10 (13%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	41 (55%)	23 (31%)	7 (9%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	40 (58%)	21 (30%)	7 (10%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	33 (58%)	18 (32%)	4 (7%)	0 (0%)	2 (4%)	57 (100%)
	第7期	30 (49%)	26 (43%)	4 (7%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	64 (39%)	56 (34%)	37 (22%)	6 (4%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	47 (42%)	43 (38%)	20 (18%)	0 (0%)	1 (1%)	113 (100%)
	第3期	73 (46%)	64 (40%)	17 (11%)	2 (1%)	2 (1%)	159 (100%)
	第4期	69 (48%)	51 (35%)	22 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	145 (100%)
	第5期	54 (45%)	43 (36%)	18 (15%)	1 (1%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	49 (45%)	41 (38%)	14 (13%)	0 (0%)	1 (1%)	108 (100%)
	第7期	58 (49%)	39 (33%)	18 (15%)	2 (2%)	0 (0%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	124 (57%)	57 (26%)	23 (11%)	6 (3%)	1 (0%)	216 (100%)
	第2期	97 (56%)	57 (33%)	12 (7%)	2 (1%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	96 (56%)	51 (30%)	15 (9%)	4 (2%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	87 (58%)	49 (33%)	9 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	150 (100%)
	第5期	78 (54%)	45 (31%)	16 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	144 (100%)
	第6期	70 (56%)	38 (30%)	13 (10%)	2 (2%)	0 (0%)	126 (100%)
	第7期	65 (54%)	40 (33%)	10 (8%)	3 (3%)	0 (0%)	120 (100%)
内部障害	第1期	22 (30%)	33 (45%)	14 (19%)	3 (4%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	17 (28%)	27 (44%)	12 (20%)	2 (3%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	17 (17%)	63 (62%)	14 (14%)	5 (5%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	22 (24%)	52 (57%)	16 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期	19 (24%)	41 (51%)	15 (19%)	2 (3%)	0 (0%)	80 (100%)
	第6期	18 (26%)	31 (46%)	15 (22%)	1 (1%)	1 (1%)	68 (100%)
	第7期	10 (17%)	32 (53%)	13 (22%)	3 (5%)	0 (0%)	60 (100%)
知的障害	第1期	143 (72%)	32 (16%)	11 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	198 (100%)
	第2期	107 (64%)	41 (24%)	15 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	168 (100%)
	第3期	151 (64%)	54 (23%)	17 (7%)	1 (0%)	0 (0%)	237 (100%)
	第4期	125 (65%)	38 (20%)	10 (5%)	3 (2%)	0 (0%)	193 (100%)
	第5期	93 (53%)	48 (27%)	16 (9%)	4 (2%)	1 (1%)	177 (100%)
	第6期	86 (51%)	48 (29%)	14 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	167 (100%)
	第7期	79 (52%)	40 (26%)	16 (10%)	2 (1%)	2 (1%)	153 (100%)
精神障害	第1期	38 (46%)	34 (41%)	9 (11%)	1 (1%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	30 (48%)	22 (35%)	8 (13%)	1 (2%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	37 (39%)	40 (43%)	14 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	94 (100%)
	第4期	40 (47%)	33 (39%)	7 (8%)	3 (4%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	26 (37%)	30 (43%)	12 (17%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	27 (38%)	30 (42%)	10 (14%)	2 (3%)	0 (0%)	71 (100%)
	第7期	33 (52%)	19 (30%)	7 (11%)	3 (5%)	1 (2%)	64 (100%)
計	第1期	441 (53%)	254 (30%)	102 (12%)	17 (2%)	2 (0%)	839 (100%)
	第2期	334 (51%)	215 (33%)	76 (12%)	6 (1%)	7 (1%)	657 (100%)
	第3期	411 (49%)	301 (36%)	87 (10%)	13 (2%)	4 (0%)	842 (100%)
	第4期	384 (52%)	246 (33%)	71 (10%)	8 (1%)	0 (0%)	740 (100%)
	第5期	310 (47%)	228 (35%)	84 (13%)	7 (1%)	4 (1%)	660 (100%)
	第6期	283 (47%)	206 (35%)	70 (12%)	5 (1%)	2 (0%)	597 (100%)
	第7期	275 (48%)	196 (34%)	68 (12%)	13 (2%)	4 (1%)	577 (100%)

表2-62 働く上で重視すること（勤務時間や休日）（単位：人）

	重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期	51 (49%)	35 (34%)	11 (11%)	3 (3%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	37 (47%)	22 (28%)	14 (18%)	1 (1%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	39 (49%)	29 (36%)	7 (9%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	41 (55%)	21 (28%)	9 (12%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	42 (61%)	13 (19%)	10 (14%)	2 (3%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	38 (67%)	11 (19%)	5 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	57 (100%)
	第7期	27 (44%)	28 (46%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	78 (47%)	49 (30%)	30 (18%)	3 (2%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	48 (42%)	41 (36%)	18 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	113 (100%)
	第3期	74 (47%)	59 (37%)	23 (14%)	2 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	72 (50%)	45 (31%)	22 (15%)	3 (2%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	68 (57%)	34 (28%)	14 (12%)	1 (1%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	66 (61%)	29 (27%)	7 (6%)	3 (3%)	0 (0%)	108 (100%)
	第7期	65 (55%)	39 (33%)	9 (8%)	3 (3%)	0 (0%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	113 (52%)	69 (32%)	22 (10%)	6 (3%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	84 (48%)	59 (34%)	20 (11%)	4 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	85 (50%)	61 (36%)	16 (9%)	2 (1%)	5 (3%)	171 (100%)
	第4期	75 (50%)	57 (38%)	11 (7%)	2 (1%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	75 (52%)	47 (33%)	14 (10%)	1 (1%)	2 (1%)	144 (100%)
	第6期	60 (48%)	50 (40%)	11 (9%)	0 (0%)	2 (2%)	126 (100%)
	第7期	58 (48%)	43 (36%)	14 (12%)	3 (3%)	0 (0%)	120 (100%)
内部障害	第1期	38 (52%)	25 (34%)	9 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	28 (46%)	20 (33%)	11 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	49 (49%)	36 (36%)	10 (10%)	5 (5%)	0 (0%)	101 (100%)
	第4期	44 (48%)	27 (29%)	18 (20%)	2 (2%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期	35 (44%)	27 (34%)	10 (13%)	5 (6%)	0 (0%)	80 (100%)
	第6期	35 (51%)	22 (32%)	7 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	68 (100%)
	第7期	26 (43%)	27 (45%)	6 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
知的障害	第1期	130 (66%)	37 (19%)	16 (8%)	2 (1%)	1 (1%)	198 (100%)
	第2期	110 (65%)	41 (24%)	12 (7%)	0 (0%)	1 (1%)	168 (100%)
	第3期	151 (64%)	60 (25%)	12 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	237 (100%)
	第4期	131 (68%)	37 (19%)	8 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	193 (100%)
	第5期	110 (62%)	45 (25%)	10 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	177 (100%)
	第6期	101 (60%)	39 (23%)	7 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	167 (100%)
	第7期	96 (63%)	28 (18%)	11 (7%)	5 (3%)	1 (1%)	153 (100%)
精神障害	第1期	52 (63%)	19 (23%)	10 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	42 (67%)	12 (19%)	6 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	56 (60%)	26 (28%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	94 (100%)
	第4期	55 (65%)	18 (21%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	41 (59%)	23 (33%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	70 (100%)
	第6期	52 (73%)	11 (15%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	71 (100%)
	第7期	39 (61%)	17 (27%)	5 (8%)	0 (0%)	2 (3%)	64 (100%)
計	第1期	462 (55%)	234 (28%)	98 (12%)	16 (2%)	6 (1%)	839 (100%)
	第2期	349 (53%)	195 (30%)	81 (12%)	9 (1%)	5 (1%)	657 (100%)
	第3期	454 (54%)	271 (32%)	76 (9%)	13 (2%)	4 (0%)	842 (100%)
	第4期	418 (56%)	205 (28%)	76 (10%)	10 (1%)	2 (0%)	740 (100%)
	第5期	371 (56%)	189 (29%)	63 (10%)	10 (2%)	5 (1%)	660 (100%)
	第6期	352 (59%)	162 (27%)	40 (7%)	6 (1%)	6 (1%)	597 (100%)
	第7期	311 (54%)	182 (32%)	48 (8%)	12 (2%)	5 (1%)	577 (100%)

表2-63 働く上で重視すること（仕事仲間との人間関係）（単位：人）

	重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障 害	第1期	67 (64%)	23 (22%)	8 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	104 (100%)
	第2期	48 (62%)	18 (23%)	6 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	78 (100%)
	第3期	52 (65%)	17 (21%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	80 (100%)
	第4期	45 (60%)	18 (24%)	7 (9%)	0 (0%)	1 (1%)	75 (100%)
	第5期	43 (62%)	17 (25%)	6 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	31 (54%)	16 (28%)	6 (11%)	1 (2%)	1 (2%)	57 (100%)
	第7期	38 (62%)	14 (23%)	4 (7%)	3 (5%)	1 (2%)	61 (100%)
聴覚障 害	第1期	71 (43%)	63 (38%)	19 (12%)	7 (4%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	54 (48%)	44 (39%)	10 (9%)	3 (3%)	0 (0%)	113 (100%)
	第3期	63 (40%)	69 (43%)	20 (13%)	4 (3%)	2 (1%)	159 (100%)
	第4期	65 (45%)	52 (36%)	23 (16%)	4 (3%)	0 (0%)	145 (100%)
	第5期	62 (52%)	31 (26%)	24 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期	55 (51%)	35 (32%)	12 (11%)	2 (2%)	1 (1%)	108 (100%)
	第7期	60 (50%)	39 (33%)	13 (11%)	3 (3%)	1 (1%)	119 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	128 (59%)	58 (27%)	21 (10%)	0 (0%)	5 (2%)	216 (100%)
	第2期	102 (59%)	44 (25%)	23 (13%)	2 (1%)	0 (0%)	174 (100%)
	第3期	92 (54%)	54 (32%)	15 (9%)	2 (1%)	3 (2%)	171 (100%)
	第4期	84 (56%)	42 (28%)	15 (10%)	2 (1%)	3 (2%)	150 (100%)
	第5期	80 (56%)	36 (25%)	20 (14%)	3 (2%)	1 (1%)	144 (100%)
	第6期	64 (51%)	40 (32%)	16 (13%)	2 (2%)	0 (0%)	126 (100%)
	第7期	63 (53%)	41 (34%)	12 (10%)	1 (1%)	1 (1%)	120 (100%)
内 部 障 害	第1期	37 (51%)	27 (37%)	8 (11%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	35 (57%)	21 (34%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	44 (44%)	44 (44%)	12 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	101 (100%)
	第4期	44 (48%)	34 (37%)	13 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期	32 (40%)	32 (40%)	13 (16%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第6期	38 (56%)	19 (28%)	7 (10%)	1 (1%)	1 (1%)	68 (100%)
	第7期	24 (40%)	26 (43%)	8 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
知 的 障 害	第1期	145 (73%)	28 (14%)	10 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	198 (100%)
	第2期	112 (67%)	37 (22%)	13 (8%)	1 (1%)	0 (0%)	168 (100%)
	第3期	156 (66%)	41 (17%)	21 (9%)	4 (2%)	2 (1%)	237 (100%)
	第4期	133 (69%)	36 (19%)	6 (3%)	3 (2%)	2 (1%)	193 (100%)
	第5期	100 (56%)	51 (29%)	13 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	177 (100%)
	第6期	97 (58%)	46 (28%)	7 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	167 (100%)
	第7期	93 (61%)	36 (24%)	12 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	153 (100%)
精 神 障 害	第1期	54 (65%)	24 (29%)	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	35 (56%)	23 (37%)	2 (3%)	1 (2%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	56 (60%)	30 (32%)	4 (4%)	2 (2%)	0 (0%)	94 (100%)
	第4期	59 (69%)	14 (16%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	47 (67%)	17 (24%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	70 (100%)
	第6期	45 (63%)	19 (27%)	4 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	71 (100%)
	第7期	40 (63%)	17 (27%)	5 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	64 (100%)
計	第1期	502 (60%)	223 (27%)	70 (8%)	10 (1%)	7 (1%)	839 (100%)
	第2期	386 (59%)	187 (28%)	58 (9%)	7 (1%)	1 (0%)	657 (100%)
	第3期	463 (55%)	255 (30%)	76 (9%)	14 (2%)	7 (1%)	842 (100%)
	第4期	430 (58%)	196 (26%)	72 (10%)	11 (1%)	6 (1%)	740 (100%)
	第5期	364 (55%)	184 (28%)	81 (12%)	6 (1%)	3 (0%)	660 (100%)
	第6期	330 (55%)	175 (29%)	52 (9%)	7 (1%)	3 (1%)	597 (100%)
	第7期	318 (55%)	173 (30%)	54 (9%)	9 (2%)	4 (1%)	577 (100%)

32 職場への要望

すべての調査回答者の仕事をする上で職場や職場の人に特に望むことを表2-64に示す。回答時に就労していない者へは、自身の経験から回答を求めた。

障害種類により差はあるが、「自分の障害のことを理解してほしい」、「ずっと働き続けることができるようにしてほしい」、「給与面を改善してほしい」が要望として多かった。知的障害及び精神障害では「職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい」も要望として多かった。

表2-64 職場への要望（複数回答）（単位：人）※次ページへ続く

	自分の障害の ことを理解 してほしい	職場に障害者の仲間を多く してほしい、会社が更に積極的に 障害者雇用を進めてほしい	ずっと働き続ける ことができるように してほしい	給与面を 改善してほしい	体力や障害に合わせた 労働時間や休日の 設定してほしい	能力に応じた 評価や昇進・ 昇格してほしい	
視覚 障害	第1期	57 (55%)	6 (6%)	44 (42%)	39 (38%)	19 (18%)	37 (36%)
	第2期	41 (53%)	3 (4%)	27 (35%)	30 (38%)	8 (10%)	20 (26%)
	第3期	41 (51%)	4 (5%)	28 (35%)	23 (29%)	12 (15%)	21 (26%)
	第4期	39 (52%)	4 (5%)	26 (35%)	29 (39%)	15 (20%)	23 (31%)
	第5期	39 (57%)	14 (20%)	22 (32%)	24 (35%)	7 (10%)	23 (33%)
	第6期	35 (61%)	10 (18%)	13 (23%)	18 (32%)	12 (21%)	17 (30%)
	第7期	38 (62%)	19 (31%)	25 (41%)	22 (36%)	11 (18%)	20 (33%)
聴覚 障害	第1期	102 (62%)	38 (23%)	57 (35%)	61 (37%)	16 (10%)	69 (42%)
	第2期	65 (58%)	34 (30%)	38 (34%)	44 (39%)	15 (13%)	38 (34%)
	第3期	89 (56%)	37 (23%)	47 (30%)	56 (35%)	19 (12%)	54 (34%)
	第4期	91 (63%)	37 (26%)	41 (28%)	60 (41%)	19 (13%)	52 (36%)
	第5期	68 (57%)	42 (35%)	38 (32%)	44 (37%)	19 (16%)	40 (33%)
	第6期	61 (56%)	43 (40%)	27 (25%)	41 (38%)	19 (18%)	31 (29%)
	第7期	66 (55%)	46 (39%)	44 (37%)	44 (37%)	13 (11%)	37 (31%)
肢体 不 自由	第1期	87 (40%)	14 (6%)	82 (38%)	82 (38%)	37 (17%)	74 (34%)
	第2期	73 (42%)	12 (7%)	66 (38%)	58 (33%)	52 (30%)	47 (27%)
	第3期	64 (37%)	13 (8%)	61 (36%)	63 (37%)	43 (25%)	44 (26%)
	第4期	56 (37%)	13 (9%)	50 (33%)	59 (39%)	35 (23%)	42 (28%)
	第5期	56 (39%)	21 (15%)	52 (36%)	52 (36%)	39 (27%)	35 (24%)
	第6期	49 (39%)	24 (19%)	49 (39%)	35 (28%)	32 (25%)	27 (21%)
	第7期	55 (46%)	19 (16%)	50 (42%)	32 (27%)	33 (28%)	39 (33%)
内部 障害	第1期	20 (27%)	4 (5%)	27 (37%)	28 (38%)	24 (33%)	25 (34%)
	第2期	28 (46%)	4 (7%)	19 (31%)	20 (33%)	15 (25%)	17 (28%)
	第3期	41 (41%)	0 (0%)	29 (29%)	33 (33%)	29 (29%)	35 (35%)
	第4期	43 (47%)	7 (8%)	22 (24%)	31 (34%)	25 (27%)	20 (22%)
	第5期	28 (35%)	5 (6%)	20 (25%)	21 (26%)	22 (28%)	31 (39%)
	第6期	23 (34%)	9 (13%)	17 (25%)	17 (25%)	21 (31%)	17 (25%)
	第7期	24 (40%)	6 (10%)	17 (28%)	16 (27%)	20 (33%)	11 (18%)
知的 障害	第1期	87 (44%)	40 (20%)	139 (70%)	72 (36%)	22 (11%)	36 (18%)
	第2期	73 (43%)	28 (17%)	125 (74%)	64 (38%)	29 (17%)	39 (23%)
	第3期	91 (38%)	36 (15%)	151 (64%)	85 (36%)	29 (12%)	50 (21%)
	第4期	87 (45%)	22 (11%)	123 (64%)	78 (40%)	28 (15%)	38 (20%)
	第5期	89 (50%)	43 (24%)	106 (60%)	73 (41%)	40 (23%)	35 (20%)
	第6期	93 (56%)	46 (28%)	106 (63%)	65 (39%)	36 (22%)	29 (17%)
	第7期	99 (65%)	38 (25%)	91 (59%)	56 (37%)	30 (20%)	30 (20%)
精神 障害	第1期	52 (63%)	7 (8%)	49 (59%)	36 (43%)	23 (28%)	36 (43%)
	第2期	37 (59%)	4 (6%)	30 (48%)	27 (43%)	15 (24%)	21 (33%)
	第3期	49 (52%)	6 (6%)	53 (56%)	39 (41%)	23 (24%)	26 (28%)
	第4期	42 (49%)	7 (8%)	44 (52%)	35 (41%)	23 (27%)	25 (29%)
	第5期	42 (60%)	11 (16%)	35 (50%)	30 (43%)	26 (37%)	25 (36%)
	第6期	36 (51%)	8 (11%)	35 (49%)	30 (42%)	21 (30%)	20 (28%)
	第7期	39 (61%)	14 (22%)	33 (52%)	24 (38%)	26 (41%)	30 (47%)
計	第1期	405 (48%)	109 (13%)	398 (47%)	318 (38%)	141 (17%)	277 (33%)
	第2期	317 (48%)	85 (13%)	305 (46%)	243 (37%)	134 (20%)	182 (28%)
	第3期	375 (45%)	96 (11%)	369 (44%)	299 (36%)	155 (18%)	230 (27%)
	第4期	358 (48%)	90 (12%)	306 (41%)	292 (39%)	145 (20%)	200 (27%)
	第5期	322 (49%)	136 (21%)	273 (41%)	244 (37%)	153 (23%)	189 (29%)
	第6期	297 (50%)	140 (23%)	247 (41%)	206 (35%)	141 (24%)	141 (24%)
	第7期	321 (56%)	142 (25%)	260 (45%)	194 (34%)	133 (23%)	167 (29%)

表2-64 職場への要望（複数回答）（単位：人）※前ページからの続き

	研修や 教育訓練を 充実してほしい	社内の 健康管理体制を 充実してほしい	職場の中で困った ことの相談ができる ようにしてほしい	その他	特にない	集計数	
視覚障害	第1期	25 (24%)	13 (13%)	25 (24%)	3 (3%)	—	104
	第2期	21 (27%)	5 (6%)	17 (22%)	5 (6%)	—	78
	第3期	19 (24%)	9 (11%)	14 (18%)	7 (9%)	—	80
	第4期	12 (16%)	8 (11%)	13 (17%)	4 (5%)	0 (0%)	75
	第5期	18 (26%)	5 (7%)	16 (23%)	0 (0%)	7 (10%)	69
	第6期	15 (26%)	6 (11%)	11 (19%)	5 (9%)	10 (18%)	57
	第7期	20 (33%)	7 (11%)	17 (28%)	0 (0%)	8 (13%)	61
聴覚障害	第1期	48 (29%)	25 (15%)	52 (32%)	11 (7%)	—	165
	第2期	30 (27%)	17 (15%)	38 (34%)	8 (7%)	—	113
	第3期	43 (27%)	22 (14%)	46 (29%)	12 (8%)	—	159
	第4期	38 (26%)	24 (17%)	40 (28%)	10 (7%)	0 (0%)	145
	第5期	32 (27%)	13 (11%)	36 (30%)	8 (7%)	10 (8%)	120
	第6期	30 (28%)	14 (13%)	33 (31%)	8 (7%)	6 (6%)	108
	第7期	23 (19%)	12 (10%)	32 (27%)	5 (4%)	10 (8%)	119
肢体不自由	第1期	45 (21%)	31 (14%)	55 (25%)	11 (5%)	—	216
	第2期	20 (11%)	28 (16%)	39 (22%)	12 (7%)	—	174
	第3期	22 (13%)	13 (8%)	37 (22%)	7 (4%)	—	171
	第4期	24 (16%)	27 (18%)	42 (28%)	6 (4%)	0 (0%)	150
	第5期	18 (13%)	24 (17%)	34 (24%)	6 (4%)	25 (17%)	144
	第6期	15 (12%)	18 (14%)	25 (20%)	2 (2%)	18 (14%)	126
	第7期	17 (14%)	18 (15%)	34 (28%)	5 (4%)	24 (20%)	120
内部障害	第1期	15 (21%)	7 (10%)	10 (14%)	7 (10%)	—	73
	第2期	11 (18%)	10 (16%)	9 (15%)	5 (8%)	—	61
	第3期	12 (12%)	11 (11%)	15 (15%)	6 (6%)	—	101
	第4期	13 (14%)	12 (13%)	17 (18%)	4 (4%)	0 (0%)	92
	第5期	6 (8%)	9 (11%)	13 (16%)	2 (3%)	14 (18%)	80
	第6期	7 (10%)	7 (10%)	9 (13%)	3 (4%)	10 (15%)	68
	第7期	4 (7%)	6 (10%)	7 (12%)	3 (5%)	13 (22%)	60
知的障害	第1期	20 (10%)	27 (14%)	83 (42%)	9 (5%)	—	198
	第2期	17 (10%)	26 (15%)	73 (43%)	8 (5%)	—	168
	第3期	16 (7%)	28 (12%)	91 (38%)	6 (3%)	—	237
	第4期	11 (6%)	24 (12%)	66 (34%)	4 (2%)	0 (0%)	193
	第5期	19 (11%)	25 (14%)	61 (34%)	2 (1%)	23 (13%)	177
	第6期	12 (7%)	28 (17%)	60 (36%)	2 (1%)	13 (8%)	167
	第7期	19 (12%)	24 (16%)	56 (37%)	2 (1%)	14 (9%)	153
精神障害	第1期	24 (29%)	13 (16%)	37 (45%)	5 (6%)	—	83
	第2期	13 (21%)	12 (19%)	21 (33%)	0 (0%)	—	63
	第3期	10 (11%)	14 (15%)	30 (32%)	3 (3%)	—	94
	第4期	8 (9%)	15 (18%)	38 (45%)	6 (7%)	0 (0%)	85
	第5期	13 (19%)	14 (20%)	34 (49%)	2 (3%)	3 (4%)	70
	第6期	11 (15%)	12 (17%)	25 (35%)	1 (1%)	2 (3%)	71
	第7期	13 (20%)	13 (20%)	33 (52%)	0 (0%)	6 (9%)	64
計	第1期	177 (21%)	116 (14%)	262 (31%)	46 (5%)	—	839
	第2期	112 (17%)	98 (15%)	197 (30%)	38 (6%)	—	657
	第3期	122 (14%)	97 (12%)	233 (28%)	41 (5%)	—	842
	第4期	106 (14%)	110 (15%)	216 (29%)	34 (5%)	0 (0%)	740
	第5期	106 (16%)	90 (14%)	194 (29%)	20 (3%)	82 (12%)	660
	第6期	90 (15%)	85 (14%)	163 (27%)	21 (4%)	59 (10%)	597
	第7期	96 (17%)	80 (14%)	179 (31%)	15 (3%)	75 (13%)	577

※回答の選択肢に「特にない」を設けていない第3期以前では「特にない」と「無回答」を区別できないため「無回答」の掲載はしていない。

33 雇用分野における差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況

第5期以降は、2016年4月に施行された雇用分野における障害者に対する差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況について新たに質問項目を追加した。すべての対象者に対して、これらの指針の内容の把握状況を確認した結果に加えて、そのうち就労者の結果を表2-65に、第5期から第7期まですべて回答した就労者の結果を図2-16に示す。

指針の内容を把握している者は、回答者全体では、第5期、第6期の28%から第7期では33%へと増加したが、聴覚障害では第6期から第7期にかけて微減していた。就労者では、第5期、第6期の29%から30%から第7期では35%となった。指針について知らない者は、回答者全体、就労者では減少していた。第5期から第7期まですべて回答した者では、指針の内容を把握している者は、全体では第5期から第7期にかけて増加していたが、視覚障害と内部障害で第6期から第7期にかけて微減していた。また障害種類により把握状況に差があり、聴覚障害では約5割の者が指針の内容を把握しているのに対して、知的障害と精神障害では約2割にとどまった。

表2-65 雇用分野における障害者の差別禁止・合理的配慮の指針の把握状況（単位：人）

		指針の内容を 把握している	指針の名称は聞いたことが あるが内容は把握していない	指針について 知らない	無回答	計
視覚障害	第5期	23 (33%)	29 (42%)	16 (23%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	20 (35%)	23 (40%)	13 (23%)	1 (2%)	57 (100%)
	第7期	22 (36%)	28 (46%)	11 (18%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第5期	61 (51%)	34 (28%)	22 (18%)	3 (3%)	120 (100%)
	第6期	58 (54%)	33 (31%)	12 (11%)	5 (5%)	108 (100%)
	第7期	60 (50%)	38 (32%)	20 (17%)	1 (1%)	119 (100%)
肢体不自由	第5期	41 (28%)	40 (28%)	58 (40%)	5 (3%)	144 (100%)
	第6期	38 (30%)	32 (25%)	49 (39%)	7 (6%)	126 (100%)
	第7期	44 (37%)	35 (29%)	38 (32%)	3 (3%)	120 (100%)
内部障害	第5期	24 (30%)	22 (28%)	31 (39%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	21 (31%)	27 (40%)	19 (28%)	1 (1%)	68 (100%)
	第7期	20 (33%)	17 (28%)	21 (35%)	2 (3%)	60 (100%)
知的障害	第5期	26 (15%)	27 (15%)	112 (63%)	12 (7%)	177 (100%)
	第6期	22 (13%)	35 (21%)	95 (57%)	15 (9%)	167 (100%)
	第7期	31 (20%)	25 (16%)	86 (56%)	11 (7%)	153 (100%)
精神障害	第5期	10 (14%)	19 (27%)	39 (56%)	2 (3%)	70 (100%)
	第6期	9 (13%)	21 (30%)	38 (54%)	3 (4%)	71 (100%)
	第7期	12 (19%)	17 (27%)	34 (53%)	1 (2%)	64 (100%)
計	第5期	185 (28%)	171 (26%)	278 (42%)	26 (4%)	660 (100%)
	第6期	168 (28%)	171 (29%)	226 (38%)	32 (5%)	597 (100%)
	第7期	189 (33%)	160 (28%)	210 (36%)	18 (3%)	577 (100%)

うち就労者の結果

		指針の内容を 把握している	指針の名称は聞いたことが あるが内容は把握していない	指針について 知らない	無回答	計
視覚障害	第5期	21 (33%)	28 (44%)	14 (22%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	18 (35%)	19 (37%)	13 (25%)	1 (2%)	51 (100%)
	第7期	20 (36%)	24 (44%)	11 (20%)	0 (0%)	55 (100%)
聴覚障害	第5期	55 (51%)	32 (30%)	19 (18%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	54 (52%)	33 (32%)	12 (12%)	5 (5%)	104 (100%)
	第7期	53 (49%)	35 (32%)	19 (18%)	1 (1%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	33 (30%)	31 (28%)	45 (41%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	31 (32%)	23 (23%)	40 (41%)	4 (4%)	98 (100%)
	第7期	35 (40%)	23 (26%)	27 (31%)	2 (2%)	87 (100%)
内部障害	第5期	22 (33%)	22 (33%)	22 (33%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	20 (34%)	25 (43%)	13 (22%)	0 (0%)	58 (100%)
	第7期	19 (35%)	14 (26%)	19 (35%)	2 (4%)	54 (100%)
知的障害	第5期	22 (14%)	25 (16%)	99 (64%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	21 (15%)	28 (19%)	84 (58%)	11 (8%)	144 (100%)
	第7期	26 (21%)	18 (15%)	70 (57%)	9 (7%)	123 (100%)
精神障害	第5期	8 (15%)	18 (35%)	25 (48%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	9 (17%)	14 (26%)	29 (55%)	1 (2%)	53 (100%)
	第7期	10 (22%)	13 (29%)	21 (47%)	1 (2%)	45 (100%)
計	第5期	161 (29%)	156 (28%)	224 (40%)	15 (3%)	556 (100%)
	第6期	153 (30%)	142 (28%)	191 (38%)	22 (4%)	508 (100%)
	第7期	163 (35%)	127 (27%)	167 (35%)	15 (3%)	472 (100%)

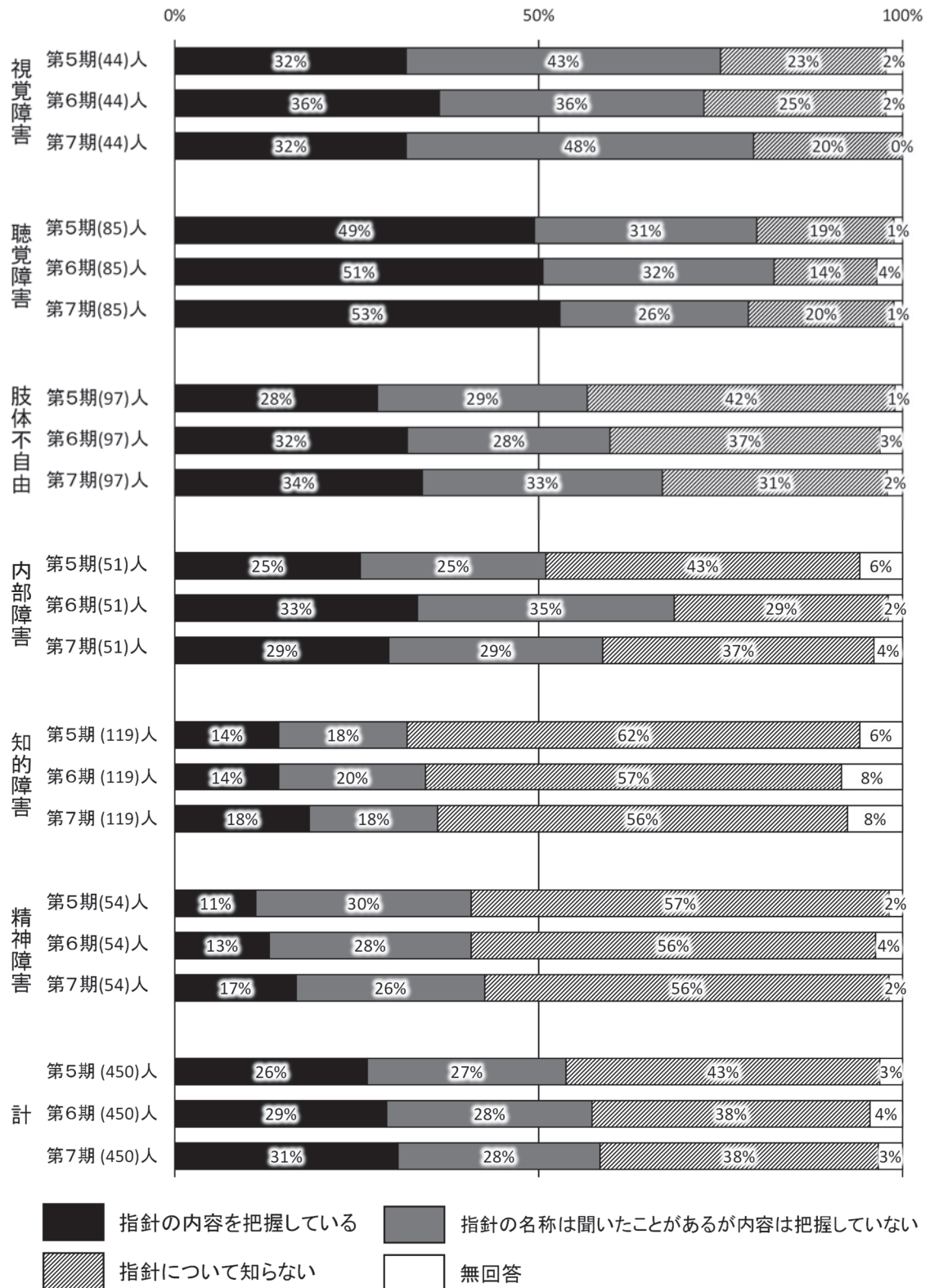


図 2-16 第5期から第7期まですべて回答した就労者の雇用分野における障害者の差別禁止・合理的配慮の指針の把握状況

第5節 調査回答者の生活状況

1 家族構成の状況

すべての調査回答者の同居の有無を問わない家族構成について表2-66に示す。なお、第7期と同じ調査項目で前期調査・後期調査とも調査実施した第5期以降の結果のみ掲載している。

第7期において、身体障害の約4割から約6割に配偶者がいたが、精神障害では17%、知的障害では3%だった。

表2-66 家族構成の状況（複数回答）（単位：人）

		配偶者	子ども	自分の父親	自分の母親	兄弟姉妹	その他	無回答	集計数
視覚障害	第5期	30 (43%)	23 (33%)	37 (54%)	44 (64%)	37 (54%)	16 (23%)	3 (4%)	69
	第6期	29 (51%)	24 (42%)	26 (46%)	36 (63%)	33 (58%)	13 (23%)	2 (4%)	57
	第7期	28 (46%)	20 (33%)	21 (34%)	28 (46%)	30 (49%)	13 (21%)	7 (11%)	61
聴覚障害	第5期	70 (58%)	52 (43%)	38 (32%)	55 (46%)	34 (28%)	18 (15%)	8 (7%)	120
	第6期	60 (56%)	49 (45%)	36 (33%)	52 (48%)	33 (31%)	17 (16%)	5 (5%)	108
	第7期	69 (58%)	51 (43%)	26 (22%)	45 (38%)	31 (26%)	20 (17%)	8 (7%)	119
肢体不自由	第5期	51 (35%)	35 (24%)	60 (42%)	84 (58%)	59 (41%)	15 (10%)	8 (6%)	144
	第6期	45 (36%)	31 (25%)	53 (42%)	76 (60%)	55 (44%)	19 (15%)	4 (3%)	126
	第7期	46 (38%)	31 (26%)	49 (41%)	66 (55%)	46 (38%)	18 (15%)	5 (4%)	120
内部障害	第5期	34 (43%)	26 (33%)	25 (31%)	48 (60%)	33 (41%)	14 (18%)	4 (5%)	80
	第6期	29 (43%)	22 (32%)	17 (25%)	39 (57%)	23 (34%)	10 (15%)	3 (4%)	68
	第7期	31 (52%)	22 (37%)	14 (23%)	26 (43%)	15 (25%)	6 (10%)	3 (5%)	60
知的障害	第5期	3 (2%)	2 (1%)	114 (64%)	142 (80%)	111 (63%)	26 (15%)	5 (3%)	177
	第6期	5 (3%)	1 (1%)	98 (59%)	132 (79%)	105 (63%)	24 (14%)	8 (5%)	167
	第7期	4 (3%)	1 (1%)	92 (60%)	124 (81%)	100 (65%)	14 (9%)	6 (4%)	153
精神障害	第5期	16 (23%)	8 (11%)	36 (51%)	42 (60%)	36 (51%)	9 (13%)	6 (9%)	70
	第6期	11 (15%)	8 (11%)	38 (54%)	44 (62%)	47 (66%)	8 (11%)	3 (4%)	71
	第7期	11 (17%)	8 (13%)	33 (52%)	39 (61%)	39 (61%)	7 (11%)	2 (3%)	64
計	第5期	204 (31%)	146 (22%)	310 (47%)	415 (63%)	310 (47%)	98 (15%)	34 (5%)	660
	第6期	179 (30%)	135 (23%)	268 (45%)	379 (63%)	296 (50%)	91 (15%)	25 (4%)	597
	第7期	189 (33%)	133 (23%)	235 (41%)	328 (57%)	261 (45%)	78 (14%)	31 (5%)	577

2 現在の住まい

すべての調査回答者の現在の住まいについて表2-67に示す。

第7期において、多くの者が「自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅」又は「家族の、持ち家や賃貸住宅」で暮らしているが、知的障害ではグループホーム等への入居が18%と他の障害種類より多かった。

表2-67 現在の住まい（単位：人）

	自分もしくは 配偶者の、持ち家 や賃貸住宅	家族の、持ち家 や賃貸住宅	会社の社員寮や 会社が従業員の ために用意 してくれる住宅	福祉施設や地域の団体 などが運営する介護寮、 福祉ホームやグループ ホームなどの施設	その他	無回答	計
視覚障害	第1期	63 (61%)	33 (32%)	5 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	104 (100%)
	第2期	48 (62%)	24 (31%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	55 (69%)	21 (26%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第4期	49 (65%)	17 (23%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	75 (100%)
	第5期	50 (72%)	16 (23%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	45 (79%)	9 (16%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	49 (80%)	10 (16%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	95 (58%)	61 (37%)	5 (3%)	2 (1%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	69 (61%)	38 (34%)	4 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	113 (100%)
	第3期	105 (66%)	48 (30%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	159 (100%)
	第4期	93 (64%)	34 (23%)	3 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	83 (69%)	24 (20%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	120 (100%)
	第6期	75 (69%)	25 (23%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
	第7期	85 (71%)	21 (18%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	123 (57%)	84 (39%)	5 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	216 (100%)
	第2期	92 (53%)	71 (41%)	7 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	174 (100%)
	第3期	92 (54%)	71 (42%)	7 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	83 (55%)	54 (36%)	3 (2%)	1 (1%)	3 (2%)	150 (100%)
	第5期	83 (58%)	51 (35%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (1%)	144 (100%)
	第6期	66 (52%)	45 (36%)	3 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	126 (100%)
	第7期	71 (59%)	41 (34%)	2 (2%)	2 (2%)	1 (1%)	120 (100%)
内部障害	第1期	42 (58%)	24 (33%)	7 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	22 (36%)	24 (39%)	5 (8%)	6 (10%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	68 (67%)	25 (25%)	6 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	61 (66%)	23 (25%)	6 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期	59 (74%)	15 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	48 (71%)	14 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	68 (100%)
	第7期	39 (65%)	13 (22%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	60 (100%)
知的障害	第1期	22 (11%)	127 (64%)	0 (0%)	44 (22%)	1 (1%)	198 (100%)
	第2期	27 (16%)	109 (65%)	1 (1%)	26 (15%)	2 (1%)	168 (100%)
	第3期	30 (13%)	149 (63%)	1 (0%)	51 (22%)	1 (0%)	237 (100%)
	第4期	14 (7%)	124 (64%)	0 (0%)	41 (21%)	4 (2%)	193 (100%)
	第5期	22 (12%)	103 (58%)	0 (0%)	34 (19%)	2 (1%)	177 (100%)
	第6期	18 (11%)	102 (61%)	2 (1%)	28 (17%)	3 (2%)	167 (100%)
	第7期	20 (13%)	95 (62%)	0 (0%)	28 (18%)	0 (0%)	153 (100%)
精神障害	第1期	33 (40%)	42 (51%)	3 (4%)	4 (5%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	25 (40%)	25 (40%)	2 (3%)	7 (11%)	1 (2%)	63 (100%)
	第3期	35 (37%)	44 (47%)	2 (2%)	9 (10%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	36 (42%)	35 (41%)	0 (0%)	8 (9%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	32 (46%)	29 (41%)	0 (0%)	5 (7%)	2 (3%)	70 (100%)
	第6期	31 (44%)	32 (45%)	0 (0%)	2 (3%)	1 (1%)	71 (100%)
	第7期	30 (47%)	29 (45%)	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	64 (100%)
計	第1期	378 (45%)	371 (44%)	25 (3%)	51 (6%)	1 (0%)	839 (100%)
	第2期	283 (43%)	291 (44%)	21 (3%)	40 (6%)	7 (1%)	657 (100%)
	第3期	385 (46%)	358 (43%)	22 (3%)	60 (7%)	7 (1%)	842 (100%)
	第4期	336 (45%)	287 (39%)	14 (2%)	51 (7%)	11 (1%)	740 (100%)
	第5期	329 (50%)	238 (36%)	4 (1%)	40 (6%)	13 (2%)	660 (100%)
	第6期	283 (47%)	227 (38%)	7 (1%)	31 (5%)	8 (1%)	597 (100%)
	第7期	294 (51%)	209 (36%)	7 (1%)	32 (6%)	4 (1%)	577 (100%)

3 同居者の有無

すべての調査回答者のうち現在の住まいについて「自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅」、「家族の、持ち家や賃貸住宅」、「会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれる住宅」のいずれかに回答した者の、同居者の有無について表2-68に示す。

表2-68 同居者の有無（単位：人）

		一人暮らしである	一人暮らしではない	無回答	計
視覚障害	第1期	27 (27%)	71 (70%)	3 (3%)	101 (100%)
	第2期	15 (21%)	53 (74%)	4 (6%)	72 (100%)
	第3期	11 (33%)	22 (67%)	0 (0%)	33 (100%)
	第4期	17 (25%)	50 (74%)	1 (1%)	68 (100%)
	第5期	18 (26%)	50 (74%)	0 (0%)	68 (100%)
	第6期	13 (24%)	40 (73%)	2 (4%)	55 (100%)
	第7期	14 (23%)	42 (70%)	4 (7%)	60 (100%)
聴覚障害	第1期	28 (17%)	134 (82%)	2 (1%)	164 (100%)
	第2期	21 (19%)	86 (79%)	2 (2%)	109 (100%)
	第3期	5 (10%)	45 (88%)	1 (2%)	51 (100%)
	第4期	17 (13%)	112 (86%)	1 (1%)	130 (100%)
	第5期	13 (12%)	93 (86%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	18 (18%)	80 (79%)	3 (3%)	101 (100%)
	第7期	20 (19%)	85 (79%)	2 (2%)	107 (100%)
肢体不自由	第1期	26 (13%)	175 (85%)	5 (2%)	206 (100%)
	第2期	17 (11%)	138 (87%)	3 (2%)	158 (100%)
	第3期	7 (11%)	58 (89%)	0 (0%)	65 (100%)
	第4期	22 (16%)	118 (84%)	0 (0%)	140 (100%)
	第5期	16 (12%)	118 (87%)	1 (1%)	135 (100%)
	第6期	15 (13%)	97 (85%)	2 (2%)	114 (100%)
	第7期	16 (14%)	97 (85%)	1 (1%)	114 (100%)
内部障害	第1期	14 (19%)	58 (79%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	11 (19%)	47 (80%)	1 (2%)	59 (100%)
	第3期	5 (24%)	16 (76%)	0 (0%)	21 (100%)
	第4期	18 (20%)	71 (79%)	1 (1%)	90 (100%)
	第5期	13 (18%)	57 (77%)	4 (5%)	74 (100%)
	第6期	12 (19%)	50 (81%)	0 (0%)	62 (100%)
	第7期	9 (17%)	43 (80%)	2 (4%)	54 (100%)
知的障害	第1期	4 (2%)	154 (80%)	35 (18%)	193 (100%)
	第2期	4 (2%)	130 (80%)	28 (17%)	162 (100%)
	第3期	2 (2%)	81 (94%)	3 (3%)	86 (100%)
	第4期	11 (8%)	126 (91%)	1 (1%)	138 (100%)
	第5期	10 (8%)	113 (90%)	2 (2%)	125 (100%)
	第6期	7 (6%)	110 (90%)	5 (4%)	122 (100%)
	第7期	7 (6%)	101 (88%)	7 (6%)	115 (100%)
精神障害	第1期	17 (21%)	59 (73%)	5 (6%)	81 (100%)
	第2期	9 (15%)	49 (82%)	2 (3%)	60 (100%)
	第3期	4 (14%)	24 (86%)	0 (0%)	28 (100%)
	第4期	18 (25%)	53 (75%)	0 (0%)	71 (100%)
	第5期	19 (31%)	42 (69%)	0 (0%)	61 (100%)
	第6期	17 (27%)	44 (70%)	2 (3%)	63 (100%)
	第7期	19 (32%)	39 (65%)	2 (3%)	60 (100%)
計	第1期	116 (14%)	651 (80%)	51 (6%)	818 (100%)
	第2期	77 (12%)	503 (81%)	40 (6%)	620 (100%)
	第3期	34 (12%)	246 (87%)	4 (1%)	284 (100%)
	第4期	103 (16%)	530 (83%)	4 (1%)	637 (100%)
	第5期	89 (16%)	473 (83%)	9 (2%)	571 (100%)
	第6期	82 (16%)	421 (81%)	14 (3%)	517 (100%)
	第7期	85 (17%)	407 (80%)	18 (4%)	510 (100%)

※表2-67で「自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅」、「家族の、持ち家や賃貸住宅」、「会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれる住宅」のいずれかに回答した者のみ回答。

4 最近2年間の生活上の出来事

すべての調査回答者のひとつ前の調査期に実施した調査以降の2年間に本人や家族に起きた出来事について、第2期から第7期までの各回の回答を集計した結果を表2-69に示す。

表2-69 最近2年間の生活上の出来事（複数回答）（単位：人） ※次ページへ続く

	自分が 結婚をした	自分が 離婚をした	自分の子どもが 生まれた	自分が 引越をした	自分が親元 から離れて 暮らし始めた	自分が病気や 事故で1ヶ月以上 の入院をした	自分が学校や能力 開発校に通った または卒業した	自分の障害に 関する年金を 受給しはじめた	
視 覚 障 害	第2期	4 (5%)	2 (3%)	2 (3%)	9 (12%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	
	第3期	2 (3%)	1 (1%)	3 (4%)	8 (10%)	2 (3%)	2 (3%)	0 (0%)	
	第4期	3 (4%)	0 (0%)	5 (7%)	7 (9%)	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	0 (0%)	4 (6%)	1 (1%)	
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	
	第2期	9 (8%)	0 (0%)	2 (2%)	17 (15%)	5 (4%)	3 (3%)	2 (2%)	3 (3%)
聴 覚 障 害	第3期	10 (6%)	4 (3%)	7 (4%)	15 (9%)	2 (1%)	4 (3%)	1 (1%)	2 (1%)
	第4期	9 (6%)	2 (1%)	6 (4%)	16 (11%)	4 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	0 (0%)
	第5期	3 (3%)	1 (1%)	9 (8%)	9 (8%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)
	第6期	3 (3%)	1 (1%)	4 (4%)	6 (6%)	0 (0%)	2 (2%)	1 (1%)	1 (1%)
	第7期	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	6 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)
	第2期	6 (3%)	1 (1%)	3 (2%)	12 (7%)	3 (2%)	16 (9%)	2 (1%)	7 (4%)
	肢 体 不 自 由	第3期	1 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	11 (6%)	3 (2%)	14 (8%)	2 (1%)
第4期		0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	9 (6%)	1 (1%)	11 (7%)	1 (1%)	3 (2%)
第5期		1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	0 (0%)	8 (6%)	3 (2%)	3 (2%)
第6期		1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	5 (4%)	1 (1%)	3 (2%)	1 (1%)	2 (2%)
第7期		1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	6 (5%)	1 (1%)	3 (3%)	1 (1%)	1 (1%)
第2期		2 (3%)	0 (0%)	3 (5%)	4 (7%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)
内 部 障 害		第3期	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)	6 (6%)	1 (1%)	7 (7%)	2 (2%)
	第4期	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	7 (8%)	2 (2%)	11 (12%)	1 (1%)	2 (2%)
	第5期	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	5 (6%)	1 (1%)	3 (4%)	0 (0%)	3 (4%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (7%)	0 (0%)	6 (9%)	1 (1%)	0 (0%)
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)
	第2期	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (6%)	4 (2%)	2 (1%)	2 (1%)	14 (8%)
	知 的 障 害	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (3%)	5 (2%)	3 (1%)	5 (2%)
第4期		2 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	7 (4%)
第5期		1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (4%)	6 (3%)	4 (2%)	1 (1%)	6 (3%)
第6期		2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	2 (1%)
第7期		1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (5%)	2 (1%)	2 (1%)	1 (1%)	0 (0%)
第2期		1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	2 (3%)
精 神 障 害		第3期	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (13%)	3 (3%)	2 (2%)	4 (4%)
	第4期	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (6%)	3 (4%)	5 (6%)	2 (2%)	2 (2%)
	第5期	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	3 (4%)	2 (3%)
	第6期	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	5 (7%)	0 (0%)	3 (4%)	2 (3%)	1 (1%)
	第7期	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (6%)	2 (3%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)
	第2期	24 (4%)	3 (0%)	11 (2%)	56 (9%)	17 (3%)	28 (4%)	9 (1%)	28 (4%)
	計	第3期	15 (2%)	9 (1%)	12 (1%)	60 (7%)	16 (2%)	30 (4%)	16 (2%)
第4期		21 (3%)	6 (1%)	13 (2%)	47 (6%)	13 (2%)	36 (5%)	10 (1%)	14 (2%)
第5期		8 (1%)	3 (0%)	14 (2%)	30 (5%)	10 (2%)	22 (3%)	9 (1%)	17 (3%)
第6期		6 (1%)	5 (1%)	6 (1%)	23 (4%)	4 (1%)	19 (3%)	9 (2%)	6 (1%)
第7期		6 (1%)	0 (0%)	3 (1%)	25 (4%)	6 (1%)	12 (2%)	6 (1%)	6 (1%)

表2-69 最近2年間の生活上の出来事（複数回答）（単位：人） ※前ページからの続き

	自分の障害に 関する年金の 受給がなくなった	自分の親が 離婚をした	自分の親が 仕事を辞めた	家族が、病気や 事故で1ヶ月以上 の入院をした	家族の介護が 必要になった	家族が、 亡くなった	該当する 項目なし	無回答	集計数	
視 覚 障 害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	7 (9%)	—	5 (6%)	45 (58%)	2 (3%)	78
	第3期	1 (1%)	1 (1%)	4 (5%)	6 (8%)	—	5 (6%)	50 (63%)	4 (5%)	80
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	2 (3%)	—	3 (4%)	50 (67%)	2 (3%)	75
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	3 (4%)	4 (6%)	4 (6%)	44 (64%)	6 (9%)	69
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	4 (7%)	4 (7%)	4 (7%)	6 (11%)	36 (63%)	3 (5%)	57
	第7期	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (5%)	3 (5%)	9 (15%)	41 (67%)	4 (7%)	61
	聴 覚 障 害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	5 (4%)	—	8 (7%)	63 (56%)	10 (9%)
第3期		1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (7%)	—	10 (6%)	98 (62%)	13 (8%)	159
第4期		1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	10 (7%)	—	6 (4%)	91 (63%)	8 (6%)	145
第5期		1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (8%)	3 (3%)	3 (3%)	73 (61%)	9 (8%)	120
第6期		1 (1%)	0 (0%)	4 (4%)	6 (6%)	7 (6%)	8 (7%)	67 (62%)	6 (6%)	108
第7期		2 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	4 (3%)	5 (4%)	12 (10%)	77 (65%)	11 (9%)	119
肢 体 不 自 由		第2期	1 (1%)	0 (0%)	4 (2%)	10 (6%)	—	17 (10%)	97 (56%)	14 (8%)
	第3期	2 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	17 (10%)	—	13 (8%)	98 (57%)	16 (9%)	171
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	12 (8%)	—	8 (5%)	91 (61%)	15 (10%)	150
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	6 (4%)	14 (10%)	10 (7%)	14 (10%)	78 (54%)	14 (10%)	144
	第6期	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	8 (6%)	10 (8%)	12 (10%)	74 (59%)	16 (13%)	126
	第7期	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	10 (8%)	8 (7%)	7 (6%)	72 (60%)	11 (9%)	120
	内 部 障 害	第2期	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	5 (8%)	—	5 (8%)	35 (57%)	7 (11%)
第3期		3 (3%)	0 (0%)	5 (5%)	12 (12%)	—	13 (13%)	52 (51%)	7 (7%)	101
第4期		5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (4%)	—	12 (13%)	50 (54%)	6 (7%)	92
第5期		3 (4%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (5%)	2 (3%)	7 (9%)	39 (49%)	14 (18%)	80
第6期		5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	7 (10%)	41 (60%)	5 (7%)	68
第7期		4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	2 (3%)	2 (3%)	43 (72%)	3 (5%)	60
知 的 障 害		第2期	1 (1%)	0 (0%)	7 (4%)	12 (7%)	—	9 (5%)	106 (63%)	13 (8%)
	第3期	0 (0%)	1 (0%)	8 (3%)	7 (3%)	—	12 (5%)	146 (62%)	38 (16%)	237
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	6 (3%)	4 (2%)	—	16 (8%)	126 (65%)	26 (13%)	193
	第5期	0 (0%)	1 (1%)	9 (5%)	9 (5%)	8 (5%)	11 (6%)	115 (65%)	14 (8%)	177
	第6期	0 (0%)	1 (1%)	9 (5%)	13 (8%)	3 (2%)	9 (5%)	112 (67%)	15 (9%)	167
	第7期	1 (1%)	0 (0%)	9 (6%)	7 (5%)	6 (4%)	14 (9%)	94 (61%)	14 (9%)	153
	精 神 障 害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (6%)	—	8 (13%)	41 (65%)	2 (3%)
第3期		0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	7 (7%)	—	8 (9%)	48 (51%)	7 (7%)	94
第4期		2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	7 (8%)	—	8 (9%)	49 (58%)	7 (8%)	85
第5期		0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	11 (16%)	6 (9%)	8 (11%)	33 (47%)	11 (16%)	70
第6期		2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (11%)	7 (10%)	6 (8%)	39 (55%)	5 (7%)	71
第7期		2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (6%)	5 (8%)	4 (6%)	39 (61%)	5 (8%)	64
計		第2期	3 (0%)	0 (0%)	20 (3%)	43 (7%)	—	52 (8%)	387 (59%)	48 (7%)
	第3期	7 (1%)	2 (0%)	25 (3%)	60 (7%)	—	61 (7%)	492 (58%)	85 (10%)	842
	第4期	10 (1%)	0 (0%)	17 (2%)	39 (5%)	—	53 (7%)	457 (62%)	64 (9%)	740
	第5期	5 (1%)	1 (0%)	22 (3%)	51 (8%)	33 (5%)	47 (7%)	382 (58%)	68 (10%)	660
	第6期	9 (2%)	1 (0%)	19 (3%)	41 (7%)	34 (6%)	48 (8%)	369 (62%)	50 (8%)	597
	第7期	11 (2%)	0 (0%)	17 (3%)	29 (5%)	29 (5%)	48 (8%)	366 (63%)	48 (8%)	577

※第2期以降に行っている調査項目。選択肢「家族の介護が必要になった」は第5期で追加した調査項目。

5 障害に関する年金の受給状況

奇数回のみ調査している、すべての調査回答者の障害に関する年金の受給状況について、集計した結果を表2-70に示す。

第7期において、障害年金は概ね7割から9割が受給していたが、内部障害では受給する者の割合が6割を下回っていた。

表2-70 障害に関する年金の受給状況（単位：人）

		受給している	受給していない	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	76 (73%)	26 (25%)	0 (0%)	2 (2%)	104 (100%)
	第3期	61 (76%)	17 (21%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第5期	54 (78%)	13 (19%)	0 (0%)	2 (3%)	69 (100%)
	第7期	47 (77%)	11 (18%)	1 (2%)	2 (3%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	150 (91%)	12 (7%)	1 (1%)	2 (1%)	165 (100%)
	第3期	142 (89%)	12 (8%)	1 (1%)	4 (3%)	159 (100%)
	第5期	106 (88%)	9 (8%)	2 (2%)	3 (3%)	120 (100%)
	第7期	103 (87%)	13 (11%)	0 (0%)	3 (3%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	160 (74%)	49 (23%)	3 (1%)	4 (2%)	216 (100%)
	第3期	126 (74%)	37 (22%)	3 (2%)	5 (3%)	171 (100%)
	第5期	108 (75%)	33 (23%)	1 (1%)	2 (1%)	144 (100%)
	第7期	94 (78%)	26 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	120 (100%)
内部障害	第1期	52 (71%)	21 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第3期	70 (69%)	30 (30%)	1 (1%)	0 (0%)	101 (100%)
	第5期	53 (66%)	26 (33%)	0 (0%)	1 (1%)	80 (100%)
	第7期	34 (57%)	25 (42%)	0 (0%)	1 (2%)	60 (100%)
知的障害	第1期	149 (75%)	42 (21%)	5 (3%)	2 (1%)	198 (100%)
	第3期	185 (78%)	43 (18%)	2 (1%)	7 (3%)	237 (100%)
	第5期	145 (82%)	22 (12%)	2 (1%)	8 (5%)	177 (100%)
	第7期	124 (81%)	17 (11%)	4 (3%)	8 (5%)	153 (100%)
精神障害	第1期	54 (65%)	29 (35%)	0 (0%)	0 (0%)	83 (100%)
	第3期	61 (65%)	32 (34%)	0 (0%)	1 (1%)	94 (100%)
	第5期	54 (77%)	16 (23%)	0 (0%)	0 (0%)	70 (100%)
	第7期	43 (67%)	20 (31%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
計	第1期	641 (76%)	179 (21%)	9 (1%)	10 (1%)	839 (100%)
	第3期	645 (77%)	171 (20%)	7 (1%)	19 (2%)	842 (100%)
	第5期	520 (79%)	119 (18%)	5 (1%)	16 (2%)	660 (100%)
	第7期	445 (77%)	112 (19%)	5 (1%)	15 (3%)	577 (100%)

6 生活するための収入源

奇数回のみ調査している、すべての調査回答者の生活するための収入源について集計した結果について表2-71に示す。

第7期において、いずれの障害種類も「年金」と「働いて得る収入」の割合が高かったが、知的障害と精神障害では家族などの支援が2割を超えていた。

表2-71 生活するための収入源（複数回答）（単位：人）

		年金	家族などの 支援	働いて得る 収入	その他	わからない	無回答	集計数
視覚障害	第1期	66 (63%)	20 (19%)	99 (95%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	104
	第3期	52 (65%)	16 (20%)	71 (89%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	80
	第5期	46 (67%)	5 (7%)	61 (88%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69
	第7期	43 (70%)	4 (7%)	52 (85%)	3 (5%)	0 (0%)	1 (2%)	61
聴覚障害	第1期	124 (75%)	37 (22%)	153 (93%)	1 (1%)	3 (2%)	2 (1%)	165
	第3期	120 (75%)	37 (23%)	143 (90%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (3%)	159
	第5期	69 (58%)	20 (17%)	96 (80%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	120
	第7期	81 (68%)	15 (13%)	92 (77%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	119
肢体不自由	第1期	144 (67%)	82 (38%)	190 (88%)	3 (1%)	0 (0%)	7 (3%)	216
	第3期	116 (68%)	55 (32%)	145 (85%)	4 (2%)	1 (1%)	7 (4%)	171
	第5期	94 (65%)	20 (14%)	113 (78%)	7 (5%)	0 (0%)	3 (2%)	144
	第7期	92 (77%)	16 (13%)	86 (72%)	10 (8%)	1 (1%)	0 (0%)	120
内部障害	第1期	47 (64%)	15 (21%)	71 (97%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	73
	第3期	69 (68%)	23 (23%)	95 (94%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	101
	第5期	48 (60%)	8 (10%)	68 (85%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	80
	第7期	36 (60%)	6 (10%)	52 (87%)	3 (5%)	0 (0%)	1 (2%)	60
知的障害	第1期	111 (56%)	79 (40%)	173 (87%)	3 (2%)	2 (1%)	6 (3%)	198
	第3期	135 (57%)	66 (28%)	202 (85%)	12 (5%)	8 (3%)	5 (2%)	237
	第5期	115 (65%)	53 (30%)	145 (82%)	3 (2%)	2 (1%)	12 (7%)	177
	第7期	100 (65%)	46 (30%)	121 (79%)	8 (5%)	5 (3%)	6 (4%)	153
精神障害	第1期	52 (63%)	40 (48%)	79 (95%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	83
	第3期	58 (62%)	32 (34%)	76 (81%)	8 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	94
	第5期	53 (76%)	16 (23%)	54 (77%)	12 (17%)	2 (3%)	0 (0%)	70
	第7期	45 (70%)	16 (25%)	49 (77%)	6 (9%)	0 (0%)	1 (2%)	64
計	第1期	544 (65%)	273 (33%)	765 (91%)	8 (1%)	6 (1%)	17 (2%)	839
	第3期	550 (65%)	229 (27%)	732 (87%)	24 (3%)	9 (1%)	19 (2%)	842
	第5期	425 (64%)	122 (18%)	537 (81%)	28 (4%)	5 (1%)	21 (3%)	660
	第7期	397 (69%)	103 (18%)	452 (78%)	30 (5%)	6 (1%)	10 (2%)	577

7 仕事に関する相談先

第7期と同様の調査項目で調査実施した第5期と第7期のすべての調査回答者が仕事に関して困ったことが起きたときに相談する人や機関を集計した結果を表2-72に示す。

いずれの障害種類も「家族や身近な人」、「職場」が多かった。知的障害及び精神障害では、「就労支援機関」、「福祉・相談機関」が身体障害と比べて多かった。また、精神障害では「医療機関」の回答が約6割あった。

表2-72 仕事に関する相談先（複数回答）（単位：人）

		家族や 身近な人	職場	就労支援機関	居住している 場所	福祉・相談機関
視覚障害	第5期	53 (77%)	45 (65%)	5 (7%)	0 (0%)	6 (9%)
	第7期	54 (89%)	38 (62%)	2 (3%)	0 (0%)	5 (8%)
聴覚障害	第5期	94 (78%)	63 (53%)	6 (5%)	1 (1%)	4 (3%)
	第7期	88 (74%)	66 (55%)	5 (4%)	0 (0%)	8 (7%)
肢体不自由	第5期	107 (74%)	81 (56%)	13 (9%)	1 (1%)	12 (8%)
	第7期	93 (78%)	68 (57%)	7 (6%)	1 (1%)	8 (7%)
内部障害	第5期	57 (71%)	44 (55%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)
	第7期	39 (65%)	40 (67%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
知的障害	第5期	121 (68%)	98 (55%)	68 (38%)	23 (13%)	40 (23%)
	第7期	111 (73%)	85 (56%)	64 (42%)	24 (16%)	36 (24%)
精神障害	第5期	45 (64%)	38 (54%)	39 (56%)	4 (6%)	17 (24%)
	第7期	50 (78%)	37 (58%)	29 (45%)	1 (2%)	15 (23%)
計	第5期	477 (72%)	369 (56%)	132 (20%)	29 (4%)	82 (12%)
	第7期	435 (75%)	334 (58%)	109 (19%)	26 (5%)	72 (12%)

		医療機関	行政機関	訪問してくる 支援事業所	卒業した学校や 現在通っている 学校の先生	同じ障害の ある人の団体
視覚障害	第5期	4 (6%)	8 (12%)	1 (1%)	9 (13%)	15 (22%)
	第7期	4 (7%)	5 (8%)	1 (2%)	8 (13%)	18 (30%)
聴覚障害	第5期	4 (3%)	9 (8%)	0 (0%)	4 (3%)	29 (24%)
	第7期	2 (2%)	10 (8%)	0 (0%)	2 (2%)	29 (24%)
肢体不自由	第5期	12 (8%)	12 (8%)	5 (3%)	6 (4%)	10 (7%)
	第7期	15 (13%)	13 (11%)	4 (3%)	3 (3%)	9 (8%)
内部障害	第5期	9 (11%)	5 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (21%)
	第7期	7 (12%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (12%)
知的障害	第5期	11 (6%)	14 (8%)	3 (2%)	11 (6%)	16 (9%)
	第7期	14 (9%)	10 (7%)	6 (4%)	6 (4%)	18 (12%)
精神障害	第5期	34 (49%)	10 (14%)	2 (3%)	1 (1%)	4 (6%)
	第7期	39 (61%)	8 (13%)	2 (3%)	1 (2%)	6 (9%)
計	第5期	74 (11%)	58 (9%)	11 (2%)	31 (5%)	91 (14%)
	第7期	81 (14%)	47 (8%)	13 (2%)	20 (3%)	87 (15%)

		その他	相談したり 利用した ことはない	無回答	集計数
視覚障害	第5期	1 (1%)	7 (10%)	1 (1%)	69
	第7期	0 (0%)	4 (7%)	2 (3%)	61
聴覚障害	第5期	3 (3%)	10 (8%)	2 (2%)	120
	第7期	2 (2%)	11 (9%)	2 (2%)	119
肢体不自由	第5期	2 (1%)	12 (8%)	3 (2%)	144
	第7期	1 (1%)	10 (8%)	1 (1%)	120
内部障害	第5期	1 (1%)	6 (8%)	2 (3%)	80
	第7期	1 (2%)	7 (12%)	1 (2%)	60
知的障害	第5期	1 (1%)	15 (8%)	11 (6%)	177
	第7期	2 (1%)	7 (5%)	7 (5%)	153
精神障害	第5期	5 (7%)	3 (4%)	1 (1%)	70
	第7期	3 (5%)	3 (5%)	1 (2%)	64
計	第5期	13 (2%)	53 (8%)	20 (3%)	660
	第7期	9 (2%)	42 (7%)	14 (2%)	577

8 経済的なことに関する相談先

第7期と同様の調査項目で調査実施した第5期と第7期のすべての調査回答者が経済的に困ったことが起きたときに相談する人や機関を集計した結果を表2-73に示す。

いずれの障害種類も「家族や身近な人」が相談先の中心だった。知的障害及び精神障害では、「就労支援機関」、「福祉・相談機関」が身体障害と比べて多かった。また、精神障害では「医療機関」の回答が約2割あった。

表2-73 経済的なことに関する相談先（複数回答）（単位：人）

		家族や 身近な人	職場	就労支援機関	居住している 場所	福祉・相談機関
視覚障害	第5期	48 (70%)	7 (10%)	3 (4%)	0 (0%)	7 (10%)
	第7期	51 (84%)	8 (13%)	1 (2%)	0 (0%)	6 (10%)
聴覚障害	第5期	92 (77%)	9 (8%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)
	第7期	83 (70%)	12 (10%)	2 (2%)	0 (0%)	4 (3%)
肢体不自由	第5期	104 (72%)	12 (8%)	5 (3%)	1 (1%)	5 (3%)
	第7期	81 (68%)	11 (9%)	2 (2%)	1 (1%)	8 (7%)
内部障害	第5期	51 (64%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)
	第7期	37 (62%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)
知的障害	第5期	128 (72%)	26 (15%)	40 (23%)	22 (12%)	29 (16%)
	第7期	119 (78%)	32 (21%)	45 (29%)	21 (14%)	30 (20%)
精神障害	第5期	50 (71%)	9 (13%)	17 (24%)	5 (7%)	13 (19%)
	第7期	48 (75%)	11 (17%)	21 (33%)	1 (2%)	10 (16%)
計	第5期	473 (72%)	65 (10%)	69 (10%)	29 (4%)	59 (9%)
	第7期	419 (73%)	78 (14%)	71 (12%)	23 (4%)	59 (10%)

		医療機関	行政機関	訪問してくる 支援事業所	卒業した学校や 現在通っている 学校の先生	同じ障害の ある人の団体
視覚障害	第5期	1 (1%)	3 (4%)	1 (1%)	3 (4%)	4 (6%)
	第7期	0 (0%)	10 (16%)	0 (0%)	4 (7%)	9 (15%)
聴覚障害	第5期	1 (1%)	5 (4%)	0 (0%)	3 (3%)	13 (11%)
	第7期	0 (0%)	5 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (8%)
肢体不自由	第5期	1 (1%)	9 (6%)	3 (2%)	3 (2%)	3 (2%)
	第7期	5 (4%)	8 (7%)	3 (3%)	2 (2%)	5 (4%)
内部障害	第5期	2 (3%)	7 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)
	第7期	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)
知的障害	第5期	3 (2%)	10 (6%)	2 (1%)	6 (3%)	12 (7%)
	第7期	4 (3%)	7 (5%)	2 (1%)	6 (4%)	11 (7%)
精神障害	第5期	15 (21%)	6 (9%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)
	第7期	16 (25%)	5 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)
計	第5期	23 (3%)	40 (6%)	8 (1%)	16 (2%)	36 (5%)
	第7期	26 (5%)	37 (6%)	6 (1%)	13 (2%)	40 (7%)

		その他	相談したり 利用した ことはない	無回答	集計数
視覚障害	第5期	1 (1%)	20 (29%)	6 (9%)	69
	第7期	3 (5%)	19 (31%)	1 (2%)	61
聴覚障害	第5期	3 (3%)	22 (18%)	3 (3%)	120
	第7期	1 (1%)	29 (24%)	2 (2%)	119
肢体不自由	第5期	1 (1%)	39 (27%)	4 (3%)	144
	第7期	2 (2%)	37 (31%)	2 (2%)	120
内部障害	第5期	1 (1%)	23 (29%)	2 (3%)	80
	第7期	1 (2%)	20 (33%)	1 (2%)	60
知的障害	第5期	3 (2%)	23 (13%)	10 (6%)	177
	第7期	1 (1%)	13 (8%)	4 (3%)	153
精神障害	第5期	3 (4%)	12 (17%)	2 (3%)	70
	第7期	3 (5%)	10 (16%)	1 (2%)	64
計	第5期	12 (2%)	139 (21%)	27 (4%)	660
	第7期	11 (2%)	128 (22%)	11 (2%)	577

9 生活の満足度

すべての調査回答者の仕事以外の生活に関する4つの項目の満足度について、「満足」から「不満」までの5段階で評価してもらった。第1期から第7期までの結果を表2-74から表2-77に示す。

生活の満足度のいずれにおいても、概ね「満足」、「どちらかといえば満足」の方が、「不満」、「どちらかといえば不満」より多かったが、「自分の体力や健康について」は内部障害では「不満」「どちらかといえば不満」の方が多く、精神障害ではほぼ同数だった。4つの生活の満足の中では、「家族との人間関係について」が最も「満足」、「どちらかといえば満足」の回答が多く、「自分の体力や健康について」、「収入や経済生活について」は「満足」、「どちらかといえば満足」の回答が比較的少なかった。

表2-74 仕事以外の生活に関する満足度（家族との人間関係について）（単位：人）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計	
視覚障害	第1期	46 (44%)	40 (38%)	11 (11%)	2 (2%)	0 (0%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	46 (59%)	23 (29%)	7 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	38 (48%)	29 (36%)	7 (9%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	40 (53%)	22 (29%)	10 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	35 (51%)	21 (30%)	9 (13%)	3 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	27 (47%)	22 (39%)	4 (7%)	3 (5%)	1 (2%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	31 (51%)	17 (28%)	12 (20%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	62 (38%)	60 (36%)	33 (20%)	8 (5%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	39 (35%)	41 (36%)	26 (23%)	4 (4%)	0 (0%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	52 (33%)	71 (45%)	31 (19%)	3 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	52 (36%)	57 (39%)	26 (18%)	6 (4%)	3 (2%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	40 (33%)	47 (39%)	25 (21%)	2 (2%)	4 (3%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	35 (32%)	42 (39%)	25 (23%)	2 (2%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
	第7期	42 (35%)	45 (38%)	26 (22%)	1 (1%)	4 (3%)	1 (1%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	109 (50%)	60 (28%)	37 (17%)	4 (2%)	4 (2%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	84 (48%)	59 (34%)	23 (13%)	4 (2%)	1 (1%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	77 (45%)	59 (35%)	28 (16%)	4 (2%)	3 (2%)	0 (0%)	171 (100%)
	第4期	74 (49%)	49 (33%)	16 (11%)	5 (3%)	2 (1%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	63 (44%)	46 (32%)	18 (13%)	9 (6%)	2 (1%)	6 (4%)	144 (100%)
	第6期	61 (48%)	40 (32%)	15 (12%)	2 (2%)	4 (3%)	4 (3%)	126 (100%)
	第7期	59 (49%)	38 (32%)	18 (15%)	3 (3%)	1 (1%)	1 (1%)	120 (100%)
内部障害	第1期	34 (47%)	31 (42%)	5 (7%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	31 (51%)	22 (36%)	7 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	45 (45%)	39 (39%)	11 (11%)	1 (1%)	1 (1%)	4 (4%)	101 (100%)
	第4期	37 (40%)	38 (41%)	12 (13%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	35 (44%)	29 (36%)	11 (14%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	32 (47%)	26 (38%)	6 (9%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
	第7期	31 (52%)	15 (25%)	10 (17%)	1 (2%)	1 (2%)	2 (3%)	60 (100%)
知的障害	第1期	115 (58%)	44 (22%)	19 (10%)	7 (4%)	2 (1%)	11 (6%)	198 (100%)
	第2期	90 (54%)	43 (26%)	17 (10%)	6 (4%)	5 (3%)	7 (4%)	168 (100%)
	第3期	127 (54%)	56 (24%)	30 (13%)	6 (3%)	2 (1%)	16 (7%)	237 (100%)
	第4期	103 (53%)	50 (26%)	19 (10%)	7 (4%)	1 (1%)	13 (7%)	193 (100%)
	第5期	98 (55%)	43 (24%)	21 (12%)	4 (2%)	3 (2%)	8 (5%)	177 (100%)
	第6期	84 (50%)	42 (25%)	23 (14%)	1 (1%)	2 (1%)	15 (9%)	167 (100%)
	第7期	80 (52%)	48 (31%)	9 (6%)	5 (3%)	1 (1%)	10 (7%)	153 (100%)
精神障害	第1期	32 (39%)	30 (36%)	11 (13%)	7 (8%)	2 (2%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	26 (41%)	22 (35%)	9 (14%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	63 (100%)
	第3期	25 (27%)	43 (46%)	15 (16%)	4 (4%)	5 (5%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	32 (38%)	29 (34%)	16 (19%)	6 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	20 (29%)	23 (33%)	12 (17%)	5 (7%)	4 (6%)	6 (9%)	70 (100%)
	第6期	24 (34%)	24 (34%)	14 (20%)	3 (4%)	4 (6%)	2 (3%)	71 (100%)
	第7期	21 (33%)	19 (30%)	15 (23%)	3 (5%)	3 (5%)	3 (5%)	64 (100%)
計	第1期	398 (47%)	265 (32%)	116 (14%)	28 (3%)	9 (1%)	23 (3%)	839 (100%)
	第2期	316 (48%)	210 (32%)	89 (14%)	18 (3%)	7 (1%)	17 (3%)	657 (100%)
	第3期	364 (43%)	297 (35%)	122 (14%)	21 (2%)	13 (2%)	25 (3%)	842 (100%)
	第4期	338 (46%)	245 (33%)	99 (13%)	26 (4%)	8 (1%)	24 (3%)	740 (100%)
	第5期	291 (44%)	209 (32%)	96 (15%)	25 (4%)	15 (2%)	24 (4%)	660 (100%)
	第6期	263 (44%)	196 (33%)	87 (15%)	13 (2%)	13 (2%)	25 (4%)	597 (100%)
	第7期	264 (46%)	182 (32%)	90 (16%)	14 (2%)	10 (2%)	17 (3%)	577 (100%)

表2-75 仕事以外の生活に関する満足度（友人・知人との人間関係について）（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視覚障害	第1期	42 (40%)	40 (38%)	15 (14%)	5 (5%)	0 (0%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	32 (41%)	31 (40%)	12 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	34 (43%)	30 (38%)	12 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	28 (37%)	31 (41%)	12 (16%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	28 (41%)	25 (36%)	14 (20%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	17 (30%)	24 (42%)	15 (26%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	21 (34%)	28 (46%)	12 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	35 (21%)	90 (55%)	35 (21%)	4 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	28 (25%)	55 (49%)	24 (21%)	3 (3%)	0 (0%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	34 (21%)	78 (49%)	38 (24%)	7 (4%)	0 (0%)	2 (1%)	159 (100%)
	第4期	27 (19%)	77 (53%)	34 (23%)	6 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	18 (15%)	62 (52%)	36 (30%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	19 (18%)	57 (53%)	27 (25%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (3%)	108 (100%)
	第7期	25 (21%)	64 (54%)	27 (23%)	0 (0%)	2 (2%)	1 (1%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	84 (39%)	64 (30%)	56 (26%)	7 (3%)	3 (1%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	50 (29%)	76 (44%)	38 (22%)	4 (2%)	1 (1%)	5 (3%)	174 (100%)
	第3期	59 (35%)	65 (38%)	39 (23%)	5 (3%)	2 (1%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	52 (35%)	53 (35%)	35 (23%)	5 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	150 (100%)
	第5期	44 (31%)	54 (38%)	30 (21%)	8 (6%)	1 (1%)	7 (5%)	144 (100%)
	第6期	38 (30%)	54 (43%)	24 (19%)	4 (3%)	2 (2%)	4 (3%)	126 (100%)
	第7期	41 (34%)	44 (37%)	32 (27%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	120 (100%)
内部障害	第1期	25 (34%)	36 (49%)	9 (12%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	19 (31%)	30 (49%)	8 (13%)	2 (3%)	1 (2%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	32 (32%)	48 (48%)	13 (13%)	4 (4%)	1 (1%)	3 (3%)	101 (100%)
	第4期	24 (26%)	42 (46%)	18 (20%)	3 (3%)	2 (2%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	16 (20%)	39 (49%)	21 (26%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	19 (28%)	33 (49%)	14 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
	第7期	18 (30%)	25 (42%)	13 (22%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	60 (100%)
知的障害	第1期	93 (47%)	51 (26%)	36 (18%)	7 (4%)	3 (2%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	75 (45%)	46 (27%)	31 (18%)	6 (4%)	1 (1%)	9 (5%)	168 (100%)
	第3期	94 (40%)	71 (30%)	45 (19%)	7 (3%)	3 (1%)	17 (7%)	237 (100%)
	第4期	80 (41%)	52 (27%)	39 (20%)	6 (3%)	2 (1%)	14 (7%)	193 (100%)
	第5期	67 (38%)	50 (28%)	43 (24%)	5 (3%)	2 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
	第6期	60 (36%)	45 (27%)	36 (22%)	7 (4%)	2 (1%)	17 (10%)	167 (100%)
	第7期	50 (33%)	46 (30%)	37 (24%)	3 (2%)	3 (2%)	14 (9%)	153 (100%)
精神障害	第1期	20 (24%)	33 (40%)	22 (27%)	5 (6%)	2 (2%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	16 (25%)	26 (41%)	16 (25%)	5 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	22 (23%)	31 (33%)	25 (27%)	7 (7%)	6 (6%)	3 (3%)	94 (100%)
	第4期	20 (24%)	24 (28%)	31 (36%)	7 (8%)	3 (4%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	10 (14%)	27 (39%)	20 (29%)	5 (7%)	4 (6%)	4 (6%)	70 (100%)
	第6期	13 (18%)	29 (41%)	16 (23%)	7 (10%)	5 (7%)	1 (1%)	71 (100%)
	第7期	8 (13%)	27 (42%)	19 (30%)	6 (9%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
計	第1期	299 (36%)	314 (37%)	173 (21%)	28 (3%)	9 (1%)	16 (2%)	839 (100%)
	第2期	220 (33%)	264 (40%)	129 (20%)	21 (3%)	3 (0%)	20 (3%)	657 (100%)
	第3期	275 (33%)	323 (38%)	172 (20%)	32 (4%)	12 (1%)	28 (3%)	842 (100%)
	第4期	231 (31%)	279 (38%)	169 (23%)	28 (4%)	9 (1%)	24 (3%)	740 (100%)
	第5期	183 (28%)	257 (39%)	164 (25%)	23 (3%)	8 (1%)	25 (4%)	660 (100%)
	第6期	166 (28%)	242 (41%)	132 (22%)	21 (4%)	9 (2%)	27 (5%)	597 (100%)
	第7期	163 (28%)	234 (41%)	140 (24%)	12 (2%)	8 (1%)	20 (3%)	577 (100%)

表2-76 仕事以外の生活に関する満足度（自分の体力や健康について）（単位：人）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計	
視覚障害	第1期	18 (17%)	31 (30%)	27 (26%)	16 (15%)	10 (10%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	10 (13%)	28 (36%)	17 (22%)	15 (19%)	6 (8%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	11 (14%)	30 (38%)	25 (31%)	11 (14%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	9 (12%)	26 (35%)	21 (28%)	13 (17%)	3 (4%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	12 (17%)	20 (29%)	22 (32%)	15 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	6 (11%)	22 (39%)	17 (30%)	11 (19%)	1 (2%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	8 (13%)	21 (34%)	16 (26%)	10 (16%)	6 (10%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	36 (22%)	43 (26%)	60 (36%)	21 (13%)	4 (2%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	17 (15%)	36 (32%)	37 (33%)	16 (14%)	4 (4%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	22 (14%)	57 (36%)	58 (36%)	18 (11%)	3 (2%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	22 (15%)	54 (37%)	40 (28%)	24 (17%)	4 (3%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	13 (11%)	40 (33%)	42 (35%)	19 (16%)	4 (3%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	11 (10%)	42 (39%)	39 (36%)	9 (8%)	5 (5%)	2 (2%)	108 (100%)
	第7期	21 (18%)	35 (29%)	46 (39%)	10 (8%)	6 (5%)	1 (1%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	36 (17%)	47 (22%)	61 (28%)	43 (20%)	27 (13%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	19 (11%)	34 (20%)	53 (30%)	40 (23%)	23 (13%)	5 (3%)	174 (100%)
	第3期	28 (16%)	23 (13%)	53 (31%)	38 (22%)	27 (16%)	2 (1%)	171 (100%)
	第4期	16 (11%)	39 (26%)	43 (29%)	28 (19%)	20 (13%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	21 (15%)	21 (15%)	38 (26%)	38 (26%)	20 (14%)	6 (4%)	144 (100%)
	第6期	17 (13%)	29 (23%)	37 (29%)	26 (21%)	12 (10%)	5 (4%)	126 (100%)
	第7期	12 (10%)	35 (29%)	39 (33%)	22 (18%)	11 (9%)	1 (1%)	120 (100%)
内部障害	第1期	8 (11%)	16 (22%)	21 (29%)	18 (25%)	9 (12%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	9 (15%)	14 (23%)	19 (31%)	12 (20%)	5 (8%)	2 (3%)	61 (100%)
	第3期	12 (12%)	22 (22%)	33 (33%)	20 (20%)	13 (13%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	5 (5%)	24 (26%)	25 (27%)	21 (23%)	15 (16%)	2 (2%)	92 (100%)
	第5期	5 (6%)	17 (21%)	32 (40%)	16 (20%)	8 (10%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	5 (7%)	11 (16%)	25 (37%)	14 (21%)	10 (15%)	3 (4%)	68 (100%)
	第7期	3 (5%)	15 (25%)	19 (32%)	14 (23%)	7 (12%)	2 (3%)	60 (100%)
知的障害	第1期	82 (41%)	55 (28%)	32 (16%)	14 (7%)	7 (4%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	60 (36%)	54 (32%)	30 (18%)	11 (7%)	2 (1%)	11 (7%)	168 (100%)
	第3期	86 (36%)	73 (31%)	43 (18%)	13 (5%)	7 (3%)	15 (6%)	237 (100%)
	第4期	67 (35%)	57 (30%)	42 (22%)	8 (4%)	5 (3%)	14 (7%)	193 (100%)
	第5期	57 (32%)	58 (33%)	33 (19%)	12 (7%)	8 (5%)	9 (5%)	177 (100%)
	第6期	59 (35%)	42 (25%)	42 (25%)	6 (4%)	6 (4%)	12 (7%)	167 (100%)
	第7期	54 (35%)	51 (33%)	26 (17%)	9 (6%)	4 (3%)	9 (6%)	153 (100%)
精神障害	第1期	8 (10%)	23 (28%)	25 (30%)	19 (23%)	7 (8%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	7 (11%)	13 (21%)	19 (30%)	13 (21%)	11 (17%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	12 (13%)	24 (26%)	28 (30%)	18 (19%)	10 (11%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	8 (9%)	29 (34%)	21 (25%)	17 (20%)	10 (12%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	8 (11%)	14 (20%)	20 (29%)	18 (26%)	6 (9%)	4 (6%)	70 (100%)
	第6期	7 (10%)	18 (25%)	19 (27%)	14 (20%)	12 (17%)	1 (1%)	71 (100%)
	第7期	7 (11%)	15 (23%)	18 (28%)	16 (25%)	6 (9%)	2 (3%)	64 (100%)
計	第1期	188 (22%)	215 (26%)	226 (27%)	131 (16%)	64 (8%)	15 (2%)	839 (100%)
	第2期	122 (19%)	179 (27%)	175 (27%)	107 (16%)	51 (8%)	23 (4%)	657 (100%)
	第3期	171 (20%)	229 (27%)	240 (29%)	118 (14%)	61 (7%)	23 (3%)	842 (100%)
	第4期	127 (17%)	229 (31%)	192 (26%)	111 (15%)	57 (8%)	24 (3%)	740 (100%)
	第5期	116 (18%)	170 (26%)	187 (28%)	118 (18%)	46 (7%)	23 (3%)	660 (100%)
	第6期	105 (18%)	164 (27%)	179 (30%)	80 (13%)	46 (8%)	23 (4%)	597 (100%)
	第7期	105 (18%)	172 (30%)	164 (28%)	81 (14%)	40 (7%)	15 (3%)	577 (100%)

表2-77 仕事以外の生活に関する満足度（収入や経済生活について）（単位：人）

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計	
視覚障害	第1期	9 (9%)	30 (29%)	30 (29%)	17 (16%)	16 (15%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	13 (17%)	23 (29%)	21 (27%)	12 (15%)	7 (9%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	13 (16%)	36 (45%)	16 (20%)	8 (10%)	5 (6%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	11 (15%)	26 (35%)	15 (20%)	12 (16%)	8 (11%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	12 (17%)	22 (32%)	15 (22%)	9 (13%)	10 (14%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	10 (18%)	16 (28%)	16 (28%)	7 (12%)	8 (14%)	0 (0%)	57 (100%)
	第7期	7 (11%)	28 (46%)	13 (21%)	12 (20%)	1 (2%)	0 (0%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	16 (10%)	41 (25%)	55 (33%)	35 (21%)	17 (10%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	9 (8%)	29 (26%)	35 (31%)	29 (26%)	8 (7%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	9 (6%)	53 (33%)	58 (36%)	31 (19%)	7 (4%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	10 (7%)	49 (34%)	48 (33%)	26 (18%)	11 (8%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	10 (8%)	41 (34%)	47 (39%)	11 (9%)	9 (8%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	8 (7%)	39 (36%)	34 (31%)	19 (18%)	6 (6%)	2 (2%)	108 (100%)
	第7期	10 (8%)	44 (37%)	44 (37%)	11 (9%)	9 (8%)	1 (1%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	35 (16%)	42 (19%)	68 (31%)	43 (20%)	27 (13%)	1 (0%)	216 (100%)
	第2期	24 (14%)	43 (25%)	51 (29%)	29 (17%)	23 (13%)	4 (2%)	174 (100%)
	第3期	25 (15%)	47 (27%)	42 (25%)	35 (20%)	21 (12%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	17 (11%)	34 (23%)	45 (30%)	30 (20%)	20 (13%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	20 (14%)	30 (21%)	44 (31%)	23 (16%)	21 (15%)	6 (4%)	144 (100%)
	第6期	14 (11%)	43 (34%)	29 (23%)	21 (17%)	15 (12%)	4 (3%)	126 (100%)
	第7期	21 (18%)	35 (29%)	34 (28%)	18 (15%)	12 (10%)	0 (0%)	120 (100%)
内部障害	第1期	8 (11%)	18 (25%)	22 (30%)	14 (19%)	9 (12%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	8 (13%)	16 (26%)	17 (28%)	14 (23%)	5 (8%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	9 (9%)	32 (32%)	26 (26%)	23 (23%)	9 (9%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	5 (5%)	35 (38%)	21 (23%)	21 (23%)	7 (8%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	1 (1%)	27 (34%)	25 (31%)	18 (23%)	7 (9%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	4 (6%)	22 (32%)	23 (34%)	12 (18%)	5 (7%)	2 (3%)	68 (100%)
	第7期	2 (3%)	22 (37%)	18 (30%)	13 (22%)	3 (5%)	2 (3%)	60 (100%)
知的障害	第1期	82 (41%)	59 (30%)	27 (14%)	16 (8%)	6 (3%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	55 (33%)	49 (29%)	35 (21%)	13 (8%)	9 (5%)	7 (4%)	168 (100%)
	第3期	69 (29%)	66 (28%)	47 (20%)	21 (9%)	14 (6%)	20 (8%)	237 (100%)
	第4期	61 (32%)	47 (24%)	33 (17%)	26 (13%)	11 (6%)	15 (8%)	193 (100%)
	第5期	55 (31%)	48 (27%)	36 (20%)	15 (8%)	13 (7%)	10 (6%)	177 (100%)
	第6期	53 (32%)	47 (28%)	36 (22%)	9 (5%)	8 (5%)	14 (8%)	167 (100%)
	第7期	49 (32%)	50 (33%)	25 (16%)	10 (7%)	7 (5%)	12 (8%)	153 (100%)
精神障害	第1期	5 (6%)	24 (29%)	25 (30%)	18 (22%)	11 (13%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	4 (6%)	10 (16%)	23 (37%)	14 (22%)	12 (19%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	10 (11%)	18 (19%)	22 (23%)	33 (35%)	9 (10%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	6 (7%)	25 (29%)	24 (28%)	12 (14%)	18 (21%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	6 (9%)	17 (24%)	16 (23%)	18 (26%)	9 (13%)	4 (6%)	70 (100%)
	第6期	5 (7%)	17 (24%)	20 (28%)	16 (23%)	12 (17%)	1 (1%)	71 (100%)
	第7期	4 (6%)	16 (25%)	26 (41%)	6 (9%)	10 (16%)	2 (3%)	64 (100%)
計	第1期	155 (18%)	214 (26%)	227 (27%)	143 (17%)	86 (10%)	14 (2%)	839 (100%)
	第2期	113 (17%)	170 (26%)	182 (28%)	111 (17%)	64 (10%)	17 (3%)	657 (100%)
	第3期	135 (16%)	252 (30%)	211 (25%)	151 (18%)	65 (8%)	28 (3%)	842 (100%)
	第4期	110 (15%)	216 (29%)	186 (25%)	127 (17%)	75 (10%)	26 (4%)	740 (100%)
	第5期	104 (16%)	185 (28%)	183 (28%)	94 (14%)	69 (10%)	25 (4%)	660 (100%)
	第6期	94 (16%)	184 (31%)	158 (26%)	84 (14%)	54 (9%)	23 (4%)	597 (100%)
	第7期	93 (16%)	195 (34%)	160 (28%)	70 (12%)	42 (7%)	17 (3%)	577 (100%)

10 回答時の支援者の有無

すべての調査回答者の回答の記入時に家族、友人、支援者など周囲の人に支援を受けたかどうかを表2-78に示す。第7期においては、知的障害の約6割が支援を受けて回答していた。その他の障害種類では、概ね9割以上が自ら記入したと回答した。

表2-78 回答時の支援者の有無（単位：人）

		支援なし	支援あり	無回答	計
視覚障害	第1期	92 (88%)	7 (7%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	68 (87%)	5 (6%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	73 (91%)	3 (4%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	70 (93%)	2 (3%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	65 (94%)	4 (6%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	55 (96%)	1 (2%)	1 (2%)	57 (100%)
	第7期	56 (92%)	3 (5%)	2 (3%)	61 (100%)
聴覚障害	第1期	153 (93%)	6 (4%)	6 (4%)	165 (100%)
	第2期	103 (91%)	4 (4%)	6 (5%)	113 (100%)
	第3期	141 (89%)	7 (4%)	11 (7%)	159 (100%)
	第4期	138 (95%)	5 (3%)	2 (1%)	145 (100%)
	第5期	110 (92%)	3 (3%)	7 (6%)	120 (100%)
	第6期	104 (96%)	3 (3%)	1 (1%)	108 (100%)
	第7期	113 (95%)	3 (3%)	3 (3%)	119 (100%)
肢体不自由	第1期	198 (92%)	17 (8%)	1 (0%)	216 (100%)
	第2期	148 (85%)	18 (10%)	8 (5%)	174 (100%)
	第3期	148 (87%)	12 (7%)	11 (6%)	171 (100%)
	第4期	135 (90%)	11 (7%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	130 (90%)	11 (8%)	3 (2%)	144 (100%)
	第6期	115 (91%)	10 (8%)	1 (1%)	126 (100%)
	第7期	109 (91%)	9 (8%)	2 (2%)	120 (100%)
内部障害	第1期	72 (99%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	57 (93%)	1 (2%)	3 (5%)	61 (100%)
	第3期	96 (95%)	3 (3%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	90 (98%)	1 (1%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	77 (96%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	66 (97%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
	第7期	56 (93%)	2 (3%)	2 (3%)	60 (100%)
知的障害	第1期	52 (26%)	140 (71%)	6 (3%)	198 (100%)
	第2期	85 (51%)	79 (47%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	64 (27%)	156 (66%)	17 (7%)	237 (100%)
	第4期	69 (36%)	118 (61%)	6 (3%)	193 (100%)
	第5期	54 (31%)	112 (63%)	11 (6%)	177 (100%)
	第6期	59 (35%)	101 (60%)	7 (4%)	167 (100%)
	第7期	58 (38%)	91 (59%)	4 (3%)	153 (100%)
精神障害	第1期	76 (92%)	7 (8%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	47 (75%)	11 (17%)	5 (8%)	63 (100%)
	第3期	87 (93%)	6 (6%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	74 (87%)	10 (12%)	1 (1%)	85 (100%)
	第5期	62 (89%)	3 (4%)	5 (7%)	70 (100%)
	第6期	66 (93%)	4 (6%)	1 (1%)	71 (100%)
	第7期	58 (91%)	4 (6%)	2 (3%)	64 (100%)
計	第1期	643 (77%)	178 (21%)	18 (2%)	839 (100%)
	第2期	508 (77%)	118 (18%)	31 (5%)	657 (100%)
	第3期	609 (72%)	187 (22%)	46 (5%)	842 (100%)
	第4期	576 (78%)	147 (20%)	17 (2%)	740 (100%)
	第5期	498 (75%)	134 (20%)	28 (4%)	660 (100%)
	第6期	465 (78%)	119 (20%)	13 (2%)	597 (100%)
	第7期	450 (78%)	112 (19%)	15 (3%)	577 (100%)

第6節 調査回答者の特徴と留意点について

職業サイクル調査研究の調査回答者は、調査対象者としての募集方法から、障害のある労働者の代表的なサンプルとは言い切れず、本調査から得た知見をより広い範囲の障害のある労働者にあてはめて考える際は慎重に行う必要がある。調査回答者の特徴については、集計結果から次のような点が推測できる。

- ・職業サイクル調査研究への紹介元として、当事者団体等や職業リハビリテーション機関である者が合わせて7割であることから、社会資源の活用に積極的な人が多い可能性がある。
- ・知的障害においては、調査票の記入に際して周囲の支援を受けた人が約6割いるが、周囲の支援を受けやすい状況にある人を調査回答者に多く含む可能性がある。
- ・転居が多いと連絡先不明になりやすいことから、継続して回答を得た人は、比較的安定した生活状況であると考えられる。

これらの点は調査の限界であるが、16年間という他に類を見ない長期縦断調査の利点を活かし、横断調査や短期の縦断調査では捉えにくい、障害者の職業生活の特徴を捉え、仮説を提示することは十分に可能であると考えられる。

第3章

第7期のヒアリング調査結果

第3章 第7期のヒアリング調査結果

第1節 背景と目的

1 既存の分析結果を踏まえたヒアリング事項の検討

第5期及び第6期では対象者の特徴的なキャリア形成について明らかにするため、調査結果の分析を行い、新たな知見を得た。その中でも、障害者の仕事の満足度に対する職場の話合いや、仕事をする理由との関係性は、障害者のキャリア支援や仕事の質等の支援のために重要な知見と考えた。そこで今調査期では、障害者の仕事の満足度に関連する要因を確認するため、ヒアリング調査を実施して個別の状況を詳細確認し、分析結果の背景等の詳細な実態を把握して数量的分析結果を補完することにした。

なお、これらの既存の分析結果を踏まえたヒアリング事項の検討過程及び対象者選定の詳細、加えて参考として実施したヒアリング調査については、章末「参考 ヒアリング調査の補足」に掲載している。

(1) 仕事の満足度と職場の話合いの関係

過去の分析において、職場で支障となっていることの話合いの機会が「今まで同様に確認や話合いの機会があった」者は「確認や話合いの機会はまだない」者よりも仕事の満足度が高かったが、「新たに確認や話合いの機会があった」者と「確認や話合いの機会はまだない」者の間に特段の差は見られなかった。「今まで同様に確認や話合いの機会があった」と「新たに確認や話合いの機会があった」には同じ「話合いの機会」であってもその内容に質的な差があることが想定されたため、「今まで同様に確認や話合いの機会があった」者と「新たに確認や話合いの機会があった」者について、それぞれ仕事の満足度が高い者と低い者へヒアリングすることにより実態を把握し、仕事の満足度と職場の話合いの関係を整理する。

(2) 仕事をする理由と仕事の満足度の関係

過去の分析において、仕事をする理由のうち「社会の中で役割を果たすため」、「生きがいや楽しみのため」、「社会とのつながりを持つため」は仕事の満足度と関連していた。7つある仕事をする理由のうち、「社会」との関係性を扱った2つの理由がどちらも仕事の満足度と関連していることから、今回は仕事と社会の相互作用に着目して、「社会の中で役割を果たすため」や「社会とのつながりを持つため」と仕事の満足度の関係についてヒアリングにより実態を把握することにした。この際、「社会の中で役割を果たすため」や「社会とのつながりを持つため」を仕事をする理由にする者と仕事をする理由としない者について、それぞれ仕事の満足度が高い者と低い者へヒアリングし、仕事をする理由と仕事の満足度の関係を整理する。

第2節 方法

1 ヒアリング調査対象者

ヒアリング調査対象者は、アンケート調査結果を踏まえて、必要な情報が得られることが期待できる回答者を下記（1）及び（2）により選出した。

（1）選定基準

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係

職場で支障となっていることの話合いが「今まで同様に機会があった」者は「新たに機会があった」者より仕事の満足度が高かったことから、直近の第6期における職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の回答が「今まで同様に機会があった」又は「新たに機会があった」と回答した者のうち、仕事の満足度が高い者又は低い者とした。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度の関係

仕事をする理由が「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」の者は仕事の満足度が高かったことから、状況を総合的に収集するため、直近の第6期における仕事をする理由として「社会とのつながりを持つため」若しくは「社会の中で役割を果たすため」を重視する又は重視しないと回答した者のうち、仕事の満足度が高い者又は低い者とした。

（2）対象者の選出

ヒアリング対象者の選出に当たり、就労に関するヒアリングを実施することから、直近の第6期調査において就労中の者のうちからヒアリング候補者を検討した。また、効率的にヒアリングできるよう、複数のヒアリング事項に該当する候補者を優先して選出した。

（3）調査対象者

選出されたヒアリング調査候補者のうち、協力の得られた7名の対象者へヒアリング調査を実施した。対象者の詳細は表3-1に示す。

表3-1 ヒアリング調査対象者

No.	障害種類	年齢層	選定基準※			ヒアリング 実施	実施日
			話合い の機会	仕事の 満足度	仕事を する理由		
A氏	視覚障害	50代	同様に	高群	重視する	実施	2021年11月
B氏	聴覚障害	30代	新たに	低群	重視しない	実施	2021年11月
C氏	内部障害	50代	新たに	低群	重視しない	実施	2021年11月
D氏	精神障害	40代	新たに	高群	重視する	実施	2021年11月
E氏	聴覚障害	50代	同様に	低群	重視する	実施	2021年10月
F氏	肢体不自由	50代	同様に	高群	重視する	実施	2021年11月
G氏	肢体不自由	60代	—	高群	重視しない	実施	2021年11月

※選定基準

同様に： 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が「今まで同様にあった」

新たに： 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が「新たに機会があった」

—： 職場で支障となっていることの確認や話合いの「機会はまだない」ため、選定基準には非該当

高群：仕事の満足度が上位四分の一の範囲

低群：仕事の満足度が下位四分の一の範囲

重視する：仕事をする理由の「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」とも重視する

重視しない：仕事をする理由の「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」とも重視しない

2 方法

(1) 依頼

ヒアリング調査対象者に対して研究担当者から電話や手紙によりヒアリング調査の趣旨及び拒否できることを説明してヒアリング調査への協力を打診した。協力への意向が得られた場合は、調査にかかる時間は原則1時間以内とし聴覚障害があり手話通訳が必要な場合は1時間30分以内として、対象者と個別にヒアリング日時及びヒアリング場所の調整を行った。そのうえで、依頼文書とともに正式なヒアリング調査の趣旨説明文書及び研究倫理に関する説明文書を郵送し、改めてヒアリング調査への協力を依頼した。

(2) ヒアリングの実施

ヒアリング調査は、原則1名の研究担当者が行い、必要に応じて手話通訳者を手配する等の障害特性に応じた配慮を実施した。ヒアリング調査当日は、ヒアリングの開始前にヒアリング調査の趣旨及び研究倫理について再度説明し、同意書に署名を得てヒアリングを実施した。ヒアリング調査は半構造化面接法により実施し、別途同意を得てヒアリング内容はICレコーダーに録音した。また、協力が得られた場合は謝品としてクオカード又は図書カードを贈呈した。

(3) ヒアリング内容

ヒアリング調査では、次の2点を最初の質問としてヒアリング調査対象者に自由に思いつくことを話してもらい、必要に応じて質問することで内容を深めて聞き取った。

①職場で必要な配慮の確認や話合いの機会について

②仕事をする理由とその理由が仕事によって実現しているか

なお、過去のアンケート調査結果を踏まえてヒアリング対象に該当しない場合は当該質問は行わなかったが、他の質問の中で話題に上がった場合（例えば、①に該当しない対象者のヒアリングにおいて、

②に関連して、①に関連する職場で必要な配慮の確認や話合いの機会について話題に上がった場合は、その内容を深めるヒアリングを実施した。

(4) ヒアリング結果の取扱い

後日、録音したヒアリング内容から個人名等を除き、まとめた記録文(案)を作成し、ヒアリング調査対象者による発言内容の確認を行ったうえで、ヒアリング記録文を作成した。

(5) ヒアリング実施時期

ヒアリング調査は2021年10月から11月に実施した。

(6) 倫理的配慮

ヒアリング調査の実施に当たっては、対象者へ不利益が生じないように留意し、人権を尊重し、インフォームドコンセント、個人情報の保護、取得結果の管理等に留意した。なお、当ヒアリング調査は、障害者職業総合センターに設置された調査研究倫理審査委員会の審査を受け妥当と認められている。

第3節 結果

1 「仕事の満足度と職場の話合いの関係」及び「仕事をする理由と仕事の満足度の関係」に関する各事例の結果

ヒアリングを実施した7事例から、統計分析の結果に合致して、「今までと同様に話合いの機会があった場合」であって、かつ合理的配慮が提供されており満足度が高くなったケースは2例であった（A氏、F氏）。一方、今までと同様に話合いの機会があっても、合理的配慮が不十分な場合は満足度が低くなった（E氏）。話合いの機会がなくても、本人に必要な合理的配慮が提供されている場合は満足度が高くなった（G氏）。「新たに話合いの機会」があった事例では、企業が合理的配慮の提供に向けて取り組んでいるものの、その内容が十分でないために満足度が低くなる事例（B氏）が見られた。また、合理的配慮の提供の有無にかかわらず、給与など待遇面で満足感が得られない場合に、満足度が下がる事例（C氏）も存在した。

仕事をする理由と仕事の満足度の関係について、「社会の中で役割を果たすため」を重視するケースの場合、回答者本人が「社会の中で役割を果たしている」、「社会とつながっている」という実感があれば、仕事への満足度が高くなりやすい（A氏、D氏、F氏）という関係が確認できた。その一方で、「社会の中で役割を果たすため」を重視しないケースの場合は、本人が重視するファクター（一例としてC氏の待遇など）が満足度に影響していた。また、仕事をする理由として「社会の中で役割を果たすため」を重視するかどうかにかかわらず、障害に対する合理的配慮が十分に提供されていないと感じる場合（B氏、E氏）、満足度は下がる様子が見られた。「社会の中で役割を果たすため」を重視しない場合であっても、本人に必要な合理的配慮が提供されている場合は満足度が高くなった（G氏）。

以下、表3-2から表3-8に、各事例のヒアリング結果を示す。表中、仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について、①職場で支障となっていることの具体的な仕事への影響に関する発言は、_____で示した。②職場で支障となっていることの確認や話合いの機会に関する発言は、_____で示した。③合理的配慮の提供の状況に関する発言は、_____で示した。④仕事の満足度に関する発言は、_____で示した。また、仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について、⑤仕事の満足度に関する発言は、____で示した。⑥仕事をする理由に関する発言は、_____で示した。なお、ヒアリングにおいて、「仕事の満足度と職場の話合いの関係」に関する聴取と、「仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取は別の質問として聞いたが、聴取内容が重複した内容となる事例があった。これについては、結果としてそのまま掲載している。

(1) A氏の事例

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について

A氏は、「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」が今まで同様にあり、拡大文字使用など合理的配慮を受けていることがある一方で、自席のライトの設置など配慮が難しい問題も存在した。職場で支障となっていることの具体的な仕事への影響に関する発言はなかった。

A氏は、進路指導担当者として、生徒の将来に結び付く仕事に従事しており、社会の役に立っている実感があり、仕事の満足度は高い。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について

A氏は仕事をする理由として、「仕事を通じて社会に自分が貢献していけること」、「経済的に家族を守っていくこと」を挙げた。実際に進路担当教諭として、生徒の進路を開拓して、将来に結び付けていること、生徒が患者さんの対応ができるようになってきていることの経験を通じて、社会の役に立っている実感があり、そのことが仕事の満足度につながっていた。

表3-2 A氏ヒアリング結果

対象者	A氏／視覚障害／50代／男性	
調査票	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	今まで同様にあった
回答状況	仕事の満足度	高い
	仕事をする理由として、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」	重視する
仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容 (ヒアリングの要約)	<p>理療科教員のため生徒と同様に<u>拡大文字が使えるので、仕事はやりやすい。</u> <u>自分の席に暗さがあるのでライトを設置したいが、机のスペースが限られているので、学校に環境整備してもらうのは難しい。</u> <u>進路指導担当として職場を開拓して生徒の将来に結びつけるのは非常に満足感がある。</u>実技指導で<u>生徒が患者さんの対応ができていくようになることは、とても満足度がある。</u>生徒の将来に結び付く仕事には<u>やりがいと満足感があり、それが社会の役に立っている面も感じている。</u></p>	
仕事をする理由と仕事の満足度 の関係に関する聴取内容 (ヒアリングの要約)	<p>分野は違うが教員になろうと思っていたので、<u>今の仕事はやりがいがある。</u>進路担当として<u>進路の開拓をする仕事は非常にやりがいがある。</u>職場を開拓して<u>生徒の将来に結びつくのは非常に満足感がある。</u>実技指導で<u>生徒が患者さんの対応ができていくようになることは、とても満足度がある。</u>やりがいがあり満足いく仕事をしていて、それが<u>社会の役に立っている面も感じている。</u> 仕事をする理由には、<u>仕事を通じて社会に自分が貢献していけることと、経済的に家庭を守っていくことがある。</u>進路指導で結果を出さなければいけないので、自分の役割と責任を果たしていくことが必要と思っている。</p>	

(2) B氏の事例

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について

B氏は、職場で「支障となっていることの確認や話合いの機会」が新たに設定され、年に1、2回は上長と話し合う機会があった。職場では合理的配慮に関する取り組みが複数あり、先輩（同僚）に対する聴覚障害の理解教育、ダイバーシティの勉強会開催、パソコンのチャットツールを使ったコミュニケーション、総会での手話通訳手配、ダイバーシティ部による支援がその例であった。このような配慮はありながらも、実際のB氏の就業環境では、「情報をうまく取得できない」、「細かな情報が抜け落ちてしまう」、「会議に十分参加できない」、「情報伝達がうまくいかない」等が業務遂行に影響を及ぼして、仕事は全般的に満足感を感じながら、情報保障が不十分なことが本人の満足度を下げていた。

事業主は、聴覚障害者に対する配慮に取り組んでいるが、働く聴覚障害者の就業上の支障を十分に改善できていないと考えられる事例である。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について

B氏は仕事をする理由について、「お金が必要なこと」、「コンピューター関係のやりたい仕事をしていること」、「子供のために働きたいなという気持ち」を挙げていた。仕事全般への満足度は高いが、聴覚障害に対する情報保障がうまくいかないことがあって満足度が下がっていた。聴覚障害者がやりやすい仕事のプロセスを提案しても、チーム全体の仕事がやりやすいことが優先され、聞こえる人の仕事の流れでやるしかないと感じていた。

表3-3 B氏ヒアリング結果

対象者	B氏／聴覚障害／30代／男性	
調査票	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	新たに機会があった
回答状況	仕事の満足度	低い
	仕事をする理由として、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」	重視しない
仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容（ヒアリングの要約）	<p>新入社員教育が終わった後に、<u>職場の先輩へ聴覚障害の理解教育があった。筆談やパソコンのチャットツールを使ってマンツーマンでのコミュニケーションは取れているが、仕事の方針が決まる会議ではノートテイクを見るだけになり情報をうまく取得できない。会議内容は後日まとめたもので把握するが、細かな情報が抜け落ちてしまい仕事に支障が出る</u>ことがある。</p> <p>合理的配慮提供の義務化の後に変わったこととしては、任意で参加する<u>ダイバーシティの勉強会が開催</u>されたり、年2回ある<u>会社の総会での手話通訳の手配</u>が、こちらから申し出る形から総務部からどうするか確認が来るようになった。</p> <p>上司とは社員の評価があり最低でも<u>1年に2回は必ず話し合う機会</u>がある。その場では仕事の内容が中心になり、<u>会議に十分参加できていない</u>とか週に1回ある職場の部会の開催方法とか、疑問に思ったことを<u>質問して答えてもらっている</u>。</p>	

	<p><u>仕事は全般的に満足</u>だが、大人数や忙しくて<u>情報伝達がうまくいかない</u>チーム編成の時は仕事が<u>うまくいかず満足が下がる</u>。半年に1回仕事が変わっていくので、次の仕事は何だろうと期待をしながら働いている。</p> <p>情報保障だけでなく<u>聴覚障害者のやりやすい仕事のプロセスにできる</u>といいが、チーム全体の仕事がやりやすいことが大事で、時間の余裕がない中では提案しても<u>うまくいかず、聞こえる人の仕事の流れでやるしかない</u>。</p> <p>よかったこととして社内に<u>ダイバーシティの部がありそのおかげで支援を</u>してもらっている。まだまだ満足した制度ではないが、転職しても同じかなと思うので、今の会社で仕事を続けていきたい。</p>
<p>仕事をする理由と仕事の満足度の関係に関する聴取内容（ヒアリングの要約）</p>	<p>仕事をするうえでの<u>満足感</u>は、<u>波はあるが変わらない</u>。</p> <p>高校の時から<u>コンピュータ関係の会社で働きたい</u>という気持ちが強く、<u>障害者のためのツールや見やすいホームページづくりに興味を持っている</u>。</p> <p>仕事をする理由は、<u>一番はお金が必要なこと</u>と、<u>コンピュータ関係のやりたい仕事をやっている</u>ということ、その2つだと思う。子供が生まれて、<u>子供のために働きたい</u>なという気持ちがちょっと増えたかと思う。</p>

(3) C氏の事例

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について

C氏は、特例子会社で勤務している。職場で「支障となっていることの確認や話合いの機会」が新たに設定されているが、C氏自身は「よく喋る」方であるので、前任の社長の時期から社長に話に行くことがあった。「腎臓機能障害への理解」、「特別な有給休暇や仕事上の配慮」、「休憩時間がいつでも取れる」、(透析を行うようになって)「継続して働ける配慮」がある。職場で支障となっていること具体的な仕事への影響に関する発言はなかった。調査票では仕事の満足度が「低い」が、その要因として考えられる発言は、給料の低さがある。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について

C氏の仕事をする理由は、「生活」のため、「仕事をしていると人生の張り合いがある」ため、会社に「恩があり、定年の60歳までは頑張りたいと思っている」ためであった。仕事の満足度は、職場の建て替えにより環境が整備されたため、満足度が高くなったと回答しているが、調査票での回答は低かった。

表3-4 C氏ヒアリング結果

対象者	C氏／内部障害／50代／男性	
調査票	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	新たに機会があった
回答状況	仕事の満足度	低い
	仕事をする理由として、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」	重視しない
仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容 (ヒアリングの要約)	<p><u>腎臓機能障害への理解があり、通院のための特別な有給休暇や仕事上の配慮が得られていて、休憩時間もいつでも取れるようになっている。腎機能の低下で透析が始まることを相談していて、その時は継続して働けるよう配慮してもらえることになっている。</u></p> <p>職場には何個かグループがあり、<u>月に1回は集まって話合いを行っている。</u>大した話でもないときもあるし、重い話もあるが、その中で<u>自分のことを発言する機会</u>は普通にある。そういう場で手を挙げにくい人で、普段の状態に現れていた(原文ママ 「仕事への支障があった」という意味)場合は部署の担当者が個別に話を聞いている。</p> <p>(この特例子会社の)現社長は本社の労働組合長をやっていたので、<u>社員のことは提案する前から考えてくれている。働く環境を整えるのはすごく上手い。</u>気軽には行けないが、<u>社長室のドアはいつでも開いていてアポなしで話せるので、どうしてもという時は相談に行っている。</u></p> <p>今は理解があるが、ワンマンタイプの社長だった時は色々と大変だった。私はよく喋るが他の障害のある同僚はあまり喋らない人が多いので代表して<u>社長へ話に行くが、ちょっと精神的にかかったるいな</u>と思った。また、社内の他の障害者と違っ</p>	

	<p>て両手両足が動くので、当時は動ける分だけ仕事が回ってきた。</p> <p>7年前の<u>工場の建て替えて職場環境が整備されて、<u>仕事内容の回答が満足に変わった。</u></u></p> <p>特例子会社のため<u>給料は低い</u>。入社当初は透析に時間を使う中でも他の職員と同じ給料をもらっていたので恩があり、定年までは頑張りたい。</p>
<p>仕事をする理由 と仕事の満足度 の関係に関する 聴取内容 (ヒアリングの 要約)</p>	<p>最低でも定年の <u>60 歳までは頑張りたい</u>など思っている。途中で辞めるよりは、みんなにお疲れ様でしたと言われて退職したい。</p> <p>仕事をする理由は、<u>生活はもちろん当たり前のことだが、昔から病弱で仕事をしないで家にいると1日が長くて、<u>仕事をしていると人生の張り合いある。</u></u></p>

(4) D氏の事例

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について

D氏は、転職して以降、新たに職場上長との面談の機会があり、服薬についても伝えていた。職場からの合理的配慮について、「些細なことでも相談に乗ってもらえる」、「上司が気を遣ってくれる」、「『人権侵害を許さない』というポスターの掲示がある」、「雑音の少ない場所で働ける」、「仕事の全体像が分かるようになってきている」、「てんかんに対して疲れないように体力面の配慮がある」、「合理的配慮の社内教育の実施」などきめ細かな配慮があった。職場で支障となっていることの具体的な仕事への影響に関する発言はなかった。このような職場環境、仕事内容であるため、前職よりも低い給与であっても満足度が高く、これから継続して働くことを希望していた。

D氏では、「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」が新たに設定されていると回答したが、以前の職場から転職した事業所で「新たに話合いの機会」があったものであり、現在の事業所ではD氏が雇い入れられた段階から合理的配慮に関する話合いが設定されていて、仕事満足度が高くなっていた。実態としては、A氏やF氏の事例と同様に、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が「今まで同様にあった」ものである。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について

D氏の仕事をする理由は、「収入面と人間関係」のため、「仕事をすることで一日のリズムができる」ため、「色々な面で働くことは大きい」ためだった。D氏は「働くことそのものに」価値を置いて、「働けるのならいいと思ってどんな仕事でも受けた」り、「市内で工場があれば、自分はどこでもいい」と考えたり、「いつかは社会復帰してやるぞという気でいて」など、強い動機付けになっていた。

仕事の満足度は、現在の職場の仕事内容、上司の理解、働きやすい環境などから「ずっと今の会社で働きたい」と思っていた。

表3-5 D氏ヒアリング結果

対象者	D氏／精神障害／40代／男性	
調査票	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	新たに機会があった
回答状況	仕事の満足度	高い
	仕事をする理由として、「社会とのつながりを持った め」、「社会の中で役割を果たすため」	重視する
仕事の満足度と 職場の話合いの 関係に関する聴 取内容 (ヒアリングの 要約)	<p>前職の服屋の仕事では入社時点の情報だけを鵜呑みにして話合いの余地がなかった。ジョブコーチがノータッチになってから仕事量が増えて理不尽な仕事を振られることが多くなり、退職した。今の工場は<u>上司と面談の機会があり</u>、<u>些細なことでも相談に乗ってもらえている</u>。<u>上司が気を遣ってくれてやりがいがある</u>。社内の掲示板に「<u>人権侵害を許さない</u>」というポスターがあり信頼できる。</p> <p>周りの<u>雑音の少ない場所で働ける</u>など、仕事内容は配慮されている。<u>仕事の全体像が分かるようになっていて働きやすい</u>。てんかんについて、<u>疲れないう体力面</u></p>	

	<p><u>の配慮</u>はある。会社へも<u>服薬</u>は伝えている。</p> <p>合理的配慮提供の義務化の後に、今の職場で<u>合理的配慮の社内教育</u>を受けた記憶がある。</p> <p>服屋の給料は今の会社よりよかったが仕事内容を考えると<u>今の会社の給料は満足</u>がいく。<u>仕事内容も自分に合わせて調整してもらっていて、上司の理解もあり、働きやすい環境ができています。ずっと今の会社で働きたいと思っている。</u></p>
<p>仕事をする理由と仕事の満足度の関係に関する聴取内容（ヒアリングの要約）</p>	<p>学校を卒業して職業訓練を受けて就職した工場では、てんかんで倒れて事故にならないよう裏方へ回る人事異動があった。<u>働けるのならいいと思ってどんな仕事でも受けた。</u></p> <p>服屋では、働いたことがない仕事と思いながら藁にもすがるとつもりで働き始めた。<u>いつかは社会復帰してやるぞという気でいて、それができた。</u></p> <p>今の仕事は、<u>市内で工場があれば、自分はどこでもいいと希望を出して見つかった。</u>上司は些細なことでも相談に乗ってもらえている。</p> <p>仕事をする理由として、<u>収入面と人間関係、無職だとその両方が築けないという不安がある。</u>社会から取り残されていくような気がしてすごく怖い。<u>色々な面で働くことは大きいと思う。仕事をする事で一日のリズムができる。</u>この会社に入ってからより一層強く感じている。</p>

(5) E氏の事例

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について

E氏は、「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」は今までも同様にあったが、上長に仕事上の支障について相談しても、状況は改善されなかった。同僚職員とのコミュニケーションに困っていて、仕事上も「情報が正確に伝わらない」などの具体的な支障が出ているが、通訳の配置などの配慮はなかった。

その一方で、理解のある上司もいて、いろいろな相談に乗ってくれるため満足感もある。ただし、聴覚障害に関する専門知識は深くないため、話が「思わぬ方向に進む」といったこともあった。

E氏の場合、職場に聴覚障害についての理解が全くないわけではなく、理解者も存在するが、仕事上の支障があるために本人が希望している通訳者の設置などが解決されず、業務遂行上の支障が大きいことから満足度が低くなっている事例であった。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について

E氏の仕事をする理由は、「聞こえる人にこの(聴覚)障害を理解してもらいたいという思い」があり、「聞こえない仲間が差別を受けたり困っている状況は放っておけない」から相談業務をしていた。

仕事の満足度について、E氏ご本人が職場に求める合理的配慮が提供されず、同僚職員とのコミュニケーションに支障があり、時に孤立していると感じることもあり、満足度が低くなっていた。

表3-6 E氏ヒアリング結果

対象者	E氏／聴覚障害／50代／女性	
調査票	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	今まで同様にあった
回答状況	仕事の満足度	低い
	仕事をする理由として、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」	重視する
仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容 (ヒアリングの要約)	<p><u>働く上で障害への配慮は全くない。私は聞こえないので同僚職員とのコミュニケーションが一番困っている。同僚職員は筆談をしてくれるが限りがある。時々、昼休みや飲み会などでひとりぼちなと感じることがある。聴覚障害者の相談業務の担当が私ひとりでは、支援機関職員等関係者との調整業務などの場面で、コミュニケーションに限界があるので、仕事をサポートする通訳者が数時間だけでも配置されることを望む。</u></p> <p><u>職場の上司には仕事で支障となっていることを話す機会や差別を感じた時に報告する機会はある、手話通訳をつけてくれるようお願いしても結局は「予算もないので」となり何も変わらない。相談業務の関係者との話合いで通訳をつけてもらえず、情報が正確に伝わらなかったこともある。仕事をする中で大事なことに、理解してくれない。</u></p> <p>定年退職後にパート形態で継続雇用されている<u>理解のある上司はいて、ケース関</u></p>	

	<p>係の仕事で<u>一緒に心配したり相談に乗ってくれる</u>。その人とは個人的な話をすることもあり、<u>いろいろ筆談できることに満足感がある</u>。とても心強いが聴覚障害についての知識は手話通訳者ほどないため、説明に時間がかかったり<u>思わぬ方向へ進んでしまったりすることもある</u>。</p>
<p>仕事をする理由 と仕事の満足度 の関係に関する 聴取内容 (ヒアリングの 要約)</p>	<p>通訳をつけることは仕事をする中で大事なことなのに、いくら言っても上司たちはなかなか理解してくれない。</p> <p><u>聞こえない仲間が差別を受けたり困っている状況は放っておけない</u>。聞こえない仲間のためと、<u>聞こえる人にこの障害を理解してもらいたいという思いで相談業務をしている</u>。</p> <p>すべてのことが自分の勉強になると思って仕事をしている。色々な相談支援のケースに関わる中で、福祉制度の仕組みや、社会の中に差別が残っていて理解が充分いきわたってないことが分かる。</p>

(6) F氏の事例

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について

F氏は、特例子会社に勤務している。「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」は今までも同様にあり、「会社の方から聞いてくれることが多く」、「障害についてしっかり確認して」、「申し訳ないぐらい対応してくれ」、「恵まれている」と思っている。仕事への満足度は高く、これからも継続して、定年後65歳まで働きたいと希望している。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について

F氏の仕事をする理由は、「経済的な理由」と「社会の一員としてやっていける」ことであり、今の仕事には満足していて、これからも続けていきたいと考えている。

表3-7 F氏ヒアリング結果

対象者	F氏／肢体不自由／50代／女性	
調査票	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	今まで同様にあった
回答状況	仕事の満足度	高い
	仕事をする理由として、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」	重視する
仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容 (ヒアリングの要約)	<p>(特例子会社で) <u>設備面はバリアフリーで、障害についてしっかり確認して、申し訳ないぐらい対応してくれている。</u></p> <p>配慮については<u>会社の方から聞いてくれることが多く</u>、逆にこれ以上言ったらという感じで、<u>恵まれていると思う。</u></p> <p><u>今の仕事には満足</u>していて<u>これからも続けていきたい</u>。定年後も65歳まで働けるので、身体が続けば働きたい。</p>	
仕事をする理由と仕事の満足度 の関係に関する聴取内容 (ヒアリングの要約)	<p>仕事をする理由の一番は、<u>経済的な理由</u>である。今、勤務している会社は、いい会社で働いていても楽しいし、<u>社会の一員としてやっていけるという実感がある。</u></p> <p><u>今の仕事には満足</u>していて、<u>これからも続けていきたい</u>。</p>	

(7) G氏の事例

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容について

G氏は、前職では、「一緒に働く人たちはみんな助けてくれるので、普通に仕事できた」、「品物が重いときは近くの若手に運んでもらい、そういうことで仕事もうまくいった」等の合理的配慮があって、仕事内容に満足感があり、給与面や人間関係、職場環境など全般的に働きやすい職場だった。定年退職後、障害者雇用枠で現職に就職した。入社時に、「職場で支障となっていることの確認」があったが、本人が必要ないと答えている。実際に就業する中で、職場で支障となっていることの具体的な仕事への影響に関する発言はなかった。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度に関する聴取内容について

G氏の仕事をする理由は、「自信を持ってやれる、自分のやりたい事務の仕事」をやることであり、就職先で一生懸命働いて、新しい人間関係をつくっていけば、「道が開ける」と考えていて、現在の仕事への満足度も高かった。

表3-8 G氏ヒアリング結果

対象者	G氏／肢体不自由／60代／男性	
調査票	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	機会はまだない
回答状況	仕事の満足度	高い
	仕事をする理由として、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」	重視しない
仕事の満足度と職場の話合いの関係に関する聴取内容 (ヒアリングの要約)	<p>(前職について)</p> <p>コネ入社だったし身体も悪かったので、管理職の手前で定年退職になった。上司の仕事を見て自分にもできると思っていたが、家族を養っていくにはこの会社は最適だった。事務職の仕事は可もなく不可もなく無難にやり過ごすことができた。家族優先でそこまで仕事に一生懸命ということではなかった。</p> <p>そこまで配慮を必要としてなく、<u>一緒に働く人たちはみんな助けてくれるので、普通に仕事できた。材料を管理する仕事では品物が重いときは近くの若手に運んでもらい、そういうことで仕事もうまくいった。</u></p> <p><u>仕事内容は満足いくもので、給料面も大企業でよかった。人間関係もおおむねよくて、職場の環境もよく、全般的に働きやすい職場だった。</u></p> <p>(現職について)</p> <p>定年後に就いた今の障害者雇用枠の仕事は、他の人と比べて残業もなく仕事も楽で優遇されている感じがする。給料は生活していけるぐらいの額でそんなに高くないが、給料からしたら楽な仕事である。<u>入社時に配慮の必要性を聞かれたが、必要ないと答えている。今の仕事には満足している。</u></p>	
仕事をする理由と仕事の満足度	前職の事務の仕事は自信をもってやれる仕事で、 <u>自分のやりたい仕事と一致していた。女房・子供を養っていくには最適だった。仕事は可もなく不可もなく無難に</u>	

<p>の関係に関する 聴取内容 (ヒアリングの 要約)</p>	<p>やり過ごすことができた。<u>家族優先でそこまで仕事に一生懸命ということではなかった。</u></p> <p>今の仕事は、やりがいはないけれど、与えられた中で一生懸命していれば、また道が開けると思える。<u>仕事に行った先で一生懸命働いて、新しい人間関係をつくって次の就職も探せたらな</u>と思っている。まだしばらく働き続けるつもりでいる。</p> <p>自分の力を本当に活かせるような仕事があったらいいと思う。働きたくても働けない人も沢山いるし、思うようなこともできない人もいる。事務の仕事は普通にできるので、あとは資格や自分が勉強してきたことが認められるとうれしい。</p> <p>2019年のアンケート調査で働く理由のいくつかの項目で「どちらかといえば当てはまらない」という回答になった理由は、推測になるが、来年の3月でいよいよ仕事が終わりに好きにできるという気持ちがあったのではないかと思う。これからやっとなりたいことができるという気持ちで、実際はしたいことなど見つからず悶々としていたが、ゆっくり考えてみたいと思っていた。</p>
---	--

第4節 考察

1 ヒアリング結果から導かれること

(1) ヒアリング結果を捉える上での留意点

今調査期のヒアリング調査により、仕事の満足度に対する職場の話合いと業務遂行上の支障、また、仕事をする理由の実現状況（ミスマッチ）の影響が示唆された。ただし、このような結果は、限りあるデータから導かれる仮説に相当すると考えられる点は留意が必要である。

(2) 仕事の満足度に影響する要因

ア 職場の話合いと業務遂行上の支障の解消

仕事の満足度と職場の話合いの関係では、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」と回答した3名のうち2名は、話合いの結果、本人が働く職場で必要とする合理的な配慮が整えられていて、業務遂行上の支障が少なかった。「新たに確認や話合いの機会があった」と回答した2名のうち1名について、本人が働く職場で必要とする合理的な配慮が整えられ始めているが、業務遂行上の支障は残存していて、本人の満足度が低くなっていた。

障害者雇用促進法改正により、合理的配慮の提供が義務化される過程で、「新たに確認や話合いの機会」を設けている事業所も増えているが、ヒアリングの結果から、障害のある従業員の就業上の支障を十分に解消できていない事例があり、そのことが満足度を下げる要因となっていることも考えられる。

イ 仕事をする理由の実現状況

仕事の満足度と仕事をする理由の関係では、「社会の中で役割を果たすため」を重視するケースの場合、回答者本人が「社会とつながっている」等の実感があれば、仕事への満足度が高くなるが、「社会の中で役割を果たすため」を重視しないケースの場合は、「社会とつながっている」等の実感があっても、待遇面など本人が重視するファクターが満足度に影響する事例があった。重視する事柄と現実のミスマッチが満足度と関連している可能性がある。

2 ヒアリング調査の課題

ヒアリング調査に関して、今調査期のヒアリング実施により得られた留意事項として、過去の回答状況を確認することの難しさと、オンラインでのヒアリング実施の課題があった。

(1) 過去の回答状況を確認することの難しさ

仕事の満足度や仕事をする理由として重視する度合いなどは、回答時点(第6期の前期調査は2018年、後期調査は2019年に実施し、ヒアリング調査は2021年に実施)の気持ちに左右される調査内容のため、当時の状況を遡って確認することは難しかった。また職場で支障となっていることの確認や話合いの機会という事実関係であっても、数年前のことをその場で思い出して話してもらい聴取することは難しかった。アンケート調査の実施及び結果の分析からヒアリング調査の企画まで少なくとも1年から2年程度の期間を要することも踏まえると、アンケート調査結果を補足するヒアリングを実施する際には、過去のある時点の状況を確認するのではなく、現在とこれからのこととして聴取することが有効と考えられる。このためには、過去の回答状況を踏まえて、ヒアリングのテーマを設定し、現在の状況や意見等を聴取することが効果的と考えられる。

(2) オンラインでの調査実施方法について

第7期は社会情勢を踏まえて、7件のヒアリング調査のうち、数件のヒアリング調査ではオンラインを用いたWeb会議形式により画像と音声をやり取りして聴取した。

オンライン形式の場合、直接会って話す面談形式よりも実施場所や時間の制約が少なく、ヒアリングの実施者、対象者とも負荷が低かった。一方で、会話や画像の配信遅延（タイムラグ）や通信回線により途切れ途切れになったり、パソコン機器を介して音声聞き取りづらくなるなどの課題点もあり、直接会う面談形式よりも踏み込んだ内容の聴取が難しかった。また、当然のことだが、オンラインによる会議環境を持たない対象者には実施することができなかった。

以上のことから、障害者を対象としたヒアリング調査を行う場合、新型コロナ・ウイルス感染症の感染拡大などの社会情勢は当然としながらも、効果的な聴取方法の選択肢のひとつとしてオンライン会議を選択するに当たり、対象者の「オンライン会議の経験度合い」や「聴取する内容」を踏まえ、その是非を検討する必要があると考えられた。

3 まとめと今後へ向けて

今調査期のヒアリング調査により、数量的分析結果だけでは把握が困難であった内容について、示唆が得られた。ただし、アンケート調査結果で得られた過去のある時点の状況をヒアリングにより確認することは難しい場合もあることから、過去の回答状況を踏まえつつ、現在とこれからのこととしてのヒアリング実施が効果的と考えられる。社会情勢を踏まえつつ、オンラインを用いたWeb会議形式でのヒアリング実施も選択肢となり得るが、ヒアリングの目的と合致した有効な内容を聴取できるよう、対象者の「オンライン会議の経験度合い」や「聴取する内容」を踏まえて、実施方法を検討していく必要がある。

今調査期の以上のヒアリング結果で得られた示唆を仮説として、今後、数量的分析を重ねて内容を精査したうえでアンケート調査から示される結果を整理し、その説明や解釈に具体的な状況確認が必要となった場合には、ヒアリング調査を有効な手法として実施を検討したい。

参考 ヒアリング調査の補足

本稿には、既存の分析結果を踏まえたヒアリング事項の検討過程及び対象者選定の詳細を含む方法、加えて参考として実施したヒアリング調査について掲載する。

1 既存の分析結果を踏まえたヒアリング事項の検討過程

調査対象者の特徴的なキャリア形成について明らかにするため、第5期及び第6期では仕事の満足度に着目して統計分析を行い、その結果を調査研究報告書において掲載してきた。これらの結果を踏まえて、今調査期に実施するヒアリング事項を検討した。

(1) 過去に報告書に掲載した分析結果

ア 職場での確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係

第5期に実施した1つ目の分析では、第5期の開始年である2016年4月に障害者雇用促進法が改正され合理的配慮の提供が義務化されたことを踏まえ、職場で支障となっていることの話合いの機会の有無と仕事の満足度の関係を分析した。その結果、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者の方が、「確認や話合いの機会はまだない」者よりも仕事の満足度が高かったこと、「新たに確認や話合いの機会があった」者と「確認や話合いの機会はまだない」者の仕事の満足度には特段の差は検出されなかったことを報告した。

イ 仕事満足度を決定する要因の検討

第5期に実施した2つ目の分析では、仕事の満足度が離職や現在の仕事を続けたいという意識に関連していたことをまず報告し、続いてその仕事の満足度を決定する要因を多変量解析により整理した。その結果、仕事の満足度には、「自身の障害の説明」、「配慮を必要とする項目の数」、「援助者が去った経験」、「昇給や減給」、「現職期間」が影響していたことを報告した。

ウ 仕事をする理由と仕事の満足度の関係の分析

第6期に実施した分析では、仕事をする理由と仕事の満足度の関係を統計分析した。その結果、仕事をする理由のうち、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」、「生きがいや楽しみのため」が、障害種類の影響を考慮してもなお、仕事の満足度へ有意に関連していることを報告した。

(2) 報告書に掲載した分析結果に基づくヒアリングの検討

前述の1(1)を踏まえ、次のようにヒアリング調査を検討した。

ア 仕事の満足度と職場の話合いの関係

前述1(1)アについては、「今までと同様に確認や話合いの機会があった」者は「確認や話合いの機会はまだない」よりも仕事の満足度が高かったが、「新たに確認や話合いの機会があった」と「確認や話合いの機会はまだない」の間に特段の有意差は検出されなかったことを踏まえると、「今まで同様に確認や話合いの機会があった」と「新たに確認や話合いの機会があった」には同じ「話合いの機会」であってもその内容に質的な差があることが想定された。このため、「今まで同様に確認や話合いの機会があった」と「新たに確認や話合いの機会があった」者について、それぞれ仕事の満足度が高い者と低い者へヒアリングすることにより実態を把握することとした。

イ 仕事をする理由と仕事の満足度の関係

前述1（1）ウについては、仕事をする理由のうち「社会の中で役割を果たすため」と「生きがいや楽しみのため」は、そのプロセスは不明ではあるが、障害種類の影響を除いてもなお、比較的一貫して仕事の満足度へ関連していた。また、「社会とのつながりを持つため」も第5期の結果で仕事の満足度と関連していた。7つある仕事をする理由のうち、「社会」との関係を扱った2つの理由がどちらも仕事の満足度と関連していることから、今回は仕事と社会の相互作用に着目して、「社会の中で役割を果たすため」や「社会とのつながりを持つため」と仕事の満足度の関係についてヒアリングにより実態を把握することにした。この際、「社会の中で役割を果たすため」や「社会とのつながりを持つため」を仕事をする理由にする者と仕事をする理由としない者について、それぞれ仕事の満足度が高い者と低い者へヒアリングすることにした。

ウ 仕事満足度を決定する要因の検討

前述1（1）イについては、仕事の満足度には、「自身の障害の説明」、「配慮を必要とする項目の数」、「援助者が去った経験」、「昇給や減給」、「現職期間」が影響していたことから、第6期に試行的に実施したヒアリング調査において取り上げ、限定的ながら分析結果を掲載していることから、今調査期におけるヒアリング事項には含めなかった。

（3）学会等で発表した試行分析結果を踏まえた参考ヒアリング調査の検討

第4期までは調査研究報告書へ掲載した内容を中心に学会等で発表してきたが、第5期及び第6期では調査研究報告書へ掲載した分析の他に、本調査研究のデータを用いた新たな分析を試みてその一部を学会等において発表してきた。そのうち、パネルデータの特性を活かした、同一対象者の複数の調査期の間の変化に着目した分析結果を踏まえた参考ヒアリング調査を検討した。

ア 学会等で発表した試行分析結果のうちパネルデータの特性を踏まえたもの

a 障害のある労働者の相談先の8年間の変化¹⁾

奇数の調査期（分析時点では第1期、第3期、第5期）に取得した仕事の相談先と経済的な相談先について、長期的な変化に着目して第1期と第5期の回答を比較して集計した。その結果、第1期及び第5期ともに仕事の相談をしていない者は約4%であり大半の者は仕事の相談をしていた。相談先は「家族や友人」が約9割、「職場」が約7割で、他の相談先は多くとも2割前後だった。障害者の職業生活を支援する専門職への相談は少なく、第5期の「福祉・相談機関」は10%、「就労支援機関」は18%、「医療機関」は11%だった。障害種類別に見ると精神障害では就労支援機関や医療機関への相談が多くあった。新たな相談先へと変化した者（「第1期は相談先でなく、第5期は相談先である」の変化）は、仕事の相談先「家族や友人」では、視覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害の4障害種類で2割以上いた。「職場」が「新たな相談先」へと変化した者は全ての障害種類で2割以上いた。

精神障害では第5期に「就労支援機関」や「福祉・相談機関」へ新たに相談するようになった者が約2割存在した。また、精神障害以外でも「就労支援機関」へは障害種類により1名から15名が新たに相談するようになっており、「福祉・相談機関」へは、聴覚障害を除いた各障害種類において2名から16名が新たに相談するようになっていた。第5期の経済的な相談先は「家族や友人」が約7割、「職場」が約1割で、他の相談先は1割に満たなかった。経済的な相談先「家族や友人」が新たな相談先へと変化

した者が全ての障害種類で3割以上いた。精神障害では「職場」と「医療機関」が新たな経済的な相談先へと変化した者がどちらも21%いたことなどを報告している。

b 第1期から第5期までの障害者手帳の等級の変化²⁾

調査対象者の障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳等、精神障害者保健福祉手帳）の等級の変化を、第1期から第5期の結果から個人ごとに確認したところ、集計対象者1,077人のうち障害者手帳の等級の軽度化が確認された者は10人(0.9%)、調査当初に等級が最重度の者を除いた624人のうち調査期間中に等級の重度化が確認された者は54人(8.7%、全1,077人のうちでは5.0%)だった。性別や年代による重度化の傾向には差はみられなかったが、視覚障害は全体の傾向よりも障害者手帳の等級が重度化しやすく、知的障害は重度化しにくかった。重度化が確認された54人の就労形態の変化（就労形態は必ずしも仕事の負荷を反映しているとは限らないが、正社員、正社員以外、就労継続支援A型での就労、雇用関係のない福祉施設での就労、非就労の順で仕事の負荷が軽くなると考えた場合の仕事の負荷の変化）は、仕事の負荷を軽くする方向の変化が12人と多かった。重度化の前後とも就労していた40人の職場に配慮を希望することは、配慮の希望「あり」へ変化する者と、「なし」へ変化する者が混在していた。精神障害では配慮の希望「あり」へ変化する場合が他の障害種類よりも多くあり、通勤面への配慮は約6割が選択していたことを報告している。

イ 学会等で発表した試行分析結果に基づくヒアリングの検討

a 支援機関の利用によるキャリア等への影響

前述1(3)アaについては、仕事の相談先と経済的な相談先の2つを扱っていたが、今回は当調査研究の趣旨である職業生活との関連に着目して、「仕事に関して困ったこと」の相談先を取り上げた。

結果を見ると、障害種類全体では第5期の仕事の相談先は大部分が「家族や友人」、「職場」であり、新たに相談をするようになった者は視覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害で「家族や友人」、「職場」が2割を超えており、聴覚障害、精神障害では「職場」が2割を超えていたことから、第1期から第5期までの8年間に仕事に関する相談のニーズは増加して、その大部分は身近な「家族や友人」、「職場」へ相談することで対応していることが読み取れる。一方、精神障害では第5期に「就労支援機関」や「福祉・相談機関」といった専門職へ新たに相談するようになった者が約2割存在し、精神障害以外にも各障害種類において専門職へ新たに相談するようになっていた。

このことを踏まえ、仕事に関する相談ニーズが増加する中で、「家族や友人」「職場」という身近な相談相手への相談ではなく、障害者の職業生活を支援する専門職である「就労支援機関」や「福祉・相談機関」に新たに利用するようになった理由について、背景等の実態をヒアリングにより把握することとした。

b 障害者手帳の重度化について

前述1(3)アbについては、本調査研究で取得したパネルデータにより障害の重度化の実態を明らかにできる期待が高い事項である。しかし、第5期までの結果では、障害者手帳等に重度化が確認できた者は54人に留まることから、調査実施途中の限られた結果ではなく、第1期から第8期までのデータがそろった上であらためて障害者手帳の等級の変化や関連する状況を検討することから、今調査期におけるヒアリング事項には含めなかった。

2 方法

方法については、ヒアリング対象者選定の詳細を掲載するとともに、参考として実施した支援機関の利用によるキャリア等への影響に関するヒアリング調査について本文に掲載していない内容を補足する。

(1) ヒアリング調査対象者

ア 選定基準

a 仕事の満足度と職場の話合いの関係

職場で支障となっていることの話合いが「今まで同様に機会があった」者は「新たに機会があった」者より仕事の満足度が高かったことから、第6期における職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の回答が「今まで同様に機会があった」又は「新たに機会があった」と回答した者のうち、仕事の満足度が高い者又は低い者とした。

なお、仕事の満足度については、直近の第6期調査において4つの仕事の満足度すべてに回答のあった者483名について、「仕事の内容」、「給料や待遇(労働条件等)」、「職場の人間関係」、「職場の環境(施設整備等)」の4つの仕事の満足度を、不満=1から満足=5まで数値化して合計点を求め、人数を鑑みて割合が第一四分位の者を仕事の満足度高群、第四四分位の者を仕事の満足度低群とした。仕事の満足度高群は18点以上で121人が該当し、仕事の満足度低群は12点未満で123人が該当した。

b 仕事をする理由と仕事の満足度の関係

仕事をする理由が「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」の者は仕事の満足度が高かったことから、状況を総合的に収集するため、第6期における仕事をする理由として「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」を重視する又は重視しないと回答した者のうち、仕事の満足度が高い者又は低い者とした。

仕事をする理由のうち「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」については、直近の第6期調査において回答を得た就労中の者508人の結果を、あてはまらない=1からあてはまる=5まで数値化して、それぞれ第一四分位の最高得点=5の者を当該項目を重視する者、第四四分位の者(「社会とのつながりを持つため」は3点以下、「社会の中で役割を果たすため」は2点以下の者)を当該項目を重視しない者とした。

c 支援機関の利用によるキャリア等への影響

第1期と第5期の回答の比較分析では仕事に関する相談先は大部分が家族や職場だったが、一部の者に新しく就労支援機関又は福祉・相談機関へ相談するケースが見られたことから、第1期では就労支援機関又は福祉・相談機関を仕事に関する相談先として回答していない者のうち、第5期で就労支援機関又は福祉・相談機関を仕事に関する相談先として回答した者とした。

就労支援機関又は福祉・相談機関を新たに相談先とした者については、直近の第6期調査に回答があった者のうち、第1期に福祉・相談機関に相談しておらず第5期に相談していた者は33人、第1期に就労支援機関に相談しておらず第5期に相談していた者は36人、その両方に該当する者は10人だった。

イ 対象者の選出

ヒアリング対象者の選出に当たり、就労に関するヒアリングを実施することから、直近の第6期調査に就労中の者のうちからヒアリング候補者を選定した。対象者の選定に当たっては、効率的にヒアリン

グできるよう、前述の2（1）アに掲載した3つの選定基準に複数該当する者を優先して、すべてのパターン※を網羅するよう努めた。

※2（1）アに掲載した選定基準のパターン

・第6期における職場で支障となっていることの確認や話合いの機会	・第6期における仕事をする理由
「今まで同様に機会があった」 × 仕事の満足度高群	「社会とのつながりを持つため」高群 × 仕事の満足度高群
「今まで同様に機会があった」 × 仕事の満足度低群	「社会とのつながりを持つため」高群 × 仕事の満足度低群
「新たに機会があった」 × 仕事の満足度高群	「社会とのつながりを持つため」低群 × 仕事の満足度高群
「新たに機会があった」 × 仕事の満足度低群	「社会とのつながりを持つため」低群 × 仕事の満足度低群
・仕事に関する相談先	「社会の中で役割を果たすため」高群 × 仕事の満足度高群
就労支援機関 第1期相談なし × 第5期相談あり	「社会の中で役割を果たすため」高群 × 仕事の満足度低群
福祉・相談機関 第1期相談なし × 第5期相談あり	「社会の中で役割を果たすため」低群 × 仕事の満足度高群
	「社会の中で役割を果たすため」低群 × 仕事の満足度低群

ウ 調査対象者

第2章第2節1（3）のとおり。

（2）方法

第2章第2節2のとおり。なお、ヒアリング内容については、第2章第2節2（3）に加えて、「③支援機関で仕事に関する相談をするようになった経緯について」を聴取している。

3 結果（支援機関の利用によるキャリア等への影響に関するもの）

当初、福祉機関、就労支援機関が、新たに仕事に関する相談先として利用するに至った肢体不自由1名（F氏）、知的障害2名、精神障害1名へのヒアリングを計画したが、最終的にはF氏のみへのヒアリング実施となった。

そこで、仕事上の問題に対して障害に関する専門職に援助を求めるようになった背景等の実態を把握するというヒアリング趣旨を踏まえて、本来ヒアリング対象ではなかったが、他の内容のヒアリングに関連して、福祉機関、就労支援機関への相談、これに加えて医療機関への相談について発言があったC氏、D氏、E氏、G氏のケースを含めて仕事上の問題に対して障害に関する専門職に援助を求めるようになった背景等を分析することにした。本来、医療機関への相談についてはヒアリングの対象としていなかったが、実際にヒアリングを行う中で、就業面のことについて医療専門職に相談している実態が見られたことから、分析対象に加えた。ヒアリング結果を表3-9に示す。

支援機関の利用については、障害の進行や本人又は家族の加齢に伴って、支援機関へのニーズが高まっている事例が存在すること、職場でのナチュラルサポートの形成などにより、就労支援機関や福祉機関への支援のニーズが少なくなっている事例が存在すること、困りごとがあった場合に必要に応じて支援機関を利用している事例の3つの類型があることが分かった。

（1）加齢や障害の進行、家族の高齢化に伴って、支援機関の利用が増えていくケース。

C氏（50代）は、腎臓機能障害への具体的な対応のため継続して医療機関にかかっており、障害の進行に伴う就業上の留意事項など具体的な相談を以前から進めている。

F氏（50代）は、肢体不自由の進行に伴って、クラッチでの歩行から電動車椅子へと移動手段も変化した。居宅介護サービスも利用を始めた。家族や職場で様々なことを相談できているが、加齢に伴う障害の進行と家族の高齢化を背景として、専門的な話になると自分ひとりの力では限界があると感じて、これからの生活を考えて事前に相談できる障害に関する専門的な支援機関を増やしている。

G氏(60代)はこれまで障害に関する事で相談する相手がいない中でも何とかやってくることはできていた。今後のことを考えて、親族(兄)が医師として勤めている医療機関に定期的に通院している。今後、困りごとがあれば、親族(兄)の勤務する病院に相談しようと考えている。

(2) 職場でのナチュラルサポートの形成などにより、支援機関への支援のニーズが少なくなるケース

ヒアリングの趣旨として、新たに支援機関への相談を始めた事例についての背景を明らかにすることであったが、D氏(40代)は、市役所など支援機関の利用が減っている事例であった。

前職の服屋の仕事ではジョブコーチが同行支援していた間は仕事の調整がうまく行っていたが、ジョブコーチがフェードアウトして職場のナチュラルサポートだけになった時に仕事の要求度が高くなり、離職へつながった。その後に支援を得て就職した工場で、合理的配慮が得られて仕事が安定しているため、福祉的なつながりは少なくなり、継続して相談員(ケアマネジャー)との関係を維持しているが、重大なことが起こらない限りは相談を必要としない。

(3) 困りごとがあった場合に必要に応じて支援機関を利用しているケース

E氏(50代)は、相談業務の仕事で聴覚障害のある対象者の支援に関連する情報を得るため、必要に応じて聴覚障害センターを活用している。

表3-9 支援機関の利用と職業生活の関連

対象者	聴取内容（ヒアリングの要約）	支援機関の利用状況
C氏 内部障害 50代/男性	<p>腎臓移植してから病院へは定期的に検査へ行っている。腎機能が落ちてきているから無理な仕事と精神的に疲れる仕事はやめたほうがいいと言われている。いつ何が起きてもいいように病院ではちゃんとシステム（原文ママ 「治療の体制」という意味）をつくってくれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から継続して医療機関を利用している。
D氏 精神障害 40代/男性	<p>服屋の仕事では、ジョブコーチが同行支援をしていた間は会社も割と大目に見てくれていたが、上司が変わる度に仕事への要求度が高まっていき、理不尽な仕事が増えていった。</p> <p>去年まで入っていたグループホームでは世話人さんに相談していた。今は計画相談を受けてヘルパーさんに週2回来てもらっている。市役所へはたまに行って手帳の更新の書類を書いて出すくらいで、以前に比べては福祉的なつながりは少なくなった。今は仕事が安定していて特に相談していない。</p> <p>相談員には3か月に1回の契約更新の時に毎回同席してもらっていて、それ以外では何か重大なことが起こらない限り来ることはない。どんな仕事をしているか相談員には伝えているので大まかには理解してもらっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は、ジョブコーチ、グループホームの世話人さんに相談していたが、今はしていない。 ・現在、市役所では特に相談をしていない。 ・現在、週2回ホームヘルパーを利用している。 ・相談員（ケアマネジャー）と3か月に1回の契約更新の時に同席してもらっている。
E氏 聴覚障害 50代/女性	<p>聴覚障害者の相談業務でややこしい案件があった場合は、聴覚障害者センターへ行って相談に乗ってもらっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から、聴覚障害者センターを利用している。
F氏 肢体不自由 50代/女性	<p>職場は仕事だけでなく生活のことも対応してくれて、何かあったら相談しようという感じに思える環境になっている。</p> <p>前は通勤はクラッチで歩いていたが、だんだん厳しくなって手動の車椅子になり、漕ぐのが大変になって今の電動の車椅子になっている。</p> <p>いまヘルパーに週に1回居宅介護をしてもらっていて、そこでも相談に乗ってもらっている。まだ具体的には始まってないが、母と二人暮らしで母が高齢になったこととか、これからの生活のことを考えている。</p> <p>民生委員は年に2、3回ハガキが来て名前だけ知っている状況だが、何か困ったときがあれば相談できる。</p> <p>今すぐじゃないけど、今のうちからつながりをつくっておくのは大事と思って、色んなところに何かあったらお願いできるようにしている。</p> <p>ちょっとしたことだと家族や職場ですぐ話せるけど、何か専門的な話になると自分ひとりの力では限界があるので、公的な相談できる場所を増やしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、週1回ホームヘルパーを利用している。 ・今後、何かあれば民生委員に相談することも考えている。
G氏 肢体不自由 60代/男性	<p>障害に関することで困ったときに相談するような相手は特にないが、今まで何とかやってくることができた。兄が医者なので、いよいよ何かあったら相談はできる。兄貴の顔を見るために、兄の病院には1か月に1、2回くらい風邪薬をもらいに行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1、2回、兄が勤務する病院に通院している。

4 考察（支援機関の利用によるキャリア等への影響に関するもの）

ヒアリング調査により、支援機関の新規の利用に対する、加齢による障害や疾病の進行、その重症化の影響が示唆された。支援機関の利用と職業生活の関連については、3つの類型が見られた。加齢に伴って、障害の重度化や家族の介護などの問題が生じ、支援機関の活用を増やしている事例が確認された。障害の有無にかかわらず、加齢に伴う疾病の発症や家族介護の問題は生じるものであるが、障害のある労働者の場合、障害や疾病の進行、重度化の問題が背景にあることが伺われる。

引用文献

- 1) 田川史朗・高瀬健一・大石甲・新井俊夫(2019) 障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究(第5期)結果報告 その2 「障害のある労働者の相談先の8年間の変化」, 第27回職業リハビリテーション研究・実践発表会 発表論文集, 176-177.
- 2) 大石甲・高瀬健一・田川史朗・新井俊夫(2019) 障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究(第5期)結果報告 その1 「加齢による障害の重度化とその仕事への影響」, 第27回職業リハビリテーション研究・実践発表会 発表論文集, 174-175.

第4章

職業サイクル調査全体の とりまとめに向けた分析の視点

第4章 職業サイクル調査全体のとりまとめに向けた分析の視点

第1節 調査研究委員会と専門家ヒアリング

1 目的

本調査研究は、2008年度に第1期調査を開始し、全8期のパネル調査として、計画で進めてきたが、今般、第7期の調査が終了したことによって、7期分のパネルデータが得られている。

そこで、職業サイクル調査全体（第1期から第8期）のとりまとめに向け、その分析の視点を整理することとした。

2 分析方針の検討方法

第1期から第8期までの通貫分析を行うに当たって、具体的な分析テーマを検討するため、(1) 調査研究委員会における検討及び(2) 専門家ヒアリングによる論点整理を行った。

第2節 調査研究委員会の意見

調査研究委員会で挙げられた意見の主だったものについて、表4-1に示す。また、各委員から挙げられた意見の一覧について、巻末資料として掲載した（巻末資料1）。

表4-1 職業サイクル調査全体（第1期から第8期）のとりまとめを行う際の論点について（抜粋）

	調査研究委員会における意見
障害種類別の分析に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者は作業能力があれば就職するという状態が起きている中で、働くことと人生の充実感や幸せについて、この調査から分かることがあるとよい。 ・精神障害者は20から30時間で働くことが長期定着につながる傾向がある。フルタイムで働く者と短時間労働で働く者の傾向についての分析が必要。満足度は賃金と絡めて分析したほうがよい。 ・精神障害者が人と接して働く社会生活があることにより成長する部分について、何かの形で結果として出せるとよい。 ・視覚障害が重度化した時に離職を経験するかどうかは気になる。 ・同期入社した者が昇進昇格する中で自分だけ取り残される視覚障害者が割と多い。 ・都市部以外の視覚障害者が支援機関とのつながりを確保することが大切である。この地域間格差が調査から明らかになるとよい。 ・視覚障害の場合、他の障害よりも正規雇用の割合が低い印象がある。集計では特に男性が低めになっており興味深い。背景について分析できるとよい。
着目する分析の観点に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の人間関係について奥深く幅広く分析する必要がある。 ・情報アクセシビリティの考え方について分析に加えるべきである。 ・障害のある人がどのように職業生活を歩み、いつ頃職業生活を閉じていこうとするか明らかにしてもらいたい。また職業生活からの引退に関連する事柄を整理する必要がある。 ・時間経過に伴う障害の重度化について、手帳等級の変化など客観的に把握は可能か。 ・いま人間関係がだんだん希薄になる中で、支援機関を利用するようになった背景を調査するのも面白いと思った。 ・障害者雇用促進法の改正（合理的配慮義務の導入）の影響を知りたい。 ・コロナ禍の影響について取りまとめる必要がある。 ・デジタル化の影響についてアンケートの他にヒアリングでも調査していただきたい。

<p>第 1 期から 8 期までの調査の取りまとめ方法に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果により障害がステレオタイプの捉えられることがないようにしながら、具体像として読者の目に映るように取りまとめたいただきたい。 ・ 長い調査結果を読むために、制度や施策などの時代の変遷が見えると企業もありがたい。 ・ これまで専門家が述べてきたことが、この調査で裏付けられるのか、実はそうではなかったのか、具体的に結果として示せるかどうかが大変である。これは特定の調査期のデータを用いて確かめる形でもよいかもしれない。そのためには各障害でどのような分析テーマがあるか、事務局の仮説だけでなく、ニーズをリサーチして分析する必要がある。
---------------------------------------	--

第3節 専門家ヒアリングの結果

本調査研究は、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等全体像を明らかにするためのパネル調査であり、この類の調査は我が国において過去に例のないものであることから、職業サイクル調査全体（第1期から第8期）のとりまとめの論点整理について、専門家ヒアリングを実施した。

表4-2 専門家ヒアリング

ヒアリング対象者		実施日
対象者	所属・役職	
朝日 雅也 氏	埼玉県立大学 社会福祉こども学科教授	2022年5月10日

1 専門家ヒアリングにおける質問事項

専門家ヒアリングに当たって、本調査研究（第1期から第8期）の概要、調査対象者の状況、アンケート調査実施方法、ヒアリング調査実施方法、職業サイクル調査全体（第1期から第8期）のとりまとめを行う際の論点整理に関する調査研究委員会での検討状況等について説明を行った上で、今後、職業サイクル調査全体（第1期から第8期）の結果により何を明らかにすることが必要か、その視点について質問をした。

これに対して、朝日雅也氏から、主に以下の4つの視点から本調査研究をとりまとめていくことの提案があった。

2 専門家ヒアリングにより得られた視点

（1）障害のある人の職業サイクルについて、調査対象の全体として共有できるものを障害種類別にかかわらず分析する

障害があってもなくても職業生活は人にとって重要な要素であり、結婚、出産、親の死などのライフイベントに職業サイクルは大きく影響を受ける。障害があるからといって「特別な職業生活」を送るわけではないが、「当たり前の（一般的な）職業生活」を送る上では、やはり障害が何らかの影響を与える。

それを解決するために、セルフマネジメントしたり、支援機関を活用したりするが、その状況を障害種類別に分析していくと、ファクターが複雑になるので限界があると思われる。障害種類別の特徴を踏まえたとえ、「全体として共有できるものを障害種類別にかかわらず」16年間の調査結果全体を分析できるとよい。

特に、第1期から第8期までの「16年間のパネル調査」の強みを活かせるとよいと思われる。長く就労継続している方の実際、またキャリアアップの実際がこの調査から見えてくるはずである。これは他の調査、例えば短期間のマッチングの調査などでは得られない情報となる。それらを参考に、政策のあり方や日常の支援の参考にすることができるのではないかと考えられる。「こういう障害の方は、こういうライフステージを送って、最後はこうなります」といったことを特定する調査研究ではないと思われる。

(2) 環境要因が持つ意味を整理する

職場の理解、同僚の理解、事業主の合理的配慮の提供などが、職業生活を継続していくうえで大切だといった一般的、抽象的な話ではなくて、職業生活の継続に影響を与えている部分を色々なレベルで、細かく分析できるとよい。ただし、それを抽出するのは難しいのかもしれない。また、その分析の過程では、障害種類別の問題、例えば聴覚障害の方であれば、「情報保障の問題」などが出てくるのかもしれない。

長い職業生活を支える環境要因として、「職場の理解」など一般的に言われていること以外にも16年間パネル調査の結果からは「決め手」となっていることが見えてくるのではないかと。もっともそれが、一般化できるようなものではなくて、「その人の人生だからたまたまそうであった」といった個別性の高いものになるのかもしれないが、そういう個別の話であったとしても貴重な資料となる。

(3) 生活全体の中の職業生活という視点で整理する

職業生活の継続においては、「生活」の部分が不可分である。障害者ご本人の健康状態、また家族の状況なども影響してくる。代表的な例として、特別支援学校の卒業生などは、家族支援があることが職業生活をスタートする際の前提（特例子会社などから採用の条件とされるなど）となることがある。この場合は、家族から支えられる立場としてのご本人であるが、結婚や出産、また親の高齢化などによって、今度はご本人が家族を支える側の立場になってくる。このような「生活」の部分が職業生活にどう影響してくるのか、「家族支援」という言葉はよく使われるし、特に家族の影響がどうなっているのか検討する視点は重要である。

(4) キャリア形成について考察する

「キャリア支援」、「キャリア形成」というと、非常に狭い意味になりがちで、そういう狭義の意味でのキャリア形成をする障害のある人も存在する。しかし一方で、そういう文脈に限定してキャリア支援、キャリア形成を捉えてしまうと、知的障害の方、発達障害の方、精神障害の方などは、キャリア形成が「うまくいかない」となってしまう。そのような狭義の意味ではなくて、もう少し違った意味での「キャリア」とは何かということが、このパネル調査から出てくるとよい。

例えば、ひとつの想定として、経年変化で障害者ご本人が仕事に慣れて、周囲の同僚も慣れてきて、狭義の意味でのキャリア形成とは異なる進み方になるのだけれども、それが決して「価値が低い」という意味ではなくて、働くご本人の主観として、「働きやすさ」、「やりがい」を感じておられて、それがご本人にとってのキャリア形成になっているといった事例もあるかもしれない。

しかし一方で、この事例を都合よく解釈されてしまうと、例えば知的障害の人が長年ずっと同じ仕事で、最低賃金水準の労働条件で、ご本人は「僕、頑張っています」と職業生活に満足されている。そのような方に対して、「これがあなたのキャリアですよ」というような使われ方をされるのも問題がある。

知的障害の方、発達障害の方、精神障害の方などに「(狭義の意味での) キャリア形成は難しいですよ」と言ってしまうのではなく、その方の「体験としてのキャリア形成」ということも大事なのではないかとと思われる。

本調査研究の中で、「キャリア形成」、「キャリアプラン」という言葉をどう使っていくのか、検討していただきたい。「仕事の満足度」であるとか「生き生きと働く」であるとかそういう視点も大切と思われ

る。

一方で障害のない人のキャリア形成がどうなのかといった時に、完全なキャリア形成の道筋ができて
いるかという点、必ずしもそうとは言い切れない。だからこそ、障害者の方のキャリア形成を考えてい
くと、その考え方が障害のない人のキャリア形成を考える上での参考にもなるのではないかと考えられ
る。

第4節 考察

1 4つの視点

専門家ヒアリングで得られた分析の4つの視点を基にして、調査研究委員会における議論により得られたとりまとめの視点を表4-3に整理・分類した。調査研究委員会における議論により得られた意見のうち多くは、専門家ヒアリングにより得られた分析の4つの視点に整理することができた。

表4-3 「専門家ヒアリングによる分析の視点」で整理した「調査研究委員会の意見」

専門家ヒアリングによる分析の視点	調査研究委員会における議論により得られたとりまとめへの意見
① 障害のある人の職業サイクルについて、調査対象の全体として共有できるものを障害種類別にかかわらず分析する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある人がどのように職業生活を歩み、いつ頃職業生活を閉じていくとするか明らかにしてもらいたい。また職業生活からの引退に関連する事柄を整理する必要がある。
② 環境要因が持つ意味を整理する	<ul style="list-style-type: none"> ・ いま人間関係がだんだん希薄になる中で、支援機関を利用するようになった背景を調査するのも面白いと思った。 ・ 障害者雇用促進法の改正（合理的配慮義務の導入）の影響を知りたい。 ・ 精神障害者は20から30時間で働くことが長期定着につながる傾向がある。フルタイムで働く者と短時間労働で働く者の傾向についての分析が必要。満足度は賃金と絡めて分析したほうがよい。 ・ 都市部以外の視覚障害者が支援機関とのつながりを確保することが大切である。この地域間格差が調査から明らかになるとよい。 ・ 職場の人間関係について奥深く幅広く分析する必要がある。 ・ 情報アクセシビリティの考え方について分析に加えるべきである。 ・ デジタル化の影響についてアンケートの他にヒアリングでも調査していただきたい。
③ 生活全体の中の職業生活という視点で整理する	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の影響について取りまとめる必要がある。 ・ 視覚障害が重度化した時に離職を経験するかどうかは気になる。 ・ 時間経過に伴う障害の重度化について、手帳等級の変化など客観的に把握は可能か。
④ キャリア形成について考察する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障害者は作業能力があれば就職するという状態が起きている中で、働くことと人生の充実感や幸せについて、この調査から分かることがあるとよい。 ・ 精神障害者が人と接して働く社会生活があることにより成長する部分について、何かの形で結果として出せるとよい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・同期入社が昇進昇格する中で自分だけ取り残される視覚障害者が割と多い。 ・視覚障害の場合、他の障害よりも正規雇用の割合が低い印象がある。集計では特に男性が低めになっており興味深い。背景について分析できるとよい。
--	--

2 調査研究委員会における「多様性・個別性の視点」と専門家ヒアリングによる「総合的視点」

第7期調査研究委員会において検討された職業サイクル調査全体（第1期から第8期）における論点整理のあり方では、障害種類別の分析に関する意見が多く挙げられた（多様性・個別性の視点）。一方、専門家ヒアリングにおいては、「全体として共有できるものを障害種類別にかかわらず」16年間の調査結果全体を分析できるとよいとの提案があった（総合的視点）。これら2つの意見は、一見すると相反する印象を受けるが、双方の意見を表4-3において、整理すると、「①障害のある人の職業サイクルについて、調査対象の全体として共有できるものを障害種類別にかかわらず分析する」ことについて、調査研究委員会の意見と専門家が指摘する視点は一致する部分もあった。また、「②環境要因が持つ意味を整理する」こと及び「④キャリア形成について考察する」ことについては調査研究委員会の委員から4項目以上の意見が挙げられていた。さらに、「③生活全体の中の職業生活という視点で整理する」ことについて、調査研究委員会では特に時間の経過に伴う「障害の重度化」の影響に関する意見、新型コロナ・ウイルスの就業生活への影響に関する意見等が挙げられていた。

調査研究委員会における「多様性・個別性の視点」と専門家ヒアリングによる「総合的視点」の2つの視点を整理・統合していくに当たって、WHO（世界保健機関）による国際生活機能分類（2001）（以下「ICF」という。）に基づく「障害」の枠組み分類の考え方を援用することができる。

図4-1にICFを示す。ICFに基づく、「人」は障害の有無にかかわらず、「活動」又は「参加」としての職業生活を始めるが、本人の心身機能の状態、また健康状態が「活動」又は「参加」に影響を及ぼす。それと同時に、職場の環境や生活支援といった環境因子も影響を与える。

本調査研究で調査対象とした障害のある方についても、障害の有無にかかわらず、「活動」又は「参加」としての職業生活を始めているが、本人の心身機能の状態や健康状態、職場の環境や生活支援といった環境因子が「活動」又は「参加」に影響を及ぼしていると予想される。

そこで、第7期の本調査研究では、まず障害種類にかかわらず、調査対象者全体を対象として、その職業サイクルを明らかにしていく。そのうえで、障害のある方の「活動」、「参加」としての職業サイクルに、個々の障害、環境要因、生活支援等がどう影響するのか考察していく。さらに、障害のある人がどのようなキャリアを形成していくのか、いわゆる一般的なキャリア形成だけでなく、当事者の満足感や発達の視点も含めた「広義のキャリア形成」を考察する。

3 分析の方針（仮説）

本調査研究では、調査研究委員会による検討と専門家ヒアリングで得られた4つの視点を分析の視点として表4-4に整理した。このうち、本調査研究（第7期）では、表4-4の視点ごとに1項目ずつ

分析のテーマを決めて、第1期から第7期のパネルデータを用いて試行的に通貫分析を行った。その結果について、第5章に示す。

図4-1 WHO（世界保健機関）による国際生活機能分類（ICF）(2001)

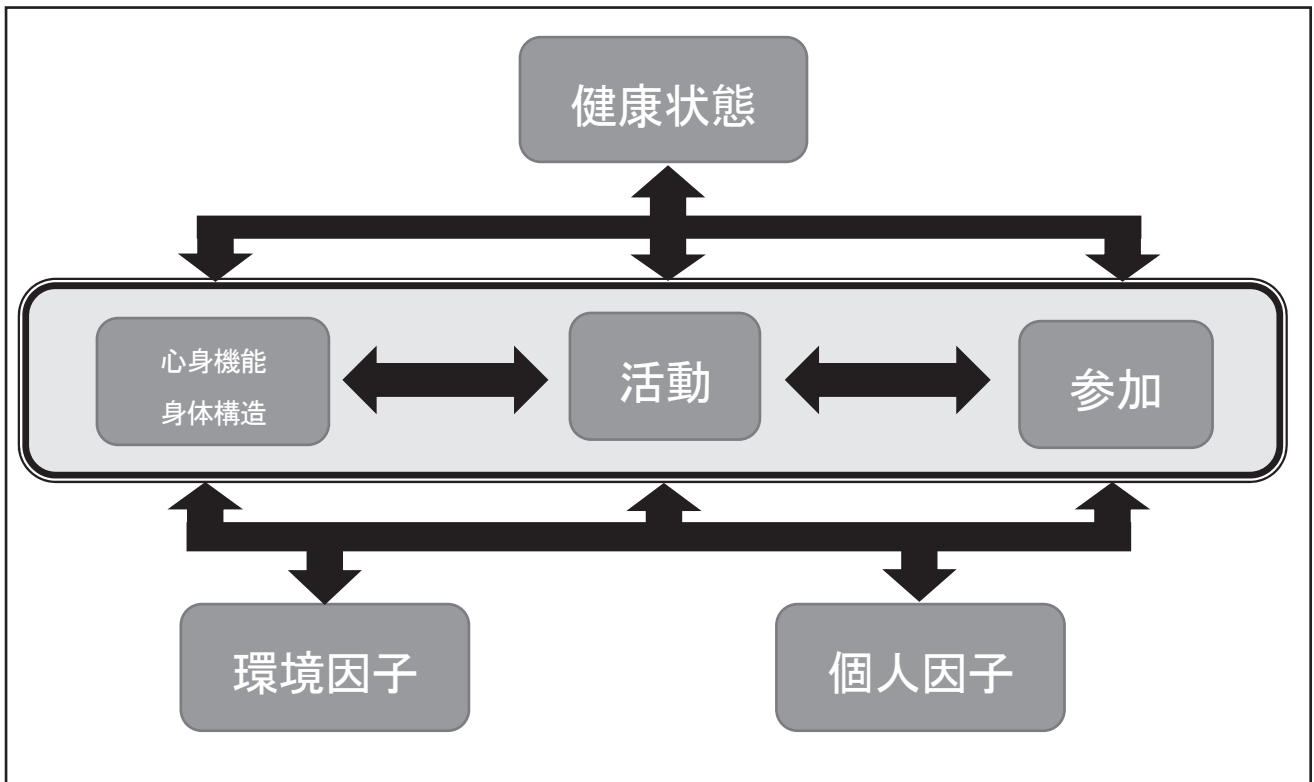


表 4-4 本調査研究における分析の視点

視点	内容	アンケート調査票において関連する項目
① 障害のある人の職業サイクルについて、調査対象の全体として共有できるものを分析する	障害種類別の特徴を踏まえたうえで、職業サイクルについて、まず調査対象者全体として共有できるものを障害種類にかかわりなく分析する。障害種類別の影響が大きいものについては、必要に応じて障害種類別の特徴を踏まえた分析を行う。	問 5 (就業状況)、問 6 (仕事の数)、問 7 (職種)、問 8 (勤務時間)、問 9 (休日)、問 10 (給与)、問 11 (賞与)、問 14 (会社規模)、問 15 (転職)、問 16 (就職時期)、問 17 (配慮要請)、問 20 (仕事満足度)、問 21 (定年の定め)、問 22 (退職の時期)、問 23 (就業の理由)、問 24 (就業継続意思)、問 25 (仕事関係出来事)、問 26 (退職理由)、問 27 (今後の就業希望)、問 28 (今後の就業形態希望)、問 29 (求職相談相手)、問 30 (引退理由)、[奇数期]問 31 (仕事相談相手)、[奇数期]問 35[偶数期]問 37 (就業上重視項目)、[奇数期]問 36[偶数期]問 38 (希望合理的配慮)、[奇数期]問 37[偶数期]問 39 (職場への要望)、[奇数期]問 38[偶数期]問 40 (指針の認知)
② 環境要因が持つ意味を整理する	「当たり前の(一般的な)職業生活」を送る上で、個人の障害が何らかの影響を与える。その影響を軽減させるための環境要因を明らかにする。障害者の雇用の促進等に関する法律の改正後に事業主が提供する「合理的配慮」の影響について明らかにするほか、「合理的配慮」以外にも何が「障害者の就業継続を支える環境要因」となっているのかについて明らかにする。	問 17 (配慮要請)、問 18 (配慮提供)、問 19 (合理定期配慮に係る打合せ)、問 25 (仕事関係出来事)、問 26 (退職理由)、問 29 (求職相談相手)、問 30 (引退理由)、[奇数期]問 31 (仕事相談相手)、[偶数期]問 31 (地域行事)、[奇数期]問 32 (年金有無)、[奇数期]問 33 (収入内訳)、[偶数期]問 34 (福祉サービス)、[奇数期]問 34 (経済相談相手)、[奇数期]問 35[偶数期]問 37 (就業上重視項目)、[偶数期]問 35 (健康相談相手)、[奇数期]問 36[偶数期]問 38 (希望合理的配慮)、[偶数期]問 36 (健康心配事項)、[奇数期]問 37[偶数期]問 39 (職場への要望)、[奇数期]問 38[偶数期]問 40 (指針の認知)、[7 期後期]問 43 (コロナ影響)
③ 生活全体の中の職業生活という視点で整理する	職業サイクルの中で、「職業」と「生活」の相互のかかわりの状況、「職業」へのライフイベントの影響、家族支援の状況、障害の重度化による職業への影響等を明らかにする。	問 1 (同居家族)、問 4 (家族に起きた出来事)、問 26 (退職理由)、問 29 (求職相談相手)、問 30 (引退理由)、[奇数期]問 31 (仕事相談相手)、[偶数期]問 31 (地域行事)、[偶数期]問 32 (地域相談相手)、[奇数期]問 32 (年金有無)、[奇数期]問 33 (収入内訳)、[偶数期]問 33 (通院頻度)、[偶数期]問 34 (福祉サービス)、[奇数期]問 34 (経済相談相手)、[偶数期]問 35 (健康相談相手)、[偶数期]問 36 (健康心配事項)、[奇数期]問 35[偶数期]問 37 (就業上重視項目)、[奇数期]問 39[偶数期]問 41 (楽しみ)、[奇数期]問 40[偶数期]問 42(実現希望)、[奇数期]問 41[偶数期]問 43 (生活満足度)

<p>④ キャリア形成について考察する</p>	<p>キャリア形成について、いわゆる「狭義のキャリア形成」はもちろんのこと、当事者の充実感や満足感、発達の視点等を含めた「広義のキャリア形成」について考察する。また、正規雇用と非正規雇用、フルタイム就労とパートタイム就労など雇用形態の変化についても明らかにする。</p>	<p>問5（就業状況）、問6（仕事の数）、問7（職種）、問8（勤務時間）、問9（休日）、問10（給与）、問11（賞与）、問14（会社規模）、問15（転職）、問16（就職時期）、問20（仕事満足度）、問21（定年の定め）、問22（退職の時期）、問23（就業の理由）、問24（就業継続意思）、問25（仕事関係出来事）、問26（退職理由）、問27（今後の就業希望）、問28（今後の就業形態希望）、問29（求職相談相手）、問30（引退理由）、[奇数期]問31（仕事相談相手）、[奇数期]問35[偶数期]問37（就業上重視項目）、[奇数期]問36[偶数期]問38（希望合理的配慮）、[奇数期]問37[偶数期]問39（職場への要望）、[奇数期]問38[偶数期]問40（指針の認知）</p>
-------------------------	---	--

第5章

第7期までのデータを用いた試行的分析の実施

第5章 第7期までのデータを用いた試行的分析の実施

第1節 背景と目的

1 分析の視点

第4章で定めた分析の視点（表4-4）に基づき第1期から第7期までのパネルデータを用いた試行的分析を実施した。分析に当たっては、同じ対象者へ同じ質問を一定間隔で複数回尋ねるパネル調査により取得したパネルデータの特徴を踏まえて、4つの分析の視点に基づきその視点の内容を踏まえた分析テーマを設定して、パネルデータの特徴を活かした集計及びグラフ化を実施した。

2 パネルデータの特徴を活かした分析

（1）パネルデータの特徴

一般的な社会調査では、母集団を代表するサンプルに対してある時点において調査実施することで、調査時点における対象者の状況を横断的に取得して示すことができる。このような横断調査では、例えば30代や40代という年齢層による回答結果の特徴や差を示すことはできるが、その差が加齢による影響であるか示すことは難しい。これに対して、パネル調査は同一対象者へ同じ質問を一定間隔で複数回尋ねる縦断調査のため、パネルデータを用いることで、例えば、20代の対象者が30代になった時にどのように状況が変化したか、時系列を考慮して分析することができる。

（2）集計及びグラフ化

当研究のパネルデータを用いて、例えば、対象者の年齢層ごとの回答の推移を集計したり、時勢の変化の確認のため繰り返し取得している同一の調査内容を調査時期ごとに並べて集計したり、2時点間に起こった事柄と別の事柄の関係を集計したり、2時点間の状況の変化を比較したりできる。このようなパネルデータの特徴を活かして集計及びグラフ化して示すことが可能な内容を、4つの分析の視点それぞれについてその視点の内容を踏まえた分析テーマを設定して、集計及びグラフ化して示した。

第2節 方法

1 年齢層別の就労率と職業生活からの引退時期の違い（視点1に基づく分析テーマ）

視点1は、障害者の職業生活におけるキャリアを扱うものであり、今回の試行分析では、職業サイクルのうち経年による就労状況の変化と職業生活からの引退の状況について取り上げた。

まず、単純集計としてこれまで第1期から第7期までの全回答者1,126人の延べ4,912件の回答結果から、調査時点の就労状況不明の者及び年齢が不明な者を除いた4,878件の就労状況を10歳ごとの年齢層別に計上して全体の集計とした。さらに、全体の集計では対象者により同じ年齢層に含まれるデータの回答時期が違い、また同一対象者の結果が同一年齢層に複数回計上されていることから、対象者を生年により10年ごとの出生コホートに分類して、その調査期ごとの就労状況をコホート別に集計した。

また、第4期以降は非就労者に対して、今後の仕事への考えについて「現在、就職活動をしている」、「今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている」、「今後、仕事をするかどうか、今は決められない」、「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」の選択肢で回答を得ている。このうち「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」を職業生活からの引退の意向と捉え、障害種類別に初めて「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答した年齢層と人数を集計した。

2 法改正と合理的配慮の経年変化（視点2に基づく分析テーマ）

視点2は、障害者の職業生活へ影響を与える環境要因を扱うものであることから、今回の試行分析では環境要因の経年変化に着目して、障害者雇用促進法の法改正に伴う2016年の合理的配慮提供の義務化の施行について取り上げ、職場で実際に得られている理解や配慮の法改正による変化を集計した。職場で得られている理解や配慮の内容については第4期以降の調査で回答を得ており、「1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」、「2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること」、「3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること」、「4. 通勤の便宜を図ること」、「5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること」、「6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」、「7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること」、「8. その他」の8項目がある。このうち、「8. その他」を除いた7項目について、同一対象者が職場で得られていると選択した配慮の数を集計することで、職場で得られている理解や配慮の種類の増減状況を調査期ごとに障害種類別に集計した。

3 就労状況の変化と生活の満足度の変化の関係（視点3に基づく分析テーマ）

視点3は、職業生活における「職業」と「生活」の相互のかかわりについて扱うものであることを踏まえ、2時点間に起こった事柄と別の事柄の関係について、今回の試行分析では「就労状況」と「生活の満足度」の変化に着目して、その変化状況の関連を集計した。生活の満足度は「家族との人間関係」、「友人・知人との人間関係」、「自分の体力や健康」、「収入や経済生活」の4種類を満足から不満までの5件法で回答を得ている。そこで、連続する複数の調査期とも回答した者の就労状況を「就労継続者（就労→就労）」、「非就労継続者（非就労→非就労）」、「新規就職者（非就労→就労）」、「新規離職者（就労→

非就労)」の4つに区分して、不満＝1から満足＝5まで数値化した4つの生活の満足度の変化（後の調査期から前の調査期の数値化した回答を差し引いて計算）を障害種類別に集計した。なお、同一対象者が3回以上回答しており連続する調査期が複数ある場合は、集計には複数の連続する調査期の結果を計上した（例えば第1期、第2期、第3期とも回答した場合は、「第1期から第2期の変化」と「第2期から第3期の変化」の両方を計上した。）。

4 雇用形態の変化（視点4に基づく分析テーマ）

視点4は、キャリア形成について扱うものであることを踏まえ、複数時点間の状態の変化に着目して、今回の試行分析では雇用形態の変化を集計した。雇用形態については「正社員」、「パート等」、「派遣」、「自営等」、「内職」、「就労継続支援A型」と回答した者を就労者、「福祉的就労」、「仕事をしていない」と回答した者を非就労者としている。この就労者のうち正社員を「正規雇用」、正社員以外の就労者を「正規雇用以外」に分け、「正規雇用」、「正規雇用以外」、「非就労」の3区分にした。この3区分について、同一対象者の就労状況不明を除いた初回の回答と最後の回答の状況を障害種類別にクロス集計した。これは例えば、第1期から第7期まですべて回答があった場合は初回を第1期、最後を第7期として計上し、第3期、第4期、第6期に計3回のみ回答があった場合は初回を第3期、最後を第6期として計上している。これにより、第1期から最大で12年後の第7期までの就労状況の変化を示すことができる。

第3節 結果

1 パネルデータの特性を活かした集計及びグラフ化

(1) 年齢層別の就労率と職業生活からの引退時期の違い（視点1に基づく分析テーマ）

ア 加齢による就労状況の変化

表5-1は加齢による就労状況の変化を年齢層別に集計した結果である。全障害の集計では、60歳未満は各年齢層とも9割程度の就労率を維持していたが、60代になると7割程度の就労率に低下していた。障害種類別に見ると、60歳未満では、視覚障害、聴覚障害、内部障害は比較的安定して就労していたのに対して、肢体不自由、知的障害、精神障害は一部の者に非就労がみられ、やや就労率が低かった。また60代になると、視覚障害、内部障害、肢体不自由において就労率が低下していた。これを図にしたものが図5-1である。

また、表5-2は対象者を生年により10年ごとの出生コホートに分類して、調査期ごとの就労状況をコホート別に集計した結果で、図5-2はそれを図示したものである。全障害の集計では、1960年代生（第7期に51歳から61歳）以降に生まれたコホートはすべて8割以上で、概ね9割前後の就労率を推移していたが、1950年代生では第5期（57歳から67歳）以降に就労率が低下して、第7期では68%になった。障害種類別に見ると、聴覚障害は全体の傾向とは違い1950年代生に際立った就労率の低下は見られず、全コホート・全調査期において就労率は高かった。肢体不自由と内部障害では全体の傾向と同様に1950年代生で第5期（57歳から67歳）以降に就労率が低下していた。視覚障害と知的障害では1950年代生で第5期（57歳から67歳）以降に同様に就労率が低下していたものの、他の出生コホートでも1950年代生と同程度又はそれ以下の就労率を示す場合があった。精神障害では1960年代生や1970年代生で就労率が8割から6割の低水準を示す場合があり、1950年代生は第3期から第6期まで約9割の就労率で推移し、第7期（61歳から71歳）になり67%に低下していた。

表5-1 年齢層別の就労状況

	年齢層	就労	非就労	計
視覚障害	10代・20代	42 (95%)	2 (5%)	44
	30代	110 (92%)	9 (8%)	119
	40代	153 (94%)	9 (6%)	162
	50代	157 (95%)	8 (5%)	165
	60代	25 (78%)	7 (22%)	32
聴覚障害	10代・20代	98 (92%)	9 (8%)	107
	30代	216 (92%)	19 (8%)	235
	40代	245 (95%)	14 (5%)	259
	50代	247 (95%)	12 (5%)	259
	60代	53 (91%)	5 (9%)	58
肢体不自由	10代・20代	111 (85%)	19 (15%)	130
	30代	171 (92%)	14 (8%)	185
	40代	295 (90%)	31 (10%)	326
	50代	295 (82%)	63 (18%)	358
	60代	53 (54%)	45 (46%)	98
内部障害	10代・20代	12 (100%)	0 (0%)	12
	30代	74 (95%)	4 (5%)	78
	40代	140 (98%)	3 (2%)	143
	50代	230 (94%)	14 (6%)	244
	60代	37 (67%)	18 (33%)	55
知的障害	10代・20代	369 (93%)	29 (7%)	398
	30代	309 (88%)	43 (12%)	352
	40代	267 (93%)	19 (7%)	286
	50代	184 (85%)	32 (15%)	216
	60代	26 (84%)	5 (16%)	31
精神障害	10代・20代	36 (97%)	1 (3%)	37
	30代	126 (86%)	21 (14%)	147
	40代	156 (80%)	38 (20%)	194
	50代	91 (73%)	33 (27%)	124
	60代	18 (82%)	4 (18%)	22
計	10代・20代	668 (92%)	60 (8%)	728
	30代	1,006 (90%)	110 (10%)	1,116
	40代	1,256 (92%)	114 (8%)	1,370
	50代	1,204 (88%)	162 (12%)	1,366
	60代	212 (72%)	84 (28%)	296

※就労状況不明又は年齢不明を除いたすべての回答を集計したもので、同一対象者の回答が複数回計上されており、これまでに回答の多かった者の状況が集計により反映されている。なお、回答の少ない70代は除外して掲載した。

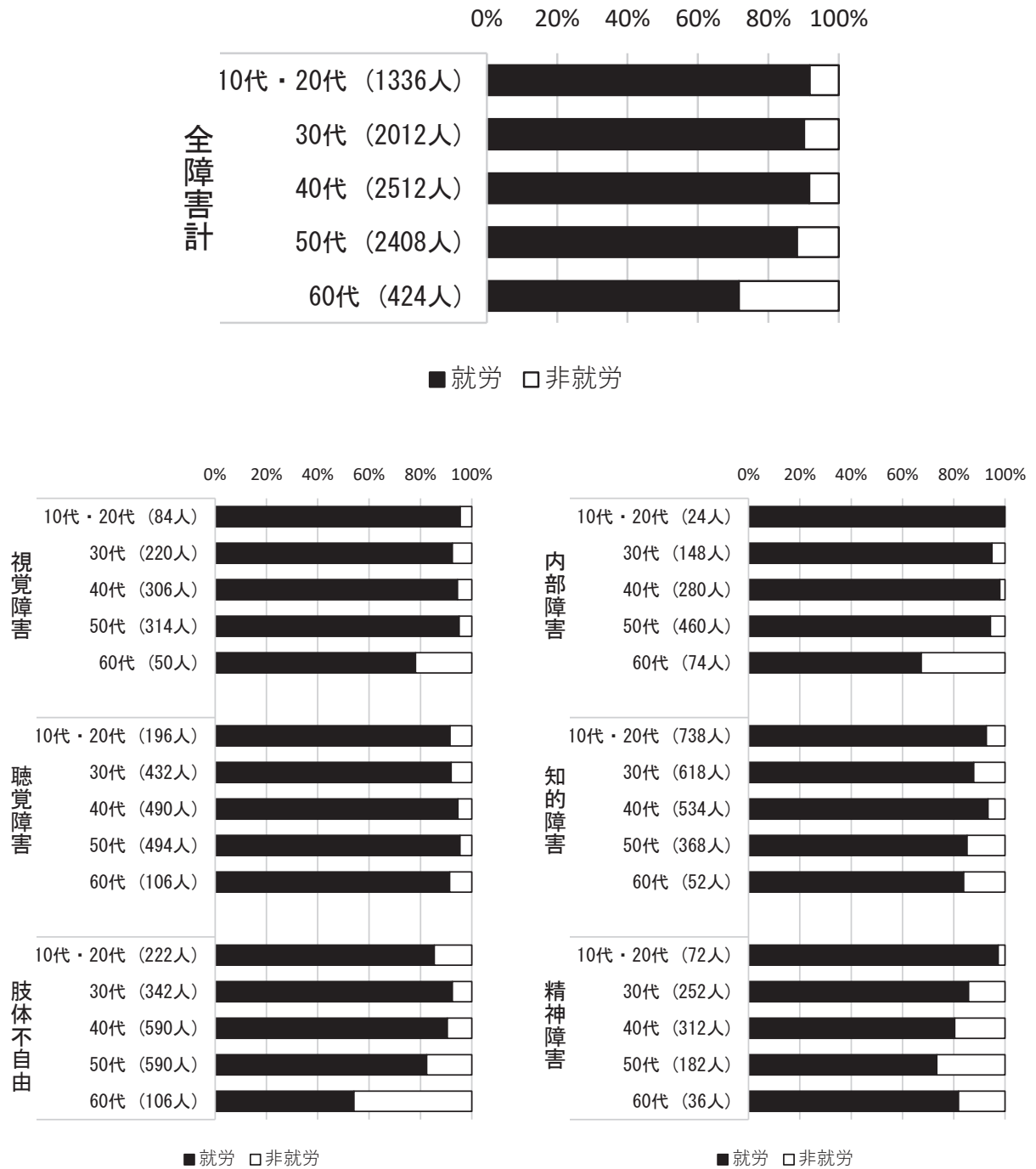


図5-1 年齢層別の就労状況（全体の集計）

※就労状況不明又は年齢不明を除いたすべての回答を集計したもので、同一対象者の回答が複数回計上されている。なお、回答の少ない70代は除外して掲載した。

表5-2 出生コホート別の就労状況

出生年代	第1期(2008-2009)			第2期(2010-2011)			第3期(2012-2013)			第4期(2014-2015)			第5期(2016-2017)			第6期(2018-2019)			第7期(2020-2021)			調査期計		
	就労	非就労	就労率	就労	非就労	就労率	就労	非就労	就労率	就労	非就労	就労率	就労	非就労	就労率	就労	非就労	就労率	就労	非就労	就労率	就労	非就労	総数
視覚障害																								
1950年代	15	1	94%	11	0	100%	12	1	92%	12	0	100%	11	2	85%	9	2	82%	7	2	78%	77	8	85
1960年代	42	1	98%	30	2	94%	34	1	97%	30	2	94%	26	1	96%	25	2	93%	26	2	93%	213	11	224
1970年代	26	0	100%	20	1	95%	17	3	85%	17	1	94%	16	1	94%	9	2	82%	14	2	88%	119	10	129
1980年代	18	0	100%	11	3	79%	11	1	92%	11	1	92%	11	1	92%	8	0	100%	8	0	100%	78	6	84
聴覚障害																								
1950年代	31	0	100%	20	2	91%	27	1	96%	16	2	89%	18	2	90%	17	2	89%	19	3	86%	148	12	160
1960年代	57	1	98%	38	2	95%	54	3	95%	55	2	96%	39	0	100%	38	0	100%	41	1	98%	322	9	331
1970年代	29	3	91%	24	1	96%	34	2	94%	26	4	87%	24	4	86%	25	1	96%	23	3	88%	185	18	203
1980年代	42	2	95%	23	3	88%	32	3	91%	32	2	94%	27	5	84%	24	1	96%	25	4	86%	205	20	225
肢体不自由																								
1950年代	39	7	85%	32	4	89%	33	7	83%	26	4	87%	21	9	70%	19	13	59%	13	14	48%	183	58	241
1960年代	85	5	94%	63	7	90%	62	8	89%	59	9	87%	51	13	80%	42	10	81%	40	15	73%	402	67	469
1970年代	34	2	94%	27	3	90%	29	1	97%	24	0	100%	19	4	83%	19	2	90%	17	2	89%	169	14	183
1980年代	36	5	88%	31	4	89%	23	4	85%	22	3	88%	19	4	83%	17	3	85%	16	2	89%	164	25	189
内部障害																								
1950年代	24	1	96%	20	0	100%	34	2	94%	28	2	93%	20	6	77%	13	9	59%	10	5	67%	149	25	174
1960年代	21	0	100%	18	0	100%	41	2	95%	38	2	95%	29	4	88%	29	0	100%	27	1	96%	203	9	212
1970年代	23	0	100%	19	1	95%	16	0	100%	17	0	100%	13	2	87%	13	0	100%	12	0	100%	113	3	116
1980年代	4	0	100%	3	0	100%	4	1	80%	4	0	100%	5	0	100%	3	1	75%	5	0	100%	28	2	30
知的障害																								
1950年代	16	0	100%	12	1	92%	19	1	95%	16	1	94%	12	1	92%	9	2	82%	7	2	78%	91	8	99
1960年代	65	1	98%	50	3	94%	54	8	87%	42	6	88%	37	6	86%	37	7	84%	29	12	71%	314	43	357
1970年代	18	2	90%	17	1	94%	32	2	94%	31	1	97%	28	2	93%	24	3	89%	24	1	96%	174	12	186
1980年代	89	3	97%	73	8	90%	99	7	93%	71	9	89%	71	9	89%	65	9	88%	56	13	81%	524	58	582
精神障害																								
1950年代	5	0	100%	4	1	80%	9	1	90%	8	1	89%	7	1	88%	7	1	88%	4	2	67%	44	7	51
1960年代	34	3	92%	22	4	85%	35	1	97%	22	11	67%	20	8	71%	22	7	76%	16	10	62%	171	44	215
1970年代	34	0	100%	21	5	81%	19	8	70%	20	5	80%	14	7	67%	14	9	61%	15	5	75%	137	39	176
1980年代	7	0	100%	5	1	83%	15	1	94%	13	1	93%	9	1	90%	9	1	90%	9	2	82%	67	7	74
全障害計																								
1950年代	130	9	94%	99	8	93%	134	13	91%	106	10	91%	89	21	81%	74	29	72%	60	28	68%	692	118	810
1960年代	304	11	97%	221	18	92%	280	23	92%	246	32	88%	202	32	86%	193	26	88%	179	41	81%	1,625	183	1,808
1970年代	164	7	96%	128	12	91%	147	16	90%	135	11	92%	114	20	85%	104	17	86%	105	13	89%	897	96	993
1980年代	196	10	95%	146	19	88%	184	17	92%	153	16	91%	142	20	88%	126	15	89%	119	21	85%	1,066	118	1,184

※就労状況不明又は年齢不明を除いたすべての回答のうち、回答の多い年齢層を1950年代生から1980年代生まで抜粋して掲載。

集計対象者の各調査期の年齢の範囲は下記の通り。

出生年代	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
1950年代	49-59歳	51-61歳	53-63歳	55-65歳	57-67歳	59-69歳	61-71歳
1960年代	39-49歳	41-51歳	43-53歳	45-55歳	47-57歳	49-59歳	51-61歳
1970年代	29-39歳	31-41歳	33-43歳	35-45歳	37-47歳	39-49歳	41-51歳
1980年代	19-29歳	21-31歳	23-33歳	25-35歳	27-37歳	29-39歳	31-41歳

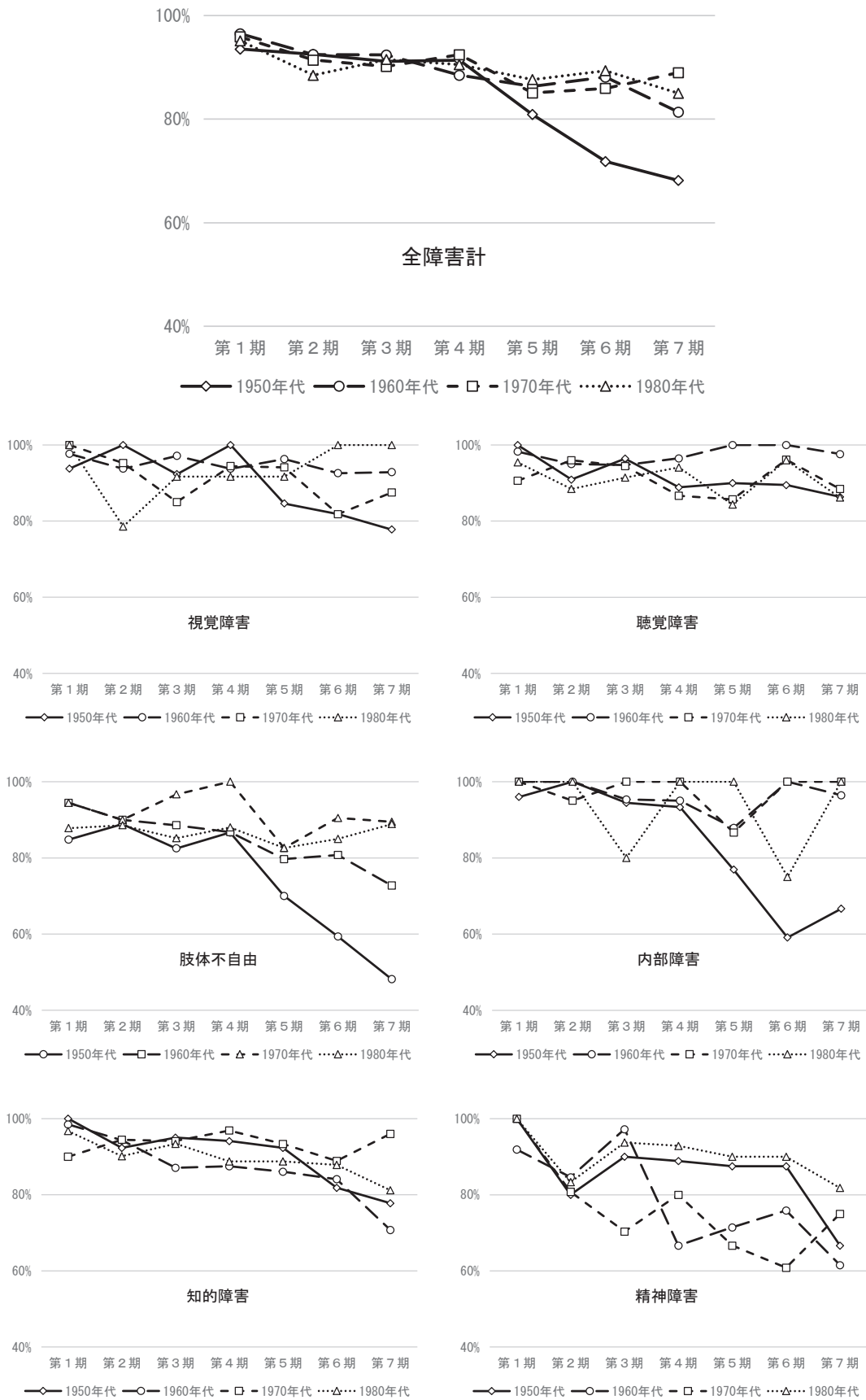


図5-2 出生コホート別の就労状況

※集計人数、集計対象者の各調査期の年齢の範囲は表5-2参照

イ 職業生活からの引退の状況

非就労者へ第4期から調査している、今後の仕事への考えについて「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と初めて回答した時を年齢層別に集計したものが表5-3である。回答した者のうち非就労者は200人で、そのうち45人(23%)の者が職業生活からの引退の意向を持っていた。障害種類別にみると、肢体不自由と内部障害の非就労者に職業生活からの引退の意向を持つ割合が高く約4割だった。続いて視覚障害では約3割、聴覚障害、知的障害、精神障害では約1割だった。年齢層別にみると、肢体不自由では60歳未満が半数を超えており、約9割が60代の回答だった内部障害と対照的であった。また、精神障害ではすべて60歳未満の回答だった。就労中の者を含めた第4期以降に1回以上の回答のあった全数でみると、本調査の回答者のうち5%の者が職業生活からの引退の意向を持っていた。

表5-3 職業生活からの引退を希望した者の年齢層

	30代	40代	50代	60代	計	回答者数に 占める割合	回答者数 (非就労者)	全回収数に 占める割合	全回収数
視覚障害			1	2	3	(27%)	11	(3%)	87
聴覚障害			1	2	3	(12%)	25	(2%)	166
肢体不自由	1	1	9	10	21	(40%)	52	(12%)	178
内部障害			1	8	9	(41%)	22	(9%)	101
知的障害	2		1	2	5	(9%)	53	(2%)	236
精神障害		1	3		4	(11%)	37	(4%)	94
計	3	2	16	24	45	(23%)	200	(5%)	862

※回答者数は第4期以降に1回以上非就労であった者の数(本調査項目の回答対象者)、全回収数は第4期以降に1回以上回答した者の全数。複数の調査期において職業生活からの引退の意向を示した者については、最初に回答した調査期の年齢層のみ集計に用いた。

(2) 法改正と合理的配慮の経年変化（視点2に基づく分析テーマ）

表5-4は職場で得られている合理的配慮の種類を調査期ごとに集計した結果である。また、この平均を図にしたものが図5-3である。

職場で得られている理解や配慮の種類は、知的障害が最も多く、どの調査期でも平均2.0を超えていた。次いで種類が多かったのは肢体不自由と精神障害で、視覚障害と聴覚障害がそれに続き、もっとも種類の少なかった内部障害は調査期により違いはあるが1.5未満だった。調査期ごとにみると、雇用分野における障害者に対する合理的配慮提供の義務化が施行された2016年4月以降に行った第5期(前期調査:2016年7月、後期調査:2017年7月に調査実施)に理解や配慮の種類がどの障害種類でも増加していた。増加幅が大きかったのは視覚障害(第4期1.2から第5期1.6)、聴覚障害(同1.3から1.8)、知的障害(同2.0から2.7)だった。第6期になると視覚障害以外では第5期よりも職場で得られている理解や配慮の種類は少なくなっていた。第7期では視覚障害と聴覚障害以外の、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害で第6期よりも職場で得られている理解や配慮の種類が増加していた。

なお、複数の調査期とも回答した同一対象者のみ抽出して厳密に集計実施することは、本調査では調査パネルがさほど多くないため、実施には課題があった(例えば第4期と第5期とも回答した就労者は473人(視覚障害55人、聴覚障害94人、肢体不自由91人、内部障害58人、知的障害126人、精神障害49人)に対して、第4期から第6期まで3回とも回答した就労者は304人(視覚障害36人、聴覚障害64人、肢体不自由54人、内部障害37人、知的障害82人、精神障害31人)に減少するなど、集計する調査期を多く取るほど集計対象者数が減少してそれに伴い誤差が多い結果となる。)

表5-4 調査期別の職場で得られている理解や配慮の種類数

		職場で得られている理解や配慮の種類								計	平均
		なし	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類		
視覚障害	第4期	29 (41%)	19 (27%)	8 (11%)	8 (11%)	5 (7%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	70 (100%)	1.2
	第5期	24 (38%)	12 (19%)	12 (19%)	7 (11%)	4 (6%)	3 (5%)	1 (2%)	1 (2%)	64 (100%)	1.6
	第6期	15 (29%)	14 (27%)	10 (20%)	6 (12%)	3 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	51 (100%)	1.6
	第7期	21 (38%)	11 (20%)	11 (20%)	6 (11%)	1 (2%)	3 (5%)	2 (4%)	0 (0%)	55 (100%)	1.5
聴覚障害	第4期	38 (29%)	49 (38%)	26 (20%)	8 (6%)	5 (4%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	129 (100%)	1.3
	第5期	20 (19%)	35 (32%)	26 (24%)	14 (13%)	5 (5%)	4 (4%)	4 (4%)	0 (0%)	108 (100%)	1.8
	第6期	23 (22%)	45 (43%)	16 (15%)	10 (10%)	3 (3%)	2 (2%)	2 (2%)	3 (3%)	104 (100%)	1.6
	第7期	28 (26%)	37 (34%)	20 (19%)	11 (10%)	6 (6%)	3 (3%)	2 (2%)	1 (1%)	108 (100%)	1.6
肢体不自由	第4期	36 (27%)	33 (25%)	16 (12%)	21 (16%)	13 (10%)	6 (5%)	0 (0%)	7 (5%)	132 (100%)	2.0
	第5期	33 (30%)	21 (19%)	15 (14%)	17 (15%)	15 (14%)	1 (1%)	3 (3%)	5 (5%)	110 (100%)	2.0
	第6期	28 (29%)	24 (24%)	18 (18%)	12 (12%)	6 (6%)	4 (4%)	1 (1%)	5 (5%)	98 (100%)	1.8
	第7期	19 (22%)	22 (25%)	20 (23%)	10 (11%)	6 (7%)	4 (5%)	3 (3%)	3 (3%)	87 (100%)	2.0
内部障害	第4期	32 (37%)	27 (31%)	16 (18%)	7 (8%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	87 (100%)	1.2
	第5期	24 (36%)	20 (30%)	7 (10%)	10 (15%)	2 (3%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)	1.4
	第6期	23 (40%)	17 (29%)	12 (21%)	2 (3%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	58 (100%)	1.1
	第7期	23 (43%)	11 (20%)	8 (15%)	10 (19%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	54 (100%)	1.2
知的障害	第4期	42 (25%)	38 (22%)	37 (22%)	22 (13%)	12 (7%)	5 (3%)	5 (3%)	8 (5%)	169 (100%)	2.0
	第5期	25 (16%)	26 (17%)	27 (17%)	31 (20%)	19 (12%)	10 (6%)	4 (3%)	13 (8%)	155 (100%)	2.7
	第6期	23 (16%)	32 (22%)	29 (20%)	29 (20%)	12 (8%)	11 (8%)	4 (3%)	4 (3%)	144 (100%)	2.3
	第7期	16 (13%)	28 (23%)	20 (16%)	30 (24%)	12 (10%)	9 (7%)	4 (3%)	4 (3%)	123 (100%)	2.5
精神障害	第4期	18 (28%)	13 (20%)	11 (17%)	11 (17%)	5 (8%)	2 (3%)	3 (5%)	2 (3%)	65 (100%)	2.0
	第5期	11 (21%)	10 (19%)	15 (29%)	5 (10%)	6 (12%)	3 (6%)	0 (0%)	2 (4%)	52 (100%)	2.1
	第6期	12 (23%)	19 (36%)	8 (15%)	7 (13%)	1 (2%)	3 (6%)	2 (4%)	1 (2%)	53 (100%)	1.8
	第7期	12 (27%)	10 (22%)	6 (13%)	7 (16%)	5 (11%)	3 (7%)	0 (0%)	2 (4%)	45 (100%)	2.0
計	第4期	195 (30%)	179 (27%)	114 (17%)	77 (12%)	42 (6%)	16 (2%)	9 (1%)	20 (3%)	652 (100%)	1.7
	第5期	137 (25%)	124 (22%)	102 (18%)	84 (15%)	51 (9%)	25 (4%)	12 (2%)	21 (4%)	556 (100%)	2.0
	第6期	124 (24%)	151 (30%)	93 (18%)	66 (13%)	28 (6%)	21 (4%)	10 (2%)	15 (3%)	508 (100%)	1.8
	第7期	119 (25%)	119 (25%)	85 (18%)	74 (16%)	30 (6%)	24 (5%)	11 (2%)	10 (2%)	472 (100%)	1.9

※職場で得られている配慮の調査項目である「1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」、「2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること」、「3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること」、「4. 通勤の便宜を図ること」、「5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること」、「6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」、「7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること」について、1人の対象者が回答した「あり」の個数をカウントし、その人数を計上した。また最右部の平均は、「あり」と回答した個数の平均である。なお、「その他」は集計には含めず、「無回答」は配慮の種類「なし」として集計している。

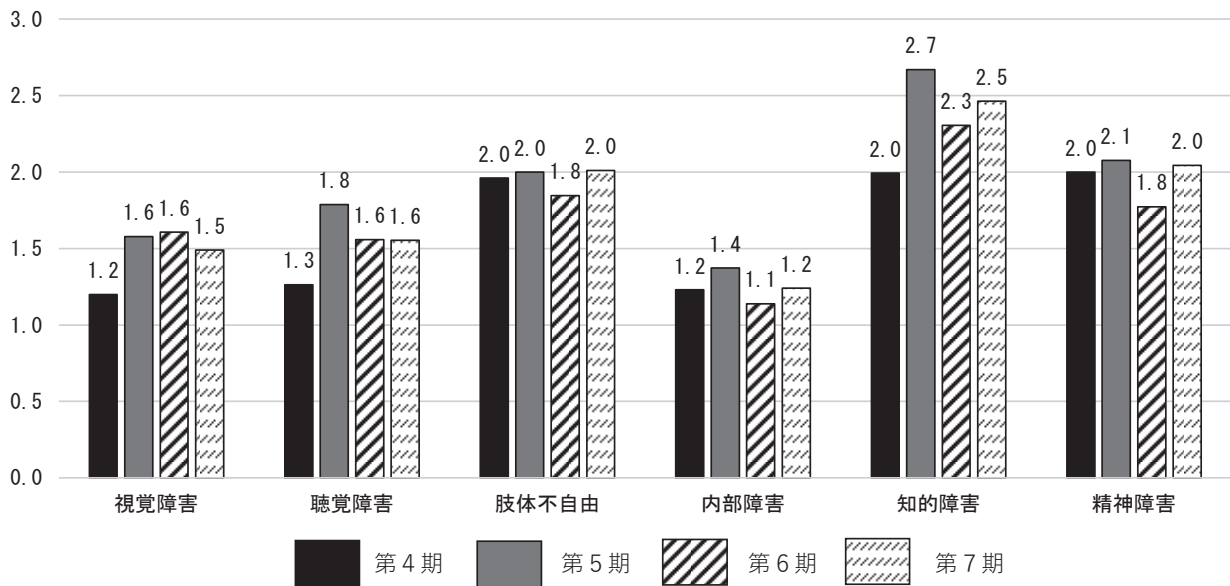
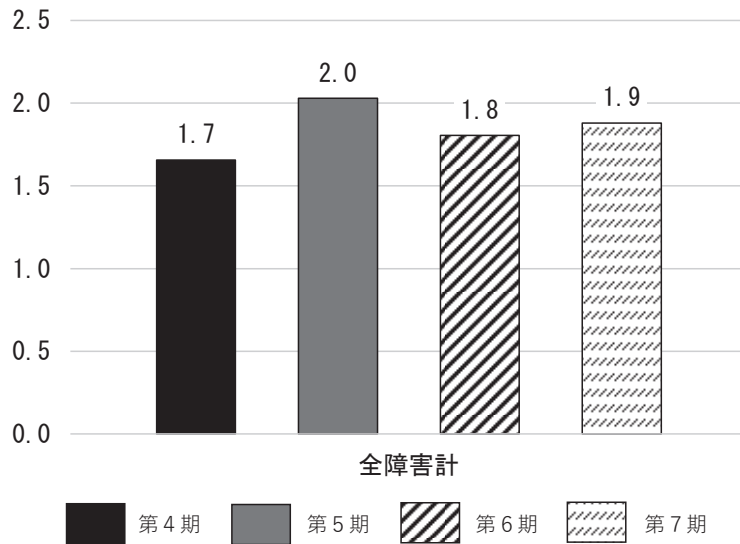


図5-3 調査期別の職場で得られている理解や配慮の種類数の平均

※表5-4のうち、職場で得られている理解や配慮の種類数の平均のみ掲載。平均は小数点以下第2位を四捨五入しているが、棒グラフは四捨五入する前の数を基に作成した。第4期と第5期の間（第5期前期調査実施年である2016年の4月）に合理的配慮の提供が義務化されている。

(3) 就労状況の変化と生活の満足度の変化の関係（視点3に基づく分析テーマ）

表5-5は、連続する2つの調査期とも回答した者の就労状況の変化と、家族との人間関係等の4項目で取得した生活の満足度の変化の関係を集計したもので、これを図にしたものが図5-4である。

4つの生活の満足度の変化は、障害種類や就労状況により差があった。4つの生活の満足度について、統計的に有意なプラスの変化又はマイナスの変化だった(95%信頼区間が0をまたがなかった)内容は次のとおりである。

友人・知人との人間関係の満足度は、視覚障害の新規就職者で高くなっていた。自分の体力や健康の満足度は、肢体不自由の新規就職者で高くなっており、知的障害の新規離職者では低くなっていた。収入や経済生活の満足度は、全障害の計の非就労継続者及び肢体不自由と全障害の計の新規就職者で高くなっており、肢体不自由と知的障害と全障害の計の新規離職者で低くなっていた。なお、家族との人間関係の満足度では顕著な差は見られなかった。

表5-5 連続する2つの調査期間の、就労状況別の生活の満足度の変化

	家族との人間関係											友人・知人との人間関係															
	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	計	平均	下限	上限	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	計	平均	下限	上限	
就労継続者	視覚障害	0	2	3	47	196	57	4	1	0	310	0.0	-0.05	0.11	0	0	6	54	198	43	11	0	0	312	0.0	-0.08	0.08
	聴覚障害	0	2	20	90	325	84	19	1	0	541	0.0	-0.09	0.05	0	1	13	95	322	96	9	1	0	537	0.0	-0.08	0.05
	肢体不自由	0	3	16	106	339	106	18	2	1	591	0.0	-0.06	0.08	0	1	18	116	321	110	18	1	0	585	0.0	-0.08	0.06
	内部障害	0	1	6	54	196	53	5	1	0	316	0.0	-0.09	0.07	0	0	10	63	184	54	7	0	0	318	0.0	-0.13	0.04
	知的障害	4	5	19	88	466	91	30	5	1	709	0.0	-0.05	0.08	2	4	39	112	394	112	30	3	1	697	0.0	-0.11	0.03
	精神障害	3	5	11	37	145	46	13	1	1	262	0.0	-0.16	0.10	1	4	13	45	143	47	11	3	0	267	0.0	-0.15	0.09
計	7	18	75	422	1667	437	89	11	3	2729	0.0	-0.03	0.03	3	10	99	485	1562	462	86	8	1	2716	0.0	-0.05	0.01	
非就労継続者	視覚障害	0	0	1	2	8	2	0	0	0	13	-0.2	-0.57	0.26	0	0	2	3	5	3	0	0	0	13	-0.3	-0.85	0.23
	聴覚障害	0	0	0	2	16	3	0	0	0	21	0.0	-0.16	0.26	0	0	0	5	12	2	2	0	0	21	0.0	-0.31	0.41
	肢体不自由	0	2	2	12	41	11	2	0	0	70	-0.1	-0.31	0.11	0	0	1	17	39	9	5	0	0	71	0.0	-0.20	0.20
	内部障害	0	0	1	2	6	0	0	0	0	9	-0.4	-0.89	0.00	0	0	0	1	8	0	0	0	0	9	-0.1	-0.32	0.09
	知的障害	0	0	1	5	28	6	3	0	0	43	0.1	-0.12	0.35	0	1	3	5	22	8	1	1	1	42	0.1	-0.30	0.44
	精神障害	1	0	2	8	13	14	1	1	0	40	0.1	-0.30	0.45	0	0	2	8	18	9	3	1	1	41	0.1	-0.17	0.47
計	1	2	7	31	112	36	6	1	0	196	0.0	-0.15	0.11	0	1	8	39	104	31	11	2	1	197	0.0	-0.11	0.16	
新規就職者	視覚障害	0	0	0	2	5	0	1	0	1	9	0.4	-0.53	1.42	0	0	0	0	4	2	3	0	0	9	0.9	0.32	1.46
	聴覚障害	0	1	1	4	7	2	0	0	0	15	-0.5	-0.98	0.05	0	0	0	9	3	2	1	0	0	15	-0.3	-0.81	0.14
	肢体不自由	0	0	1	2	16	10	1	0	0	30	0.3	-0.01	0.54	0	0	0	4	17	7	2	0	0	30	0.2	-0.04	0.51
	内部障害	0	0	0	2	6	2	2	0	0	12	0.3	-0.20	0.87	0	0	0	2	8	2	0	0	0	12	0.0	-0.33	0.33
	知的障害	0	0	0	2	16	1	0	0	0	19	-0.1	-0.23	0.12	0	0	1	3	9	3	3	0	0	19	0.2	-0.26	0.69
	精神障害	0	0	1	3	8	6	0	0	0	18	0.0	-0.34	0.45	0	1	0	4	10	2	1	0	0	18	-0.2	-0.64	0.30
計	0	1	3	15	58	21	4	0	1	103	0.1	-0.09	0.27	0	1	1	22	51	18	10	0	0	103	0.1	-0.08	0.29	
新規離職者	視覚障害	0	1	0	1	10	3	0	0	0	15	-0.1	-0.54	0.40	0	0	1	2	9	3	0	0	0	15	-0.1	-0.46	0.32
	聴覚障害	0	0	1	3	11	4	2	1	0	22	0.3	-0.18	0.73	0	0	1	4	8	9	0	0	0	22	0.1	-0.23	0.50
	肢体不自由	0	1	2	16	24	10	1	0	0	54	-0.2	-0.45	0.04	0	0	4	12	25	8	4	0	0	53	-0.1	-0.34	0.19
	内部障害	0	0	1	4	10	3	1	1	0	20	0.1	-0.38	0.58	0	0	0	5	11	2	1	1	0	20	0.1	-0.34	0.54
	知的障害	0	2	0	11	24	6	2	0	0	45	-0.2	-0.44	0.13	1	1	5	8	23	5	4	0	0	47	-0.3	-0.61	0.10
	精神障害	0	1	1	11	18	6	3	0	0	40	-0.1	-0.42	0.22	0	3	3	8	22	8	0	0	0	41	-0.1	-0.40	0.10
計	0	5	5	46	97	32	9	2	0	196	-0.1	-0.22	0.06	1	1	14	39	98	35	9	1	0	198	-0.1	-0.23	0.05	

	自分の体力や健康											収入や経済生活															
	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	計	平均	下限	上限	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	計	平均	下限	上限	
就労継続者	視覚障害	0	3	20	66	145	49	26	2	1	312	0.0	-0.13	0.11	1	4	10	61	153	61	15	5	1	311	0.0	-0.07	0.16
	聴覚障害	0	5	19	112	292	89	20	4	0	541	0.0	-0.12	0.03	0	3	16	100	311	92	17	2	0	541	0.0	-0.09	0.05
	肢体不自由	2	11	20	133	264	116	26	8	3	583	0.0	-0.11	0.07	2	3	24	109	301	115	29	3	2	588	0.0	-0.05	0.11
	内部障害	2	4	25	58	155	52	18	4	0	318	-0.1	-0.21	0.03	0	1	8	59	186	56	7	2	0	319	0.0	-0.09	0.08
	知的障害	2	8	29	126	383	119	25	7	3	702	0.0	-0.09	0.05	3	12	32	129	356	118	35	10	3	698	0.0	-0.10	0.06
	精神障害	1	6	23	50	115	51	19	3	0	268	-0.1	-0.21	0.07	1	4	20	54	118	52	15	4	0	268	-0.1	-0.19	0.07
計	7	37	136	545	1354	476	134	28	7	2724	0.0	-0.08	0.00	7	27	110	512	1425	494	118	26	6	2725	0.0	-0.04	0.03	
非就労継続者	視覚障害	0	0	0	4	7	2	0	0	0	13	-0.2	-0.51	0.21	0	0	0	3	4	6	0	0	0	13	0.2	-0.20	0.67
	聴覚障害	0	0	1	2	14	3	0	1	0	21	0.1	-0.30	0.49	0	0	0	8	6	6	1	0	0	21	0.0	-0.40	0.40
	肢体不自由	1	0	4	17	37	11	2	0	0	72	-0.2	-0.41	0.03	0	0	4	13	33	16	2	2	0	70	0.1	-0.16	0.31
	内部障害	0	0	1	0	2	3	3	0	0	9	0.8	-0.02	1.58	0	0	0	0	7	1	1	0	0	9	0.3	-0.10	0.77
	知的障害	0	0	1	10	13	13	5	0	0	42	0.3	-0.05	0.57	0	0	0	11	17	9	5	1	1	44	0.3	0.00	0.69
	精神障害	0	1	5	6	18	7	3	1	0	41	-0.1	-0.45	0.31	0	1	2	7	18	4	9	0	0	41	0.2	-0.18	0.57
計	1	1	12	39	91	39	13	2	0	198	0.0	-0.14	0.15	0	1	6	42	85	42	18	3	1	198	0.2	0.02	0.32	
新規就職者	視覚障害	0	0	0	2	5	2	0	0	0	9	0.0	-0.44	0.44	0	0	0	3	3	3	0	0	0	9	0.0	-0.53	0.53
	聴覚障害	0	1	1	2	8	1	2	0	0	15	-0.1	-0.77	0.50	0	1	1	3	8	0	1	1	0	15	-0.2	-0.90	0.50
	肢体不自由	0	0	1	4	11	11	1	1	1	30	0.5	0.05	0.89	0	0	0	3	10	10	6	1	0	30	0.7	0.38	1.09
	内部障害	0	0	2	2	5	2	1	0	0	12	-0.2	-0.81	0.48	0	0	2	1	4	4	1	0	0	12	0.1	-0.59	0.76
	知的障害	0	0	1	3	13	1	0	1	0	19	-0.1	-0.48	0.37	0	0	2	2	7	4	3	0	0	18	0.2	-0.32	0.77
	精神障害	0	0	2	3	8	4	0	1	0	18	0.0	-0.53	0.53	0	0	0	5	7	4	1	1	0	18	0.2	-0.28	0.72
計	0	1	7	16	50	21	4	3	1	103	0.1	-0.13	0.31	0	1	5	17	39	25	12	3	0	102	0.3	0.05	0.50	
新規離職者	視覚障害	0	0	1	4	4	4	2	0	0	15	0.1	-0.45	0.71	0	1	3	1	8	0	2	0	0	15	-0.4	-1.09	0.29
	聴覚障害	0	0	0	7	6	6	2	1	0	22	0.3	-0.20	0.75	0	0	1	5	7	6	2	1	0	22	0.3	-0.22	0.76
	肢体不自由	0	1	6	5	26	7	6	1	1	53	0.1	-0.24	0.47	1	2	7	13	22	6	4	0	0	55	-0.4	-0.75	-0.09
	内部障害	0	0	2	6	10	0	1	1	0	20	-0.3	-0.75	0.25	0	1	2	6	9	0	2	0	0	20	-0.5	-0.96	0.06
	知的障害	0	2	4	14	20	6	2	0	0	48	-0.4	-0.68	-0.07	3	4	8	12	16	4	0	0	0	47	-1.0	-1.40	-0.64
	精神障害	0	0	4	11	12	11	3	0	0	41	0.0	-0.39	0.29	1	3	4	8	14	8	2	1	0	41	-0.3	-0.79	0.10
計	0	3	17	47	78	34	16	3	1	199	-0.1	-0.22	0.11	5	11	25	45	76	24	12	2	0	200	-0.5	-0.66	-0.28	

※連続する2つの調査期とも回答した者の就労状況を「就労継続者（就労→就労）」「非就労継続者（非就労→非就労）」「新規就職者（非就労→就労）」「新規離職者（就労→非就労）」の4つに区分して、不満=1から満足=5まで数値化した4つの生活の満足度の変化量を後の調査期から前の調査期の数値を差し引いて集計したものである。同一対象者が3回以上回答しており連続する調査期が複数ある場合は、集計には複数の連続する調査期の結果を計上している（例えば第1期、第2期、第3期とも回答した場合は、「第1期から第2期の変化」と「第2期から第3期の変化」の両方を計上した。）。平均はその変化量の平均で、95%信頼区間は95%がこの下限から上限までの区間に含まれることを意味する。この95%信頼区間が0をまたがず、下限が0以上の場合はプラス方向の変化、上限が0以下の場合はマイナス方向の変化を意味する。

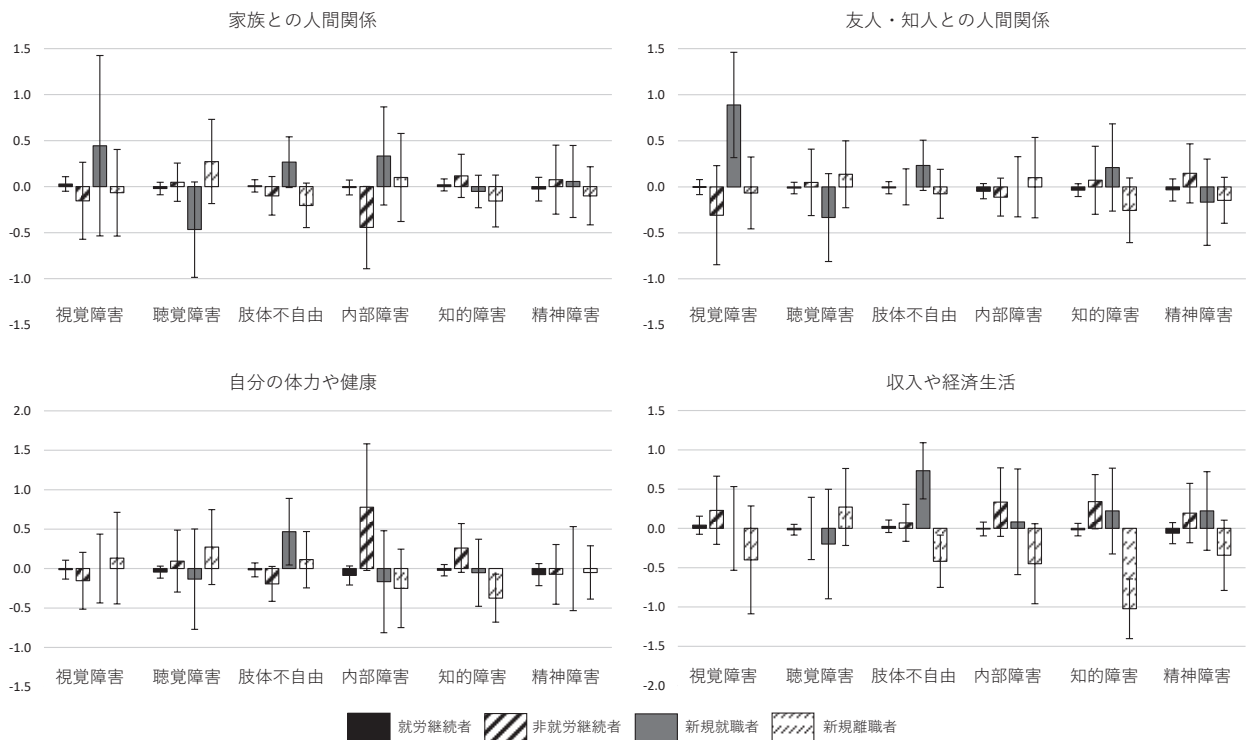
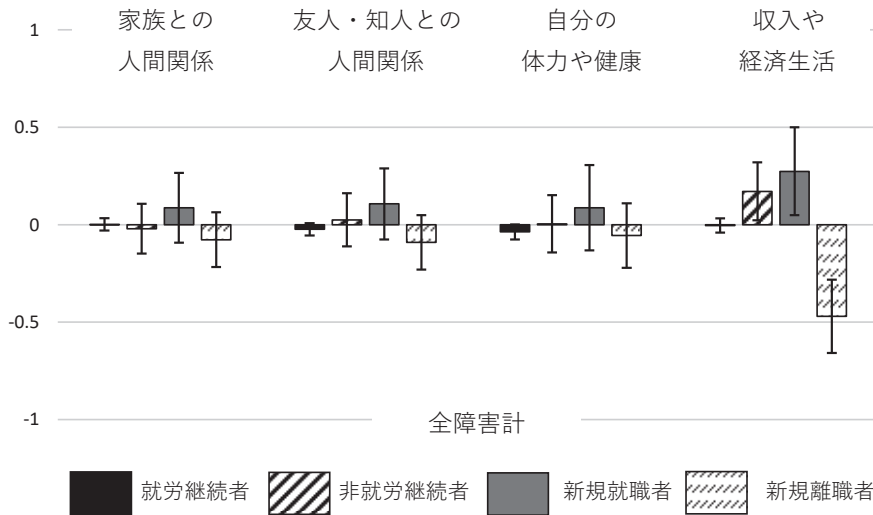


図5-4 連続する2つの調査期間の、就労状況別の生活の満足度の変化

※エラーバーは95%信頼区間を表す。この95%信頼区間が0をまたがず、下限が0以上の場合にはプラス方向の変化、上限が0以下の場合にはマイナス方向の変化を意味する。

(4) 雇用形態の変化（視点4に基づく分析テーマ）

表5-6は、同一対象者の就労者の雇用形態を「正規雇用」、「正規雇用以外」、「非就労」に3区分し、対象者の就労状況不明を除いた初回の回答と最後の回答の雇用形態を障害種類別に集計したもので、このうち該当者の占める割合を図にしたものが図5-5である。なお、この集計では、初回の回答と最後の回答の間に回答のあった調査期における変化については集計していない。

初回の回答が「正規雇用」だった者では、「正規雇用」の継続者は知的障害を除き概ね5割から8割だったが、知的障害では「正規雇用以外」への変化が約4割あり「正規雇用」の継続者は約4割だった。

初回の回答が「正規雇用以外」だった者では、「正規雇用」への変化は精神障害以外では概ね1割から2割あったのに対して、精神障害では3%と少なかった。「非就労」への変化は肢体不自由と精神障害で約3割あり、それ以外の障害種類では数%から2割未満だった。「正規雇用以外」の継続者は、障害種類にもよるが概ね6割から8割だった。

なお、初回の回答が「非就労」だった者は集計対象数が少なく言及は控える。

表5-6 初回の回答からの雇用形態の変化

	初回正規雇用				初回正規雇用以外				初回非就労				計
	最終 正規雇用	最終 正規雇用以外	最終 非就労	小計	最終 正規雇用	最終 正規雇用以外	最終 非就労	小計	最終 正規雇用	最終 正規雇用以外	最終 非就労	小計	
視覚障害	47 (71%)	10 (15%)	9 (14%)	66 (100%)	5 (16%)	26 (81%)	1 (3%)	32 (100%)	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	2 (100%)	100
聴覚障害	91 (79%)	16 (14%)	8 (7%)	115 (100%)	10 (17%)	41 (71%)	7 (12%)	58 (100%)	1 (17%)	3 (50%)	2 (33%)	6 (100%)	179
肢体不自由	100 (69%)	17 (12%)	27 (19%)	144 (100%)	7 (15%)	28 (60%)	12 (26%)	47 (100%)	1 (5%)	7 (32%)	14 (64%)	22 (100%)	213
内部障害	51 (63%)	18 (22%)	12 (15%)	81 (100%)	3 (12%)	21 (84%)	1 (4%)	25 (100%)	1 (33%)	0 (0%)	2 (67%)	3 (100%)	109
知的障害	40 (42%)	38 (40%)	18 (19%)	96 (100%)	14 (9%)	111 (75%)	23 (16%)	148 (100%)	0 (0%)	7 (64%)	4 (36%)	11 (100%)	255
精神障害	14 (54%)	6 (23%)	6 (23%)	26 (100%)	2 (3%)	48 (65%)	24 (32%)	74 (100%)	1 (33%)	0 (0%)	2 (67%)	3 (100%)	103
計	343 (65%)	105 (20%)	80 (15%)	528 (100%)	41 (11%)	275 (72%)	68 (18%)	384 (100%)	4 (9%)	18 (38%)	25 (53%)	47 (100%)	959

※就労者の雇用形態を「正規雇用」、「正規雇用以外」、「非就労」に3区分し、2回以上回答のあった同一対象者の就労状況不明を除いた初回の回答と最後の回答の雇用形態を障害種類別に集計したものである。なお、初回又は最終の回答において就労状況不明の者は集計から除外している。また、初回の回答と最後の回答の間の調査期における区分の変化については集計していない。

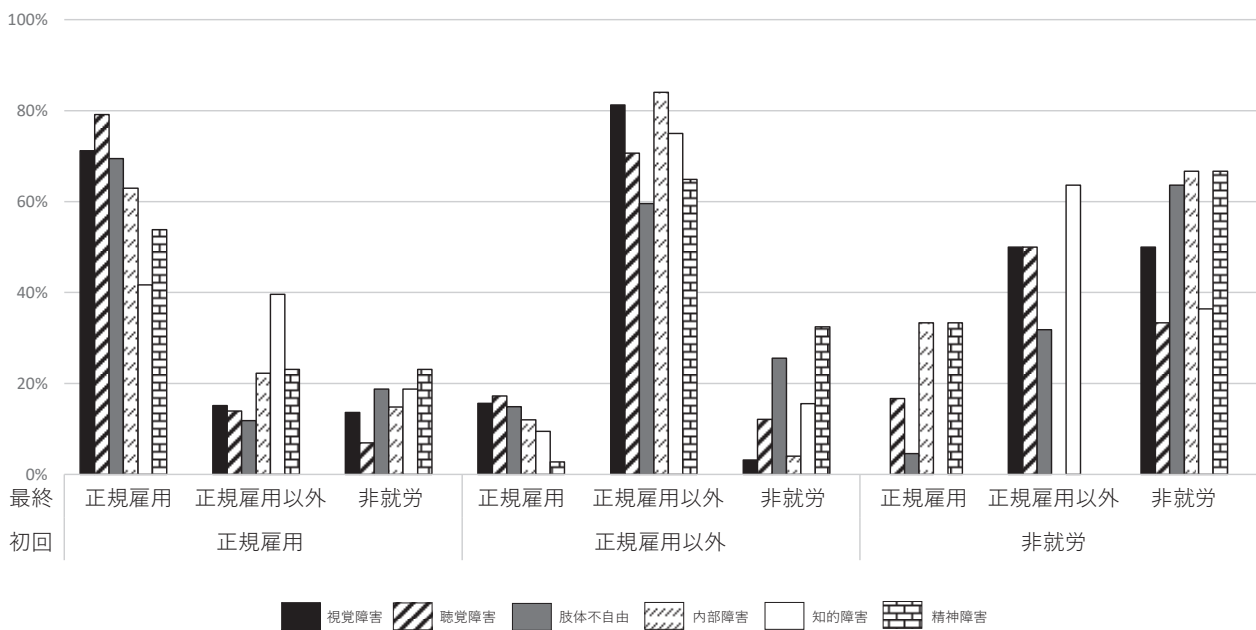
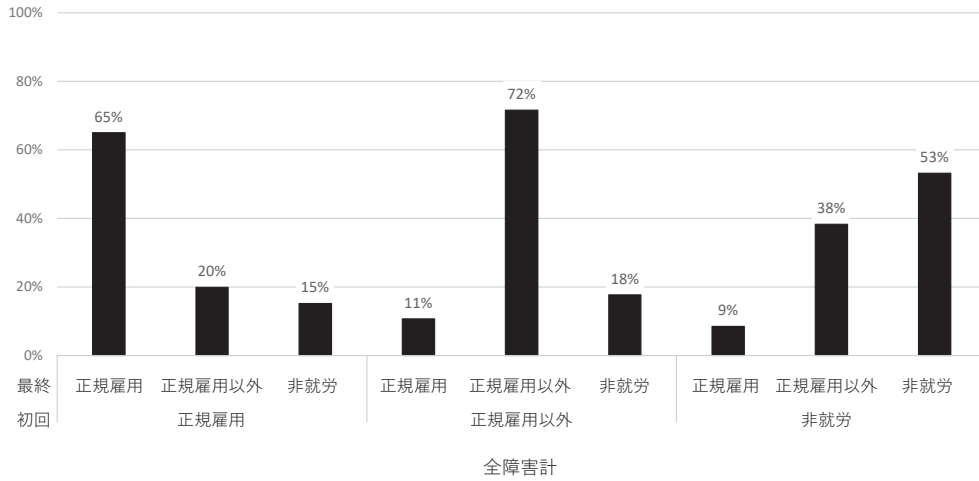


図5-5 初回の回答からの雇用形態の変化の割合

※同一対象者の就労状況不明を除いた初回の回答と最終の回答をクロス集計し、その割合を図示した。集計人数は表5-6参照

第4節 考察

1 パネルデータの特性を活かした集計及びグラフ化

(1) 考察のまとめ

調査対象者の状況の変化を時系列に沿って示すことができるパネルデータの特徴を活かして、4つの分析の視点に基づき、「年齢層別の就労率と職業生活からの引退時期の違い」、「法改正と合理的配慮の経年変化」、「就労状況の変化と生活の満足度の変化の関係」、「雇用形態の変化」の4つの集計を示すことができた。これにより、パネルデータの特徴を踏まえた「変化」に着目した集計は、集計方法を工夫することで実施可能であることが確認できた。一方、複数の要因の関係を踏まえた複雑な集計を実施した場合には集計項目ごとの対象数が少なくなり、結果として検討できない場合があることも確認できたことは、今後実施する集計や分析の参考となった。続く第8期においては、分析の視点や分析テーマについて、本調査で取得しているパネルデータの特性を踏まえて精査し、第1期から第8期までのパネルデータを完備した後に実施する通貫分析において着目する視点として定めることとしたい。

なお、(2)から(5)は4つの集計結果に対して考察し、(6)は集計方法について考察し、(7)は(2)から(6)を踏まえた今後の分析のテーマ設定について記載した。

(2) 年齢層別の就労率と職業生活からの引退時期の違い（視点1の分析テーマ）

この集計では、調査対象者の年齢層及び出生コホート別の就労状況と、職業生活からの引退の時期を整理した。多くの障害者が年齢層や出生コホートによらず就労を維持していたが、障害種類により年齢層や出生コホート別の就労率や職業生活からの引退時期に違いがあることが示された。これにより、視点1について、本パネルデータの特徴を踏まえて集計方法を工夫することで、一定ながら可視化することができた。

ア 集計結果の特徴

年齢層別の就労率については、全体としては60歳未満では9割程度の高い就労率を維持しており、60代になると約7割に就労率が低下していた。障害種類別では、視覚障害、聴覚障害、内部障害では60歳未満は安定して9割程度の高い就労率を維持していた。そのうち、視覚障害と内部障害では60代に就労率が低下していたが、聴覚障害では60代でも高い就労率を維持していた。肢体不自由、知的障害、精神障害では60歳未満でも非就労の者が一定数存在しており、60代になると肢体不自由で就労率が大きく低下していた。

出生コホート別の就労率については、全体としては1960年代生（第7期に51歳から61歳）及びそれより若いコホートでは高い就労率を維持していたが、1950年代生では第5期（57歳から67歳）以降に就労率が低下していた。障害種類別では、聴覚障害は全コホート・全調査期において就労率が高かった。視覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害では1950年代生で第5期（57歳から67歳）以降に全体と同様に就労率が低下していたが、視覚障害と知的障害では他の出生コホートでも1950年代生と同程度又はそれ以下の就労率を示す場合があった。精神障害では1960年代生や1970年代生で就労率が低水準を示す場合があり、1950年代生の就労率が大きく低下したのは第7期（61歳から71歳）になってからだった。また、肢体不自由と内部障害の非就労者のうち約4割の者が職業生活からの引退の意向を持っており、肢体不自由の60歳未満では半数を超える者が引退の意向を持っていた。これにより、多くの

障害者が年齢層によらず就労を維持していたが、障害種類により年齢層や出生コホート別の就労率や職業生活からの引退時期に違いがあることが示された。

イ 障害種類別の考察

視覚障害は、全体の集計では60歳未満は概ね高い就労率を示していたが、出生コホートによっては8割程度の就労率の調査期もあったことから、一部の集計対象者数が少なかったことを踏まえると、60歳未満の就労状況には個人差がある可能性が考えられた。また1950年代生の第5期（57歳から67歳）から就労率が低下していることから、老齢基礎年金の受給開始年齢である65歳を機会に職業生活から引退する者がいることが示唆された。このことから、加齢によらず障害の状況により就労の継続が困難となる者が一定数いる可能性があるが、老齢基礎年金の受給開始年齢である65歳となったことを機会に加齢により引退する者が出始めると考えられた。

聴覚障害は、全体の集計ではどの年齢層においても高い就労率を示し、出生コホート別でも顕著な就労率の低下がみられないことから、安定的に就労を継続して65歳を超えても就労継続する者が多くいることが示唆された。

肢体不自由は、全体の集計では60歳未満でも非就労の者が一定数存在しており、60代になると就労率が大きく低下していたこと、出生コホート別では1970年代生や1980年代生などの比較的若いコホートにおいても9割を下回る就労率の調査期があること、非就労者のうち4割が職業生活からの引退の意向を示しており、そのうち60歳未満が半数を超えていたことから、就労状況には個人差があると考えられた。また、1950年代生では第5期（57歳から67歳）から大きく就労率が低下していることから、老齢基礎年金の受給開始年齢である65歳となったことを機会に職業生活から引退する者がいることが示唆された。このことから、老齢基礎年金の受給開始年齢である65歳となったことを機会とする加齢による引退の他に、障害状況により早期に就労が困難となり職業生活から引退する者が一定数いることが示された。

内部障害は、全体の集計では60歳未満で高い就労率を示しており、出生コホート別にみても集計人数が5人以下であった1980年代生を除いて高い就労率を示したことから、60歳未満では比較的安定して就労を継続していると考えられた。一方、1950年代生の第5期（57歳から67歳）から大きく就労率が低下していること、60代で職業生活からの引退の意向を示す者が多くあったことから、老齢基礎年金の受給開始年齢である65歳となったことを機会に職業生活から引退する者が多くいることが示唆された。

知的障害は、全体の集計では年齢層によらず一定数の非就労者が存在したこと、出生コホート別ではコホートによらず第4期から徐々に就労率が低下する傾向がみられることから、加齢とは別の社会環境の変化が就労継続に関係している可能性が示唆された。

精神障害は、全体の集計では60歳未満でも非就労の者が一定数存在しており、出生コホート別にみても1960年代や1970年代が最も就労率が低い調査期があること、1950年代生の就労率が大きく低下したのが第7期（61歳から71歳）であったことから、就労率の低下を加齢の影響と捉えることは難しく、個別性が高いと考えられた。

(3) 法改正と合理的配慮の経年変化（視点2の分析テーマ）

この集計では、障害者の職業生活へ影響を与える環境要因について、障害者雇用促進法の改正（合理的配慮義務の導入）を取り上げ、その職場で得られている合理的配慮への影響を整理した。その結果、法改正のあった第5期に職場で得られている理解や配慮の種類が増加していたことが確認され、分析の視点について、本パネルデータを用いて法改正という環境要因の変化が障害者の職業生活へ影響することが確認された。

調査期ごとにみると、雇用分野における障害者に対する合理的配慮の提供が義務化された2016年4月以降に行った第5期（前期調査：2016年7月、後期調査：2017年7月に調査実施）に職場で得られている配慮の種類がどの障害種類でも増加していた。増加幅が大きかったのは視覚障害（第4期1.2から第5期1.6）、聴覚障害（同1.3から1.8）、知的障害（同2.0から2.7）だった。また、第6期になると視覚障害以外では第5期よりも職場で得られている配慮の種類は少なくなっていた。

第5期に配慮の種類が増加したことから、合理的配慮提供の義務化により、第5期において合理的配慮として提供される内容が拡大されたと考えられた。一方、合理的配慮の提供のための職場で支障となっていることの話合いの機会が新たに実施されるようになり（結果は第2章の表2-49にあるとおり）対象者が必要とする配慮が事業主と障害当事者の間で精査されるようになり、第6期になると第5期よりも配慮の種類が減少した可能性がある。これについては、今後の更なる分析を進めていきたい。

ただし、本調査で把握できたのは調査項目に設定した7つの配慮の実施の有無であり、7つの配慮事項における配慮提供の実態までは把握できない点は留意が必要である。

(4) 就労状況の変化と生活の満足度の変化の関係（視点3の分析テーマ）

この集計では、職業生活における「職業」と「生活」の相互作用について、2時点間に起こった就労状況の変化と生活の満足度の変化の関係が示された。これにより、視点にある職業生活における「生活」とのかかわりについて、一部ながら可視化することができたが、集計のため区分した4つの就労状況の一部では集計対象者数が少なくなり結果の読取りが困難になるという本パネルデータの限界も示された。また、本集計により明らかとなった就労状況の変化と生活の満足度の変化の関係は、直接的な関係にあるのか間接的な関係にあるのか、他の調査項目との集計による補足の余地がある。

4つの生活の満足度の変化は、障害種類や就労状況により差があった。4つの生活の満足度について、統計的に有意なプラスの変化又はマイナスの変化だった（95%信頼区間が0をまたがなかった）内容は次のとおりであった。

回答者全体で生活の満足度の変化に関係があったのは収入や経済生活の満足度だけであり、非就労継続者及び新規就職者では収入や経済生活への満足度が高くなり、新規離職者では低くなっていた。

障害種類別では、友人・知人との人間関係の満足度は視覚障害の新規就職者で高くなっていた。自分の体力や健康の満足度は肢体不自由の新規就職者で高くなっており、知的障害の新規離職者では低くなっていた。収入や経済生活の満足度は肢体不自由の新規就職者で高くなっており、肢体不自由と知的障害の新規離職者で低くなっていた。なお、家族との人間関係の満足度では顕著な差は見られなかった。

視覚障害の新規就職者で友人・知人との人間関係の満足度が高くなっていた背景として、障害の特性により人と接する機会が少ない中で、仕事を通じてより多くの人と接するようになりその中で友人関係

が獲得された可能性や、可処分所得の増加による余暇活動により人間関係が獲得された可能性などが考えられる。肢体不自由の新規就職者で自分の体力や健康の満足度が上昇していたことは、障害状態の改善や健康の獲得により就労できるようになった、あるいは仕事をすることで体調管理が改善した可能性がある。逆に知的障害の離職者で自分の体力や健康の満足度が低下していたことは、体力や健康面が課題となり離職につながった、あるいは仕事を辞めたことで体調管理が困難になった可能性がある。肢体不自由の新規就職者で収入や経済生活の満足度が上昇し、肢体不自由と知的障害の新規離職者で収入や経済生活の満足度が低下していたことは、新規就労による収入増や、離職による収入減によるものと考えられる。

(5) 雇用形態の変化（視点4の分析テーマ）

この集計では、複数時点間の雇用形態の変化を整理して示した。視点にあるキャリア形成について、パネルデータの特徴を踏まえて同一対象者の雇用形態の変化を集計することで、一定ながら可視化することができた。ただし、今回の集計方法では初回を基準とした2時点間の比較に留まり、キャリア形成の一側面である雇用形態の変遷について、複数の雇用形態を経験した対象者の状況は明らかにできず、引き続き検討する今後の課題とした。

雇用形態の変化については、知的障害の正規雇用以外への移動や、精神障害の非就労への移動が他の障害種類よりも多く見られた。また、精神障害では、正規雇用以外だった者の非就労への移動も多く見られた。一方、知的障害者の非就労から正規雇用以外への移動が他の障害種類よりも多いことが、この集計により明らかとなった。知的障害については、2011年度から、重度ではない知的障害者のうち短時間就労者は障害者雇用率において0.5人としてカウントされるようになった。そのような中で、何らかの理由により離職した際の次の就職先として、正規雇用以外の短時間就労が選択されるケースがあった可能性がある。精神障害者の非就労への移動が多かったことは、上記(2)の就労率の集計結果でも示されており、この集計結果とも一貫していた。この調査は2年に1度実施しているため、離職から再就職までの期間が長くなった場合には調査実施時点で非就労の回答となる可能性が高くなる。このため、精神障害者では離職後に次の仕事に就くまで一定程度の期間を要するケースが他の障害種類よりも多く存在した可能性もある。

(6) 集計方法について

集計方法を工夫することにより、本調査のパネルデータの特徴を活かして調査対象者の変化の状況を示すことができた。一方、4つの試行分析では、多数の調査期にすべて回答した同一対象者の変化を比較しようとしたり、多数の要因をひとつの集計表で取り上げようとすると、条件ごとの集計対象者数が減少して集計そのものが意味を成さない場合があることも確認された。対象者の変化に着目するのか、全体の傾向に着目するのか、その目的を踏まえて集計方法を検討し選択する必要があると考えられた。

ア 年齢層別の全体の集計と出生コホート別の集計（視点1に基づく分析テーマ）

パネル調査の特徴として同一対象者が複数回回答していることを踏まえ、「全体の集計」として全データをそのまま計上した場合に、1つの年齢層の10年間に同一対象者の最大5回分の回答が含まれ、回答回数の多い同一対象者により集計結果に重み付けがされてしまうことが懸念された。そのため、複数回回答があった場合でも同一対象者について1回ずつ計上できる「出生コホート別の集計」をあわ

せて実施した。結果としては、「全体の集計」では把握できなかった加齢による就労状況の変化の傾向が出生コホート別の集計では可視化することができた。一方、出生コホート別の集計では出生コホートと調査期の2つの要素をクロス集計したことから、就労率の計算の元となる集計対象者が少ない条件が存在して、結果として集計結果の読取りが困難になる場合もあった。

イ 時勢の変化による影響の分析（視点2に基づく分析テーマ）

パネル調査の特徴として同一の調査内容を複数回調査実施していることを踏まえ、7つの配慮事項について、職場で実際に得られていると回答のあった種類の数を計上した。これにより、障害者雇用促進法の改正による合理的配慮提供の義務化の前後で職場で実際に得られている理解や配慮の種類が変化したことが確認できた。本調査で取得したパネルデータにより、同一内容を継続調査することで、時勢の変化（社会的なインパクト）が調査対象者へ与える影響について、時系列で示せることが確認された。なお、集計する調査期を多く取ればより連続的な変化を見ることができる一方で、集計対象者数が減少することには留意が必要である。

ウ 2時点間に起こった2つの変化の関係の分析（視点3に基づく分析テーマ）

就労状況の変化により一部の生活の満足度が変化している状況が確認されたとともに、就労状況の変化と生活の満足度の変化の関係について、障害種類により違うことが確認できた。このような横断調査では取得することができない調査対象者の変化については、パネルデータにしかできない集計であり、本パネルデータでも集計による可視化が可能であることが確認された。ただし、2つの変化の種類をグループ分けするに当たり、集計対象者が少ないグループでは十分な分析を行えなくなるなど、課題もあった。

エ 2時点間の状態の変化の比較（視点4に基づく分析テーマ）

本調査研究ではこれまで7回の調査を実施しており、最大で6回の雇用形態の推移を確認することができる。しかし、人により回答回数や雇用形態の変化の有無には違いがあり、その変化のすべてのパターンを取りまとめて掲載することは難しい。そのため、「初回の回答からの変化」に着目して「最後の回答における初回の雇用形態の区分から他の区分への移動経験」について集計し、雇用形態の変化を示すことができた。ただし、この集計では初回の回答から最後の回答までの間に他の区分へ移動した場合の変化（例えば、初回の回答後に他の区分へ一旦移動して、その後に初回の区分や最後の回答の区分へ移動した場合）の変化は集計できていない。このため、キャリア形成の一側面である雇用形態について、より具体的に変遷状況が確認できるような集計が求められると考えられた。

（7）分析の視点と今後の課題

調査研究委員会と専門家ヒアリングで取得した多くの意見を基に、ICFモデルを踏まえて4つの分析の視点を生成した。今調査期では4つの分析の視点のうちから、蓄積されたデータにより可視化できるテーマを4つ選定することで、一定の集計結果を示すことができた。ただし、今調査期で扱った分析テーマは障害者の職業生活のごく一部に過ぎない。調査研究委員会における議論の中では、受障後の入職時期や退職時期などについて障害の特性を踏まえた分析が必要という意見や、これまで専門家が述べてきたことが、この調査で裏付けられるのか、実はそうではなかったのか、具体的に結果として示せるかどうかが大変である、という意見があった（調査研究委員会における意見の詳細については、巻末資

料に掲載)。本調査研究により取得している調査項目は限られている中で、本調査研究のデータにより分析の視点をどのように実証していけるかを踏まえ、引き続き幅広く分析テーマを検討していく必要がある。

卷末資料

調査研究委員会の意見

(1) 障害の種類別の分析に関する委員の意見

- ・知的障害者は作業能力があれば就職するという状態が起きている中で、働くことと人生の充実感や幸せについて、この調査から分かることがあるとよい。
- ・受障後の入職時期や退職時期など、精神障害者の特性を踏まえた分析をしたほうがよい。
- ・精神障害者は 20 から 30 時間で働くことが長期定着につながる傾向がある。フルタイムで働く者と短時間労働で働く者の傾向についての分析が必要。満足度は賃金と絡めて分析したほうがよい。
- ・精神障害者が人と接して働く社会生活があることにより成長する部分について、何かの形で結果として出せるとよい。
- ・精神障害者の短時間雇用について法改正が議論されている中で、企業サイドから見ると短時間勤務の方が苦勞するという声を聞いている。
- ・視覚障害は先天性・中途障害の別に集計が必要である。
- ・視覚障害が重度化した時に離職を経験するかどうかは気になる。
- ・同期入社が昇進昇格する中で自分だけ取り残される視覚障害者が割と多い。
- ・都市部以外の視覚障害者が支援機関とのつながりを確保することが大切である。この地域間格差が調査から明らかになるとよい。
- ・視覚障害の場合、他の障害よりも正規雇用の割合が低い印象がある。集計では特に男性が低めになっており興味深い。背景について分析できるとよい。

(2) 着目する分析の観点に関する委員の意見

- ・職場の人間関係について奥深く幅広く分析する必要がある。
- ・情報アクセシビリティの考え方について分析に加えるべきである。
- ・障害のある人がどのように職業生活を歩み、いつ頃職業生活を閉じていこうとするか明らかにしてもらいたい。また職業生活からの引退に関連する事柄を整理する必要がある。
- ・時間経過に伴う障害の重度化について、手帳等級の変化など客観的に把握は可能か。
- ・いま人間関係がだんだん希薄になる中で、支援機関を利用するようになった背景を調査するのも面白いと思った。
- ・障害者雇用促進法の改正（合理的配慮義務の導入）の影響を知りたい。
- ・コロナ禍の影響について取りまとめる必要がある。
- ・デジタル化の影響についてアンケートの他にヒアリングでも調査していただきたい。

(3) 第 1 期から第 8 期までの調査の取りまとめ方法について

- ・障害者雇用における問題や課題の解決策などを提言できる研究結果を目指してほしい。
- ・色々な障害種類についてこれまで言われてきたことが本当にそうなのか、個別のテーマで分析するような研究を第 8 期終了後に 1 年間やり、これまでの研究報告書と別にまとめることで深みが出て、社会へ発信できるようなまとめ方になるのではないか。
- ・これまで専門家が述べてきたことが、この調査で裏付けられるのか、実はそうではなかったのか、具体的に結果として示せるかどうかが大事である。これは特定の調査期のデータを用いて確かめる形でもよいかもしれない。そのためには各障害でどういう分析テーマがあるか、事務局の仮説だけでなく、ニーズをリサーチして分析する必要がある。

- 分析結果から状況が分かっていても、それに対してどう支援すればよいかは必ずしも明らかにならない。別の資料から引用するなどしていく必要があるが、それは縦断調査の結果から得られたものではないので、本当にそう言えるのか疑義が生じてしまう。
- 調査結果により障害がステレオタイプの捉えられることがないようにしながら、具体像として読者の目に映るように取りまとめていただきたい。
- 長い調査結果を読むために、制度や施策などの時代の変遷を見れると企業もありがたい。
- 限られた時間の中で成果を明らかにするには、新たに追加していく視点も大事だが、余分なものを落としていくことも必要。様々な期待はあるがあまり欲張らず、取りまとめの計画をデザインしたほうがよい。

(4) 補完調査研究の必要性について

- 肢体不自由の障害部位についての追加調査が必要である。
- 発達障害の有無について追加調査が必要である。

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究委員会（第 7 期）」設置要綱

1. 趣旨

障害者の安定した就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、雇用継続、離職（退職）等）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。

このため、障害者職業総合センター（以下「総合センター」という。）では、「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」（以下「調査研究」という。）において、障害を有する労働者個人に対して、若年期を中心とする就職及びこれにつづく職業生活への適応の過程等を明らかにする調査と、一定の就業経験経過後の職業生活の維持・向上等の過程を明らかにする調査を、2年ごとに交互に各 8 回、平成 19 年度から令和 5 年度までの 17 年間を通した継続調査として実施し、これにより職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の安定した就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることとしている。

そこで、第 7 期の調査研究の企画運営に関し専門的な助言を得るため、研究委員会を設置するものとする。

2. 検討事項

- (1) 調査研究の企画に関すること
- (2) 調査実施に関すること
- (3) 第 7 期調査結果の分析、報告資料の作成に関すること
- (4) 第 1 期から第 8 期の研究結果の取りまとめに関すること
- (5) その他、本調査研究の企画運営に関すること

3. 研究委員会の運営

- (1) 研究委員会は、次の者をもって構成し、総合センター研究主幹が委嘱するものとする。
 - イ. 学識経験者
 - ロ. 障害者団体関係者
 - ハ. 利用者団体関係者
- (2) 研究委員会の座長は、学識経験者である研究委員会委員の中から、互選により選出する。
- (3) 研究委員会は、必要に応じて他の関係者の出席を求めることができる。
- (4) 研究委員会の事務局は、総合センター社会的支援部門に置く。
- (5) 研究委員会における議事及びその成果は総合センターに帰属するものとする。

4. 研究委員会委員

別紙 1 のとおり。

5. 設置期間

研究委員会は、令和 3 年 6 月 21 日から令和 5 年 3 月 31 日の間、各年度 2 回程度開催する。

6. 付則

この要綱は令和 3 年度及び令和 4 年度の適用とする。

I D 番号 * * * * *

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票

第7回 職業生活後期調査

令和3年7月 (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 研究部門

このアンケート調査票は5つのブロックに分かれており、全部で45問の質問があります。

質問の答えによって、途中の質問を飛ばして進むことがありますので、**●ページ 問●●へ進んでください**という案内と指定した色を確認してご回答ください。

また、その他を選択した時は、() 内にもご記入ください。よろしくお願いします。

ブロック1 (すべての方への質問)

あなた自身の基本的なことについてうかがいます

あなたが現在お持ちの障害者手帳などについて、確認させていただきます。枠の中へ回答をお願いします。

前回の調査(2年前、令和元年7月)以降、お持ちの障害者手帳について、**変更や追加**があれば**あてはまる番号すべて**に○をつけて、次に等級と交付年月をカッコ内に記入してください。

- 1. 身体障害者手帳 () 級 () 年 () 月交付
- 2. 療育手帳(「愛の手帳」、「みどりの手帳」など) () 級・度 () 年 () 月交付
- 3. 精神障害者保健福祉手帳 () 級 () 年 () 月交付

前回の調査(2年前、令和元年7月)以降、障害者手帳の有無や変更にかかわらず、医師の診断により、**新たに障害として確認された障害種**がありましたら、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

- 1. 視覚障害 2. 聴覚障害 3. 肢体不自由 4. 内部障害
- 5. 知的障害 6. 精神障害 7. その他 ()

問1 あなたのご家族について、うかがいます。

次の中で同居している、していないにかかわらず、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

- 1. 配偶者 2. 子ども 3. あなたの父親 4. あなたの母親 5. 兄弟姉妹
- 6. その他(配偶者の父親、配偶者の母親、祖父、祖母、子どもの配偶者、孫など)

ブロック1 (すべての方への質問)

問2 あなたの現在のお住まいについて、うかがいます。**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

1. 自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
2. 家族（両親、兄弟など）の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
3. 会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれる住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
4. 福祉施設や地域の団体などが運営する援護寮、福祉ホームやグループホームなどの施設
5. その他（ ）

1～3に回答された方にうかがいます。

あなたは現在一人暮らしですか。
どちらかに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ

問3 前回の調査（2年前、令和元年7月）以降、あなたが取得した資格や免許に**変更や追加**があれば、その内容を具体的に枠の中に記入してください（原付免許、英検2級など具体的に記入してください）。

問4 前回の調査（2年前、令和元年7月）以降、あなたやあなたの家族に起きた出来事について、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

1. 自分が結婚をした
2. 自分が離婚をした
3. 自分の子どもが産まれた
4. 自分が引越しをした
5. 自分が親元から離れて暮らし始めた
6. 自分が病気や事故で1ヶ月以上の入院をした
7. 自分が学校や能力開発校に通ったまたは卒業した
学校や能力開発校の種別をご記入ください→
8. 自分の障害に関する年金を受給しはじめた
9. 自分の障害に関する年金の受給がなくなった
10. 自分の親が離婚をした
11. 自分の親が仕事を辞めた
12. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、病気や事故で1ヶ月以上の入院をした
13. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）の介護が必要になった
14. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、亡くなった
15. 該当する項目なし

ブロック2A (問5で1～6に回答された方への質問)

現在、会社やその他の機関もしくは自営で働いている方にうかがいます

問6 現在、あなたはいくつの仕事をされていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
(アルバイトを2つしている場合は「2」になります。)

1. 1つ 2. 2つ 3. 3つ以上

問7 あなたが担当している仕事は、主にどんな内容ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
(複数の仕事をされている場合、これ以降の質問は、主な仕事1つについて回答してください。)

1. ものを作る仕事
2. ものを売る仕事
3. 事務の仕事
4. ものを教える仕事(教師、塾講師、スポーツクラブ指導員など)
5. 医療や福祉に関わる仕事(あん摩・はり・きゅうの仕事を含む)
6. 人を相手にするサービス業(「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関わる仕事」を除きます)
7. 清掃やクリーニングなどのサービス業
8. その他()

問8 あなたが6月に働いた時間は1週間あたりにすると何時間ですか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 20時間未満 2. 20時間以上30時間未満 3. 30時間以上(フルタイムを含む)

問9 あなたの6月の休日は1週間あたりにすると何日ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

問10 あなたが6月に受け取った給与(手取り)は、賞与(ボーナス)を除いていくらくらいですか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

(自営の場合には売り上げから経費などを引いた給与相当額として選んでください)

1. 7万円未満 2. 7万円以上13万円未満 3. 13万円以上25万円未満
4. 25万円以上40万円未満 5. 40万円以上

問11 あなたが去年1年間にもらった賞与(ボーナス)の額はいくらくらいですか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. なし 2. 10万円未満 3. 10万円以上30万円未満
4. 30万円以上50万円未満 5. 50万円以上100万円未満 6. 100万円以上

ブロック2A (問5で1～6に回答された方への質問)

問12 あなたの会社までの通勤に利用する手段は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 徒歩
2. 公共交通機関 (JR や私鉄、公営や民営のバスなど)
3. 自転車
4. 原付やオートバイ
5. 自動車 (自分で運転)
6. 自動車 (家族や自分以外の人運転する車や、会社の送迎バスなど)
7. 在宅勤務
8. その他 (電動車椅子・その他 ())

問13 あなたの通勤にかかる合計時間 (片道) は、どれくらいですか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 30分未満
2. 30分以上1時間未満
3. 1時間以上1時間30分未満
4. 1時間30分以上2時間未満
5. 2時間以上

問14 あなたの働いている会社 (自営、内職を含む) の従業員数 (規模) は、何人くらいですか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 1～9人
2. 10人～49人
3. 50人～99人
4. 100人～299人
5. 300人～999人
6. 1000人以上
7. わからない

問15 あなたは前回の調査 (2年前、令和元年7月) の時も現在と同じ会社 (自営も含む) に勤めていましたか。どちらかに○をつけてください。(派遣社員の人は、派遣元についてお答えください。)

1. 同じ会社 (自営を含む)
2. 同じ会社でない

問16 あなたが現在の会社 (自営を含む) で仕事を始めたのは何歳のときですか。

歳のとき (枠の中に数字を記入してください。)

問17 あなたは、自分の障害の内容 (症状や配慮してもらいたいことなど) について、会社や職場の人に説明していますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 会社や職場の人ほとんどに説明している
(入社時に説明しているためあらためて説明する必要がない場合も含まれます。)
2. 会社や職場の人のごく一部の人だけに説明している
3. 全く説明していない (もし差し支えなければその理由を下にお書きください。)
4. わからない

ブロック2A (問5で1～6に回答された方への質問)

問 18 あなたの職場で、あなたに対して実際に「理解や配慮がある」項目はどれですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること
8. その他 ()
9. 特にない

問 19 **平成 28 年 4 月以降に**、あなたの職場において、あなたにとって支障となっていることの確認や話し合いの機会がありましたか。**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

1. 今までと同じように確認や話し合いの機会があった
2. 新たに確認や話し合いの機会があった
3. 確認や話し合いの機会はまだない
4. よくわからない

問 20 あなたは、現在の仕事について、どの程度満足していますか。a～d の項目について、それぞれ「満足→1」から「不満→5」のうち**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

		満足	い え ば 満 足	ど ち ら か と	い え な い	ど ち ら か と	い え ば 不 満	ど ち ら か と	不 満
a. 仕事の内容	→	1	2	3	4	5			
b. 給料や待遇 (労働条件等)	→	1	2	3	4	5			
c. 職場の人間関係	→	1	2	3	4	5			
d. 職場の環境 (施設整備等)	→	1	2	3	4	5			

問 21 あなたの会社では何歳まで働けるか決まっていますか。**どちらか**に○をつけてください。

1. 決まっている
2. 決まっていない
(わからない、自営の場合を含みます。)

「1. 決まっている」と回答された方にかがいます。

あなたの会社では何歳まで働けますか。(定年後の再雇用などで働ける場合は、働けるもっとも高い年齢を記入してください。)

□ 歳まで働ける

問 22 あなたは何歳まで仕事を続けたいと思いますか。(現在の仕事に限らず、働いていたいと思う年齢を回答してください。)

□ で働きたい

ブロック2A (問5で1～6に回答された方への質問)

問23 あなたが仕事をする理由はどのようなことですか。a～gの項目について、それぞれ「あてはまる→1」から「あてはまらない→5」のうちで**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
a. 収入を得るため	→	1	2	3	4	5
b. 社会とのつながりを持つため	→	1	2	3	4	5
c. 社会の中で役割を果たすため	→	1	2	3	4	5
d. 自分自身が成長するため	→	1	2	3	4	5
e. 生きがいや楽しみのため	→	1	2	3	4	5
f. 生活のリズムを維持するため	→	1	2	3	4	5
g. 心身の健康のため	→	1	2	3	4	5

問24 あなたは今後も現在の仕事を続けたいと思いますか。**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

1. 現在の仕事を続けたい
2. 現在の仕事とは別の仕事をしたい
3. もう仕事はしたくない
4. わからない

「2.現在の仕事とは別の仕事をしたい」と回答された方にうかがいます。

「別の仕事」として**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 別の会社に転職（自営を含む） | 2. 別の部署で今と異なる仕事 |
| 3. 今の職場でより責任のある仕事 | 4. 今の職場で責任を減らした仕事 |

問25 前回の調査（2年前、令和元年7月）以降、仕事に関係してあなたに起きた出来事について、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

1. 配置転換（部署の異動）があった
2. 上司が異動した
3. まわりで直接仕事などを援助してくれる人がいなくなった
4. 昇進した
5. 降格した
6. 給料が上がった
7. 給料が下がった
8. 休職をした
9. 出向した
10. 転職をした（前の職場を辞めて、別の会社に就職した）
→（最近2年間の転職回数： 回）
11. 該当する項目なし

10ページ ブロック3 問31へ進んでください

ブロック2B (3ページの問5で7~9に回答された方への質問)

現在、福祉施設などで雇用契約を結ばない形で働いている方、あるいは、収入のある働き方はしていない方にうかがいます

問 26 あなたは前回の調査（2年前、令和元年7月）以降、仕事についていたことがありますか。どちらかに○をつけてください。

（ここでは「仕事」とは、雇用契約を結んで働くこと、または自営や内職を指します。）

1. ある 2. ない（2年前より以前に会社などを辞めた人を含む）

「1. ある」と回答された方にうかがいます。

その仕事をお辞めになった理由は何ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 事業主の都合 2. 定年退職（年齢 歳） 3. 定年後の再雇用期間満了
4. 契約期間満了 5. 休職期間満了
6. 自分の都合 7. その他（ ）
8. わからない

「6. 自分の都合」と回答された方にうかがいます。

「自分の都合」の具体的な内容は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 仕事内容が合わなかった 2. 賃金、労働条件に不満があった
3. 職場の雰囲気・人間関係 4. 体調不良
5. 体力的にきつくなった 6. 結婚
7. 出産 8. 家庭等の事情（介護など）
9. その他（ ） 10. わからない

問 27 あなたは今後の仕事についてどのように考えていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 現在、就職活動をしている

1と答えた方は、次のページの間28と問29に回答してください

2. 今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている

3. 今後、仕事をするかどうか、今は決められない

4. 職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない

4と答えた方は、次のページの間30に回答してください

2または3と答えた方は、差し支えない範囲で現状についてご記入下さい

（専業主婦・主夫、仕事につくための職業訓練や福祉施設を利用したい、治療中など）

10ページ ブロック3 問31へ進んでください

ブロック2B (3ページの間5で7~9に回答された方への質問)

問 28 あなたの今後の働き方の希望について教えてください。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 会社やその他の機関で、正社員または正職員として働きたい
2. 会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働きたい
3. 会社やその他の機関で、派遣社員として働きたい
4. 自営業主または家族従業者として働きたい
5. 自宅にて内職をしたい
6. 就労継続支援 A 型で雇用契約を結んで働きたい
7. その他 ()

問 29 あなたは仕事を探すときに、相談する人や機関はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。あわせてカッコ内にあげている、あてはまる人すべてに○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 以前の職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医などの専門スタッフ）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他 ()
12. 相談したり利用したことはない

10 ページ ブロック3 問 31 へ進んでください

問 30 あなたが職業生活から引退した理由はどのようなことですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 気力の面で難しくなったから
2. 体力の面で難しくなったから
3. 体調の面で難しくなったから
4. 後継者が育ったから
5. これまで十分に働き、自分の役割を果たしたから
6. 趣味や旅行など、引退後の生活を楽しむため
7. 家事や家族の世話（子育て、孫の世話、介護）に時間を充てたいため
8. ボランティアや地域の活動、当事者団体の活動に時間を充てたいため
9. もっと働きたかったが、働く先が見つからなかったから
10. もっと働きたかったが、働くための環境や条件が整わなかったから
11. 老齢年金を受給し始めたから
12. 定年の年齢になったから
13. 定年後の再雇用（継続雇用）の期間が終了したから
14. その他 ()

「10」と答えた方

差し支えない範囲で具体的にお書きください

「12. 定年の年齢になったから」と答えた方にうかがいます。定年を迎えた職場では、定年後の再雇用（継続雇用）について、職場から説明はありましたか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 説明はなかった・再雇用の制度自体がなかった
2. 説明はあったが、再雇用を希望しなかった
3. 再雇用を希望したが、雇用されなかった
4. その他 ()

10 ページ ブロック3 問 31 へ進んでください

ブロック3 (すべての方への質問)

あなたの仕事や生活の現状についてうかがいます

問 31 あなたは仕事に関して何か困ったことが起きたときに、相談する人や機関はありますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

あわせてカッコ内にあげている、**あてはまる人すべて**に○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医などの専門スタッフ）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他（ ）
12. 相談したり利用したことはない

問 32 あなたは障害に関する年金を受給していますか。**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

1. 受給している
2. 受給していない
3. わからない

問 33 あなたは生活するための収入をどのように得ていますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 年金
2. 家族などの支援
3. 働いて得る収入
4. その他（ ）
5. わからない

問 34 あなたは経済的に困ったことが起きたとき、相談する人や機関はありますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

あわせてカッコ内にあげている、**あてはまる人すべて**に○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医などの専門スタッフ）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他（ ）
12. 相談したり利用したことはない

ブロック4 (すべての方への質問)

あなたの仕事に対する考えなどについてうかがいます

問 35 あなたにとって次の項目は、仕事をするうえで、どのくらい重要だと思いますか。a～fの項目について、それぞれ「重要→1」から「重要でない→5」のうちであてはまる番号1つに○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

		重要	重要 どちらかといえば	いえない どちらとも	重要でない どちらかといえば	重要でない
a. 賃金や給料	→	1	2	3	4	5
b. 自分の能力・経験が発揮できること	→	1	2	3	4	5
c. 仕事の内容	→	1	2	3	4	5
d. 職場の環境整備	→	1	2	3	4	5
e. 勤務時間や休日	→	1	2	3	4	5
f. 仕事仲間との人間関係	→	1	2	3	4	5

問 36 あなたが仕事をするうえで、会社や会社の人からのどんな配慮が必要であったか、またはあったら良いと考えていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること
8. その他 ()
9. 特にない

ブロック4 (すべての方への質問)

問 37 あなたが仕事をするうえで、会社や会社の人に特に望むことはどんなことですか。**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

1. 自分の障害のことを理解してほしい
2. 職場に障害者の仲間を多くしてほしい、会社が更に積極的に障害者雇用を進めてほしい
3. ずっと働き続けることができるようにしてほしい
4. 給与面を改善してほしい
5. 体力や障害に合わせた労働時間や休日の設定をしてほしい
6. 能力に応じた評価や昇進・昇格をしてほしい
7. 研修や教育訓練を充実してほしい
8. 社内の健康管理体制を充実してほしい
9. 職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい
10. その他 ()
11. 特にない

問 38 新たに、平成 28 年 4 月から事業主は障害のある方への差別禁止指針と合理的配慮の指針にそった対応が求められるようになりました。この指針について、あなたは聞いたり、読んだりしたことがありますか。**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

1. 指針の内容を把握している
2. 指針の名称は聞いたことがあるが内容は把握していない
3. 指針について知らない

ブロック5 (すべての方への質問)

あなたの生活に対する考えなどについてうかがいます

問 39 あなたは普段の生活で、一番の楽しみにしていることは何ですか。枠の中に自由に記入してください。

問 40 あなたが近い将来（5年くらい後まで）に実現したいことは何ですか。枠の中に自由に記入してください。

問 41 あなたは次にあげる仕事以外の生活のことについてどの程度満足していますか。a～d の項目について、それぞれ「満足→1」から「不満→5」のうちで**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

		満足	満足 どちらかといえば	いえない どちらとも	不満 どちらかといえば	不満
a. 家族との人間関係について	→	1	2	3	4	5
b. 友人・知人との人間関係について	→	1	2	3	4	5
c. 自分の体力や健康について	→	1	2	3	4	5
d. 収入や経済生活について	→	1	2	3	4	5

問 42 この調査についてのご意見やご要望がありましたら、枠の中に自由に記入してください。

ブロック5 (すべての方への質問)

問 43 2020 年から国内で流行している新型コロナウイルス感染症について伺います。
新型コロナウイルス感染症への対応により、あなたの仕事や日々の暮らしに変化はありましたか。
どちらかに○をつけてください。

1. 変化があった 2. 変化はなかった

「1. 変化があった」と回答された方は、具体的な内容を枠の中に記入してください。

(例えば、仕事の内容、働く時間や場所、仕事への意識、健康状態や毎日の過ごし方の変化など、
新型コロナウイルス感染症への不安など、何でも自由に記入してください。)

問 44 あなたは回答を記入するにあたって他の人に手伝ってもらいましたか。
どちらかに○をつけてください。

1. 自分で回答を記入した
2. 他の人に手伝ってもらった (手伝われた方について、枠の中にあなたとの関係を記入してください)

※父親、母親、友達、会社の上司など
具体的に記入してください

問 45 あなたがこの調査票を記入したのはいつですか。枠の中に日付を記入してください。

令和3年 月 日

◆アンケートにご協力いただいた方に、謝品をお送りしています。ご希望の番号1つに○をつけてください。
選択が無かった場合は、クオカード(1,000円分)をお送りします。
※謝品の発送には2~3ヶ月かかる場合があります。ご了承ください。

1. クオカード(1,000円分) 2. 図書カード(1,000円分) 3. 謝品の受け取りは辞退します

(「クオカード」は、全国の主要なコンビニ
エンスストアなどで使えるカードです。)

◆ご連絡先が変わった場合は、事務局までお知らせください。
住所が変わった場合やご結婚などでお名前が変わった場合、電話番号やFAX番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡いただくと幸いです。

これでアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

サイクル便り

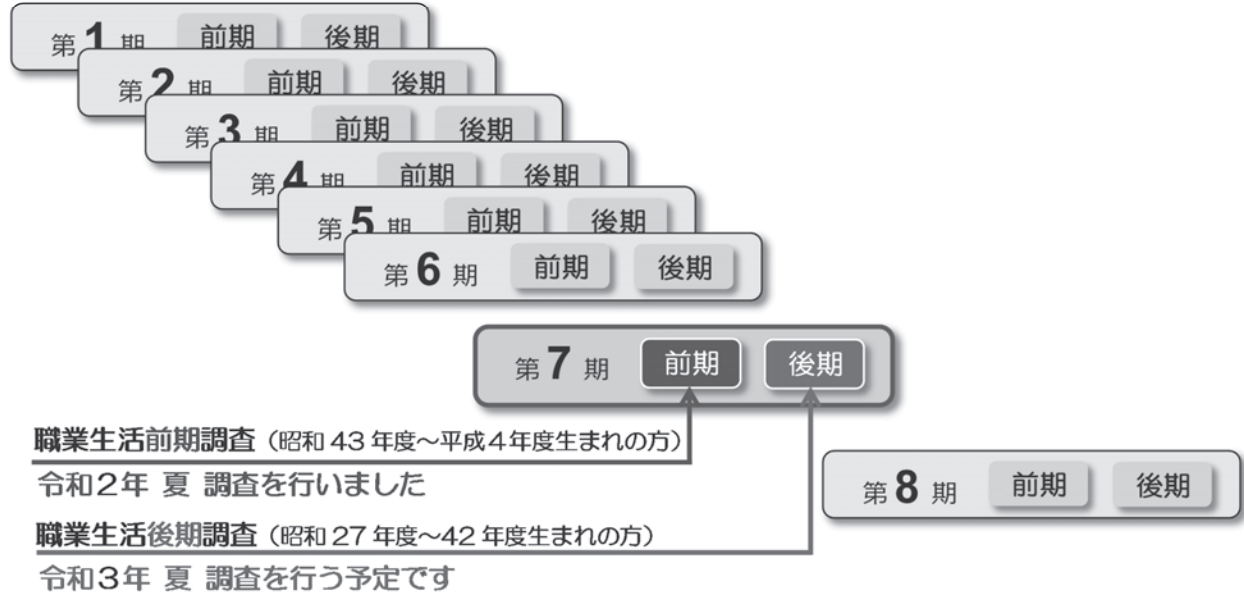
No.17 (2020 年度)

いつも調査にご協力をいただき、ありがとうございます。
「サイクル便り」は調査にご協力いただいている皆様に、
年に一回お送りしております。調査結果の抜粋のほか、
障害のある方が働くことに関係のあるトピックをお伝え
します。

はじめに

「職業サイクル」調査は、16年間（全8期）の長期調査として平成20年度にスタートしました。

このような長期の計画とした目的は、お一人おひとりの職業人生における様々な「変化」を捉え、職業生活の全体像を把握することにより、現状どのような問題があり、今後どのような支援が必要なのかをできるだけ明らかにし、その対策を検討するためです。



「職業サイクル調査」結果について

「職業サイクル」調査の結果は『調査研究報告書』にまとめられます。これまでの報告書は下記の手順でインターネットから全文ダウンロードできます（無料・PDF形式）。ここでは、第6期の報告書をダウンロードする手順をご紹介します。第6期の報告書は令和3年3月下旬に発行予定です。

- ① 障害者職業総合センターのホームページ（<https://www.nivr.jeed.go.jp>）にアクセス
- ② 「職業リハビリテーションに関する研究」をクリック
- ③ 調査研究報告書「一覧を見る」をクリック
- ④ 調査研究報告書 No.160 「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第6期）」をクリック

調査研究報告書（第6期）の結果の一部をご紹介します

第6期の職業サイクル調査は平成30年・令和元年に実施しました。

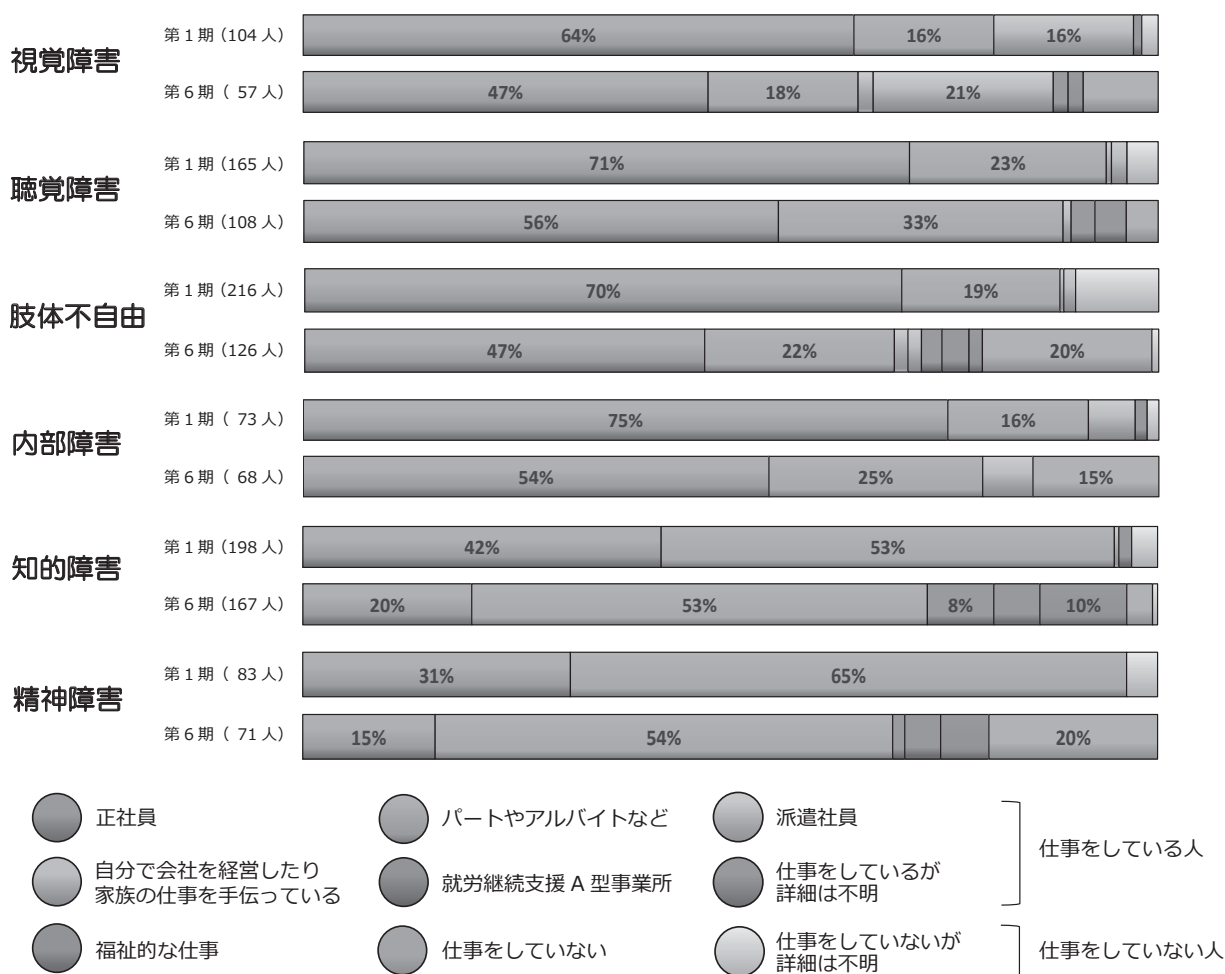
調査には約6割の方に回答いただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。

皆様からいただいた回答を集計した結果のうち、今回は2つのことをご紹介します。

第1期と第6期の就労状況などの変化について

職業サイクル調査では、いつも就労しているかどうかをお聞きしています。

今回は、調査を開始した第1期（平成20年・21年実施）と第6期（平成30年・令和元年実施）の結果を紹介します。



このグラフから、第1期と第6期を比べると、正社員で働いている人の割合が少なくなっていることがわかりました。この理由はアンケート調査からだけではわかりません。

このようなアンケート調査だけではわからないことは、今後、個別のヒアリング調査を拡大して確認していきたいと思っています。その時はご協力をお願いいたします。

地域生活に関する相談相手について

職業サイクル調査では、偶数の調査期に地域生活に関する相談相手をお聞きしています。

今回は、第6期（平成30年・令和元年実施）の調査に回答いただいた597人の結果を報告します。

地域生活に関する相談相手を障害の種類ごとに多い順に4つまで紹介します。

視覚障害



家族や
身近な人 82%



同じ障害
のある人
の団体 28%



職場 23%

相談したり利用
したことはない 21%

聴覚障害



家族や
身近な人 77%



同じ障害
のある人
の団体 40%



職場 22%



福祉・
相談機関 13%

肢体不自由



家族や
身近な人 78%



職場 26%



相談したり利用
したことはない 17%



福祉・
相談機関 10%

内部障害



家族や
身近な人 88%



同じ障害
のある人
の団体 38%



医療機関 26%



職場 24%

知的障害



家族や
身近な人 73%



職場 30%



就労支援
機関 25%



福祉・
相談機関 17%

精神障害



家族や
身近な人 69%



医療機関 49%



就労支援
機関 34%



職場 30%

この結果から、障害の種類に関わらず「家族や身近な人」が最も身近な相談相手として選ばれていました。

2番目以降は障害の種類によって違っていました、「同じ障害のある人の団体」「職場」「医療機関」が家族以外の相談相手となっていました。

また、「就労支援機関」や「福祉・相談機関」などの支援機関への相談も必要に応じて使い分けていることがわかりました。

お話を聞く調査（ヒアリング調査）の内容をご紹介します

第6期の職業サイクル調査では、全国にお住まいの方のうち5名へヒアリング調査を行っています。

ヒアリング調査では、ご自宅のお近くにある会議室などへお越しいただき、これまでのお仕事や毎日の暮らしについて、1時間程度お話をうかがいます。ヒアリング調査へのご協力をお願いする時は、先にお電話やお手紙を差し上げて協力が可能かどうか確認しますので、その時はよろしくお願ひします。

ヒアリング調査にご協力いただいた方からお一人のお仕事と暮らしについて、本調査の研究委員のお話とともに紹介します。

公益社団法人 全国精神保健福祉会
連合会（みんなねっと）で事務局長
をされています。

◆60代男性、精神障害のある方のお話

家族が他界してから一人暮らししつつ、小型部品の製造会社で正社員として20年以上働いています。以前は、体調の悪化などで就職しても長く続きませんでした。疲れていても眠れなくなることも経験しました。

今の会社で長く続けられたポイントを振り返ってみると、仕事内容が合っていたことがあります。体力的にきつくて辞めたいと思うこともありましたが、繰り返しのわかりやすい仕事は自分に合っていました。

そして、上司や同僚に自分の障害のことを伝えて知ってもらうことも大切だと思います。それでも職場の人間関係がきっかけとなってストレスを強く感じる時もありました。ですから、職場以外の病院や支援機関の人に相談することも大切にしています。不調の波が出そうなときは、どこかに相談するように気をつけています。

モットーは「あせらず、いそがず、あきらめず」でしょうか。

◆本調査の研究委員、小幡恭弘さんのお話

この方は、ご自分の精神疾患の症状など体調変化について、しっかりとらえられていると思います。勤続20年という自分の状況にあった仕事に就けられているのは、職場を含めた環境をつくってきた結果でしょう。

ご家族が他界されていることも関係しているかもしれませんが、ご自身の過去の経験から困りごとなどを抱えこまずに周りに良い意味で頼ることを大事にされています。とくに、相談先を限定せずに職場や専門職の方々など複数持たれている点は重要です。コミュニケーションが、主従関係という視点ではなく、ご本人と相手となる方たちが対等にそして建設的視点でされ、結果的に合理的配慮を含めた関係が築けてきているのだと思います。

「あせらず、いそがず、あきらめず」のご本人の人生を支えるためには「笑って、語って、つながって」孤立しない、させない支援が必要です。



相談を大切にしているというお話、「笑って、語って、つながって」孤立しない、させない支援が必要というご助言、ありがとうございました。

ヒアリング調査は来年も数名の方へお願いする予定です。「私の仕事について話したい！」という方がいらっしゃいましたら、裏表紙にある「職業サイクル」調査研究事務局までご連絡ください。

精神障害のある本人や
家族向けの機関紙
月刊みんなねっと

新型コロナウイルスによる障害者雇用への影響について

第7期前期のサイクル調査では、皆様から新型コロナウイルスについて多くのご意見をいただきました。そこで今回は、新型コロナウイルスによる障害者雇用への影響について本調査の研究委員にうかがったお話をご紹介します。

一般社団法人障害者雇用企業支援協会
(SACEC) の理事長をされています

本調査の研究委員、富山千蔭さんのお話

SACEC では、新型コロナウイルスの障害者雇用への影響について、特例子会社を中心にアンケート調査を行いました。

ほとんどの企業は、障害の有無にかかわらず雇用の維持継続を最優先の課題としていましたので、テレワーク、在宅勤務、自宅待機など様々な方法により業務を継続していました。それぞれの企業の業種・規模・従事する職務の違いなどにより程度は様々で、大幅に業務量が減少した企業がある一方、毎日勤務が前提となる作業系の仕事などは、出勤人数を調整して業務を継続するなどの対応もみられました。

コロナの感染拡大がいつ終わるか先の見えにくい状況にある中で、企業はこれまでの経験を活かし、テレワークや在宅勤務などの新しい分野を一層拡大していく動きもあると思います。一方ではそのような展開にはなじまない企業（事業）もあり、また、障害の種別によっては適応が難しい業務もあるなど、今後の安定雇用の継続のためにさらに新しい仕事を開拓して行く必要もあります。そのような今後の変化に対応していくためには、企業による社員教育だけではなく、社員自身の「適応していく努力」も必要になるでしょう。

第28回

職業リハビリテーション研究・実践発表会の発表資料をウェブに掲載しています

職業サイクル調査を実施している高齢・障害・求職者雇用支援機構では、職業リハビリテーションに関する研究成果を広く各方面に周知するとともに、参加者相互の意見交換、経験交流をさまざまな場で生み出すための機会として「職業リハビリテーション研究・実践発表会」を毎年開催しております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症への対応を考慮し、「障害者雇用の経営改善効果」をテーマとした特別講演等の動画の公開と障害者雇用に取り組んでいる企業や支援機関による実践事例など様々な立場・視点から発表される方の発表資料を障害者職業総合センター（NIVR）ホームページに掲載しています。

特別講演

「障害者雇用の経営改善効果 ～戦力化と相乗効果～」

横浜市立大学都市社会文化研究科 教授
CSR&サステナビリティセンター長

影山 摩子弥 氏



パネルディスカッション I

「障害者を継続雇用するためのノウハウ ～企業在籍型ジョブコーチの活躍～」



パネルディスカッション II 「障害のある社員の活躍のための ICT 活用」



研究・実践発表 企業、支援機関など様々な立場の方の実践事例の発表資料を掲載

NIVR ホームページに動画を掲載中！

<https://www.nivr.jeed.go.jp/>

職リハ発表会

検索 

今回のサイクル便りはいかがでしたか？

調査が始まってから 12 年が経過しました。その間に年号が平成から令和に変わりました。

国内ではこのようなテーマの長期的研究は他に例がありません。蓄積されたデータをあらゆる角度から分析し、いろいろなことがわかってきました。長く調査にご協力いただいている皆様のおかげです。

「サイクル便り」では、今後もさまざまな調査結果を集計して報告していきます。取り上げて欲しい内容やご不明な点がある場合は、何なりと事務局までお問い合わせいただければ幸いです。

この調査では、お一人おひとりの職業生活について長期にわたりご回答をいただくことが重要です。

退職してお仕事をされていない時や、職業生活から引退された後も、引き続き調査へのご協力をよろしく願います。

■ 昨年の夏、第 7 期職業生活前期調査へご回答はいただけましたか？

令和 2 年度は、昭和 43 年度～平成 4 年度生まれの方を対象に調査を実施しています。

調査票のご返送をくださいました皆様、ありがとうございました。

返送の目安として「令和 2 年 9 月末まで」としておりますが、今からでも構いません。

ご回答をためられて、まだ調査票がお手元にある皆様、どうぞご協力をお願いします。

■ 今年の夏、第 7 期職業生活後期調査のご回答をお願いします！

令和 3 年度は、昭和 27 年度～42 年度生まれの方を対象に調査を実施します。調査票は 7 月末に送付予定です。

職業サイクル調査は、現在お仕事をされている方だけでなく、引退やお仕事をやすみされている方、求職中の方、お仕事以外の活動を主にされている方もご回答をお願いします。

ご協力いただいた方には、心ばかりのお礼の品として、クオカード（1,000 円分、全国のコンビニエンスストアなどで使えます）または図書カード（1,000 円分）をお送りしています。間違いなくお届けするため、お礼の品は簡易書留でお送りしております。受け取りにお手数をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

■ ご連絡先が変わった場合は、お知らせください

調査票や、お礼の品は郵便でお送りしています。間違いなくお届けするため、住所が変わった場合や、ご結婚などでお名前が変わった場合は、裏表紙の連絡窓口あてにお知らせくださいますようお願いいたします。郵便物が届かなかった場合の確認のため、電話番号や F A X 番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡をいただくと幸いです。





お問い合わせ・ご連絡先

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）
「職業サイクル」調査研究事務局 担当：高瀬

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 3-1-3
電話：043-297-9025 （月～金曜日 9：15～17：30）
FAX：043-297-9057 e-mail：cyclesav@jeed.go.jp

※令和3年3月上旬からe-mailのドメインが@jeed.go.jpに変わります。

サイクル便り

No.18 (2021 年度)



いつも調査にご協力をいただき、ありがとうございます。

職業サイクル調査は7回目のアンケート調査が終わり、来年から最後の8回目の調査が始まります。

今回は職業サイクル調査のこれからの予定と、調査結果全体をまとめる方向性の検討状況を報告します。

はじめに

職業サイクル調査は、16年間（全8期）続く調査として平成20年度に始まりました。

このような長期の計画とした目的は、お一人おひとりの職業人生における様々な「変化」を捉え、職業生活の全体像を把握することにより、現状どのような問題があり、今後どのような支援が必要なのかをできるだけ明らかにし、その対策を検討するためです。

いよいよアンケート調査は残り1回になりました

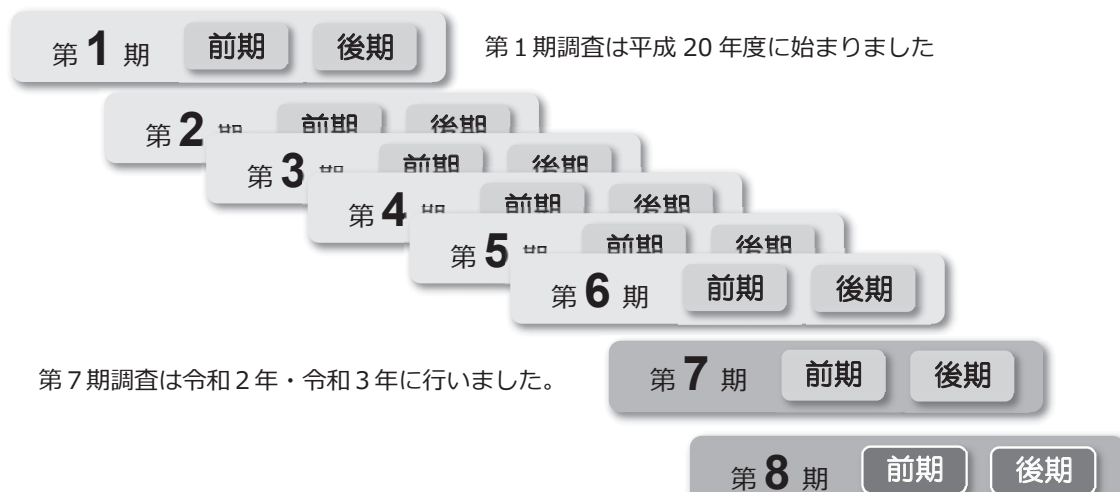
職業サイクル調査はこれまでに7回が終わりました。そしていよいよ、来年から始まる8回目のアンケート調査で、長年続いてきたこの調査も最後となります。

昭和27年度～42年度生まれの方へは今年（令和4年）、昭和43年度～平成4年度生まれの方へは来年（令和5年）に最後のアンケート調査をさせていただきます。

これまで調査へご協力いただいている皆様へ、あらためてご協力を申し上げます。



職業サイクル調査の経過と今後の予定



職業生活前期調査（昭和43年度～平成4年度生まれの方）

令和4年夏 調査を行う予定です。

職業生活後期調査（昭和27年度～42年度生まれの方）

令和5年夏 調査を行う予定です。

調査全体をまとめる方向性の検討状況を報告します

職業サイクル調査は令和4年と令和5年に行う8回目の調査で終了となります。

全8期、16年間にわたり蓄積されたデータから何を明らかにしていけるか、調査研究委員会^{※1}や有識者^{※2}の助言を踏まえて、検討しています。

結果を集計したり統計分析して比較する中で、さらに詳しく確認する必要がある内容は、個別のヒアリング調査により補足していきます。ヒアリング調査へのご協力をお願いする時は、先にお電話やお手紙を差し上げて確認しますので、その時はご協力をよろしくお願いいたします。

※1 学識経験者、各障害の当事者団体や家族団体関係者、事業主団体関係者で構成

※2 障害者の雇用の専門家、データ分析の専門家

ご連絡先が変わった場合は、お知らせください

調査票やニュースレターは郵便でお送りしています。間違いなくお届けするため、住所が変わった場合や、ご結婚などでお名前が変わった場合は、連絡窓口あてにお知らせくださいますようお願いいたします。

郵便物が届かなかった場合の確認のため、電話番号やFAX番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡をいただくと幸いです。

今回のニュースレターはページ数を減らして発行しました。

次回は調査結果やトピックを盛り込んだ従来の形式でお届けしたいと考えております。

引き続き調査へのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。



お問い合わせ・ご連絡先

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）
職業サイクル調査研究事務局 担当：大石

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 3-1-3

電話：043-297-9117（月～金曜日 9：15～17：30）

FAX：043-297-9057 e-mail：cyclesav@jeed.go.jp

※令和3年3月からe-mailのドメインが@jeed.go.jpに変わりました

ホームページについて

本冊子のほか、障害者職業総合センターの研究成果物については、一部を除いて、下記のホームページからPDFファイルによりダウンロードできます。

【障害者職業総合センターホームページ】

<https://www.nivr.jeed.go.jp/>

著作権等について

当研究成果物については、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内であれば、自由に引用することができます。（著作権法第32条1項）

また、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行物に転載することが可能です。（著作権法第32条2項）

その際には出所を明示するなどして、必ず引用及び転載元を明示するとともに下記までご連絡ください。

また、視覚障害その他の理由で活字のままではこの本を利用できない方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等を作成することも認めております。

なお、視覚障害者の方等で本冊子のテキストファイル（文章のみ）を希望されるときも下記までご連絡ください。

【連絡先】

障害者職業総合センター研究企画部企画調整室

電話 043-297-9067

FAX 043-297-9057

調査研究報告書 No. 170

障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第7期）


編集・発行 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター
〒261-0014
千葉県美浜区若葉 3-1-3
電話 043-297-9067
FAX 043-297-9057

発行日 2023年3月
印刷・製本 株式会社コムラ



NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

ISSN 1340-5527

リサイクル適性 
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。